



関西大学

KANSAI UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOLS

大学院

INFORMATION

2020



沿革

関西大学は、1886年、関西における唯一の法律学校として創立されました。爾来、真理の討究、自由の尊重、自治の訓練による穏健醇厚な学風を持って成長し、1922年には大学令による大学に昇格。1924年には大学令による大学院(旧制)の設置が認可され、一層教育内容の充実に努め、今や大学院15研究科(3専門職大学院を含む)と13学部のほかに留学生別科、高等学校、中学校、小学校、幼稚園を有する一大総合学園として発展し、名実共に私学の雄としてその偉容を誇っています。

本大学院は、1950年に他大学にさきがけ新制大学院修士課程、1953年に博士課程を設置し、1975年に大学院設置基準による博士課程の大学院として位置づけられました。また、2004年からは専門職学位課程を設置し、現在に至っています。

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 1950年 | 新制大学院を法学、文学、経済学の3研究科で設置 |
| 1962年 | 商学研究科、工学研究科を設置 |
| 1971年 | 社会学研究科を設置 |
| 1998年 | 総合情報学研究科を設置 |
| 2002年 | 外国語教育学研究科を設置 |
| 2004年 | 法科大学院を設置 |
| 2006年 | 会計専門職大学院を設置 |
| 2008年 | 心理学研究科を設置 |
| 2009年 | 臨床心理専門職大学院を設置 工学研究科を理工学研究科に改称 |
| 2010年 | 社会安全研究科を設置 |
| 2011年 | 東アジア文化研究科、ガバナンス研究科を設置 |
| 2014年 | 人間健康研究科を設置 |
| 2019年 | [設置届出申請中] 心理学研究科を改組(臨床心理専門職大学院を募集停止) |

学位

博士課程を前期2年、後期3年の課程に分け、前期2年を修士課程として取り扱い、修了者には修士の学位を授与する。後期課程への進学は、前期課程を修了し、進学試験に合格しなければならない。後期課程に所定の期間在学し、学位論文の審査に合格した者には、博士の学位を授与する。
法務研究科(法科大学院)の専門職学位課程修了者には、「法務博士(専門職)」の学位を、会計研究科(会計専門職大学院)の専門職学位課程修了者には「会計修士(専門職)」の学位を、心理学研究科心理臨床学専攻(臨床心理専門職大学院)の専門職学位課程修了者には「臨床心理修士(専門職)」の学位を授与する。



目的

博士課程前期課程

広い視野に立って清深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を有する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

博士課程後期課程

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

専門職学位課程

高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を養うものとする。

CONTENTS



SUPER RESEARCH TOPICS

■ 関西大学の研究力	02
------------	----



RESEARCH SUPPORT

■ 研究生活を支える諸制度	04
■ 学生寮	04



LIBRARY

■ 図書館案内	06
---------	----



STEP

■ 大学院進学のためのSTEP(博士課程前期課程・後期課程)	08
--------------------------------	----



COURSE

■ 設置課程・研究科	10
------------	----



GRADUATE SCHOOLS

■ 法学研究科	12
■ 文学研究科	16
■ 経済学研究科	22
■ 商学研究科	26
■ 社会学研究科	30
■ 総合情報学研究科	34
■ 理工学研究科	38
■ 外国語教育学研究科	46
■ 心理学研究科	50
■ 社会安全研究科	54
■ 東アジア文化研究科	58
■ ガバナンス研究科	62
■ 人間健康研究科	66
■ 専門職学位課程	70



OTHER SUPPORT

■ 教職支援体制	72
■ 外国人留学生へのサポート	73
■ キャリアサポート	74



CAMPUS & ACCESS

■ 設施案内	76
■ キャンパス紹介	78
■ アクセスマップ	79



TUITION

■ 学費・諸費	80
■ 奨学支援制度	82



ADMISSION & GUIDANCE

■ 入学試験日程	83
■ 2019年度入学試験状況	86
■ 2019年度進学説明会	88
■ Q&A(博士課程前期課程・後期課程)	88

現代家族における「オトコの育児」を探る

子育てしやすい
社会の実現に向けて



人間健康研究科 人間健康専攻

西川 知亨 准教授
Tomoyuki Nishikawa

PROFILE

京都大学文学部卒。同大学院文学研究科修士課程および博士後期課程を経て、2008年京都大学博士（文学）。大谷大学文学部講師、大阪産業大学教養部准教授などを経て、2015年本学着任。研究領域はシカゴ学派社会学を中心とする社会病理学・社会学史研究、貧困対抗活動が生み出す社会的レジリエンス創発に関する研究、家族福祉に関する社会学的研究。業績としては「現代日本における反貧困活動の展開」（『フォーラム現代社会学』第11号）、共編書『<オトコの育児>の社会学』（ミネルヴァ書房）など。

研究室紹介

人間健康研究科には、スポーツ系の研究室と、福祉系の研究室がありますが、西川研究室は、福祉系の研究室として教育・研究を行っています。社会学の考え方を応用して、男性の育児参加や貧困問題といったテーマに限らず、人間健康に関するさまざまな社会現象や問題を対象にして、よりよい社会福祉を実現するための理論構築と実践を試みています。



さまざまな角度から「オトコの育児」をとらえる

私は大学院生時代以来、シカゴ学派社会学を中心とする社会病理学や社会学史、あるいは現代日本の貧困問題についての研究をしてきましたが、人間健康研究科着任後、これまでの研究を修正・活用した新しいテーマとして家族福祉に関する社会学的研究を始めました。福祉、あるいは福祉の方法で人と社会をつなぐ技術である「ソーシャルワーク」は実践を重視する分野ですが、その枠組みに何か補うと良いものがあるようを感じます。例えば、コミュニケーションや社会保障、社会制度までは視野に入れますが、その背後にある社会構造や社会変動については軽視されがちです。また、福祉の現場が生み出す力や秩序についてあまり考慮に入れられない。それならば、そうした背後の社会構造や社会変動、あるいは実際に人々の社会生活が営まれる社会的場の秩序を重視する社会学の手法、例えばシカゴ学派の社会生態学の方法などと融合すれば、より良い福祉実践、社会学理論の構築が可能になると思うのです。

現代に求められるライフスタイル

ポイントとなるのは、近代社会になって出てきた近代家族の形態です。その主な特徴は、家内領域と公共領域の分離、愛情で結ばれる家族関係、子ども中心主義、性別役割分業の4つ。近代家族における多くの人々の労働の場は、それまでのよう家の裏の田畠ではなくなり、通勤して仕事場へ通うようになりました。その分、地域とのつながりは弱くなり、よその家とは異なる慣習や文化を持つように。夫婦関係を成り立たせるものは「愛」に変わり、その中にいるのは子どもになりました。子どもを成長させることができ大きな課題になると同時に、子どもは家族をつなぎとめる大きな存在へ。そして、公共領域は男性が、家内領域は女性が担うようになりました。現在、家族の形態やライフスタイルは多様化しています。人生の考え方ばかりのように、就学、就労、結婚、出産といった、決まったプロセスを経る「ライフサイクル」ではなく、それぞれの人が違う経路をたどる「ライフコース」として移り変わっています。

例えば、私たち夫婦は共働きで、子育てをしている現代家族という位置付けにあります。近代家族の影響を受けている面もあります。私も妻も、母親がほぼ専業主婦という家庭で育ち、生まれ育った家族の価値観や規範が新しい家族にも持ち込まれています。しかし、必ずしもそれは現代を生きる私たちの状況には合わないこともあります。そのため、随時すり合わせをし、新たなカタチの家族秩序を構築していく必要があります。現代家族には近代家族とは異なる新しいライフコースが求められます。モデルがなく、女性も男性もどうしたら良いのか分からず手探りの状態です。

社会学からアプローチする「オトコの育児」

マクロなレベルで見ても、男性は20世紀後半から育児へ参入したばかりとも言えます。職場のさまざまな問題、賃金格差やジェンダーの問題など、いろいろあって育児休暇を取りにくいのが現状です。行政は、男性の育児休業取得率が低いのは男性の意識が低いからだとして、男性の意識を啓蒙する姿勢をとることもありますが、意識の問題としてのみならず、社会の仕組みなどにも目を向ける必要があると思います。

例えば、「イクメン」という言葉が流行っていますが、その言葉にはどこか洗練されたイメージがあり、育児の大変さは見えてきません。男性による育児は、推奨されるばかりで実際は参入しにくい環境のまま。その概念に内在する問題には社会も無頓着です。私を含め、うまくいかないのは自分の育児能力が足りないからなのかと悩む方もいるでしょう。では、原因はどこから来ているのでしょうか。職場の理解をはじめ、雇用形態や経済状況などさまざまです。育児の問題は個々の問題だけでなく、それを取り巻く社会にも深く関わりがあるのです。

社会学は視点をシフトできる学問であり、シフトすることで個別の問題から解放される部分があります。特に近代家族と現代家族のすき間の時代にいる現代の私たちは、「オトコの育児」を通して「社会学」し、社会学を通して「オトコの育児」について考え、育児をはじめとした社会生活に生かすことができたら良いなと思っています。またこうした物の見方は、育児に限らず、個人の責任とされがちな貧困やブラック企業の問題など、人生のさまざまな場面で生じる課題に立ち向かう武器になり得るため、自身や周りの人たち、ひいては社会のために役立つはずだと思っています。

今後の展望をお聞かせください

今後は自身の子どもの成長を見守り、育児をしながら、これまで私がやってきたシカゴ学派や貧困研究といった理論的・実証的研究を生かして考察し、さまざまな社会や福祉の現場にフィードバックしながら社会学的なソーシャルワークの方法を開発したいですね。これまでの研究をベースに、福祉のフィールドへ社会学の概念を組み込み、一つの価値観にとらわれない、現代社会に合った仕組み作りについて考えていきたいと思います。



工藤保則
西川知亨
山田容[編著]
ミネルヴァ書房(2016年)



生体内にあるものをまねて、ポリマーを合成

"生体材料"とは古典的には医療機器に用いられる人工の材料と定義されています。今日では人工物に限らず、生体分子や細胞などを組み込んだ材料設計が進められ、目的も医療機器に加え、薬物輸送、診断、計測、分析に至るまで生体(成分)と触れて用いられるあらゆる材料として認識されています。その中で私たちは、生体と接触したときに異物と認識されないように、我々の体内で認められる分子をまねて、身体になじむ材料を作ることに取り組んできました。

一つは、血液と接觸して凝固反応を誘起しないポリマーを作っています。このポリマーは、人工の血管、心臓、肺などの循環器系医療機器の表面改質に応用できます。血液は異物と触れるとき、固まる性質があります。つまり、もともと生体に存在しない人工の材料に触ると血液は固まってしまいます。今の医療では、それを防止するため、血液が固まらないように患者に薬を投与するなどの方法をとっています。しかし、血液が固まらない素材が作れたら、投薬量の軽減にとどまらず医療機器の安全性も高まると考えられます。健全な血管の中では、血液は固まりません。そこで、血管の内側にある細胞の表面に着目しました。

細胞の表面は、タンパク質と糖鎖とリン脂質から構成されています。そのリン脂質の構造をまねて合成したポリマーが、2-メタクリロイルオキシエチルホスホリコリン(MPC)ポリマーです。材料表面で起こる凝固反応は、血中のタンパク質が表面に吸着することから始まります。しかし、MPCポリマーを塗った表面にはタンパク質が吸着しなくなり、凝固反応が進みません。MPCポリマーは、それ自体で人工血管のようなチューブをつくることも、血液と接觸する医療機器の内側をコーティングすることもできます。

もう一つ、核酸と同様の構造を持ち、生体内で分解しても毒性が出ないポリリン酸エステルポリマーの合成に成功しました。このポリマーは、骨の主成分であるアパタイトに対し高い親和性を示すので、骨の疾患の治療に活用することができるのではないかと、研究を進めています。例えば、骨粗しょう症。健康な骨は、古い骨が吸収され、新しい骨が作られるリモデリングによって維持されています。しかし、骨粗しょう症になると、骨を溶かす破骨細胞が活性化し、骨を作る骨芽細胞の働きが追いつかなくなり、骨密度が低下してしまいます。ポリリン酸エステルポリマーを投与することで、この破骨細胞と骨芽細胞の活性のバランスを上手く調節することが期待できます。今、大阪医科大学との共同研究の中で、その効果を検証しているところです。

生細胞の表面を修飾し、がん治療へ展開

前述では、生体分子の構造と機能に着目した材料設計に関する研究に触れましたが、生きている細胞を材料と捉えて、その表面を化学的に操作し、新たな機能が付与された細胞の難治性疾患治療における有用性を見出す研究にも取り組んでいます。具体的には、白血球の一種、マクロファージの表面改質を行い、がんの免疫治療に展開しようというものです。

マクロファージは、体の中に入ってきた異物や、死んだ細胞を食べて消化し、体内で清掃屋の役割を果たす細胞です。この細胞の表面に、がんの細胞表面に高発現しているタンパク質と結合する核酸アプタマーを修飾しました。

元来生体には、免疫機能が働いてがん細胞が排除される仕組みが備わっています。しかし、免疫を回避するがん細胞が出現すると、がん細胞を排除する仕組みが破綻し、がんが発症すると言われています。マクロファージの表面を変えることによって、がん細胞との親和性を高め、より多くのがん細胞を捕捉させることができます。さらに、マクロファージに修飾するアプタマーの構造を変えることで、この技術が種類の異なるがん細胞や他の病原物質の排除に応用できると考えています。

生体内で生じる疾患の機構はとても複雑で、人工の材料だけでは十分に対処できないものも数多くあります。細胞資源が充実化し、細胞医療製品の開発も盛んになってきている今日、生体の力を利用する革新的な治療法の開拓は、今後ますます重要になっていくと思っています。

本大学院の研究環境について

私は関大メディカルポリマー(KUMP)※1を基軸とする「KU-SMART PROJECT」※2のメンバーでもありますが、関西大学大学院ではポリマーおよび生体材料に関する研究を行っている教員が大勢います。そのため、これらの研究を進めるために欠かせない設備も最先端のものが揃っています。教員同士の横のつながりも強く、また、学外の医師などとの連携も活発で、非常に良い環境で研究活動を行っています。

化学をベースとして、医療や生命工学に携わりたい、研究をしたい、将来、そういう分野で活躍をしたいという人に、ぜひここで学んでもらいたいですね。

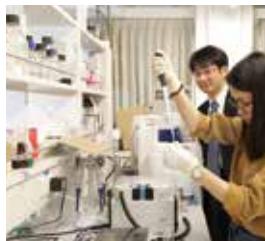


※1 KUMP

関大メディカルポリマー：本学が開発した医療用の高分子材料。温度などを感知・認識して形を変えたり、溶液からゲルに変化したり、体内で狙った速度で分解吸収されたりと、治療と診断における患者の肉体的・精神的・経済的負担を軽減することが可能な革新的な素材。

※2 KU-SMART PROJECT

Kansai University Smart Materials for Advanced and Reliable Therapeutics projectの略称。KUMPを基軸とし、3つのM(Materials, Mechanics, Medicine)で「人に届く」医療器材および治療・診断システムを開発し、社会への貢献を目指す化学生命工学部、システム理工学部と大阪医科大学が連携して展開するプロジェクト。



身体に優しい マテリアルの開発 化学の力で疾患に挑む



理工学研究科 化学生命工学専攻

岩崎 泰彦 教授

Yasuhiko Iwasaki

PROFILE

1995年日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了、博士(工学)。東京医科歯科大学助教授、米国マサチューセッツ州立大学在外研究員を経て、2007年本学着任。専門は高分子化学を基盤としたバイオマテリアルの設計。高分子学会高分子研究奨励賞、日本バイオマテリアル学会科学奨励賞、日本油化学会オレオサイエンス賞などを受賞。

研究室紹介

生体材料学研究室では生体とマテリアルとの界面の設計に焦点を置き、生体から異物として認識されないポリマー材料の開発を行なっています。具体的には細胞膜の構造を模倣した双性イオン型ポリマー(MPCポリマー)や核酸の構造に倣った生分解性ポリマー(ポリリン酸エ斯特ル)を主軸とし、これらの分子設計から精密合成、さらに、メディカルデバイス、組織工学、DDSなどへの応用研究も展開しています。

研究生活を支える諸制度



| 院生研究室

千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパスおよび堺キャンパスには、大学院生専用の院生研究室を設けており、落ち着いた環境で研究活動をすることができます。千里山キャンパスについては、研究科に応じて、尚大館（大学院生棟）や以文館、第2学舎などに院生研究室を設けており、24時間365日使用することができます。

| 長期履修学生制度

大学院入学者の多様なニーズに対応し、教育研究の機会を拡充するため、従来の博士課程前期課程における2年コースの他に修業年限を3年とし、授業科目を計画的に履修する「3年コース」を一部の研究科・入試種別で実施しています。授業料の詳細については、80~81ページの「学費・諸費」を参照してください。なお、3年コースから2年コースへ在学期間を途中で変更する場合は、2年次に、3年次に納入する授業料を合わせて納入することが必要となります。正確な納入金額については、手続時にご確認ください。

実施研究科

- 法学研究科
- 外国語教育学研究科
- 文学研究科
- 心理学研究科
- 経済学研究科
- 東アジア文化研究科
- 商学研究科
- ガバナンス研究科
- 総合情報学研究科
- 人間健康研究科

| 関西四大学大学院単位互換履修生

本学は、関西学院大学、同志社大学、立命館大学との間で「関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定」を締結しています。この協定により単位互換履修生の相互受入を行い、各大学大学院での授業科目の履修および単位の修得を認めています。

| 国際オープン科目

グローバル人材育成に資する取り組み強化のために設置された科目で、法学・商学・外国語教育学・理工学・東アジア文化研究科が英語で開講している授業科目を「国際オープン科目」として、所属研究科に関わらず履修することができます。また、指導教員の許可を得て修了所要単位に含めることもできます。

国際学生寮

いずれの寮も、単なる居住場所ではなく、教育的効果を期待する施設として設置されています。留学生・一般学生が共に加えて、主に留学生の寮生活や日常生活をサポートするレジデント・アシスタントも入寮しています。さらに関西大学および

関西大学運営寮



千里山キャンパスから徒歩約5分の場所にある男子専用寮です。この寮には、海外協定大学からの交換受入留学生が一般学生とともに入寮しています。寮室は2人部屋で、共用施設として、食堂、図書室、浴室、ラウンジ、パントリー、シャワー室、洗濯室などを備えています。

【男女共生寮】 南千里国際プラザ留学生寮



千里山キャンパスから自転車で約15分、阪急千里線「南千里」駅から徒歩約5分の場所にある男女共生寮です。この寮には、留学生別科の外国人留学生が一般学生とともに入寮しています。寮室は、全室ユニットバスを備えた個室で、共用施設として、多目的室、レクリエーションルーム、キッチン、ラウンジ、洗濯室などを備えています。



| 学会等での研究発表に対する補助

大学院生が、研究発表等で学会に出席した場合には、それにかかる交通費や参加費に対し補助を行っています。補助限度額は、発表の場合は1回につき2万円。出席の場合は1回につき1万円です。ただし一定の制限や限度額があります。

| 外国の学会での研究発表に対する補助

外国の学会等で研究発表を行う場合には、研究を奨励し経済的負担を軽減するために、通常の「学会補助費」とは別に、当該年度中1回に限り、往復航空運賃の半額を補助します。なお、限度額は10万円です。

| コピーカード

大学院生には授業で発表する際のレジュメや研究用資料の複写のために、年度始めに1人につき1枚のコピーカードを配付します。コピーカードは、尚文館（大学院棟）などに設置されている所定のコピー機で複写することができます（限度枚数あり）。



| ティーチング・アシスタント(TA)

ティーチング・アシスタントは、授業の教育効果を高めることを目的として導入をしている制度です。TAは、授業担任者の管理のもとに専門知識に基づいて学生への助言を行ったり、授業・実験・実習科目等の補助を行います。TAの業務は報酬が支給されるだけでなく、将来、教育・研究者等になるためのトレーニング機会として、大学院生自身の重要なキャリア形成の場となっています。TAとなるのは原則として、博士課程前期課程、博士課程後期課程、専門職学位課程の大学院生であり、学部・大学院の授業科目について実施しています。

| リサーチ・アシスタント(RA)

関西大学が遂行する共同研究プロジェクトまたは教育研究プログラムに、優秀な博士課程後期課程在籍者が「研究補助者」として参画することで、研究プロジェクト等の実施体制の充実を図るとともに、若手研究者としての研究遂行能力の向上を図ることを目的としています。また、業務に対しては給与が支給されるため、経済的支援にもなります。

居住して、異文化交流を図ることにより、双方のグローバルマインドを醸成しています。
株式会社関大パンセとの業務提携により株式会社共立メンテナンスが運営する提携国際学生寮もあります。

提携国際学生寮



千里山キャンパスから自転車で約20分、阪急千里線「南千里」駅から徒歩約10分の場所にある男女共生寮です。この寮には、海外協定大学からの交換受入留学生が一般学生とともに入寮しています。寮室は全室個室（一部2人部屋有）で、共用施設として、多目的室、自習室、キッチン、シャワー室、洗濯室などを備えています。



千里山キャンパスまで自転車で約5分というロケーションながら、落ち着いた雰囲気でコンビニやスーパーも近く、生活にも便利な立地にある男女共生寮です。2棟構成で、居室のタイプも3つあり、それぞれのライフスタイルにあわせて選ぶことができます。

図書館案内

関西大学図書館は、関西大学の千里山・高槻・高槻ミューズ・堺の4つのキャンパスに設置された4つの図書館で構成されています。在学生は自分の所属以外のキャンパス図書館も直接利用することができ、予約をすれば希望する図書館に資料を取り寄せて利用することもできます。

総合図書館(千里山キャンパス)

総合図書館の大きな特徴は、全学部・研究科の専門分野に関係した図書や学術雑誌を集中して所蔵し、研究機能と学習機能の両方を備えている点です。2019年3月末現在の蔵書数は約216万冊となっています。総合図書館は、地上3階、地下2階の5層構造になっています。館内各階には無線LANが利用できるKU Wi-Fiエリアがあり、持参した個人のノートPC等でインターネットを利用できます。3階には、貴重書庫、一般閲覧室、グループ閲覧室、多目的閲覧室が設置されており、貴重書庫には、約1万6千点の貴重書を保存しています。2階は開架閲覧室で、図書・辞書・事典、AV資料等を配置しています。フロアは、東側の自然科学・工学系エリア、西側の人文・社会科学系エリア、中央の参考図書エリアに分かれています。1階はレファレンス室で、新着雑誌、参考図書、新聞、地図等を備えており、インターネット環境を備えた情報検索用パソコンを設置しています。図書館ウェブサイトで提供している「データベースポータル」や「電子リソースポータル」等を利用して、雑誌論文や新聞記事等資料の検索が可能です。



| 学術リポジトリ

関西大学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果(学術雑誌掲載論文・学位論文・紀要論文など)をインターネットを通じて学内外に公開しています。在学生以外も利用可能であるため、受験をご検討の方にも活用いただけます。

| オンデマンド印刷

持参したノートパソコンやスマートフォン等を館内に設置された無線LANに接続することで、オンデマンドプリンタから印刷することができます。

| 地下書庫(閉架式)

地下1階には研究用図書を、地下2階には主に雑誌や新聞のバックナンバーを収蔵しており、総合図書館の全蔵書の約90%がここにあります。



| EndNote(文献管理システム)

データベース「Web of Science」に組み込まれた文献管理ツールEndNoteで、研究に必要な文献情報を管理し、引用等に活用できます。

| 複写

図書館の資料は、著作権法に定められた範囲内で、コピーすることができます。なお、図書館内では、大学院生に配付されるコピーカードを利用して複写することができます。

| ラーニング・コモンズ

ディスカッション、プレゼンテーションの練習など、さまざまなグループワークが可能なスペースです。カウンターではノートパソコンやプロジェクター等の機器の貸出も行っています。



| NDL(国立国会図書館)デジタル化資料送信

NDL(国立国会図書館)がデジタル化した資料のうち、絶版等で入手が困難なものをNDLからデジタルデータの送信を受け、利用提供しています。

| 学外相互利用

利用したい資料が本学ではなく、学外の図書館等で所蔵している場合は、本学以外の機関が所蔵している図書資料の借用や複写物の取り寄せが可能です。特に、相互利用協定を結んでいる大学図書館※では、所定条件のもとで、原則として事前の手続きなしに直接訪問することができます。

※関西学院大学、同志社大学、立命館大学、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、早稲田大学、津田塾大学、法政大学、明治大学

| 修了生の利用について

博士課程前期課程修了者は、校友として図書館を利用することができます。博士課程後期課程修了者は、地下の書庫への入庫も可能な利用券を発行することができます。

| 研究個室

地下1階・2階ともに、研究者のための研究個室があり、予約して使用することができます。全20室とも情報コンセントを設置しています。また、地下フロアでも自然光が入るように工夫され、窓の外には光庭と呼ばれるスペースが作られています。



| 一般閲覧室

2タイプの閲覧室が用意されています。日の光が注ぐ明るく広々としたイメージの閲覧室と、落ち着いた書斎のような雰囲気の閲覧室があり、気分・目的にあわせて、自分の好きな部屋を選べます。



| 貴重書庫

図書館の蔵書の中でも特に貴重な資料が保存されています。内部は四季を通じて湿度・温度が一定に保たれるよう設定されおり、カビや害虫から貴重な資料を保護するための燻蒸ができる施設も備えています。



| マイクロ資料閲覧コーナー

マイクロリーダーを使って、古い新聞のマイクロフィルムなど、各種マイクロ資料が閲覧できます。この機械は資料を見るだけでなく、複写することもできます。



高槻キャンパス図書館(高槻キャンパス)



図書教室棟(B棟)地下1階

高槻キャンパス図書館には、パソコンや情報に関する図書を備えています(蔵書数約55,000冊)。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

堺キャンパス図書館(堺キャンパス)



B棟2階

堺キャンパス図書館には、アスリートの著書をはじめ、健康に関する図書が充実しています。また、福祉の資格取得に役立つ図書も備えています(蔵書数約47,000冊)。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

■ 貸出冊数と貸出期間

対象	大学院生
貸出冊数	20冊以内
貸出期間	3ヶ月以内

■ 開館時間

図書館	曜日	学部の授業・試験期間	学部の授業・試験以外の期間
総合図書館	月～金	9時～22時	10時～20時
	土		10時～18時
	日・祝日	10時～18時	休館
高槻キャンパス図書館 ミューズ大学図書館 堺キャンパス図書館	月～金	9時～20時	10時～17時※
	土	9時～17時	
	日・祝日	休館	休館

| インターネット検索コーナー

図書館Webサイト提供の「文献・情報検索」から電子ジャーナルや各種データベースなど、研究や学修のための情報収集に役立つさまざまなサイトへアクセスできます。



| 新着雑誌コーナー

和・洋合わせて、約4,000タイトルの学術雑誌が揃っています。雑誌の表紙がわかりやすい書棚が、利用者に好評です。



| 新聞コーナー

五大紙(朝日・読売・毎日・産経・日経)のほか、地方紙、業界紙、英字新聞、英字以外の外国の新聞もあります。



ミューズ大学図書館(高槻ミューズキャンパス)



西館1階

ミューズ大学図書館には、社会安全に関する文理融合的な図書を備えています(蔵書数約45,000冊)。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

大学院進学のためのSTEP（博士課程前期課程・後期課程）

大学院で研究したい
テーマや研究計画を
考える

研究指導を受けたい
教員を探す

教員と連絡をとる

具体的な研究
イメージを描く

入学試験情報を
調べる

POINT 1

POINT 2

POINT 3

POINT 1 研究指導を受けたい教員を探す

関西大学大学院では、研究内容に応じた教員の紹介を行っていません。まずは本冊子の研究科ページで教員の研究テーマなどを参考にして研究指導を受けたい教員を探してください。より詳細な情報を得るため、各研究科Webサイトのほかにも次のWebサイトを活用してください。



教員情報検索

| 関西大学学術情報システム [教員検索]

「所属別検索」「詳細検索」「専門分野別検索」「キーワード検索」が可能です。
研究者の「氏名」を選択すると、所属学部・学科等の基本情報、研究活動・業績等を調べることができます。

| 関西大学先端科学技術推進機構 研究員紹介

関西大学先端科学技術推進機構に所属する研究員(本学教員)について、キーワードによる検索が可能です。
理工学研究科のすべての教員、総合情報学研究科と社会安全研究科の一部の教員について、情報を掲載しています。

| 関西大学学術リポジトリ

関西大学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果(学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など)を学内外に公開しています。
キーワードやタイトル、著者などによる検索が可能です。在学生・修了生の論文を掲載している研究科もあり、研究科の学びを知るツールとして有効です。

POINT 2 教員と連絡をとる

関西大学大学院では、教員への電子メールの転送は行っていません。興味がある分野やテーマをもとに、研究指導を受けたいと思う教員へ、直接、電子メールを送ってください。教員がメールアドレスを公開していない場合は、手紙(郵送)により連絡を取ってください。授業期間外は教員との連絡が取りにくくなる場合があります。期日に余裕をもって連絡を取るようにしてください。
なお、教員への連絡が必須ではない場合も、自身の研究計画と教員の専門分野・学問領域とのミスマッチが入学後に生じないよう、あらかじめ連絡を取ることを推奨しています。



教員への連絡方法

社会学研究科、総合情報学研究科、理工学研究科、人間健康研究科では、出願に先立ち、教員への事前連絡が必須となります。
また、外国人研究生選考においては全ての研究科で出願前に指導教員の承諾が必須です。

POINT 3 入学試験情報を調べる

- 入学試験をいつ実施しているか ➡ 83~85ページ「入学試験日程」をチェック
- 必要な出願書類はどのようなものか ➡ 学生募集要項または外国人研究生募集要項でチェック
- 入学試験はどのような問題が出題されるか ➡ 学生募集要項で試験科目を確認のうえ、入学試験問題集で過去問題をチェック



学生募集要項

POINT 4 出願資格を満たしているかを確認する

学生募集要項で各研究科の定める出願資格を確認し、学歴事項や求められる語学能力・社会人経験などに不明な点があれば、メールや電話で問い合わせましょう。場合によっては出願に先立ち、「個別の入学資格審査」を申請する必要のある受験生もいます。



個別の入学資格審査

出願資格を満たしているかを確認する

Webエントリー
出願書類提出
入学検定料納入

受験票(PDF)を
ダウンロード

試験当日

POINT 4



Webサイトで最新情報をチェックしよう!

関西大学大学院入試に関する最新情報については「関西大学大学院入試情報サイト」で確認することができます。学生募集要項のダウンロードだけではなく、「教員情報検索・連絡方法」や「資料請求」、「個別の入学資格審査」、「お問い合わせ/Q&A」など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/

または

関西大学大学院 入試情報サイト

検索



入試情報サイト

The screenshot shows the homepage of the Kansai University Graduate School Admissions Information Site. At the top, there is a search bar with the text '関西大学大学院 入試情報サイト' and a '検索' button. To the right of the search bar is a QR code labeled '入試情報サイト'. The main header features the university's logo and the text 'Kansai University Graduate School'. Below the header, there is a large banner with the text '関西大学大学院から学問のフロンティアへ' and 'Kansai University Graduate School'. The main content area is organized into a grid of 12 items, each with an icon and text:

入試情報 Examination Information	選考説明会 Admission Information Fair	学生募集要項・パンフレット・資料請求 Application Guidelines	留学生の方へ To International Students
学費・諸費／奨学金 Tuition / Scholarship	就職・進路 Career	学部環境・施設・設備 Facilities / Environment	在学生・修了生の声 Student Voice
教員情報検索・連絡方法 How to search and contact professors	個別の入学資格審査 Pre-qualification Individual Screening	English-based program Graduate School of Science and Engineering Graduate School of Social Safety Sciences	お問い合わせ・Q&A Contact Us / Q&A

At the bottom of the page, there is a '最新情報' (Latest Information) section with two entries:

- 19.04.15 [新規] 関西大学大学院入試情報サイトをリニューアルしました
- 19.04.05 [新規] 心理学研究科心理臨床学専攻（修士課程前期課程）の設置構想について（2020年4月設置予定）

設置課程・研究科

正規生

研究科	博士課程前期課程・専門職学位課程	博士課程後期課程	掲載ページ
法学研究科	法学・政治学専攻 法政研究コース／企業法務コース／ 公共政策コース／国際協働コース	法学・政治学専攻	12
文学研究科	総合人文学専攻 英米文学英語学専修／英米文化専修／国文学専修／ 哲学専修／芸術学美術史専修／日本史学専修／ 世界史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／ 中国文学専修／地理学専修／教育学専修／ 文化共生学専修／映像文化専修	総合人文学専攻 英米文学英語学専修／国文学専修／哲学専修／ 史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／ 中国文学専修／地理学専修／教育学専修	16
経済学研究科	経済学専攻 プロジェクトコース／アカデミックコース	経済学専攻	22
商学研究科	商学専攻 研究者養成・後期課程進学コース／ 高度専門職養成コース	商学専攻	26
社会学研究科	社会学専攻 専門研究コース／課題研究コース 社会システムデザイン専攻 マス・コミュニケーション学専攻	社会学専攻 社会システムデザイン専攻 マス・コミュニケーション学専攻	30
総合情報学研究科	社会情報学専攻 知識情報学専攻	総合情報学専攻	34
理工学研究科	システム理工学専攻 数学分野／物理・応用物理学分野／機械工学分野／ 電気電子情報工学分野 環境都市工学専攻 建築学分野／都市システム工学分野／ エネルギー・環境工学分野 化学生命工学専攻 化学・物質工学分野／生命・生物工学分野	総合理工学専攻 数学分野／物理・応用物理学分野／機械工学分野／ 電気電子情報工学分野 建築学分野／都市システム工学分野／ エネルギー・環境工学分野 化学・物質工学分野／生命・生物工学分野	38
外国語教育学研究科	外国語教育学専攻	外国語教育学専攻	46
心理学研究科	心理学専攻 心理臨床学専攻(設置届出申請中)	心理学専攻	50
社会安全研究科	防災・減災専攻	防災・減災専攻	54
東アジア文化研究科	文化交渉学専攻	文化交渉学専攻	58
ガバナンス研究科	ガバナンス専攻	ガバナンス専攻	62
人間健康研究科	人間健康専攻	人間健康専攻	66
法務研究科 (法科大学院)	法曹養成専攻		70
会計研究科 (会計専門職大学院)	会計人養成専攻		71

外国人研究生制度

外国人研究生制度は自分の研究しているテーマを持ち、特定の研究科で研究指導を受けることを希望する外国人を対象とした制度です。「外国人留学生」は正規の大学院生ですが、「外国人研究生」は正規の大学院生ではなく、数科目の授業を聴講することができるという身分です。外国人研究生が受講した科目は、単位認定されません。ただし、研究科が指定した科目を履修し、当該科目の試験に合格し、関西大学大学院に入学した場合、6単位まで入学前既修単位として認定される場合があります。

POINT

外国人研究生選考においては、必ず出願前に指導を受けることを希望する教員の承諾を得なければいけません。

日本語能力について

関西大学大学院では、外国人留学生や外国人研究生の方が日本語を学習する特別なカリキュラムはありません。また、一部のコースを除き授業はほぼすべて日本語で行われますので、今まで習得してきた一般的な「汎用日本語能力」に加えて、専門分野にかかわらず大学院での勉学に必要な「アカデミックな日本語能力」、さらに専門分野に特化した「専門分野別日本語能力」が必要となります。

まず、社会文化的側面や語用論的な側面から「汎用日本語能力」を磨き、次に大学院の講義を十分に理解し、スピーチや意見交換、レポートや小論文を作成し発表することができるなど「アカデミックな日本語能力」を向上させる努力を重ね、最終的には「専門分野別の日本語能力」を身につけるための訓練を心がけておく必要があります。

外国人留学生と外国人研究生の併願について

「外国人留学生入学試験」と「外国人研究生選考」は、併願が可能です。「外国人留学生」の選考方法は筆記試験と口頭試問、「外国人研究生」の選考方法は口頭試問のみとなります。併願で受験する場合、選考時の口頭試問は同時に進行します。また、併願の場合は「外国人研究生」の選考料は免除となります。

なお、「外国人留学生入学試験」と「外国人研究生選考」の出願書類は様式が異なります。それぞれの出願書類を準備する必要があるので注意してください。

外国人研究生選考 募集要項の取得方法

本大学院入試情報サイトのTOP画面にある「留学生の方へ」からダウンロードしてください。なお、ホームページ上で学生募集要項セットを資料請求(テレメール)しても、外国人研究生選考募集要項は送付されませんので、ご注意ください。

大学院入試情報サイト

http://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/



外国人研究生選考 募集要項

http://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/international/#a_entry



科目等履修生制度

科目等履修生制度は生涯学習の一環として学習機会の拡大のために設けられている制度です。4年制大学を卒業した者等を対象としており、関西大学大学院で開講をしている授業科目を履修し、一定の単位を修得することができます。ただし履修できる授業科目は、1学期につき3科目以内です。選考のうえ、博士課程前期課程および専門職学位課程の各研究科の履修を許可しています。

■ 単位 3科目以内/学期

■ 費用 44,000円～

POINT

履修を許可された授業科目の試験に合格した場合は、願い出により単位修得証明書を交付します。

聴講生制度

聴講生制度は科目等履修生制度と同様に、生涯学習の一環として設けている制度です。4年制大学を卒業した者等を対象としている点、履修できる授業科目が1学期につき3科目以内という点、選考のうえ履修を許可している点は科目等履修生と変わりませんが、聴講生の場合は単位を修得することはできません。

■ 単位 3科目以内/学期

■ 費用 34,000円～

POINT

自分の興味や関心のある授業を受講してみたい方に適しています。

法学研究科

千里山キャンパス

法学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_law/**博士課程前期課程**

法学・政治学専攻（入学定員 50名）

法政研究コース／企業法務コース

公共政策コース／国際協働コース

博士課程後期課程

法学・政治学専攻（入学定員 10名）

多様なニーズに対応する4つのコースを設置 学生の志望に即した指導と充実した研究環境

特色

法学研究科では、前期課程に、法政研究コース、企業法務コース、公共政策コース、国際協働コースの4コースを設置し、時代の変化と社会の多様なニーズに応えうる研究指導体制を提供している。

法政研究コースは、法学・政治学の研究者をめざす者、より深い学識を得ようとする者を対象としており、原則として後期課程への進学を前提とするコースである。

企業法務コースおよび公共政策コースは、高度な専門的知識や技能を身につけてキャリアに生かすこと（高度専門職業人の養成）を目的とするコースである。企業法務コースには、進路として、司法書士、税理士、弁理士、社会保険労務士などの資格をめざす者、企業の法務担当者を志望する者などが多く、一方で、公共政策コースには、国家・地方公務員、国際機関職員、マスコミをめざす者などが多い。国際協働コースは、特別プログラムによって来日する留学生を対象とした、英語により指導を行うコースである。前期課程の修学年限については、社会人の修学を容易にすることを目的として、長期履修制度（3年）も設けている。

以上の体制のもと、幅広い分野で活躍する教員が、学生一人ひとりの関心や志望に沿った丁寧な指導を行っている。

修了者の進路

前期課程の修了者には、研究者をめざして本研究科または他大学大学院の後期課程に進学する者のほか、各種の資格試験や公務員試験などに合格してそれぞれの専門職に就き有能な実務家になる者もいる。一方で、民間企業（金融・保険業、製造業、サービス業等）に就職して、企業法務関係のスペシャリストとして活躍する者も多い。国際協働コースに入学する留学生は、各国政府機関及び民間企業からの派遣が多く、修了後は帰国し、各組織においてスペシャリストとしてのさらなる活躍が期待される。

後期課程の修了者には、その研究成果が評価されて、大学その他の教育・研究機関に就職する者が多い。教育・研究機関への就職機会については、その門戸は必ずしも広くないのが実情であるが、本研究科修了生については、着実な実績を挙げてきたといえるだろう。

大学院生活

前期課程においては、在学期間に学則所定の単位を修得し、修士論文を提出してその審査に合格すれば、課程を修了し、修士（法学）の学位が与えられる。後期課程では、学則所定の単位を取得し、博士論文を提出して審査に合格すれば、3年間でいわゆる課程博士を取得することが可能である。前期課程、後期課程とともに、大学院生は、各自の目標を見据えつつ、主体的に学位取得へ向けて研究に励むことになる。本研究科は、そのような大学院生各自の研究活動に対して、必要な人的および物的支援を行っている。

大学院生には、環境の整った大学院棟（尚文館）や総合図書館、法学部資料室など関西大学の諸施設を利用することが認められており、その積極的な活用が期待されている。

また、関西大学大学院法学研究科院生協議会は、大学院生が研究成果を発表する場として、学術雑誌「法学ジャーナル」を年1回刊行しており、積極的な投稿が期待されている。その他、学会や学内外の研究会に所属したり、法学研究所等の学内研究機関の準研究員やリサーチアシスタントに就任して研究実績を上げる者も多い。

授業紹介

本研究科では、柔軟性のあるカリキュラムを採用し、幅広い授業科目を設定しているため、大学院生は、興味関心に応じてさまざまな科目を履修できるようになっている。

大学院の授業は、大きく講義と演習に分かれるが、大学院では、学部とは異なり定員が少ないとから、講義であれ演習であれ比較的の少人数の授業となる。その内容は、判例・論文の研究、外国書の講読など多岐にわたるが、高度な専門的知識の修得を目的とした授業が行われるため、授業のレベルは高く、毎回十分な準備が必要となる。

前期課程の法政研究コースでは、指導教員による授業および論文作成の指導が軸となる。企業法務コースおよび公共政策コースでは、1年次に比較的幅広く科目を履修し、2年次となり演習を履修する段階で論文作成を指導する教員を決定するという体制がとられている。

後期課程の授業では、博士論文または公表を念頭に置いた学術論文等の作成指導が行われることになる。

税理士試験の試験科目の免除について

法学研究科において、税法に属する科目に関する研究で学位（修士）を取得した者は、税理士試験の一部科目にすでに合格している場合、税法に属する科目的受験免除申請をすることが可能である。

ただし、免除申請に係る「認定・不認定」は国税審議会によるため、学位（修士）を取得することで必ず認定されるとは限らない。

税理士試験の試験科目的免除についての詳細は、必ず国税庁のWebサイトなどで確認すること。

◆2020年度 博士課程前期課程 演習担当教員

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①専門分野 ②研究テーマ ③E-mail/HP

基礎法学

市原 靖久 教授 ①法思想史 ②西欧中世盛期および後期におけるキリスト教神学と法思想の結びつきについて研究し、西欧キリスト教規範空間の成立過程を解明するとともに、近代法システムや人権のドグマ的性格をも究明する。 ③ichihara@kansai-u.ac.jp	木原 淳 教授 ①法哲学 ②主権を前提とする近代の法概念と法秩序が、どのように維持され、また変容していくか研究。 ③kiharaj@kansai-u.ac.jp	佐立 治人 教授 ①中国法制史 ②法律なければ刑罰なし、という罪刑法定主義の思想は、中国で生まれ、中国で発達したことを証明しようとしている。 ③koizumi@kansai-u.ac.jp
角田 猛之 教授 ①法社会学、比較法文化学 ②宗教、民族、罪と罰、ジェンダー、先端医療等に関する法と社会、法と文化の比較研究。 ③ttsunoda@kansai-u.ac.jp	粟辻 悠 准教授 ①ローマ法 ②古代ローマ世界における法廷での紛争解決と、それを支えた専門家について研究している。 ③awatsuji@kansai-u.ac.jp	

公 法

荒木 修 教授 ①行政法 ②これまで土地利用規制を中心に研究してきたが、最近は、インフラストラクチャーに関する法に関心を有している。	浦東 久男 教授 ①租税法・国際租税法 ②租税法律主義と納税義務者の権利保護、課税管轄権のあり方、課税要件規定と私法上の概念の関係、租税条約と国内税法。 ③t080121@kansai-u.ac.jp	小泉 良幸 教授 ①憲法 ②①近代立憲主義と社会契約論 ②現代リベラリズムと個人の自律・自己決定権 ③思想・良心の自由と信教の自由・政教分離 ④koizumi@kansai-u.ac.jp
高作 正博 教授 ①憲法 ②議会制と民主主義をめぐる諸問題について、比較憲法学の観点も用いて研究する。 ③mtakasa@kansai-u.ac.jp	田中 謙 教授 ①行政法 ②行政の法システムについて、「解釈法学」および「政策法学」の視点から、研究している。	西村 枝美 教授 ①憲法 ②基本権の第三者効力問題、その前提にある連邦憲法裁判所の権限問題、民事法と憲法の関係。
村田 尚紀 教授 ①憲法学の基礎理論 ②憲法学の方法、フランス憲法の歴史分析・現状分析、日仏比較研究。		

国際法

中野 徹也 教授 ①国際法 ②現代国際法における条約法体系のあり方について研究を行っている。 ③nakanot@kansai-u.ac.jp	西 平等 教授 ①国際法 ②歴史的に見れば決して普遍的な思考とは言えない近代法的思考によって世界秩序を構想するという途方もない営為の意義と限界を把握し、主権国家間法の後に現れる「国際法」の可能性を考える。
----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

刑法

飯島 譽 教授 ①刑法 ②刑法解釈学の基礎理論。特に犯罪と刑罰の関係を法哲学的見方に囲りながら研究を行い、それを具体的な解釈学のレベルに反映させる点に関心がある。	葛原 力三 教授 ①刑法 ②刑法解釈論、特に、故意、過失、責任を巡る諸問題、そして共犯論において、自由、自律、自己決定が果たす役割の特定。	佐伯 和也 教授 ①刑法 ②刑法の理論的諸問題、特に刑法総論と各論に関連した諸問題（危険犯・結果的加重犯等）の比較法的検討を通して、刑法的処罰・刑の加重処罰の諸要件とその限界等について明らかにしようとしている。
永田 憲史 教授 ①刑事学・刑事政策 ②財産的刑事制裁、死刑選択基準・死刑執行、オセニア諸国の刑事司法。 ③https://penology.jimdo.com/	松代 剛枝 教授 ①刑事訴訟法の理論研究 ②証拠開示、監視型捜査手続、といった具体的テーマの検討を通じて、刑事訴訟法の基礎理論（当事者主義のあり方、強制処分と任意処分との区別基準、被処分者に対する告知・通知の位置づけ等）を研究する。	

民 法

今野 正規 教授

- ①民法
- ②民事責任の変遷をリスクに対するアプローチの変化と関連づけて研究している。最近では、社会人類学からの示唆をもとに、モノの受け渡しによって作り出される関係性に焦点を当てて所有概念や責任概念の再定義を試みている。

寺川 永 教授

- ①民法、特に契約法・消費者契約法
- ②わが国の民法典の典型契約に属しない役務提供契約の多くは「準委任」と解する法律構成が採られている。現代の多様な役務内容に鑑みて、役務提供契約一般に適用される法理の構築およびその可能性を検討している。

馬場 圭太 教授

- ①民法
- ②契約関係における情報提供義務や諸外国における債権法改正の動向について研究している。最近は、消費者法、とりわけ広告規制に関心をもっている。

松尾 知子 教授

- ①民法
- ②特に財産法と家族法とが交錯する領域を研究する。今日の家族をめぐる財産関係の基本構造と取引社会で通用する様々な法原則との調整はどう図られるべきか。ドイツ・フランスを比較の対象とする。

村田 大樹 教授

- ①民法
- ②他人の権利を侵害することによって利益が生じた場合に、その利益をどのように扱うのか——権利者と侵害者の利益調整がどのように行われるべきか——について関心がある。
- ③dmurata@kansai-u.ac.jp

水野 吉章 准教授

- ①民法
- ②(1)詐害行為取消権による債権者一債務者の規整。(2)入浜権、居住権による社会環境の形成。(3)公法私法協働論による借上げ公営住宅または公営住宅における法律関係の解明。(4)政策論・現地調査など法学方法論。

知的財産法

辰巳 直彦 教授

- ①知的財産法
- ②知的財産法の解釈論的・制度論的研究。とりわけ、①特許侵害訴訟におけるクレーム解釈及び紛争の一回の解決、②著作物の保護範囲および著作権の侵害主体。
- ③kandai-chizai@yahoo.co.jp

山名 美加 教授

- ①知的財産法
- ②知的財産権の国際的保護について（医薬品アクセス、強制実施、遺伝資源をめぐる出所開示問題等）。
- ③yamana@kansai-u.ac.jp

商 法

上田 真二 教授

- ①会社法・金融商品取引法
- ②インサイダー取引とはどのような行為か、また、なぜ法は禁止するのか、について、外国法や他の学問分野を参考にしながら研究している。最近は、金融商品に関わる他の不公正取引にも研究対象を拡げている。

笹本 幸祐 教授

- ①民事法全般
- ②商取引に関する経済分析に基づく法解釈。
- ③sasamoto@kansai-u.ac.jp

経済法

横田 直和 教授

- ①経済法・競争政策
- ②経済学および経済実態を踏まえた独占禁止法の理論展開。
- ③nayokota@kansai-u.ac.jp

民事訴訟法

吉田 直弘 教授

- ①民事手続法
- ②民事訴訟における当事者の法的地位の解明。
- ③yoshida@kansai-u.ac.jp

社会法

福島 豪 教授

- ①社会保障法
- ②現在の研究テーマは、障害者に関わる社会保障・労働法制の基本構造を、ドイツ法との比較を通じて明らかにすることである。

藤原 稔弘 教授

- ①労働法
- ②解雇制限を中心に戦用保護法を構築することと、様々な積極雇用政策の展開により雇用を創出する国家の責務を法的に基礎づけることを主な研究テーマとしている。

政治学

池田 慎太郎 教授

- ①外交史
- ②1950年代以降の日本政治外交史を研究している。日米関係だけでなく、東アジアの視点を重視する。沖縄・奄美の戦後史や、基地を抱える自治体の政治・歴史にも関心を持っている。

石橋 章市朗 教授

- ①政策過程論・政治学原論
- ②政治制度が政策過程や政策の内容に、どのような効果を持つのかを勉強している。

大津留（北川）智恵子 教授

- ①国際政治学
- ②国際政治学（国際秩序・規範、安全保障）ないしはアメリカ政治・外交（政策決定過程、外交史）。
- ③ckotsuru@kansai-u.ac.jp
http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ckotsuru/

河村 厚 教授

- ①政治心理学
- ②政治心理学の基礎としてのフロイトの精神分析学とラズウェルの政治心理学についての研究。
- ③kawamura@kansai-u.ac.jp

坂本 治也 教授

- ①政治過程論、市民社会研究
- ②現代政治と市民社会の関係の分析。社会関係資本、NPO、市民参加、ガバナンスなどに関心がある。
- ③sakamotoharuya@gmail.com
http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~haruya/

津田 由美子 教授

- ①西洋政治史
- ②西ヨーロッパ諸国を中心とする政治史研究（特にベルギーを中心とした政治史が専門）・比較政治。
- ③y-tsuda@kansai-u.ac.jp

政治学

廣川 嘉裕 教授

- ①行政学
②これまでNPOと政府・行政との連携・協働を中心にして研究してきたが、現在は地域活性化などに関心を持っている。

若月 剛史 准教授

- ①日本政治史
②近現代日本の官僚制について、政治的な観点から研究を進めている。特に官僚の専門性や地域社会との関わりなどが歴史的にどのように形成されてきたのかについて関心を持っている。
③wakatuyo@kansai-u.ac.jp

◆ 2020年度 博士課程後期課程 専修科目および担任者

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

法思想史特別研究 ● 市原靖久
東洋法史特別研究 ● 佐立治人
法社会学特別研究 ● 角田猛之
憲法特別研究Ⅰ（人権論）● 小泉良幸／西村枝美／村田尚紀
憲法特別研究Ⅱ（機構論）● 高作正博
行政法特別研究 ● 田中 謙
租税法特別研究 ● 浦東久男
刑法特別研究 ● 葛原力三
刑事訴訟法特別研究 ● 松代剛枝
国際法特別研究 ● 中野徹也／西 平等
民法特別研究Ⅰ（財産法1）● 寺川 永
民法特別研究Ⅱ（財産法2）● 馬場圭太
民法特別研究Ⅲ（財産法3）● 久保宏之

※印の教員の専門分野等についてはガバナンス研究科(62~65ページ)参照。

民法特別研究Ⅳ（家族法）● 松尾知子
知的財産法特別研究 ● 山名美加
商法特別研究Ⅰ（企業組織法）● 上田真二
商法特別研究Ⅱ（商取引法）● 笹本幸祐
経済法特別研究 ● 横田直和
労働法特別研究 ● 藤原稔弘
民事訴訟法特別研究 ● 吉田直弘
政治学原論特別研究 ● 石橋章市朗
政治過程論特別研究 ● 坂本治也
行政学特別研究 ● 廣川嘉裕

政治心理学特別研究 ● 河村 厚
政治思想史特別研究 ● 安武真隆^{*}
外交史特別研究 ● 池田慎太郎
日本政治史特別研究 ● 若月剛史
西洋政治史特別研究 ● 津田由美子
国際政治学特別研究 ● 大津留智恵子

在学生・修了生の声

福留 耀さん

博士課程前期課程 法学・政治学専攻
2017年4月入学 入試種別：学内進学試験（早期卒業）

大学院進学の決め手

2年次生の時に早期卒業制度の学内説明会に参加し、5年（学部3年+博士課程前期課程2年）で修士号を取れることや充実した給付奨学金制度、カリキュラムなどに魅力を感じ、大学院進学を決めました。

受験のための準備

多角的に企業法務への理解を深めたいと考え、あえて学部時代の専門「商法・会社法」とは異なる分野の「租税法」を専攻すると決めました。そこで基礎的な内容から勉強を始め、口頭試問に備えて、あらかじめ質問を予想し準備の上、試験に臨みました。また出願時に提出する研究計画書を作成するため、図書館で専門文献を読んだり、関連する新聞記事等を収集したりして、事前に知識の習得に励みました。

利用している奨学金制度

関西大学大学院特別給付奨学金をいただいている。また移動の手間が少なく効率的に働くことができるため、学内アルバイトで必要な費用を工面しています。具体的には経済学部TA（ティーチング・アシスタント）や司書科目TAなど6つのアルバイトを掛けもちしています。

進学を考えている方へのメッセージ

法学研究科は社会人学生や留学生も多く、多様な刺激を受けながら、楽しく学びを深めることができます。少人数制ではかの学生や先生方との距離が近く、何でも話せるアットホームな雰囲気も魅力の一つです。

また研究室などの設備も大変整っており、研究に打ち込める十分な環境があります。ぜひ、関西大学大学院で有意義かつ充実した学生生活を送ってください。

寺田 浩二さん

博士課程前期課程 法学・政治学専攻
2018年3月修了 入試種別：社会人入学試験
勤務先名：監査法人

当時の指導教員を選んだ理由

大学卒業後、金融機関及び一般事業会社の経理職に従事していました。その中で租税法を本格的に学びたいと考え、租税法の分野で著名な教授に指導を仰ぎたく浦東久男先生を志望しました。租税法に関する指導はもちろんのこと、法学における研究手法や論文の作成方法など研究をすすめる上の基本的な事項についても、きめ細かな指導を受けることができました。そのようなご指導のお陰で、第27回租税資料館賞を論文の部におきまして受賞することができました。

大学院での学びが業務に生かされている場面

大学院で培った法的思考力、論理的思考力、外国文献読解能力は、現職での金融取引の理解、監査手続のドキュメンテーション、海外監査基準による会計監査等の場面で生かされていると感じます。

修士論文を作成する上で培った論理的思考力やドキュメンテーション能力は、就職活動の場面でも一定の評価を受けるものと思います。

進学を考えている方へのメッセージ

法学研究科では、法学としての租税法を本格的に学ぶことができます。

租税実体法における法解釈や実際の訴訟事件など、普段の資格試験では学ぶことができないような学修が大学院においては可能です。会計士や税理士を取り巻く環境が変化している中で、このような学修は今後大きな強みになるものと考えています。

文学研究科

千里山キャンパス

文学研究科ウェブサイト

http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_let/

博士課程前期課程

総合人文学専攻（入学定員 96名）

英米文学英語学専修／英米文化専修／国文学専修／哲学専修／芸術学美術史専修／日本史学専修／世界史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／中国文学専修／地理学専修／教育学専修／文化共生学専修／映像文化専修
(副専攻)
EU－日本学教育研究プログラム

博士課程後期課程

総合人文学専攻（入学定員 19名）

英米文学英語学専修／国文学専修／哲学専修／史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／中国文学専修／地理学専修／教育学専修
(副専攻)
EU－日本学教育研究プログラム

充実した教育指導とともに、学際的な研究体制を実現

特色

総合人文学専攻のもつ総合性・独創性を生かし、専門教育科目を体系的に配するとともに、専修の枠を越えて広く人文学諸分野の共通科目を学ぶことのできるカリキュラム編成をとっている。学生一人ひとりが専門分野の権威ある教員から入念な指導のもとで専門分野の研究を深化させるとともに、既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を行う場となっていることが本研究科の大きな特色である。

将来の展望

学生は学部からの進学者のほか、社会人、留学生が多数在籍し、指導教授のサポートのもとで切磋琢磨しつつ学問研究を進めている。学生同士の研究会活動やフィールドワーク、実習なども盛んである。学生は各専修の演習・講義、共通科目を受講するとともに、さまざまな活動を通して高度な研究能力を身につけ、修士論文もしくは博士論文を作成していくことになる。

研究者養成および高度専門職業人の育成の双方に対応しうるカリキュラムのもと、修了者は研究者として自立し大学の教員となるほか、中学・高校の教員その他の各種専門職に就くとともに、高度な専門職業人としてさまざまな企業にも進出している。

文学研究科副専攻「EU－日本学」教育研究プログラム

文学研究科では、文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「関西大学EU－日本学教育研究プログラム」(2006～2009年度)終了後も、引き続き文学研究科（総合人文学専攻）における教育改革をさらに発展させるために、「文学研究科（副専攻）EU－日本学教育研究プログラム」として、新しい人文学教育・研究を担う次世代を育成し、人文学教育研究における「学際化と国際化」をはかるべく取り組んでいる。

現在、世界の日本研究と国内の日本研究との間で生じている視点・方法の隔たりを埋めることを目的に、EUの協定校と協力して、次世代の若手研究者の育成を図っている。TV会議を利用した授業、日本とヨーロッパでのワークショップを実施している。

デュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）

2015年度より、韓国・嶺南大学校大学院東アジア文化学科との間でデュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）が開始された。関西大学から嶺南大学校に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学から修士（文学）、嶺南大学校から東アジア学修士の学位が授与される。

日本語教師養成講座（大学院コース）

2016年度より、文学研究科に日本語教師養成講座（大学院コース）が設置されている。文学研究科の学問領域、人材養成の目的に鑑み、広く人文学研究に携わる院生が、みずから専門性を生かせる場を広げるために、日本語教育の基礎的な知識・技能・実践経験を得ることのできるプログラムである。

在学生・修了生の声

鈴木 七奈さん

博士課程前期課程 総合人文学専攻 日本史専修
2016年4月入学 入試種別：一般入学試験

大学院進学の理由

私は学芸員・埋蔵文化財発掘技師など、専門職への就職を目指しており、それには必要な知識・技術を習得するために大学院への進学を希望しました。

教員へのコンタクトや受験準備

出来前に米田文孝先生へメールを送り、面談をしていただきました。初めてお会いしたときに、進学後の計画をかなり具体的にお話ししてくださったのが印象的でした。私は他大学から進学し、研究分野も変わるために不安なことが多かったのですが、過去にもそのような先輩方がおられ、現在専門職として活躍されているなど、将来の自身の姿をイメージしやすいうようにしてくださいました。

進学を考えている方へのメッセージ

早めにまわりの人たちに相談することをお勧めします。今後の研究・大学院進学に際する準備について、自分では意識していないかった点に気づかされることが多くかったです。また、入学後にやりたいことを具体的にイメージしておくことも大事だと思います。時間には限りがあり、そのなかで実績を残さなければならぬいため、優先順位を決められるように目的をはっきりとさせておくと良いでしょう。

辻 梨花さん

博士課程前期課程 総合人文学専攻 英米文化専修
2015年3月修了 入試種別：学内進学試験
現在の留学先・研究科：北テキサス大学 博士課程後期課程 哲学・宗教学科

当時の指導教員を選んだ理由

ゼミを選ぶ際に、これから希望をもって研究でき、社会のためになる分野を研究したいと思い、マーク・メリ先生のゼミ（環境哲学・エコクリティシズム）を選びました。メリ先生には、人生の価値観、特に自然環境を大切にする生き方をご指導を通して教わりました。メリ先生と出会っていなければ、環境哲学とも出合うことはなかったと思います。またそれがなければ、現在もアメリカで研究を続けることはなかったと思います。

大学院での研究と現在の研究について

学部生のとき、環境哲学を組み入れた環境教育はできないかと構想し、卒業論文を書きました。大学院では、実際に自分で環境哲学を中心とした環境教育プログラムを作り、実際の中学校・高等学校で実践しました。また大学院生のあいだに、さまざまな環境教育に関する学外のプログラムに参加し、たくさんの交流がきました。伸び伸びと、自分がやりたいと思ったことをできました。またそのようにできる環境下にいたことが、在学中の積極的な活動を後押ししたのだと思います。その結果として、日米両国政府による留学制度において、フルブライトとして留学することができました。その積極的な姿勢や意欲は、アメリカで研究するうえでとても大切だと思っています。

◆2020年度 博士課程前期課程 専修科目および担任者

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①研究テーマ ②概要説明 ③E-mail

英米文学英語学専修

英文学研究 高橋美帆、干井洋一
英語学研究 F. E. アンダーソン、岩田彩志、鍋島弘治朗、野口メアリー

高橋 美帆 教授

- ①19世紀以降の英語園詩論文
- ②19世紀ではラウニング夫妻、ロセッティ兄妹、ホプキンス等の英國詩人を、20世紀ではバウンド、プラスなど英米両国で活躍した詩人を、主に研究している。あわせてマザーグース等の児童文学や、日英女性詩人の比較も研究対象としている。
- ③mihoko@kansai-u.ac.jp

谷口 義朗 教授

- ①アメリカ文学、特にWilliam Faulkner (1897-1962) の作品研究
- ②William Faulknerは生まれ故郷のアメリカ南部ミシシッピ州の田舎町を題材にして普遍的な世界を描こうとした。その小説的な表出が架空の「ミシシッピ州ヨクナバトーフア郡」である。そのようにして生み出された彼の小説世界の主題と技法を探るが研究テーマである。
- ③tyoshiro@hotmail.com

岩田 彩志 教授

- ①英語学 語彙意味論
- ②統語論・意味論・語用論の現象を広く対象としながら、構文理論の枠組みを用いて、特に英語動詞の項構造を中心とした研究を行っている。
- ③t140028@kansai-u.ac.jp

野口メアリー (Mary Goebel Noguchi) 教授

- ①社会言語学
- ②英語と日本語に関連のある社会言語学を幅広く研究している。特にバイリンガリズム、言語とアイデンティティ、日英語比較論、プログラマティクス（語用論）、文化やジェンダーによるコミュニケーションの違いを中心で研究を行っている。
- ③mnoguchi@kansai-u.ac.jp

英米文化専修

英米文化研究 (1) J.カーワン
英米文化研究 (2) M.メリ

ジェイムズ・カーワン (James Kirwan) 教授

- ①Aesthetics. Ethics. Literary theory. Exoticism.
- ②My research is in fundamental concepts in aesthetics and ethics. I am also working on literary theory and on a history of exoticism.
- ③james_kirwan@hotmail.com

干井 洋一 教授

- ①英国長編小説・短編小説・文学理論
- ②文化と社会という大きなコンテクストの中で作品を捉える訓練を行うとともに、文学理論の基礎を身につけることを推奨している。優れた研究論文を完成させるには研究テーマを掘り下げるとともに、そのテーマに最も適した理論的枠組みを用いることが重要である。
- 参考：文学部英米文学英語学専修のサイトに干井ゼミHPへのリンクあり。
- ③hoshi_well@yahoo.co.jp

フレッド・アイナー・アンダーソン (Fred Einar Anderson) 教授

- ①社会言語学、言語人類学の観点から見た様々な現代言語問題
- ②Language socialization (言語獲得・修得と文化的価値観の相互影響を探る分野)、World Englishes (国際英語の多様性、使用、教育)、異文化コミュニケーション、少数言語での教育などについて研究を進め、指導を行っている。
- ③fred@kansai-u.ac.jp

鍋島 弘治朗 教授

- ①認知言語学・メタファー
- ②意味に注目した言語学、認知言語学を中心に、メタファー、多義、構文文法、アーティファクト、インテラクション、脳の仕組みなどを研究している。
- ③spiralcricket@gmail.com

国文学専修

上代文学 村田右富実 中古文学 加藤洋介、田中 登
近世文学 山本 卓 近代文学 関 肇、増田周子 中世文学 大島 薫
国語学 乾 善彦、日高水穂、森 勇太

村田 右富実 教授

- ①日本上代文学
- ②『万葉集』を中心に上代韻文学を研究している。文学研究の側面からだけではなく、隣接学門である国語学、歴史学、考古学や、少し離れたところでは統計学からのアプローチも重視しつつ、人間にとって韻文とは何かを考察している。
- ③m_mig@kansai-u.ac.jp

田中 登 教授

- ①平安・鎌倉時代を中心とした和歌文学、古筆学を中心とした文献書誌学
- ②冷泉家所蔵本を中心とした平安・鎌倉時代の私家集を、古筆学的に、また文献書誌学的に研究。また、古筆資料を使って、平安・鎌倉時代に成立しながら歴史の彼方に消え去ってしまった、いわゆる散佚作品の復原作業にも精力的に従事する。

山本 卓 教授

- ①近世小説研究、とくに浮世草子、読本、実録研究 ②「忠臣蔵」伝説研究
- ③近世出版文化研究
- ②近世小説(浮世草子・談義本・読本)にみえる舌耕(話芸)性の問題、書本(実録写本)を種本とする浮世草子・読本などの出版された小説、そして近世出版文化を研究してきたが、近年は赤穂浪士(「忠臣蔵」)伝説の生成とその展開に注目している。
- ③yamataku@iris.ocn.ne.jp

増田 周子 教授

- ①日本近現代文学、比較文学
- ②大正、昭和文学研究、および日本近現代文学を諸外国との関係の中でとらえる研究を行っている。宇野浩二、芥川龍之介、織田作之助、火野葦平、西条八十、大阪のカフェと文芸運動、関西の出版・文壇研究などの論文がある。
- ③nrb49634@nifty.com

マーク・メリ (M. Meli) 教授

- ①環境哲学、エコクリティシズム、比較食文化論、飲食文化論
- ②文化がどのように自然環境と結びついているか、欧米と日本では、環境がどのように思考されたか、という問題を歴史的や文化論的に考察している。それに、世界の飲食文化がどのように発展し、どのように環境と関係しているか、特にビールに関して調べている。
- ③mfmeli@yahoo.co.jp

加藤 洋介 教授

- ①平安時代文学の文献学的研究
- ②『源氏物語』『伊勢物語』を中心にしつつも、『大和物語』『枕草子』などの散文作品、および『古今和歌集』『後撰和歌集』『和漢朗詠集』といった和歌や漢詩文にも目配りした幅広い視野を確保した上で研究を心がけている。
- ③yk_kato@kansai-u.ac.jp

大島 薫 教授

- ①日本文化史 Japanese popular culture
- ②「日本の古典文学」は、作品が形成された時代、そして作品を読み継いだ人々の知的行為を復元することにより、さらなる解釈が可能になる。現存する種々のテキストを題材に、日本文化の諸相や、日本人のアイデンティティを明らかにしたい。
- ③ANB33756@nifty.ne.jp

関 肇 教授

- ①近代文学、明治・大正期の文学の研究
- ②尾崎紅葉・徳富蘆花・村井弦斎・菊池幽芳・夏目漱石など、明治・大正期の新聞小説を中心とする研究を行う。新聞メディアと文学、およびそれを享受する読者との関係について、同時代の歴史的・社会的な問題を視野に入れながら実証的に検討する。
- ③h-seki@kansai-u.ac.jp

国文学専修

上代文学 村田右富実 **中古文学** 山本登朗、田中 登 **中世文学** 大島 薫
近世文学 山本 卓 **近代文学** 関 肇、増田周子 **国語学** 乾 善彦、日高水穂、森 勇太

乾 善彦 教授

- ①日本語の文字論と表記史
- ②本来、中国語を書きあらわす文字である漢字を用いて、日本語を表記するようになったところから出発して、現在の漢字仮名交じり文が成立するまでの日本語表記の歴史。各時代の文字・表記意識や漢字・仮名とことばとの基本的な関係を、多様な資料を駆使して考える。

③inuy@kansai-u.ac.jp

森 勇太 准教授

- ①日本語文法史（敬語・待遇表現）、歴史語用論
- ②日本語文法史、特に敬語や待遇表現の歴史を研究している。待遇に関わる日本語の諸要素が、多様な発話行為の中でどのように運用されているかに興味を持っている。さまざまな時代や方言の特徴を対照し、言語変化のあり方を総合的に研究したいと考えている。

③moriyuta@kansai-u.ac.jp

哲学専修

哲学・哲学史研究 三村尚彦、山本幾生 **哲学・倫理学研究** 木岡伸夫、品川哲彦、中澤 務
比較宗教学研究 井上克人、宮本要太郎、小杉麻李亞、酒井真道

三村 尚彦 教授

- ①身体現象学と体験過程理論
- ②フッサール現象学における身体論を研究するとともに、臨床心理学者で哲学者のジエンドリンが提唱したフォーカシング指向心理療法、体験過程理論を取りこんだ現象学の可能性について考察している。

③t980020@kansai-u.ac.jp

木岡 伸夫 教授

- ①多元主義的な地理哲学（風土学）の理論構築
- ②近代日本の哲学者が西洋哲学の媒介によって自覚した論理、特に西洋のロゴス的論理に対する東洋的なレマン的論理（山内得立）の意義を追究しつつ、関心を共有するフランス人地理学者オギュスタン・ベルクに呼応して、風土学の基礎づけを図っている。

③kioka@kansai-u.ac.jp

中澤 務 教授

- ①西洋古代哲学、倫理学
- ②①ソクラテス以前の自然哲学、ソクラテス・プラトン・アリストテレス、ヘレニズム期の哲学など、古代ギリシアの哲学および倫理学全般を研究している。
 ②西洋の倫理学の問題全般を、現代の応用倫理学を含め、研究している。

③tsutomo@kansai-u.ac.jp

宮本 要太郎 教授

- ①①無縫社会における宗教の可能性 ②宗教の物語論的構造
- ②①「無縫社会」と呼ばれる今日の日本社会において、宗教がいかなる「貢献」をなしうるのかを、社会活動に従事している宗教者と共に研究中。
 ②聖德太子伝や新宗教の教祖伝などの解釈を通じて、神話=歴史的な多様な物語の救済論的構造を探究する。

③mymt@kansai-u.ac.jp

酒井 真道 准教授

- ①知識論を中心とした7世紀以降のインド仏教思想史の解明
- ②宗教と哲学とか表裏一体の関係にあった中世インドでは、あらゆる宗教、宗派において、解脱に至る一つの道として正しい知識が探求された。本研究では、7世紀以降の仏教知識論の思想史を仏教徒と非仏教徒との間の論争を解明することを通じて明らかにする。

③msakai@kansai-u.ac.jp

芸術学美術史専修

芸術学・西洋美術史研究 蟹川順子、若林雅哉
日本及東洋美術史研究 長谷洋一、平井章一

蟹川 順子 教授

- ①西洋美術史、世界美術史、図像学、絵画理論、美学、デザイン論
- ②西洋美術史（絵画、彫刻、建築他）、世界美術史、デザイン等の分野を担当。具体的な作品研究を核とする講義や原典講読を通して、理論・歴史の両面から考察。専門は、ルネサンス美術や近代の北方美術を対象とする西洋美術史、作品概念を中心とする理論研究。

③jinna@kansai-u.ac.jp

長谷 洋一 教授

- ①中・近世の仏教美術史
- ②鎌倉時代後期から江戸時代に至る仏教美術史に関する研究を行っている。特に製作プロセスや造像組織についての調査研究を主眼としている。

③hasey@kansai-u.ac.jp

日高 水穂 教授

- ①現代日本語文法の記述的研究、方言文法の対照研究
- ②日本語諸方言の文法の特徴を対照させ、その地理的分布のあり方から、言語変化のメカニズムを解明する研究を行っている。言語変化に関わる言語の内的な特徴とともに、言語の社会的な機能にも注目している。最近は談話展開の地域差に関心を持っている。

③hidaka@kansai-u.ac.jp

山本 幾生 教授

- ①現実の形成のなかでの現実と実在と無の関係および生の在り方
- ②現実はどのように形成されるのか。実在と無、そして人の生は、どのようにして相互に関わり合いながら現実を形成し、またその中で変遷していくのか。ショーペンハウバー、ティルタイ、ハイテマーなどを手掛かりにして考える。

③ikuoyama@kansai-u.ac.jp

品川 哲彦 教授

- ①倫理学、②応用倫理学、③現代哲学
- ②現象学の研究から発展し、応用倫理学を介して（主に近現代の）倫理学全般に研究を広げてきた。とくに倫理理論の基礎づけ問題にとりくみ、正義・責任・ケア概念の解明を進めている。詳しくは、<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tsina/>参照。

③tsina@kansai-u.ac.jp

井上 克人 教授

- ①道元・西田・ハイデガーをめぐる宗教哲学、東西比較思想、日本思想史、明治期アカデミー哲学の系譜
- ②道元禪の哲学的特質、『大乗起信論』に見る如來像思想および華嚴哲学、西田幾多郎および田辯元に代表される京都学派の哲学および鈴木大拙の思想の再検討、ハイデガー哲学における根拠と同一性の問題、明治期の哲学思想。詳細は<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~kinouwe/>

③kinouwe@kansai-u.ac.jp

小杉 麻李亞 准教授

- ①日常の中の聖典クルアーン、ムスリム社会の地域間比較、聖典の比較研究
- ②現代のイスラーム圏の日常で、聖典クルアーンが朗誦やグッズ、慣用句などの多様な形態で展開している実態を調査してきた。どこまでが文化でどこまでが宗教なのかや、人類学的な神話分析の立場から、聖典の中の物語と、外の土地の結びつきについても考察している。

③maria@kansai-u.ac.jp

若林 雅哉 教授

- ①芸術作品の再制作を主要関心とする芸術学、および演劇論
- ②いわゆる「パロディ」ばかりでなく、芸術作品／アートの制作の現場においては、再制作の様相を見逃すことはできない。これを関心の主軸にすれば、主としてパフォーミングアーツを対象としながら、芸術学の研究を行っている。

平井 章一 教授

- ①近・現代美術史
- ②日欧米の20世紀以降の美術、特に1950、60年代の前衛的表現を研究。日本については、「具体」グループなど、関西での動向のフィールドワークに力を入れている。

③hirai@kansai-u.ac.jp

日本史学専修

日本古代中世史研究 西本昌弘、原田正俊
考古学研究 米田文孝 **民俗学研究** 黒田一充

日本近世近代史研究 大谷 渡、小倉 宗
文化遺産学研究 井上主税

西本 昌弘 教授

- ①古代の儀式と年中行事、東アジア対外関係史、古代の都城と寺院
- ②古代の儀式・年中行事を『内裏式』『新撰年中行事』などの儀式書・年中行事書とともに解明。5~7世紀の日本史を東アジア史の中で考察。飛鳥・藤原宮から長岡・平安宮にいたる王都・王宮・寺院の歴史を政治・社会の動きの中に位置づける。
- ③mnisimot@kansai-u.ac.jp

大谷 渡 教授

- ①明治維新から現代に至るまでの日本の社会と文化に関する史的研究
- ②近現代日本の社会文化史。ジャーナリズム・文学・教育と社会思想。宗教と民衆思想。大正リベラリズムと戦後民主主義。戦争の時代をひととはどう生きたのか。日本と台湾の近現代史とアジア。近代大阪の都市と農村等々について、幅広く研究に取り組んでいる。
- ③wohyathi@kansai-u.ac.jp

米田 文孝 教授

- ①日本考古学、南アジア考古学、博物館学
- ②日本考古学では古墳時代や飛鳥時代の、南アジア考古学では仏教遺跡や石窟寺院の調査研究を中心に実施し、古代社会の復元を試みている。希望する受講生には考古学研究室での協働を通じて、将来的に専門職として活躍できる調査研究力の涵養と、実践力を獲得を目指している。
- ③yoneida@kansai-u.ac.jp

井上 主税 准教授

- ①文化遺産学、博物館学、日本・朝鮮考古学
- ②多岐にわたる文化遺産を対象とし、特にモノを通じた実証性重視の考古学的なアプローチに重点を置いて研究している。また、日本列島と朝鮮半島の文物交流史についても考察を進めている。地域の文化遺産の価値を見出し、活用できる人材の育成を目標とする。
- ③c-inoue@kansai-u.ac.jp

原田 正俊 教授

- ①日本中世史・日本仏教史・東アジア文化交流史
- ②日本中世における国家・社会と宗教の関係についての研究。さらに、日本列島内にとどまらず、東アジアの文化交渉のなかで日本の仏教・宗教・文化がどのように展開したのかについて研究を進めている。この他、妖怪と社会、女性と仏教などの研究もある。
- ③msharada@kansai-u.ac.jp

小倉 宗 教授

- ①日本近世（江戸時代）の政治・法と社会に関する研究
- ②日本近世において関東とならぶ主要地域であった上方（畿内近国）を主なフィールドに、江戸幕府の支配（政治・法・軍事）とその機構について研究している。また、諸藩の政治と法、上方地域の社会にも考察を進めている。
- ③tt-ogura@kansai-u.ac.jp

黒田 一充 教授

- ①日本民俗学・庶民信仰史 とくに日本各地の祭りや民俗信仰の研究
- ②民俗学は、村や町に住む人びとが何世代にもわたって伝えてきた生活文化を研究対象とする。とくに祭祀や信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。
- ③kurodaka@kansai-u.ac.jp

世界史学専修

東洋史研究 新谷英治、森部 豊 **エジプト学研究** 吹田 浩
西洋史研究 芝井敬司、中村仁志、嶋中博章

新谷 英治 教授

- ①15~16世紀のオスマン朝とヨーロッパの政治的・文化的関係
- ②トルコ系遊牧民の文化伝統を受け継ぎつつ西アジアを中心に巨大なイスラーム国家を建設したオスマン朝は、ヨーロッパや地中海世界と政治・社会や文化の面で相互に大きな影響を与えあっている。そのような相互関係の実相を具体的に捉えようとしている。
- ③shintani@kyoto.zaq.ne.jp

吹田 浩 教授

- ①古代エジプトの歴史の研究、文化財の保全・修復・活用の研究
- ②古代エジプトの歴史と文化を研究する。その際、古代文字（古期エジプト語、中期エジプト語、後期エジプト語、コプト語、民衆語、ヒエラティック）を使うことを前提とする。また、エジプトの文化財の修復も行い、歴史の研究と文化財の修復を一体的に扱う。
- ③horus@kansai-u.ac.jp

中村 仁志 教授

- ①ロシア近世史、ロシア辺境史、カザーク（コサック）史
- ②15~18世紀を中心としたロシアについて研究している。ロシアと周辺の諸国家や遊牧勢力とのかかわりを軸にしたロシア辺境地帯の歴史、ロシアの南部辺境に生まれロシアの歴史に大きな影響をおよぼしたカザーク（コサック）集団の歴史などを中心に研究している。
- ③nhitos@fine.ocn.ne.jp

森部 豊 教授

- ①唐五代史研究、東西文化交流史、東ユーラシア史
- ②7世紀から10世紀の東ユーラシア（北中国・モンゴリア・マンチュリア）の政治史を、ソグド人、トルコ人、契丹人などの視点からとらえ直し、「中国史」を相对的に見直すことを目的としている。
- ③senbu_feng@yahoo.co.jp

芝井 敬司 教授

- ①歴史家エドワード・ギボンの家系史研究
- ②18世紀イギリスに生まれ名著『ローマ帝国衰亡史』を書いた歴史家ギボンの家系を調査・再構成しながら、17・18世紀のギボン家の社会的上昇を、ロンドン商人の商業・金融活動と、当時のイギリスの政治・経済・社会情勢との関連という視点から、詳細に解明している。
- ③akaaif433@tcn.zaq.ne.jp

嶋中 博章 助教

- ①フランス近世史、フランス貴族史、文芸事象の歴史
- ②近世フランス、とくにルイ14世時代の貴族と彼らが書き残した回想録（メモワール）について研究してきた。現在は「書く」という行為に着目し、「文芸事象の歴史」という視点でアンシャン・レジーム期の政治、社会、文化を包括的に研究している。
- ③hshima@kansai-u.ac.jp

ドイツ文学専修

ドイツ言語文化研究（1） 工藤康弘、芝田豊彦
ドイツ言語文化研究（2） R.F.ヴィットカンプ

工藤 康弘 教授

- ①初期新高ドイツ語（14~17世紀）の統語論的、語彙的研究
- ②副文に現れた接続法の時制と主文の時制がどの程度一致しているかを分析することで、ドイツ語史における時制の一致の崩壊過程を明らかにする ②話法の助動詞möchteが可能の意味（～できる）から願望の意味（～したい）へ移行する歴史的過程を明らかにする。③14~17世紀におけるドイツ語の語彙を分析し、この時代の文献を読むための辞書を編纂する。
- ④yskudo@kansai-u.ac.jp

ローベルト・F. ヴィットカンプ（Robert F. Wittkamp） 教授

- ①記憶研究・文化的記憶、物語論（narratology, [transmediale] Erzähltheorie）、テレビドラマ（連續形態、社会の自己描写、ドラマと記憶など）
- ②文学や他のメディアにおける記憶（風景の描写と記憶とのかかわり、四季としての文化的記憶など）。私のもう一つの研究テーマである物語論の問題提起は多種多様であり、例えば、あるストーリー（story）が他のメディアに語られる（映画化や漫画化）story自体も変化するか否か、詩歌にも物語性があるか。テレビドラマと物語論等々。
- ③wittkamp@kansai-u.ac.jp

芝田 豊彦 教授

- ①ドイツ文学における神秘・敬虔思想、フランクルの「意味」の思想
- ②アルノルト、テルステーゲン、ヘルダーリング等の詩作品における神秘・敬虔思想を探求する。またシェーラー、アードラー、ユング等と対比しつつ、「意味」（Sinn）をめぐるフランクルの思想を考察する。
- ③tshiba@kansai-u.ac.jp

フランス文学専修

フランス文学研究 奥 純、友谷知己
フランス語学研究 大久保朝憲

奥 純 教授

- ①アラン・ロブ＝グリエを中心としたフランス現代文学の研究
- ②20世紀後半に活躍したヌーヴォー・ロマンの作家たちのオーガナイザーとして活躍したアラン・ロブ＝グリエの作品研究と、そこから派生する、小説の構成とその意味を考える分類学的物語論の研究。
- ③Junoku@kansai-u.ac.jp

大久保 朝憲 教授

- ①ボリフォニー理論による言語現象の分析（アイロニー・綴叙法など）
- ②Ducrot, Carelなどによるボリフォニー理論にもとづき、発話内部の複数の声についての分析を行っている。具体的には、アイロニーなどがもつ修辞性を、「認知」や「話し手の意図」から独立した、言語そのもののもつ意味の豊かさの面から追究している。
- ③tomonori@kansai-u.ac.jp

中国文学 専修

中国文学及文学史 井上泰山、長谷部剛、池田智恵

井上 泰山 教授

- ①中国における白話文学と文言文学の交流の歴史とその展開を探る
- ②①「変文」を中心とする唐代以前の講唱文芸の姿、②宋代の芸能の実態と、文字化される以前の白話文学の姿、③元雜劇を中心とする元代以降の戯劇の発展、④明代以降の白話小説の進展状況、⑤白話文学と現代文学との接点、以上を中心に探求。
- ③taizan@kansai-u.ac.jp

池田 智恵 准教授

- ①近現代中国における通俗小説の誕生と変遷についての研究
- ②近代中国における通俗小説の誕生と変遷について、①探偵小説や武侠小説などがいかに想像/創造されたのかを、②創作者からの視点からだけでなく、雑誌などに現れる読者に注目し、読者論的視点からそれぞれ研究している。また③現代中国における若者の感性の変化などにも着目し、④現代中国SFなどを通じて今変化している中国のエンターテインメント小説の世界を明らかにすることなどをそれぞれ研究している。
- ③t_ikeda@kansai-u.ac.jp

地理学 専修

自然地理学研究 木庭元晴 **人文地理学研究** 土屋 純
歴史地理学研究 松井幸一 **地誌学・地理教育研究** 野間晴雄

木庭 元晴 教授

- ①物理化学的分析と地理情報システム手法から得る第四紀環境変動
- ②地形や堆積物を対象に種々の物理化学的手法（放射性炭素年代測定や安定同位体比計測など）や地理情報システムを使って分析し、過去100万年ほどの地球内部の活動と大気環境の変動や生物活動を解き明かす。文系または未経験者であっても懇切に指導する。
- ③moto@kansai-u.ac.jp

松井 幸一 准教授

- ①日本の都市・村落の空間構造/アジアの集落に関する研究
- ②村落がいかに形成され拡大してきたのかを東アジアを対象として研究している。研究では村落の形成を伝統的な土地の復原からだけでなく、文化・民俗の面から比較・考察し地理情報システム（GIS）を利用した分析も行っている。
- ③k.matsui@kansai-u.ac.jp

友谷 知己 教授

- ①十七世紀フランス古典劇研究
- ②ラシードを中心とする十七世紀フランス古典劇、特に古典悲劇のドラマツルギーを研究している。十六世紀の人文主義演劇、十七世紀初頭の残酷劇またパロック劇と続くフランス演劇史の流れを踏まえたうえで、古典作家たちが駆使していた劇作テクニックの分析を行っている。
- ③tomotani@kansai-u.ac.jp

長谷部 剛 教授

- ①杜甫詩学、隋唐楽府文学、日本所蔵漢籍および日中比較文学の研究
- ②中国古典詩歌の研究を軸としつつ、①杜甫詩の解釈や杜甫詩集の編集の実態を、②隋唐の雅楽・俗楽とそれにのせて歌われる詩歌との関係を、③おもに関西大学図書館所蔵の重要な漢籍を、④『聊齋志異』について日本での受容過程を、それぞれ研究。
- ③thasebe@kansai-u.ac.jp

教育学 専修

教育理論・政策学研究 赤尾勝己、多賀 太、広瀬義徳、山ノ内裕子、山本冬彦
学校教育開発学研究 安藤輝次、石井康博、山住勝広、若槻 健

赤尾 勝己 教授

- ①生涯学習の社会学的研究
- ②生涯学習とは人間が生まれてから死ぬまでの一生に経験する学習の総体である。それらをinformal learning、non-formal learning、formal learningの3種類に分け、さらに、人間の自己、学校や組織でのmicro-level、地域社会や国家でのmacro-level、国連やEU、OECDなどのglobal-levelでの、学習プログラムや生涯学習施策・政策などを社会学的な観点から研究する。
- ③t950027@kansai-u.ac.jp

広瀬 義徳 教授

- ①教育制度学、教育行政学
- ②日本の教員人事・管理政策に関する制度学的・行財政学的な分析を中心に、公教育について研究を行っている。近年は、公立学校教員の勤務評価制度、外国籍教員の任用行政、公教育の民営化などをテーマにしている。
- ③to80020@kansai-u.ac.jp

山本 冬彦 教授

- ①コミュニティ教育論
- ②地域社会での市民やNPO、行政などが主催する、青少年に対する教育活動について、実際に行われている、あるいは行われた実践に即して、その意義、目的、方法、歴史的、社会的意義などを考察し、市民が教育の担い手として育っていくプロセスを明らかにする。

石井 康博 教授

- ①教科教育（算数科教育）
- ②小学校算数科における具体物を利用した子どもの数的活動を研究対象としている。授業実践から得られた記録を主なデータとして、教育工学で行われている分析方法を用いて、研究している。
- ③yishii@kansai-u.ac.jp

土屋 純 教授

- ①少子高齢化時代の日本における都市社会や流通産業の実態、アジア大都市における流通産業の成長と都市生活の変化
- ②日本、アジア、欧米諸国における流通産業の成長分析と、都市商業の革新に関する国際比較研究。大都市における都市産業の立地展開とその連関構造についても検討している。
- ③tsuchiyu@kansai-u.ac.jp

野間 晴雄 教授

- ①アジア農村／都市の歴史生態、もの・技術の文化交渉学、地理教育
- ②日本を含むモンスーンアジア農村社会の比較研究が中心。農業、土地、技術、行動、食文化を対象にフィールドワークと歴史地理の融合をめざす。都市誌、人間—環境システム、民俗学・人類学との境界領域、歴史GIS、地理教育・地理思想、交通地理にも関心がある。
- ③noma@kansai-u.ac.jp

多賀 太 教授

- ①教育社会学、ジェンダー論
- ②学校教育にとどまらない人間形成について、主として社会学の理論と方法を用いて広く研究を行っている。近年は特に、家庭教育、ジェンダーと学校教育、仕事と家庭生活の調和、ポスト近代社会と男性性をテーマとしている。
- ③f.taga@kansai-u.ac.jp

山ノ内 裕子 教授

- ①教育人類学、異文化間教育学
- ②教育人類学の領域のひとつである、移民のエスニシティ形成が主たる研究テーマである。ブラジル日系社会と在日ブラジル人コミュニティを往復しながら、日本とブラジルを往還する日系ブラジル人たちの教育と文化について研究を行っている。
- ③ymnch@kansai-u.ac.jp

安藤 輝次 教授

- ①カリキュラム論、質的評価、形成的アセスメント、教師教育の研究
- ②目標・内容・方法を評価の観点から捉え直し、教え手や学び手にとっての学びを引き出すような授業づくりを研究している。小学校から高校までにおいては、主として社会科や総合的な学習で、大学以上では教師教育の中で教師としての力量形成法を研究対象とする。
- ③tando@kansai-u.ac.jp

山住 勝広 教授

- ①活動理論による協働学習の探究と学校教育のイノベーション
- ②学校現場の教師や学校外の多様なパートナーと協働して、学校での協働的な教育実践と子どもたちの創造的な学習のイノベーションについて、活動理論にもとづき研究している。また、日本、フィンランド、アメリカの学校教育実践の国際比較研究を進めている。
- ③kyamazum@kansai-u.ac.jp

教育学専修

教育理論・政策学研究 赤尾勝己、多賀 太、広瀬義徳、山ノ内裕子、山本冬彦
学校教育開発学研究 安藤輝次、石井康博、山住勝広、若槻 健

若槻 健 教授

- ①市民性教育、人権教育、学校・授業づくり
- ②市民性教育は、地域社会を担い、創っていく市民としての資質（市民性）を育む教育である。多文化化する社会のなかで求められる市民性を育む学校・授業を人権教育の観点から作っていくこと（実践的研究）、意味づけしていくこと（理論的研究）が研究テーマである。

③w-ken@kansai-u.ac.jp

文化共生学専修

文化共生学研究 柏木 治、澤井一彰、溝井裕一、森 貴史

柏木 治 教授

- ①フランスを中心とするヨーロッパ近代の文化イデオロギーの研究
- ②ヨーロッパ近代、とくにフランス革命以降の社会風俗、外国人嫌悪、異国感情、他者意識などをテーマとし、文芸やジャーナリズムの言説の分析をとおして、ナショナリズムや植民地イデオロギーの展開、さらにはそれらと今日の移民問題との関係を研究している。

③quercus@kansai-u.ac.jp

溝井 裕一 教授

- ①人と動物の関係史、西洋文化史
- ②現在は動物園、水族館、民間伝承を対象としつつ、西洋と日本における「人と動物のかかわり」について研究を行っている。

③y_mizoi@kansai-u.ac.jp

澤井 一彰 教授

- ①トルコを中心とする東地中海や中東の地域研究
- ②東地中海から中東にかけての地域で発生した（あるいは現在もしている）経済的・文化的な事象を、歴史学的な視点から解明することを目指している。とくに食文化などの日常生活の変化や自然災害からの復興のあり方に関心をもって研究を進めている。

③k-sawai@kansai-u.ac.jp

森 貴史 教授

- ①ドイツ文化論、ヨーロッパ紀行文学、サブカルチャー研究
- ②英米のカルチュラル・スタディーズとは一線を画するドイツの文化研究理論の実践による日本の現代文化・サブカルチャー研究や、17、18世紀ヨーロッパで書かれた紀行文学、探検航海記、ユートピア文学の文化史・時代史的視点による研究。

③tmori@kansai-u.ac.jp

映像文化専修

映像文化研究 笹川慶子、菅原慶乃、堀 潤之、門林岳史

笹川 慶子 教授

- ①日本とアメリカの映画産業史
- ②おもに製作、配給、興行の変化の美学的文化的側面、アジア諸国における日本およびアメリカ映画の影響を研究。ほかに映画製作の地方史、映画配給のグローバル史、映画館の文化地理史など。

③sasa@kansai-u.ac.jp

堀 潤之 教授

- ①フランスを中心とする映画史・映画理論の総合的研究
- ②私が最も強い関心を向いているのは、ジャン=リュック・ゴダールの半世紀以上におよぶ仕事であるが、それに連関して、ヌーベル・ヴァーグとその前史、フランスを中心とする映画・映像理論、映画と現代美術の関係、さらにはニューメディア研究にも興味がある。

③hori@kansai-u.ac.jp

菅原 慶乃 教授

- ①中国語圏映画史
- ②民国期上海の映画産業史、観客史から作品を読み解くアプローチによる研究を継続している。また、東南アジアや北米の華僑華人コミュニティにおける中国映画受容史や、ジエンダー研究も射程に含めている。近年は映画パンフレットなど劇場資料を用いたデジタル・ヒューマニティーズにも関心を広げている。

③sugawara@kansai-u.ac.jp

門林 岳史 准教授

- ①映像の理論・メディアの哲学
- ②映像とメディアをめぐる近年の理論的言説を、とりわけマーシャル・マクルーハン以降のメディア論の展開に重点をおいて研究している。また、テクノロジーに向かう想像力の歴史的布置を言説や作品、文化表象の分析を通じて考察している。

③kanbaya@mac.com

◆2020年度 博士課程後期課程 専修科目および担任者

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

英米文学英語学専修

中世及近世英文学	干井洋一
近代英米文学	J.カーワン／高橋美帆／谷口義朗
英語学	F.E.アンダーソン／岩田彩志／鍋島弘治朗

史学専修

日本古代中世史	西本昌弘／原田正俊
日本近世近代史	大谷 渡
考古学	米田文孝
民俗学	黒田一充
東洋史	新谷英治／森部 豊
西洋史	芝井敬司／吹田 浩／中村仁志

中国文学専修

中国文学特殊研究(2)	井上泰山
地理学専修	
自然地理学特殊研究	木庭元晴
人文地理学特殊研究	土屋 純
地誌学・地理教育特殊研究	野間晴雄

教育学専修

教育思想特殊研究	安藤輝次／山住勝広
教育計画特殊研究	赤尾勝己／多賀 太

国文学専修

上代文学	村田右富実
中古文学	加藤洋介／田中 登
中世文学	大島 薫
近世文学	山本 阜
近代文学	閑 肇／増田周子
国語学	乾 善彦／日高水穂

ドイツ文学専修

ドイツ文学	芝田豊彦
ドイツ文化	R.F.ヴィットカンプ
ドイツ語学	工藤康弘

フランス文学専修

中世・近世フランス文学	友谷知己
近代・現代フランス文学	奥 純

哲学専修

哲学・哲学史研究	三村尚彦／山本幾生
哲学・倫理学研究	木岡伸夫／品川哲彦／中澤 務
比較宗教学研究	井上克人／宮本要太郎
美学・美術史研究	蜷川順子／長谷洋一／平井章一／若林雅哉

経済学研究科

千里山キャンパス
経済学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_eco/

博士課程前期課程

経済学専攻（入学定員 45名）
プロジェクトコース／アカデミックコース

博士課程後期課程

経済学専攻（入学定員 5名）

目的に応じたコース制と、 フレキシブルな開講時間帯で時代のニーズに対応

特色

- 1 経済学研究科博士課程前期課程・経済学専攻に「プロジェクトコース」と「アカデミックコース」の2つのコースを設け、多様な実務的・学問的関心をもつ院生の主体的な学習・研究活動を多面的に指導・支援することに主眼をおいてカリキュラムを編成しています。
- 2 プロジェクトコースは、博士課程前期課程の2年間で、経済学の高度な専門的知識を修得することを目的にしています。
- 3 アカデミックコースは、博士課程前期課程および後期課程を通して、経済学の専門分野について研究者として自立することを目的にしています。
- 4 経済学の理論的基礎の理解を容易にするために、必須の基礎科目として、留学生と社会人を対象とする経済学基礎研究Ⅰ・Ⅱの講義を置いています。
- 5 すべての演習科目において指導教員制をとって、フェイス・トゥ・フェイスの教育研究指導ができるようにするとともに、多くの講義科目において学外講師を含む、すぐれた研究者および実務家が院生の指導にあたっています。

定員と入学試験

経済学研究科の入学定員は、前期課程45名、後期課程5名となっています。近年は、学部だけでなく大学院の入学試験も多様化しており、経済学研究科においても、一般入学試験のほかに、前期課程では、学内進学試験、経済学部・経済学研究科5年一貫教育プログラム入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験などを行っています。一般入学試験は10月募集と2月募集があります。外国人留学生入学試験は後期課程においても実施しています。科目等履修生および外国人のために外国人研究生の制度も設けています。

博士課程前期課程

博士課程前期課程で履修・修得できる授業科目は、系科目、基礎科目、共通科目に大別されます。

種別	履修方法・科目の特性
～系科目	履修方法に制限はありません。ただし、指導教員の担当する講義を修得する必要があります。
基礎科目	修了所要単位に含めることができるのは4単位までです。 関西大学大学院学則に定める外国人留学生は、経済学基礎研究(a)Ⅰ・Ⅱを履修しなければなりません。なお、経済学基礎研究(a)Ⅰ・Ⅱは外国人留学生のみ履修できます。 また、社会人入学試験または全国社会保険労務士会連合会特別推薦入学試験で入学した者は、経済学基礎研究(b)Ⅰ・Ⅱを履修しなければなりません。
共通科目	経済学研究演習Ⅰ・Ⅱ 演習 論文指導

■修了所要単位

2年（4学期）以上4年（8学期）
以内在学し、32単位以上を修得し、
かつ、必要な研究指導を受けたうえ、
修士論文または特定の課題について
の研究成果報告書の審査および試験
に合格した者には、修士（経済学）
の学位が与えられます。

【修了所要単位32単位の内訳】

科目区分・科目名	最低修得単位数	
指導教員の担当する講義・演習・論文指導	12単位	合計 32単位以上
上記以外	20単位以上	

税理士試験の試験科目の免除について

経済学研究科において、税法に属する科目に関する研究で学位（修士）を取得した者は、税理士試験の一部科目にすでに合格している場合、税法に属する科目の受験免除申請をすることが可能です。

ただし、免除申請に係る「認定・不認定」は国税審議会によるため、学位（修士）を取得することで必ず認定されるものではありません。
税理士試験の試験科目の免除についての詳細は、必ず国税庁のWebサイトなどでご確認ください。

◆2020年度 博士課程前期課程 演習・論文指導担当教員

担任者および授業科目に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①講義科目 ②研究テーマ ③研究内容 ④E-mail/HP

エコノミスト系科目

長久 良一 教授 ①ミクロ経済学研究(A) I・II ②社会的選択と規範的正義論 ③アロウの不可能性定理、ナッシュ交渉問題、個人間厚生比較、資源配分と社会的選択などの社会的選択理論での諸問題。カント流形式主義道德哲学への公理主義的接近など、倫理学と交錯する新領域での研究。 ④t940074@kansai-u.ac.jp	坂根 宏一 教授 ①ミクロ経済学研究(B) I・II ②競争均衡の安定性 ③完全競争及び不完全競争下の均衡の安定性 ④sakane@kansai-u.ac.jp	秋岡 弘紀 教授 ①マクロ経済学研究(A) I・II ②マクロ経済学研究 ③(研究内容) ミクロ経済学・マクロ経済学・経済政策の実証分析 (分析手法) 計量経済学 ④akioka@kansai-u.ac.jp http://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/+0c8bd9f21b23vb602wdfoa7cb0H.html
稻葉 大 教授 ①マクロ経済学研究(B) I・II ②動学的一般均衡モデルによる経済成長・景気循環の研究 ③動学的一般均衡モデルに基づき、経済の成長、景気の変動を理論的・実証的に分析する。特に、景気循環会計、金融制約、ニュースショック、合理的バブルに焦点を当てて研究している。 ④imasaru@kansai-u.ac.jp	鈴木 智也 教授 ①経済変動論研究 I・II ②小国開放経済の景気変動 ③小国開放経済の景気変動を実物景気循環理論のモデルに基づいて実証分析する。 ④tomoya@kansai-u.ac.jp	土居 潤子 教授 ①経済成長論研究 I・II ②経済成長に関する研究 ③レンジシーキング活動が各種経済政策の効果や経済成長に及ぼす影響、途上国の自律的発展、貧困削減のための経済成長メカニズムの解明等の研究を行っている。 ④jkdoi@kansai-u.ac.jp
良永 康平 教授 ①統計学研究 I・II ②統計学基礎研究、統計学研究、統計学特殊研究 ③経済統計学の国民経済計算論や産業連関論を中心に研究している。最近は特に環境勘定や08SNA、EUの産業連関、日本の地域分析等に興味を持っている。 ④yosinaga@kansai-u.ac.jp	宇都宮 浄人 教授 ①経済統計学研究 I・II ②交通経済に関する統計的研究 ③交通と経済社会に関わる事象の量定化と実証。現在は、地域公共交通と交通政策に関する実証分析に关心がある。 ④t110025@kansai-u.ac.jp	松尾 精彦 教授 ①数理統計学研究 I・II ②一般化線形モデルの理論と応用 ③一般化線形モデルは、正規線形モデルを拡張したものであるので、まず正規線形モデルについて学ぶ。その上で、一般化線形モデルの理論・応用例について研究する。 ④amatsuo@kansai-u.ac.jp
橋本 紀子 教授 ①計量経済学研究(A) I・II ②経済全般（特に、家計行動）に関する実証分析 ③経済現象の把握には実証分析が不可欠である。実証分析を行うため、実証結果が書かれた論文を正しく読みこなすために必要な計量経済学の知識を身につける。 ④t902375@kansai-u.ac.jp	片山 直也 教授 ①計量経済学研究(B) I・II ②経済時系列データを用いた実証分析 ③不動産や株式指數の合理的バブルの検証・金融緩和政策の有効性の検証・時系列解析における検定手法の開発 ④katayama@kansai-u.ac.jp	谷田 則幸 教授 ①情報処理論研究 I・II ②エージェントシミュレーションによる経済システムの解明 ③複雑系の解明に旧来の還元主義に対峙する構成主義の立場でアプローチし、複雑系としての経済システムをエージェントシミュレーションを通して解明する。 ④tanida@kansai-u.ac.jp
野坂 博南 教授 ①労働経済学研究 I・II ②労働経済に関する理論的研究 ③サーナ・マッチング理論などを応用して、理論的な観点から雇用問題や失業問題を考察する研究を行っているほか、賃金や雇用格差の理論も研究している。 ④hnosaka@kansai-u.ac.jp		

パブリックポリシー系科目

本西 泰三 教授 ①経済政策研究 I・II ②現代日本の経済政策に関する実証分析 ③日本の経済政策課題に関する、消費者・生活者の意志決定に着目した計量分析を行う。 ④tmoto@kansai-u.ac.jp	林 宏昭 教授 ①財政学研究 I・II ②現代財政・税制に関する理論的・実証的研究 ③現代財政に関する種々のデータに基づく実証的な分析を展開し、そこから得られる成果を活用して財政・税制改革の方向性を探る。 ④hhayashi@kansai-u.ac.jp	橋本 恭之 教授 ①租税政策研究 I・II ②税制改革の実証分析 ③税制改革は、経済効率性や所得分配状況に多大な影響を与える。このような影響を捉るために実証分析を行っている。 ④hkyoji@kansai-u.ac.jp http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~hkyoji/index.htm
佐藤 雅代 教授 ①社会保障論研究 I・II ②構造改革と社会保障 ③経済学の知識をベースに、医療・年金といった狭義の社会保障政策に加え、公衆衛生の分野でもある水道など、公共サービスに関する研究に取り組んでいる。 ④msy_sato@kansai-u.ac.jp	前川 聰子 教授 ①公共経済学研究 I・II ②経済・財政政策の実証分析 ③経済・財政政策の経済的影響について、統計的手法を用いた分析を行っている。 ④smaekawa@kansai-u.ac.jp	

地域・国際系科目

榎原 雄一郎 教授

- ①地域経済論研究 I・II
- ②グローバル経済下における地域経済についての研究
- ③グローバル経済が進展する中で、日本の工業都市の発展や盛衰、日本の都市システムの変化、地域開発政策について研究を進めている。
- ④sakaki@kansai-u.ac.jp

菅田 一 教授

- ①国際経済論研究 I・II
- ②不完全競争下の貿易理論
- ③企業の市場支配力を前提とする不完全競争下の貿易理論および貿易政策が研究テーマである。また、グローバルな産業・競争政策や環境問題等に貿易理論を適用し、研究を行っている。
- ④sugeta@kansai-u.ac.jp

春日 秀文 教授

- ①国際金融論研究 I・II
- ②開発金融の諸問題
- ③開発援助政策および発展途上国における所得分配・教育・インフラ整備などの諸問題をテーマとして、理論および計量経済学的な分析を行っている。
- ④hkasuga@kansai-u.ac.jp

後藤 健太 教授

- ①経済発展論研究 I・II
- ②途上国の経済分析
- ③グローバル経済化における途上国の産業高度化問題と、途上国のインフォーマル経済に関する研究
- ④gotoken@kansai-u.ac.jp

松下 敬一郎 教授

- ①人口学研究 I・II
- ②家族・人口・開発の経済学
- ③人口学・人口経済学・開発経済学の研究領域について紹介し、受講者の研究課題に応じた研究論文の講読を通じて理論・実証研究の理解を深める。
- ④uyen@kansai-u.ac.jp

新熊 隆嘉 教授

- ①環境経済学研究 I・II
- ②資源・環境問題の経済分析
- ③専門は、資源・環境経済学。経済学の観点から、最適な資源利用・汚染コントロールを実現可能にする制度設計を考えている。具体的な研究対象としては、枯渇性資源、廃棄物、温暖化など。
- ④shinkuma@kansai-u.ac.jp

北波 道子 教授

- ①アジア経済発展論研究 I・II
- ②東アジアの社会と経済
- ③後発国の経済発展とそのメカニズムについて、台湾と中国を中心に実証的に研究する。
- ④kitaba@kansai-u.ac.jp

神江 沙蘭 教授

- ①EU経済論研究 I・II
- ②市場経済における国家と民主主義、金融・通貨ガバナンスと国際協調
- ③グローバル経済、社会において国家間の協調、ルール形成はどのようになされるか、政治的諸条件が市場の機能にどのようなインパクトを与えるか等について分析する。特に金融規制、欧州統合、通貨システムをめぐる国際政治を研究対象とする。
- ④skonoe@kansai-u.ac.jp

歴史・社会系科目

北原 聰 教授

- ①日本経済史研究 I・II
- ②近代日本の社会経済史研究
- ③近代日本における交通インフラ形成とそこで政府が果たした役割について研究している。
- ④kitahara@kansai-u.ac.jp

西村 雄志 教授

- ①アジア経済史研究 I・II
- ②近代アジア経済史
- ③20世紀初頭のアジアにおける国際金本位制の特徴について銀流通の観点から研究している。
- ④tnishimu@kansai-u.ac.jp

ペドロ・ラポウズ 教授

- ①外国経済史研究 I・II
- ②アジアの対アフリカ開発政策、アフリカ-アジア関係
- ③アフリカ諸国に対する日本及び中国の社会経済開発協力。特にTICADプロセスと、FOCACやKAFなどの他のアジア諸国による対アフリカ開発協力との比較分析。アフリカ-アジア間の政治・社会・経済関係の変遷。
- ④p_raposo@kansai-u.ac.jp

中澤 信彦 教授

- ①経済学説史研究(A) I・II
- ②近世イギリス社会経済思想史
- ③18・19世紀イギリスの社会経済思想の展開を「救貧問題」「共和主義」「保守主義」などのトピックとの関連から研究している。
- ④nakazawa@kansai-u.ac.jp

佐藤 方宣 教授

- ①近代経済学史研究 I・II
- ②20世紀アメリカを中心とした経済思想史
- ③経済活動における倫理と公共性をめぐる問題群を、経済思想史的な観点から研究している。
- ④masanobu@kansai-u.ac.jp

植村 邦彦 教授

- ①社会思想史研究(A) I・II
- ②社会経済思想史
- ③18世紀以降のドイツにおける近代社会の形成と国民国家の形成に伴う諸問題を社会思想史的に考察する。
- ④uemura@kansai-u.ac.jp

竹下 公視 教授

- ①社会経済システム論研究 I・II
- ②ポスト・グローバリズムの時代における社会経済システム
- ③地球の規模で激変する現代の社会経済システムを、経済・政治・社会・文化の観点からトータルに捉え、今後の方向性を探る。
- ④takesita@kansai-u.ac.jp

企業・ファイナンス系科目

石井 光 教授

- ①産業組織論研究 I・II
- ②企業の戦略的行動と競争政策に関する経済理論分析
- ③市場競争における企業の戦略的行動とそれが経済厚生に与える影響について理論的に研究を行っている。また、公益事業の規制体系のあり方や知的財産制度が競争環境に与える影響についても理論的に研究を行っている。
- ④aishii@kansai-u.ac.jp

古賀 欽久 教授

- ①中小企業論研究 I・II
- ②イノベーションに関する実証分析
- ③企業レベルのミクロデータを用いて、企業の研究開発活動の決定要因とそれに対する支援政策の有効性一とりわけ税制上の優遇措置一を実証的に検証してきた。
- ④koga@kansai-u.ac.jp

佐々木 保幸 教授

- ①流通経済論研究 I・II
- ②現代流通経済の基礎的分析
- ③日本とフランスの流通政策を中心いて研究してきた。近年では、大規模小売企業の国際的事業活動についても研究を進めている。
- ④ysasaki@kansai-u.ac.jp

中川 竜一 教授

- ①金融経済論研究 I・II
- ②適応的学習における金融政策の有効性
- ③人々が「適応的学習」という方法によって期待形成するとき、マクロ経済均衡の安定性（実現可能性）および金融政策の有効性がどのような影響を受けるかを分析する。
- ④ryu-naka@kansai-u.ac.jp
http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ryu-naka/

小林 創 教授

- ①組織の経済学研究 I・II
- ②組織の経済学・行動経済学
- ③組織における理論モデルを構築し、それを実験によって検証するなかで、組織における人間の行動特性を明らかにして行く。
- ④khajime@kansai-u.ac.jp

博士課程後期課程

■修了所要単位

3年〈6学期〉以上6年〈12学期〉以内に在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格した者には、博士（経済学）の学位が与えられます。

【修了所要単位20単位の内訳】

科目区分・科目名	最低修得単位数
指導教員の担当する講義・演習・論文指導ⅠおよびⅡ	16単位
上記以外	4単位以上 合計20単位以上

❖2020年度 博士課程後期課程 演習・論文指導担任者

担任者および授業科目に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

理論・統計・政策	ミクロ経済学特殊研究(A) I・II	長久 良一	域・産業・国際地歴史・思想・社会	財政学特殊研究 I・II	林 宏昭	金融経済論特殊研究 I・II	中川 竜一
	ミクロ経済学特殊研究(B) I・II	坂根 宏一		租税政策特殊研究 I・II	橋本 恭之	組織の経済学特殊研究 I・II	小林 創
	マクロ経済学特殊研究(A) I・II	秋岡 弘紀		社会保障論特殊研究 I・II	佐藤 雅代	日本経済史特殊研究 I・II	北原 聰
	マクロ経済学特殊研究(B) I・II	鈴木 智也		公共経済学特殊研究 I・II	前川 聰子	アジア経済史特殊研究 I・II	西村 雄志
	マクロ経済学特殊研究(C) I・II	稲葉 大		地域経済論特殊研究 I・II	梯原雄一郎	経済学説史特殊研究(A) I・II	中澤 信彦
	経済成長論特殊研究 I・II	土居 潤子		国際経済論特殊研究 I・II	菅田 一	近代経済学史特殊研究 I・II	佐藤 方宣
	統計学特殊研究(A) I・II	宇都宮淨人		国際金融論特殊研究 I・II	春日 秀文	社会経済システム論特殊研究 I・II	竹下 公視
	統計学特殊研究(B) I・II	松尾 精彦		経済発展論特殊研究 I・II	後藤 健太		
	統計学特殊研究(C) I・II	良永 康平		人口学特殊研究 I・II	松下敬一郎		
	計量経済学特殊研究(A) I・II	橋本 紀子		環境経済学特殊研究 I・II	新熊 隆嘉		
	計量経済学特殊研究(B) I・II	片山 直也		アジア経済発展論特殊研究 I・II	北波 道子		
	情報処理論特殊研究 I・II	谷田 則幸		産業組織論特殊研究 I・II	石井 光		
	労働経済学特殊研究 I・II	野坂 博南		中小企業論特殊研究 I・II	古賀 欽久		
	経済政策特殊研究 I・II	本西 泰三		流通経済論特殊研究 I・II	佐々木保幸		

在学生・修了生の声

田中 知佐さん

博士課程前期課程 経済学専攻
2017年4月入学
入試種別：一般入学試験

教員へのコンタクトや受験準備について

事前に志望指導教員へ連絡し、修士論文作成に向けてのおおまかなスケジュールなどを教えていただきました。また、事前面談の際に勧められた本や時事問題にも目を通してきました。併せて文献が英語である場合のことを考え、英語の勉強も行いました。

研究テーマと概要

『シティプロモーションによる地域活性化とその比較』

概要：人口減少が加速する中で各自治体が注力しているものにシティプロモーションが挙げられます。しかし現時点では、確立された定義などは存在せず、何をもって成果が出たとするのかなど曖昧な部分も多いので、交流人口・定流人口の変動を軸にシティプロモーションの実態を考察しています。

研究活動の『おもしろさ』と『難しさ』

知らないかったことを学ぶのは「おもしろい」ですが、町おこしのイベント一つとっても、都市にはさまざまな立場の人がいることを前提に、いろいろな角度から物事を考える必要があります。そのような場面では、プロジェクトを進める難しさを感じます。

進学を考えている方へのメッセージ

2年かけて一つのことを突き詰めて研究するというのはなかなか大変なことですが、何か一つでも気になることがあるならば、大学院進学がその関心に対するより深い理解への第一歩になると思います。

※プロフィールは2019年3月時点のものです。

宗村 敦子さん

博士課程後期課程 経済学専攻
2018年3月修了
入試種別：一般入学試験
勤務先名：京都大学アフリカ地域研究資料センター 特任研究員

大学院進学の決め手

他大学の修士課程でアフリカ経済史を学びはじめてから、北川勝彦先生に度々ご助言をいただきました。博士課程では本格的にご指導をいただきたく関西大学大学院に進学することにしました。

学位論文題名と概要

『南アフリカにおける労働集約型工業化』

概要：女性の季節労働者の農村間移動に着目し、従来の移動性の高い男性出稼ぎ労働者の短期利用からの雇用関係の変化を論じました。とくに技術形成に力点をおいた労働力確保という問題意識が雇用主間で共有される過程を明らかにしました。

現在の職業について

南アフリカをフィールドにしたプロジェクトがあるということでお声がけいただき、同地域でのリサーチに同行させて頂く機会がありました。研究分野の異なる教育関連のプロジェクトですが、異なるフィールドの専門家の方々と協力して新しい研究を練りあげる楽しさがあります。

進学を考えている方へのメッセージ

関西大学経済学研究科の良さは、社会人として必要なスキル養成について先生方から非常にきめ細かいアドバイスをいただけだと思います。また、図書館の設備もとても整っていて、研究生活においてもよい環境だと思います。

商学研究科

千里山キャンパス

商学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_com/grad/**博士課程前期課程**

商学専攻（入学定員 35名）
 研究者養成・後期課程進学コース
 高度専門職養成コース

博士課程後期課程

商学専攻（入学定員 5名）

高度な知識を備えた研究者と、 これからの中社会で活躍できる高度の専門職業人を養成


特色

商学研究科は経済主体としての企業の行動を分析の中心に据えて、現代社会の経済的諸問題を研究する組織である。また、その研究活動と関わらせて将来を担う研究者や高度専門的職業人を養成する教育組織である。

博士課程前期課程には商学専攻の1専攻があり、そのうち高度専門職養成コースには経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野に関連した科目が置かれている。これらは戦略マネジメント、流通・国際ビジネス、そしてファイナンス・会計の3つの系に分類され、体系化されている。また、研究者養成・後期課程進学コースには同様の諸科目が並列的に設置され、指導教員の指導のもとで、体系的な科目履修が弾力的に行い得るように設計されている。

博士課程後期課程には商学の1専攻があり、流通・国際ビジネス・ファイナンス、会計・経営に関する諸科目が設置されている。商学研究科のカリキュラムは全体として次のような3つの特色を有している。

その第一は、何よりも博士課程前期課程に研究者養成・後期課程進学コースと高度専門職養成コースから成るコース制を採用していること、高度専門職養成コースにおいては特に、経験豊富な実務家による講義を多数開設していることに示されるように、理論と実践の融合をめざすカリキュラム構成にしていることである。学生が高い水準の理論的蓄積とともに優れた問題解決能力＝政策提言能力を身につけることをめざしている。

その第二は、流通・国際ビジネス系の諸科目群に端的に示されるように、国内的視点のみならず国際的視点からの研究アプローチを重視していることである。こうしたアプローチの重視は、他面では、多数の留学生を受け入れてきていることにも結実している。また、2011年度より博士課程前期課程の外国人留学生を対象とした「日本語アカデミック・ライティング」を開講し、日本語教育も充実させている。

その第三は、後期課程はもちろんとして、前期課程においても、初年次より専修科目担当の指導教員により、科目履修のあり方と論文作成に関わる教育指導を受けることが可能な仕組みを作り、そのなかで学生が高い専門性のみならず総合性をも兼ね備えた研究能力を涵養できるようにしている点である。

在学生・修了生の声

高見 啓一さん 博士課程前期課程 商学専攻 2015年3月修了
 入試種別：社会人入学試験
 勤務先名：学校法人享栄学園 鈴鹿大学 准教授

大学院進学の理由

中小企業診断士の資格を持ち、経営コンサルタントをしていましたが、税法1科目の合格を機に、税理士の資格にも挑戦してみようと思ったとき、税理士試験に合格することができました。

また、入学試験における筆記試験の免除や、実務家でもある辻美枝先生がおられることから「実務家である自分のための大学院」と感じたことも、関西大学を選んだ理由です。

学位論文題名と概要

『多様な事業体の所得課税上の分類について—LLPを中心に—』

概要：創業促進を目的に制度化された有限責任事業組合（LLP）は、有限責任制と構成員課税が併存する我が国にとっての新しいビーグル（事業体）であり、法人と組合、団体課税と構成員課税の峻別基準は何か、という根本命題を突きつけることとなります。本研究では、LLPに採用されている構成員課税がどのようなロジックで適切に導かれるのかを、私法学および税法学、類似ビーグルの租税判例、米英との比較等から検討しました。

大学院での研究や学修が業務に生かされている場面

辻先生のもとでアカデミックな研究をさせていただいたことにより、大学の教員という選択肢が拓けたことが一番大きいです。

前職の中小企業診断士や経営コンサルタントはその業務の特性上、利益につながるもののが業務の中心になります。それは長所でもあります。弱点でもあります。同業務の大量生産・他人の模倣は最も利益が上げやすい面、自分の業務がルーチン化していくことにジレンマを感じていました。

一方で大学教員や研究者は、教育や研究を通じて、社会に新規性を残すことができます。私も研究での知見を生かして、学生たちと「大学発ベンチャー企業」を立ち上げ、新たな著作も出すことができました。

進学を考えている方へのメッセージ

社会人でビジネスの第一線にいる方は、利害関係者のためのアウトプット（仕事）に忙殺されてしまうものです。商学研究科で自身のインプット（研究）に取り組むことで、新たな価値観に出会えるはず。利害関係のない仲間たちとともに、自分の時間を自分のために使ってみませんか。

コース制の採用（博士課程前期課程）

目的	研究者養成・後期課程進学コース	高度専門職養成コース
	大学教員等の研究者になるためのコース。専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養成する。	経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野で活躍し得る高度の専門的職業人を養成する。
特色	専攻分野を担当する専任教員の演習ならびに隣接分野の演習を履修することを通して、研究者たるに必要な知識、方法論、分析力を身につけることが可能となるような個別研究指導を実施する。	基礎的能力の涵養とともに、理論的知識と実践的知識の両方が講義および演習を通じて得られるようなカリキュラムを構築する。

カリキュラム（博士課程前期課程）

<研究者養成・後期課程進学コース>

研究者（大学教員）になるために、前期課程の初年次には複数の演習を履修し、2年目には原則として修士論文の作成に専念し、博士課程後期課程進学の準備をする。

<高度専門職養成コース>

高度職業人たるために必要な基礎的能力（専門基礎知識・考察力・分析力・表現力）を学ぶように、初年次にベーシック科目とメソッド科目を設置。また、広範な理論的知識の獲得は、専任教員の講義科目を履修することにより、さらに実践的な知識の修得とビジネス感覚の涵養は、実務家講師による講義科目を履修することで達成できるようにしている。

なお、特別プログラムとして、データサイエンティスト育成プログラム（DSプログラム）を設置している。

ベーシック科目	経営学
	マーケティング
	会計学
	経済学
	統計学
メソッド科目	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
	日本語アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ
	ロジカルシンキング
	プレゼンテーション技法
	研究方法論（定性）
	研究方法論（定量）
	モデリングの基礎
戦略マネジメント系 流通・国際ビジネス系 ファイナンス・会計系	専任教員担任科目
	実務家担当科目
	課題研究指導Ⅰ・Ⅱ
	ビジネス・インターンシップ（DS科目）*

2019年度のカリキュラムです。

*ビジネス・インターンシップは修了所要単位には含まれません。

データサイエンティスト育成プログラム（DSプログラム）（博士課程前期課程 高度専門職養成コース）

高度な情報通信技術を用い、企業内外に蓄積されている膨大なデータを活用して新しい価値を創り出すことができる人材、データサイエンティストを育成することを目的として設置している。

データサイエンティストは、業務知識を含むデータに関する深い知見をもち、データハンドリングやデータ分析に関する情報処理スキルを有し、仮説提示や企画立案を行うことができる人材のことである。本教育プログラムでは、こうしたビジネスに関連するさまざまなデータを科学的に解析することができる人材を育成するため、統計数理、計算機科学、意思決定科学といった領域の学際的かつ文理融合の教育を行う。

履修に関する留意事項は次のとおり。

- 当該プログラムの科目履修の際には事前に開催される説明会に参加し、詳細を把握すること。
また希望人数に応じて、選考等を行う場合がある。
- 関連科目のなかの必修科目である「データハンドリングⅠ・Ⅱ」「産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ」はプログラムの性格上、密接に関連した内容となっており、一括して受講することが望ましい。
- データサイエンティスト育成プログラムに関連する科目群のなかから、必修科目である「データハンドリングⅠ・Ⅱ」「産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ」4科目8単位を含み、計6科目12単位を修得した場合に、データサイエンティスト育成プログラムを修了したものと認定し、「データサイエンティスト育成プログラム修了証」を授与する。

〈データサイエンティスト育成プログラム関連科目〉

戦略マネジメント系	モデリングの基礎
	経営システム論研究Ⅰ・Ⅱ
	経営情報論研究Ⅰ・Ⅱ
	データハンドリングⅠ・Ⅱ（必修科目）
	産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ（必修科目）
	データマイニングの基礎と実践
	ビジネス・インターンシップ*

*ビジネス・インターンシップは修了所要単位には含まれません。

税理士試験の科目免除について

商学研究科では、税理士試験の科目免除（税法または会計学）を支援するカリキュラムを設定している。ただし、科目免除の認定は国税審議会の判断によるため、学位（修士）を取得しても科目免除が認定されるとは限らない。

なお、税理士試験の税法科目の免除を希望する場合は、入学試験において、専門科目に加えて「税制論」を受験する必要がある。詳細は学生募集要項を確認すること。

税理士試験の試験科目の免除についての詳細は、必ず国税庁のWebサイトで確認すること。

❖ 2020年度 博士課程前期課程 専修科目担任教員

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

なお、学生募集の詳細については、「2020年度学生募集要項」をご確認ください。

①最近の研究テーマ ②その他

戦略マネジメント系

イノベーション・マネジメント研究Ⅰ・Ⅱ 朴 泰勲 教授

- ①資源と組織の境界の相互作用が探索的イノベーションに及ぼす影響に関する研究
②研究書：『戦略的組織間協業の形態と形成要因』（白桃書房、2011年）。
E-mail: taehoon@kansai-u.ac.jp

ベンチャー論研究Ⅰ・Ⅱ 横山 恵子 教授

- ①ソーシャル・エンタープライズの戦略と組織について、特にアントレプレナーシップの側面からの理論構築をめざしている。
②共著書（2012）『ソーシャル・ビジネスのマネジメント：社会問題を解決する事業戦略と組織』中央経済社。単著（2003）『企業の社会戦略とNPO：社会的価値創造に向けての協働型パートナーシップ』白桃書房。
E-mail: yokokei@kansai-u.ac.jp

事業創生論研究Ⅰ・Ⅱ 西岡 健一 教授

- ①新技術と新市場開拓。情報通信技術の役割とサービス・イノベーション。
②西岡健一・南知恵子（2017）『製造業のサービス化戦略』中央経済社
南知恵子・西岡健一（2014）『サービス・イノベーション』有斐閣
E-mail: nishioka@kansai-u.ac.jp

経営情報論研究Ⅰ・Ⅱ 矢田 勝俊 教授

- ①膨大な顧客データからビジネスに有用な知識を発見するデータマイニングの基礎研究とビジネスへの応用
②進学希望者は下記のサイトに記載されている教育方針や内容を把握しておくこと。
<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yada/tantou/gbs-class.html>
研究業績は<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yada/profile.html>を参照。

経営史研究Ⅰ・Ⅱ 西村 成弘 教授

- ①国際特許管理の比較分析およびグローバル経営史の構築
②Donzé & Nishimura, *Organizing Global Technology Flows* (Routledge, 2014)
『国際特許管理の日本の展開』（有斐閣、2016年）
E-mail: s_nishi@kansai-u.ac.jp

流通・国際ビジネス系

流通システム論研究Ⅰ・Ⅱ 藤岡 里圭 教授

- ①小売業の発展と小売イノベーションに関する研究
②研究業績については、関西大学学術情報システムを参照のこと。
E-mail: fujioka@kansai-u.ac.jp

市場問題研究Ⅰ・Ⅱ 杉本 貴志 教授

- ①協同組合を中心とする非営利・協同セクターについての歴史的・理論的研究と現状分析
②協同組合や産直、フェアトレードといった、市場経済に対するオルタナティブの提案について、その意義と問題点を検討している。
E-mail: sugim@kansai-u.ac.jp

ロジスティクス研究Ⅰ・Ⅱ 飯野 仁子 教授

- ①グローバル・ロジスティクスの比較分析およびロジスティクス政策に関する研究
②Home Page: <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~hiroko/index.html>
E-mail: hiroko@kansai-u.ac.jp

マーケティング・コミュニケーション研究Ⅰ・Ⅱ 岸谷 和広 教授

- ①SNSを中心とした広告戦略、マスマディアとオンラインのクロスメディア戦略を研究している。
②研究業績は、関西大学学術情報システムでも公開している。
E-mail: kishiyak@kansai-u.ac.jp

流通企業経営論研究Ⅰ・Ⅱ 崔 相鐵 教授

- ①チャネル・パートナーシップ関係の研究および小売企業のグローバル戦略の分析
②崔 相鐵・石井淳蔵編著『流通チャネルの再編』中央経済社。
向山雅夫・崔 相鐵編著『小売国際化の新展開』中央経済社。
E-mail: choi@kansai-u.ac.jp

マーケティング論研究Ⅰ・Ⅱ 岩本 明憲 教授

- ①マーケティング理論全般（とりわけ価格理論）に関する学説史的再考察と理論構築
②E-mail: iwamoto@kansai-u.ac.jp

貿易業務論研究Ⅰ・Ⅱ 吉田 友之 教授

- ①国際商取引をめぐる諸問題の研究
②国際商取引の諸問題を商学的・法的側面より解明するために、貿易取引の各論（契約・慣習・運送・保険・決済等）の理解を促す。
E-mail: tyoshida23@hotmail.com

国際交通論研究Ⅰ・Ⅱ 高橋 望 教授

- ①航空自由化の進展で生じた、伝統的航空会社（FSC）と格安航空会社（LCC）との競争、そして国際的に展開される空港間競争と民営化の行方を探求する。
②『エアライン／エアポート・ビジネス入門』
E-mail: nozomu@kansai-u.ac.jp

開発ビジネス論研究Ⅰ・Ⅱ 小井川 広志 教授

- ①発展途上国における地場企業の創業と成長・Global Value Chain分析・BOPビジネス研究・対日直接投資
②大学院での指導を希望する人は、研究テーマに関して事前相談を前提とする。メールアドレスは以下の通り。
E-mail: h.oikawa@kansai-u.ac.jp

国際ビジネス・コミュニケーション論研究Ⅰ・Ⅱ 中邑 光男 教授

- ①英語によるビジネスコミュニケーションの観点を、ビジネス英語教育や英語表現教育、教材作成に反映させること。
②この数年の研究業績は、「英語表現」の教科書作成、『ジニアス和英辞典』（第3版）、『ジニアス英和辞典』（第5版）の編纂。
E-mail: nak@kansai-u.ac.jp

新興市場経済研究Ⅰ・Ⅱ 徳永 昌弘 教授

- ①・比較移行経済論の確立：市場経済化20年史のメタ分析
・ロシア最後のエネルギーフロンティア：極北地域の持続的発展への挑戦
②・Tokunaga, M. and I. Iwasaki, "The Determinants of Foreign Direct Investment in Transition Economies: A Meta-analysis" The World Economy, Vol.40(12), pp.2771-2831.
・徳永昌弘『20世紀ロシアの開発と環境』北海道大学出版会、2013年。
E-mail: t030032@kansai-u.ac.jp

ビジネス・コミュニケーション論研究Ⅰ・Ⅱ 岡本 真由美 教授

- ①ビジネスの場における、言語とコミュニケーション・パターンに関する研究
②ビジネスにおいて、使用言語がマインドセットにどのような影響を与えるのか、また、それが行動パターンにどのように表出するのかを研究している。
E-mail: mayumi@kansai-u.ac.jp

ファイナンス・会計系

金融論研究 I・II	宇恵 勝也 教授	国際通貨システム論研究 I・II	高屋 定美 教授
<p>①金融契約の経済理論的分析 ②「情報の非対称性が存在する状況において最適なインセンティブを設計する問題」を分析する方法を開発する研究分野は「契約理論」と呼ばれる。現在の研究の中心は、契約理論の金融問題への応用である。『金融契約の経済理論』ミネルヴァ書房、2010年。 E-mail: ue@kansai-u.ac.jp</p>			
租税法研究 I・II ①保険取引と課税 ②保険取引と課税が交錯する問題について比較法分析に基づく研究を行っている。 E-mail: tsujim@kansai-u.ac.jp			租税論研究 I・II 石田 和之 教授
実証ファイナンス研究 I・II ①女性の活躍が企業業績に与える影響 ②研究業績については、関西大学学術情報システムを参照すること E-mail: takanori@kansai-u.ac.jp			会計学理論研究 I・II 笹倉 淳史 教授
原価計算論研究 I・II ①マテリアルフローコスト会計 (MFCA) を研究対象として、MFCAの企業事例研究をもとに環境管理会計手法の研究開発を進めている。 ②主要業績：中嶋道靖・國部克彦（2008）『マテリアルフローコスト会計（第2版）』日本経済新聞出版社 E-mail: nakajima@kansai-u.ac.jp			会計制度論研究 I・II 齊野 純子 教授
財務戦略会計研究 I・II ①利害調整機能と情報提供機能を効率的に作用させるための会計情報の役割について ②乙政正太・椎葉 淳・岩崎拓也・首藤昭信（2012）「効率的な経営者報酬契約と事後の清算問題」『国民経済雑誌』第205巻第4号、4月、55-70。 椎葉 淳・岩崎拓也・乙政正太・首藤昭信（2012）「企業価値評価と経営者報酬契約における会計利益の役割」『会計』第182巻第1号、7月号、98-112。 E-mail: oto@kansai-u.ac.jp			実証会計学研究 I・II 太田 浩司 教授
経営分析論研究 I・II ①管理会計と日本型経営 ②日本企業の事例研究を主体としてブランドマネジメントや環境経営などのありうべきカタチを管理会計の視点から研究している。 なお、進学を希望する場合には、事前にお問い合わせください。 E-mail: asakmr@kansai-u.ac.jp			監査論研究 I・II 宮本 京子 教授
公会計論研究 I・II ①公共サービス改革とインパクト評価 ②『非営利組織のソーシャル・アカウンティング』日本評論社（2013） 『入門 公会計のしくみ』中央経済社（2016） E-mail: baba-hid@kansai-u.ac.jp Home page: http://baba-hi72.seesaa.net			

研究者養成・後期課程進学コースは演習と論文指導を中心として研究者の育成を図り、前期課程修了後、引き続き後期課程への進学を希望する者を対象としている。

高度専門職養成コースは、経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野で活躍し得る高度の専門職業人を養成することを目的としており、専任教員による講義科目や演習科目に加えて、ベーシック科目、メソッド科目、実務家による講義科目なども多数用意し、充実したカリキュラムを提供している。希望すれば所定の入学試験を受けて博士課程後期課程へ進学することもできる。

❖ 2020年度 博士課程後期課程 専修科目および担任教員

担任者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

商 学 専 攻

流通システム論特殊研究	藤岡 里圭	会計制度論特殊研究	齊野 純子
市場問題特殊研究	杉本 貴志	財務戦略会計特殊研究	乙政 正太
ロジスティクス特殊研究	飴野 仁子	実証会計学特殊研究	太田 浩司
マーケティング・コミュニケーション特殊研究	岸谷 和広	保証業務論特殊研究	松本 祥尚
流通企業経営論特殊研究	崔 相鐵	経営分析論特殊研究	木村 麻子
国際交通論特殊研究	高橋 望	監査論特殊研究	宮本 京子
開発ビジネス論特殊研究	小井川広志	公会計論特殊研究	馬場 英朗
金融論特殊研究	宇恵 勝也	イノベーション・マネジメント特殊研究	朴 泰勲
国際通貨システム論特殊研究	高屋 定美	経営情報論特殊研究	矢田 勝俊
租税法特殊研究	辻 美枝	ベンチャー論特殊研究	横山 恵子
会計学理論特殊研究	笹倉 淳史	経営史特殊研究	西村 成弘
原価計算論特殊研究	中嶋 道靖	事業創生論特殊研究	西岡 健一

社会学研究科

千里山キャンパス

社会学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_soc/**博士課程前期課程**

社会学専攻（入学定員 10名）

専門研究コース／課題研究コース

社会システムデザイン専攻（入学定員 10名）

マス・コミュニケーション学専攻（入学定員 10名）

博士課程後期課程

社会学専攻（入学定員 3名）

社会システムデザイン専攻（入学定員 3名）

マス・コミュニケーション学専攻（入学定員 3名）

多彩な個性が学ぶ環境で、 創造力と活動力を備えた専門家を育成


特色

社会学研究科は、高度な創造的能力と自立的活動力をもつ専門家を養成することを意図している。その学生の将来の夢が研究者にあろうと産業人あろうと、それぞれの分野において、理論と実践の両側面を視野に入れつつ、また、生産的な展望をもちながら具体的な問題解決に当たることができる人材を育てる努力をつづけている。

社会学研究科を支えている学問領域は、社会学、経済学、経営学やメディア研究などであるが、別の視点から見れば、行動科学であり経験科学であり実践科学である。それらは、社会と組織と人間の相互関連のうえに成立する現実世界の諸現象を実証的に研究し、そこで生じている種々の問題の解決を図ることを目的としたディシプリンである。それぞれには独自の研究方法論と知識・理論体系があるが、それらの理解を踏まえて、各領域の境界を越えた総合的アプローチを展開する視点と意欲を養うのが、社会学研究科の研究・教育の基本的な姿勢である。そうした姿勢に基づいて、早くから社会人入学制度も導入している。

外国人留学生を積極的に受け入れているのも、留学生の能力開発や日本理解を支援すると同時に、多くの学生がより広い国際的視野をもち、多角的な活動力を身につけた人材として育ってほしいと望むからである。

こうして社会学研究科では、学問的性格に基づく実践性と総合性のうえに、その研究・教育体制が育てる創造力と活動力を習得した人材を輩出することによって、広範囲の社会的要請にこたえようとしている。

各専攻には、それぞれの専門領域に関する基礎理論や最新動向の総合的理解を促す講義科目と、特定テーマに関する独創的探求をめざす演習科目が置かれ、それらに、各分野の実証研究を行うのに必要な調査法や情報処理技術を磨く実習科目が組み合わされている。こうした科目で学習・研究した成果を、前期課程では修士論文（または特定の課題についての研究の成果）に、後期課程では博士論文に集約することが期待されており、そのための個人指導が系統的に行われている。

前期課程では専門家として一人立ちできる基礎をつくることが、また、後期課程では独自の研究的創造性を發揮することが求められているが、その体系的プログラムで各専攻が特長としているところは、およそ次のとおりである。

社会学専攻

複雑さと不確実性に覆われ混迷する現代社会を前にして、社会学的な見方の有効性と重要性は日増しに高まっている。めざすべきは、現代人が埋め込まれている「関わりのシステム」と「意味のシステム」を複眼的にとらえながら、関心領域や考察対象を社会学的に記述・説明する分析力と、問題発見と課題解決に資する感性と思考力を身につけることである。従来からの研究者養成をめざす専門研究コースに加え、前期課程の2年間で社会学を応用して実社会に貢献する能力を高めることを目的とする課題研究コースを設けている。

社会システムデザイン専攻

現代社会を解説し、より良い社会のデザインを考えることが社会システムデザイン専攻の目的である。特に学際的なアプローチを重視し、社会学、経済学、経営学、技術論などの複合的な視点から、グローバル化し絶えず変化する複雑な現代社会のメカニズムを分析する。社会を単に分析するだけではなく、インセンティブ、人間開発、技術、リスク、組織、コミュニティ、社会的ネットワーク、ガバナンスなどに注目し、専門知識を養うとともに、新しい社会の設計を提案するという実践的な研究も行っている。従来の学問体系では個別の専攻分野内で研究されることが多かった問題に対して、幅広い専門領域から総合的にアプローチしていく点が特徴である。

マス・コミュニケーション学専攻

メディア環境が急速に変わりつつある現在、メディアと社会、メディアと文化、メディアと人間の関係を充分に解明していくことが非常に大切になっている。本専攻では、この今日的で基本的な課題の多角的かつ本質的な理解をめざし、ジャーナリズム研究、マス・コミュニケーション学研究方法、メディア文化研究などの基幹科目、広告研究、ジャーナリズム研究、音楽・メディア研究、スポーツメディア研究、情報メディア法研究、ジェンダー・メディア研究などの応用科目を配置するとともに、個々の研究能力を高めるための演習と論文指導、さらにジャーナリズム実習などの科目を設置している。

研究成果の発表と修了後の進路

大学院生独自の研究を機関誌『人間科学』で発表するとともに、指導教員との共同研究を『社会学部紀要』で発表することも多い。また、専門の学会等において研究発表や論文投稿を積極的に行っている。そうした専門的成果を踏まえて、研究科修了者は、大学・研究所の研究職、学校教員や国家・地方公務員をはじめ、最近では民間企業への就職者も増えて、その進路は多岐にわたっている。

博士課程前期課程における研究テーマ（修士論文論題）の例示

社会学専攻

- 介護老人保健施設における支援相談員の行う在宅復帰支援
- 日本における中国人若年世代の労働実態調査 ～留学生アルバイトと技能実習生を中心に～

社会システムデザイン専攻

- 社会経済的観点からみる中国の若い世代（「80後」）と日本のポップカルチャー
- 韓国における女性の経歴断絶とワーク・ライフ・バランス
- 日中企業における賃金管理の比較分析 ～職能給・職務給を中心に～

マス・コミュニケーション学専攻

- モバイルメディアの普及による若者の人間関係についての変容 ～ソーシャルメディアを事例として～
- 誰が声優を歌い手に変えたのか ～アニメ産業と音楽産業の提携の変化を中心に～
- 災害文化の継承とローカル紙 ～伊勢湾台風を事例に～

在学生・修了生の声

濱谷 美綺さん

博士課程前期課程 社会学専攻
2018年4月入学
入試種別：学内進学試験

大学院進学の理由

学部生の時は取るべき授業のコマ数が多く、日々授業を受けることに追われていたので、もっとじっくり学びを深めたいと思い、大学院に進学したいと思いました。

受験対策や事前準備

英語の試験に向けては、過去問題を解いたり、英語で書かれた社会学関連の文献を読みました。専門科目の試験に向けては、研究生の方とともに勉強会に参加したり、関連文献を読むなどして勉強しました。
また、加納恵子先生には学部生の時からご指導いただいていたので、大学院進学を考え始めた時から相談に乗っていただいていました。
試験に向けての勉強方法や提出書類の書き方などについてアドバイスをいただき、とても心強かったです。

研究活動の『おもしろさ』と『難しさ』

現在は、障害児教育の変遷、現状や課題などについて先行研究や関連書籍をもとに整理し、当事者たちを取り巻く状況について考察しているところです。

文献を探したり読み込んで考察したりするのには予想以上に時間がかかり、計画通りに進まないことが多いですが、本研究で着目する当事者たちを取り巻く状況が少しづつ見えてきたとき、研究の楽しさを感じます。

進学を考えている方へのメッセージ

社会学研究科の先生方は、さまざまな研究テーマをもっていらっしゃいます。いつも多角的な視点からアドバイスをいただき、自分自身の研究テーマをいろいろな角度から見つめ直し、より深めることができます。

ぜひみなさんも、社会学研究科に進学して研究に取り組んでみてはいかがでしょうか。

崔 昇天さん

博士課程前期課程 社会システムデザイン専攻
2016年3月修了
入試種別：外国人留学生入学試験

大学院進学の理由

自身の研究テーマである人的資源管理を指導いただける森田雅也先生がいたことです。また、他大学では、人的資源管理論は経営学や経済学の研究科に設けられていることに對し、関西大学大学院では社会学研究科に属しており、経営学・経済学のみならず、より広い視野で人的資源管理論を研究することができると思ったのです。

当時の指導教員を選んだ理由

自分の研究テーマにマッチした先生がなかなか見つからず、どうしようかと考えていたところ、関西大学大学院の広報冊子に、社会システムデザイン専攻で人的資源管理論を研究されている森田雅也先生を見つけました。そして先生の著書や論文などを読み、ご指導をお願いすることを決意しました。

教員へのコンタクトや受験準備

大学院進学の準備にあたり、最も心配していたのが指導教員へのコンタクトでした。E-mailを使う方がほとんどだと思いますが、私は自分の研究に対する熱意や、指導をぜひお願いしたいとの気持ちを込め、研究計画書とともに手書きの手紙を森田先生に送りました。約1週間後、先生からE-mailが届き、とても喜んだ記憶があります。その後、先生にお会いして、指導いただきたい旨を伝え、大学院進学に至りました。

進学を考えている方へのメッセージ

社会学研究科は、さまざまな研究をされている先生方がいらっしゃいます。そのため一つの専攻から考えがちな研究を、より広い目線で、さまざまな側面から進めていくことができます。一つを深く絞って探ることも確かに大事ですが、一つだけを考えすぎるあまり、まわりが見えなくなるといった問題も生じかねません。就職活動を経て日本の企業で働いている今、より広い視野で物事をとらえることが非常に大事であることを心より痛感しております、本研究科に進学してよかったですと思っています。

◆2020年度 専攻別演習担当者

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①研究テーマ ②研究分野 ③研究業績 ④E-mail

社会学専攻

宇城 漉人 教授

- ①現代社会論（博士課程前期課程）
- ②現代社会における「社会的なもの」の変容を以下の3点を中心に入研究している。(1)労働という観念と制度の変容、(2)グローバリゼーションのもとでのレイシズムの勃興、(3)消費社会の進展と個人生活の変容。
- ③共編著『社会的なもののために』ナカニシヤ出版、2013年 共著『フット・カルチャー——現代日本の社会学』せりか書房、2010年
✉ushiro@kansai-u.ac.jp

片桐 新自 教授

- ①理論社会学（博士課程前期課程・後期課程）
- ②社会運動の理論的・実証的研究。環境社会学。若者の価値観研究。社会学教育論。
- ③『不透明社会の中の若者たち——大学生調査25年から見る過去・現在・未来——』関西大学出版部、2014年
『歴史的環境の社会学』新曜社、2000年
『社会運動の中範囲理論——資源動員論からの展開——』東京大学出版会、1995年
✉katagiri@kansai-u.ac.jp

大和 礼子 教授／博士（人間科学）大阪大

- ①家族社会学（博士課程前期課程・後期課程）
- ②現在の関心は「成人子と親の世代関係」である。時代的にどう変化したか、規範・経済・制度的原因によってどう異なるかを、国際比較も含めて研究している。
- ③『生涯ケアラーの誕生』学文社、2008年
『問いからはじめる家族社会学』（共著）有斐閣、2015年
『オトナ親子の同居・近居・援助』学文社、2017年
✉ryamato@kansai-u.ac.jp

永井 良和 教授

- ①都市社会学（博士課程前期課程・後期課程）
- ②近代以降の都市社会の調査および分析。おもに風俗統制の社会史を具体的な事例をとりあげて再構成する作業に従事。
- ③『スパイ・爆撃・監視カメラ』河出書房新社、2011年
『占領期生活世相誌I 戦敗と暮らし』新曜社、2014年
✉ynagai@kansai-u.ac.jp

山本 雄二 教授

- ①教育社会学（博士課程前期課程・後期課程）
- ②教育現象をとことん社会学的に読み解く。G. H. ミードの自我と社会に関する研究を読み直す作業も始めている。
- ③『「教育と暴力」再考—デュルケムとの対話を通して—』、『(教育)を社会学する』学文社、2011年所収
「ドキュメントを読む いじめ自殺訴訟判決を例に」、『教育社会学研究』第84集、2009年、65-82頁
✉yujiy@kansai-u.ac.jp

加納 恵子 教授

- ①地域福祉論研究（博士課程前期課程）
- ②地域福祉の思想と方法論としてのコミュニティワーク事例研究。現在の関心は、年齢・ジェンダー・障害・人種などの属性による社会的マイノリティの複合差別問題と当事者運動、福祉支援、権利擁護である。
- ③『排除型社会と過剰包摶—寄り添い型支援事業の地域福祉의意味』日本生命済生会『地域福祉研究』No.41、2013年52-62頁
『地域福祉援助技術論』（共著）相川書房、2003年
✉keiko@kansai-u.ac.jp

熊野 建 教授

- ①文化人類学（博士課程前期課程）
- ②フィリピン少数民族研究、その民族スポーツ、アメリカ合衆国の20世紀初期に見られる植民地政策。
- ③「北部ルソン」の事例に見るハイ・キュイジーヌとロー・キュイジーヌ』「海の回廊と文化的の出会い—アジア・世界をつなぐ—」333-353頁、関西大学出版局、2009年
『フィリピン、イフガオの人々にみる異界』浜本隆志編著『異界が口を開くとき』193-224頁、関西大学出版局、2010年
✉kumaken1@kansai-u.ac.jp

酒井 千絵 准教授／博士（学術）東京大

- ①国際社会学（博士課程前期課程）
- ②日本人の海外移住や日本社会のグローバル化・反グローバル化の動きなど日本に関わる事例を中心に、国境を越える人々、文化の移動について研究している。
- ③“Unintentional Cross-cultural Families: The Diverse Community of Japanese Wives in Shanghai”, 単著、Sari K. Ishii ed., Marriage Migration in Asia: Emerging Minorities at the Frontier of Nation-States, 2016年, NUS Press (Pte) Ltd.
「グローバル化するジェンダー関係—日本の「アジア就職ブーム」と女性の国際移動から」 単著、落合惠美子・橋木俊詔編著『変革の鍵としてのジェンダー：歴史・政策・運動』ミネルヴァ書房、2015年、286-308頁
✉csakai@kansai-u.ac.jp

間淵 領吾 教授

- ①社会調査論（博士課程前期課程）
- ②日本人の意見の多様性を大規模世論調査データの計量分析によって国際比較・時系列比較している。
- ③共編著、「社会の見方・測り方：計量社会学への招待」、勁草書房、2006年
「二次分析による日本人同質論の検証」『理論と方法』17巻1号：3-21頁、数理社会学会、2002年
「日本人の意見の多様性—1980年以前の国際共同世論調査データの2次分析』『社会と調査』15巻：74-85頁、社会調査協会、2015年
✉mabuchi@kansai-u.ac.jp

保田 時男 教授

- ①社会学方法論（博士課程前期課程）
- ②社会調査の調査方法、分析方法について方法論的な研究を行うとともに、成人親子関係を中心に現代家族の計量的研究を行っている。
- ③共編『日本の家族 1999-2009：全国家族調査[NFRJ]』による計量社会学』東京大学出版会、2016年
共編『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版、2016年
✉tyasuda@z7f.so-net.ne.jp

社会システムデザイン専攻

高瀬 武典 教授

- ①社会システム論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②組織や社会システムの変動と進化について、生態学や人口学のモデルを用いて理論・計量の両面から研究している。
- ③「日本のソフトウェア産業における競争と地域性：密度依存仮説の適用可能性をめぐって」『組織科学』第43巻4号：27-37頁、2010年
「組織進化とエコロジカル・パースペクティブ」『組織科学』第49巻2号、4-14頁、2015年
✉ttakase@kansai-u.ac.jp

上野 恭裕 教授／博士（経営学）神戸大

- ①経営管理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②企業の多角化戦略と組織構造の実証研究。伝統産業の事業システムにも関心を持っている。
- ③『戦略本社のマネジメント—多角化戦略と組織構造の再検討—』白桃書房、2011年
「伝統的事業システムの競争優位性と課題—堺・鶴・燕の刃物産業の比較より—」（共著）長崎国際大学論叢、第13巻、2013年、31-43頁
「企業の組織構造と管理システムの日英比較」『組織科学』第47巻第2号、2013年、16-26頁
✉ueno@kansai-u.ac.jp

高増 明 教授／経済学博士（京都大）

- ①社会経済システム論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②経済学を基礎的な分析ツールとして、国際経済、マクロ経済などの問題を分析するとともに、制度・組織・文化などの形成、変容についても社会経済学的アプローチによって検討していく。
- ③高増明・奚俊芳「日本と中国の農業に関するTPP参加の経済効果のシミュレーション：GTAPモデルによる推計」『関西大学社会学紀要』第43巻第2号、2012年、1-31頁
高増明編『ボピュラー音楽の社会経済学』ナカニシヤ出版、2013年
✉takamasu@kansai-u.ac.jp

舟場 拓司 教授

- ①人の資源論研究（博士課程前期課程）
- ②労働経済学 人の資本（スキルや知識の蓄積）をキーとして、大学教育投資や賃金・雇用を分析する。
- ③「雇用・失業、および未充足求人の変化」『関西大学社会学部紀要』第38巻第2号、2007年、95-120頁
「技能の外部性に関する考察」『関西大学社会学部紀要』第36巻第3号、2005年、167-173頁
✉funaba@kansai-u.ac.jp

小川 一仁 教授／博士（経済学）京都大

- ①経済政策論研究（博士課程前期課程）
- ②実験経済学。利他性や協力行動の分析
- ③Ito, T., Ogawa, K., Suzuki, A., Takahashi, H. and Takemoto, T. (2016), Contagion of Self-Interested Behavior: Evidence from Group Dictator Game Experiments. German Econ Rev, 17: 425-437.
Yang, J., Kawamura, T. and Ogawa, K. (2016), Experimental Multimarket Contact Inhibits Cooperation. Metro., 67: 21-43.
✉kz-ogawa@kansai-u.ac.jp

木村 匠子 准教授／博士（経済学）京都大

- ①公共システム論研究（博士課程前期課程）
- ②人々の出生・教育・就業行動が経済環境や公共政策とどのように関連しているかについて経済学的に研究している。
- ③『The Galor-Weil gender-gap model revisited: from home to market』J. Econ. Growth 15, 323-351, 2010 (with D. Yasui).
"Public provision of private child goods" J. Public Econ. 93, 741-751, 2009 (with D. Yasui).
✉mkimura@kansai-u.ac.jp

社会システムデザイン専攻

杉本 舞 准教授／博士（文学）京都大

- ①科学技術社会論研究（博士前期課程）
- ②科学史・技術史、とくに情報技術、コンピュータ開発、計算機科学分野の歴史を研究している。
- ③『「人工知能」前夜』青土社、2018年。Katsuhiko Sano and Mai Sugimoto, "From Computing Machines to Learning Intelligent Machines: Chronological Development of Alan Turing's Thought on Machines", Understanding Information: From the Big Bang to Big Data, Alfons Josef Schuster(Ed.), Springer International Publishing AG, 2017, pp.101-130.
- ④msgmt@kansai-u.ac.jp

森田 雅也 教授／博士（経営学）神戸大

- ①人的資源管理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②仕事における自律性のあり方の追究。特に、チーム作業方式、裁量労働制、ワーク・ライフ・バランスを最近の研究対象としている。
- ③『チーム作業方式の展開』有斐閣、2008年
『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2011年
- ④morita@kansai-u.ac.jp

与謝野 有紀 教授

- ①計量社会学研究（博士課程前期課程）
- ②不平等と社会関係資本の連関構造が、自殺等の社会病理現象などどのように関係しているかを数理・統計的に検討している。
- ③「格差、信頼とライフチャンス—日本の自殺率をめぐって」齋藤友里子・三隅一人編『現代の社会階層3』東京大学出版会、2011年、293-307頁
- ④yosanoa@kansai-u.ac.jp

斎藤 了文 教授

- ①社会技術論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②現在の関心は、技術論である。技術者論、技術者倫理などをこれまでやってきた。また、人工物の事故、安全の問題などと社会システムの関連を研究している。
- ③（単著）『テクノリテラシーとは何か』講談社 選書メチエ 2005年
（共同執筆）『講座 哲学 第9巻 科学／技術の哲学』岩波書店 2008年
- ④saiton@kansai-u.ac.jp

安田 雪 教授／Ph.D.（社会学）コロンビア大

- ①社会ネットワーク論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②社会学・組織論。社会を構成する要素間のつながりとその影響力を研究する、社会ネットワーク分析。
- ③『ネットワーク分析』新曜社、1997年
『Pajekによる社会ネットワーク分析』東京電機大学出版局、2009年
『バーソナルネットワーク』新曜社、2011年
『ルフィの仲間力』アスコム、2011年
『白ひげとルフィ』アスコム、2012年
- ④yasuda@kansai-u.ac.jp

草郷 孝好 教授／Ph.D.（開発学） ウイスコンシン大学マディソン校

- ①人間開発論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②潜在能力アプローチ、内義的発展論、社会的共通資本論に基づくウェルビーイングの高い地域発展に関する理論の構築とアクション・リサーチ。
- ③Kusago, T. and T. Miyamoto (2014) The potential for community-based action research for area studies: a process evaluation method for the improvement of community life, *Psychologia, Vol.57(4)*, 275-294.
草郷孝好・枝廣淳子・平山修一（共著）「GNH（国民総幸福）—みんなでつくる幸せ社会へ—」海象社、2011年
- ④tkusago@kansai-u.ac.jp

橋本 理 教授／博士（経営学）大阪市立大

- ①企業システム論研究（博士課程前期課程）
- ②企業形態論・非営利組織論。社会サービス（社会福祉や就労支援など）や公的サービスを供給するNPO・協同組合・社会的企業などについて、企業形態論の観点から研究している。
- ③『非営利組織研究の基本視角』法律文化社、2013年
『新しい仕事づくりと地域再生』（共編著）文理閣、2006年
- ④ha@kansai-u.ac.jp

マス・コミュニケーション学専攻

小川 博司 教授

- ①メディア文化研究、音楽メディア研究（博士課程前期課程）
- ②広くメディア文化に関心を持ち、現在は音楽と社会の関係について、「ノリ」を切り口にした研究に取り組んでいる。
- ③『音楽する社会』勁草書房、1988年
『クイズ文化の社会学』（共編著）世界思想社、2003年
『メディア時代の広告と音楽』（共著）新曜社、2005年
- ④ogawa@kansai-u.ac.jp

黒田 勇 教授

- ①放送メディア研究（博士課程前期課程）
- ②地域放送メディアの歴史と課題
地域文化、地域経済、地域スポーツの活性化のかかわりを中心に。
- ③黒田勇編著「メディア・スポーツの最前線」ミネルヴァ書房、2012年
黒田勇編「送り手のメディアリテラシー」世界思想社、2005年
- ④kuroda@kansai-u.ac.jp

吉岡 至 教授

- ①マス・コミュニケーション理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②ニュース研究や世論研究を軸にマスメディアの役割や政治コミュニケーションの問題を扱っている。
- ③「テレビ・ジャーナリズムの『受け手』像を探る」（小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどうみられてきたのか』セリカ書房2003年）
「日本の政策過程におけるマスメディアの位置づけ」（『政策形成における価値の生成と変容』関西大学法学研究所研究叢書第42冊2010年）
- ④yoshi@kansai-u.ac.jp

水野由多加 教授／博士（商学）関西大

- ①広告研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②広告効果と影響をベースにした広告倫理研究。送り手の広告マネジメントと受け手への社会的影響。
- ③『統合広告論（改訂版）—実践秩序へのアプローチ』（単著）ミネルヴァ書房、2014年
『広告コミュニケーション研究ハンドブック』（共編著）有斐閣、2015年

富田 英典 教授／博士（人間科学）甲南女子大

- ①情報メディア研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②携帯電話に代表されるモバイルメディアがもたらす社会・文化変容を分析することが研究の主題である。
- ③『ボスト・モバイル社会：セカンドオフラインの世界』世界思想社、2016年
『インティメイト・ストレンジャー：「匿名性」と「親密性」をめぐる文化社会学的研究』関西大学出版、2009年
- ④h-tomita@kansai-u.ac.jp

守 如子 教授／博士（社会科学） お茶の水女子大

- ①ジェンダー・メディア研究（博士課程前期課程・後期課程）
- ②マンガや雑誌などのメディアをめぐるジェンダーおよびセクシュアリティの分析。近年は、マンガ文化の国際的流通（中国を中心）についての研究にも着手している。
- ③『女はボルノを読む：女性の性欲とフェミニズム』青弓社ライブラリー、2010年
「性表現の自由と「女性」」落合恵美子編『変革の鍵としてのジェンダー』ミネルヴァ書房、2015年
- ④nmori@kansai-u.ac.jp

村田 麻里子 教授／博士（学際情報学） 東京大

- ①メディア表象研究（博士課程前期課程）
- ②ミュージアムを「空間メディア」として考える研究をメインとしつつ、近代社会における文化装置・表象装置の有り様に関心を寄せている。
- ③『思想としてのミュージアム—ものと空間のメディア論』（人文書院、2014年）
『ポピュラー文化ミュージアム—文化の収集・共有・消費』（共編著、ミネルヴァ書房、2013年）
- ④mmurata@kansai-u.ac.jp

総合情報学研究科

高槻キャンパス

総合情報学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_inf/gs/**博士課程前期課程**

社会情報学専攻（入学定員 40名）

知識情報学専攻（入学定員 40名）

博士課程後期課程

総合情報学専攻（入学定員 8名）

情報スペシャリストの養成を目標に、 社会人の受け入れ体制も整備


特色
博士課程前期課程

1998年4月に開設された「総合情報学研究科」は「社会情報学専攻」と「知識情報学専攻」の2専攻で構成されている。本研究科の特徴の第一は、単なる研究者養成ではなく「高度な専門知識を有する職業人（情報スペシャリスト）」の養成を目的としていること、第二は学部から進学する学生だけでなく、すでに各分野で活躍されている社会人が働きながら学べることであり、社会人の便宜を考慮し、「昼夜開講制」を採用している。カリキュラムも独創的で、「課題研究（プロジェクト）科目」を中心として編成されており、情報化の進展に伴って重要性を増している社会的な課題や先端技術の課題などを取り上げ、教員の指導のもと、学生が共同研究を進めていくことになる。課題研究の研究分野は固定的であるが、プロジェクトは研究の発展や社会的変化に対応して3～4年周期で変わっていく。「総合情報学研究科」は関西大学の学是である「学の実化」に基づいて、21世紀の高度情報社会において社会の各分野で指導的な役割を担う人材を養成するために構想した画期的な大学院である。

昼夜開講制

社会人の入学と勉学を容易にするため、高槻キャンパスにおいて昼夜一体のカリキュラムを編成し、教育を行う。具体的には、13時から授業（3時間限目）が開始されるが、両専攻とも7時間（19時40分～21時10分）まで教育が行われる。

課題研究（プロジェクト）

「課題研究科目」は、学生が企業や行政機関などの政策・立案に役立つ現実的な課題や情報通信技術の諸課題に問題意識をもって参加する共同研究科目であり、博士課程前期課程教育の中心となるものである。両専攻とも各4分野の固定された研究分野があるが、各研究分野の「課題研究科目」は3～4年毎に社会状況等の変化に対応して設定される。「課題研究科目」では、学生は指導教員のもと各自明確な役割分担をもって参加し、その成果を修士論文にまとめることがある。

博士課程後期課程

情報学分野の学問や科学技術の急激な発展とともに、高度情報化社会を迎えようとしている。この変革の時代、新しい社会環境、特に、新しい情報環境の創生に向けてパイオニアとして新しい分野を切り拓く人材が求められている。そこで、博士課程後期課程では、急速に発展拡大しつつある情報分野における未踏の領域に挑戦する人材「情報パイオニア」を養成する。これから情報学におけるパイオニア的な研究は既存の枠にとらわれるべきではない。文系や理系というように分野を限らず、両分野にまたがる新しい領域を切り拓き、パイオニア的な研究成果を創生させる必要がある。そのためには博士課程後期課程では、文理総合の1専攻を設置し、①高度情報システム②応用ソフトコンピューティング③認知情報処理④意思決定システム⑤マルチモーダルコミュニケーションの5つの研究領域を中心に教育・研究を行う。これらの体系により、新しい情報環境の創生を可能とする人材を育成し、毎年2～5名の課程博士号取得者を輩出している。修了者は、企業の研究開発や大学教育において活躍していて、21世紀の高度情報化社会の発展に大きく貢献・寄与している。

（注）博士課程後期課程は昼夜開講制ではありません。

博士課程前期課程

社会情報学専攻

社会情報学は、情報メディア・システムおよびそれらの発展と社会・経済・経営・法・政治・行政・人間行動の変化との関係を広く学際的に研究する学問分野である。マルチメディアの展開とインターネット利用の拡大に伴う高度情報化の進展によって、社会情報学の重要性は一層高まっているが、社会情報学の学問領域は大変広い範囲にわたっている。本専攻では、特に、①教育における情報メディア利用②情報社会とメディア③産業情報システム④公共領域における情報の4分野の課題研究を中心に教育を行うこととし、高度情報社会における望ましい情報メディア環境と社会・経済・経営・法・政治等のシステムの構築をめざす問題解決的、実践的教育を行い、社会の各分野で指導的な役割を果たす「情報スペシャリスト」の育成を図る。修了後の進路は、①官公庁・企業内教育の担当者②行政機関・団体・企業において地域・全国の国際関係の情報化に係わって政策の企画・立案、ソフト制作、情報発信の従事者や電気通信事業者、情報メディア、ソフトプロダクションおよびシンクタンク等の社員③事業家・起業家、企業の企画・財務・経理・知的財産・法務・情報管理・マーケティング等の部門の専門家④その他公務員における情報サービス・法曹・企画・財政・広報・国際等の広範囲な分野で活躍している。

❖ 2020年度 課題研究科目および担任者

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①専門領域 ②E-mail

教育における情報メディア利用

情報通信技術（ICT）と新しい教育

情報通信技術（ICT）の急速な発展により、社会におけるコミュニケーションの仕方や方法が大きく変わりつつある。このような情報社会の現状をふまえて、これからの教育のあり方やシステムについて実証的に調査・研究を行う。

1. ICTを取り入れた学習のカリキュラム開発と評価に関する研究。2. グローバル化した社会におけるコミュニケーション方略と教育に関する研究。3. ICTを活用した生涯学習や海外におけるICT教育に関する調査・研究。

黒上 晴夫 ①教育工学 ②kurokami@kansai-u.ac.jp

久保田 真弓 ①コミュニケーション論 ②mkubota@kansai-u.ac.jp

情報社会とメディア

情報メディアの変容とコミュニケーション

情報メディアの高度化はコミュニケーションや文化のグローバル化をもたらすだけでなく、産業・経済・生活などあらゆる面で大きな変化をうながしている。本プロジェクトでは新たなメディアやコミュニケーション文化の形成の兆しを視野におさめつつ、社会学的観点から以下のような調査・研究を行う。

1. 情報メディア産業の新しい展開。2. 文化、コミュニケーションあるいは社会的行為の様式の変容。3. メディア・イノベーションの現代史的考察。

中河 伸俊 ①社会問題の社会学 ②nobunaka@res.kutc.kansai-u.ac.jp

岡田 朋之 ①メディア論、文化社会学 ②okada@kansai-u.ac.jp

谷本 奈穂 ①文化社会学 ②tanimoto@kansai-u.ac.jp

産業情報システム

知識社会のビジネスとマネジメント

現代組織のマネジメントについて、ICTによるネットワーク化された知識社会との相互関係を広く対象とする。問題意識として、高度経済成長期に構築した社会・経済・経営の仕組みが少子高齢化時代において「システム劣化」を引き起こし、現代のビジネスやマネジメントの課題ともなっている。そこで、現代組織を制約する環境変化や社会構造の変革を射程に入れながら、近未来の知識社会の可能性について、組織管理や経営戦略の視角から検討する。

阿辻 茂夫 ①意思決定論 ②atsuji@kansai-u.ac.jp

伊佐田 文彦 ①経営学 ②isada@kansai-u.ac.jp

価値創出と協創ネットワークの形成

経済のグローバル化の進展に伴い、経済活動では各国間の相互連動・依存の度合いが益々深まっており、また、ICTの進化とその利活用は企業の事業展開のあり方を根本的に変化させている。本プロジェクトにおいては、新しい価値・事業の創出や産業の高度化を実現するために、経営情報システム論、ネットワーク経営の角度から、ゼロサムを招く「競争」から脱却し、企業や国の壁を越えて情報・知識・技術による「協創ネットワーク」の形成とそのメカニズムに焦点を当て調査・研究を展開する。

施 學昌 ①経営情報システム論 ②shi@res.kutc.kansai-u.ac.jp

情報化社会の経営戦略

今日の世界を理解するためのキーワードの一つは情報化である。経営学の立場からとりわけ注目すべきは、デジタル情報ネットワークの普及、モノ商品やサービス商品とともにアニメやゲームのような情報商品の市場成長、知識やブランドのような無形資産と信頼関係のような社会的資本の戦略的重要性の増大、ビジネスのグローバル化などであろう。これらの動向は企業経営にとって新たなビジネス・チャンスとともに脅威をもたらし、新たな戦略的対応を迫るであろう。本課題研究では、情報化社会が企業経営にもつ戦略的、組織的な意味について経営戦略論、管理会計論、情報システム論、マーケティング論などを踏まえて多面的に考察する。

古賀 広志 ①経営情報システム論 ②hiroshi@kansai-u.ac.jp

北島 治 ①経営行動分析 ②ok-ktjm@kansai-u.ac.jp

斎藤 雅子 ①財務会計、企業会計 ②msaito@kansai-u.ac.jp

徳山 美津恵 ①マーケティング ②toku_san@kansai-u.ac.jp

公共領域における情報

公共領域におけるデータベース

公共的な問題を解決するためには、正確に現状を把握し、適切な方法によって原因を解明することが緊要である。ところが、この営みの礎となるデータが、十分に整備されていないケースは少なくない。

そこで、本研究課題では、こうした散在したり、汎用性が低かったりするデータを収集・加工し、データベースに格納する方法を検討し、実装することをめざすことを第一の目的とする。第二の目的は、それらデータを活用しながら、統計分析・シミュレーション・数理分析・質的交差など多様な分析メソッドにより、実態を解明していくことである。これらの目的に沿ながら、社会的諸課題について考えを深めていく。

伊藤 俊秀 ①応用地質学 ②toshi@kansai-u.ac.jp

木谷 晋市 ①行政学、地方自治 ②kitani@kansai-u.ac.jp

名取 良太 ①現代政治分析 ②t000033@kansai-u.ac.jp

大堀 秀一 ①環境経済学 ②ohori@kansai-u.ac.jp

松本 渉 ①社会調査、組織論 ②matsumo@kansai-u.ac.jp

泉 克幸 ①知的財産法特論 ②izumi@kansai-u.ac.jp

地主 敏樹 ①金融政策 ②jinushi@kansai-u.ac.jp

中元 康裕 ①マクロ経済学 ②nakamoto@kansai-u.ac.jp

福島 力洋 ①憲法、情報法 ②fukusima@kansai-u.ac.jp

築山 宏樹 ①公共政策分析 ②tukiyama@kansai-u.ac.jp

知識情報学専攻

知識情報学は、知識情報の先端的理論と技術について学び、情報処理システムの創造的かつ高度な利用を可能とする、新しい情報環境と社会システムの構築に寄与することを課題とする。

本専攻では、特に、「人間の知」、「機械の知」、「社会の知」という視点を重視し、「情報の生成」という観点からアプローチしているのが特徴である。課題研究分野は、①ヒューマンコンピューティング②インテリジェントコンピューティング③コンピューティングアルゴリズム④分散コンピューティングの4分野を設定している。すなわち、人間の情報処理という自然知能の生成機構に学び、人間との親和性に優れた機械知能の生成アルゴリズムを構築し、社会環境における知的な分散協調作業を支援する情報処理環境の生成への展開をめざす。本専攻の学生には、課題研究間で相互に活発な交流を行わせ、先端的な技術のうえに幅広い視点をもった「技術系情報スペシャリスト」の養成を行う。

修了後の進路は、民間企業や官公庁における①業務に最適なネットワークを含めた情報処理システムの構築・改善の立案と実現、工程管理および情報処理システム全体の運用管理②オペレーティング・システムを始めとするシステム・プログラム、知識情報処理やコンピュータ・グラフィックスの活用を含むさまざまな応用プログラムなどソフトウェアの開発および種々のデータベースを中心とする情報システムの設計と構築③基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、データベース、知識情報処理など情報処理システムのさまざまな分野における研究・開発④ネットワークを含む情報処理システムの構築・運用や適切な利用に関するコンサルティングあるいは教育などを取り扱う部門で活躍している。

❖ 2020年度 課題研究科目および担任者

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①専門領域 ②E-mail

ヒューマンコンピューティング

インタラクションの認知・メディア・文化

本研究課題では、人間とコンピュータ（あるいはコンピューティングシステム）とのインタラクションについて、認知心理学実験や哲学的・歴史的検討を通じて理論的考察を行うとともに、システム構築を通じて人間とシステム、あるいは人間同士のインタラクションやコミュニケーションのあり方について、メディア科学の立場から理論的研究を行う。また社会におけるコンピューティングシステムのありようについて、技術の標準化や倫理観の確立といった文化的側面から検討し、実装につなげるための基礎理論構築をめざす。

研谷 紀夫	①文化資源情報学 ②ntogiya@kansai-u.ac.jp
米澤 朋子	①コミュニケーションメディア科学 ②yone@kansai-u.ac.jp
植原 亮	①哲学・科学倫理学 ②uehara@kansai-u.ac.jp

インタラクションデザインの理論と実践

本課題研究では、人間とコンピュータとのインタラクション、およびコンピュータを介した人間同士のインタラクションを対象として、知識情報処理の観点からその円滑化と高度化に取り組む。この目標を達成するために、ソフトウェア技術、実世界指向技術、人間中心設計方法論を基盤とする理論構築とその応用・実践を進めていく。個々の学生は、人間の情報処理特性のモデル化、システムやユーザ経験のデザインと評価、いずれかを主なテーマとしつつプロジェクト全体への貢献が求められる。

堀 雅洋	①ユーザ中心デザイン ②horim@kansai-u.ac.jp
辻 光宏	①ソフトウェア科学、分類学 ②tsuji@kansai-u.ac.jp
松下 光範	①インタラクティブシステムデザイン ②m_mat@kansai-u.ac.jp
林 貴宏	①マルチメディアコンピューティング ②t.haya@kansai-u.ac.jp
瀬島 吉裕	①感性ロボティクス ②sejima@kansai-u.ac.jp

感性情報処理と可視化

人とコンピュータのよりよいインターフェースをめざして、直観・イメージ・感性など人間の主観的な情報処理のメカニズムを解明し、それを基礎にした情報の可視化に関する研究を行う。心理実験により、人間の視覚や聴覚情報処理のメカニズムを明らかにし、ニューラルネットモデルを用いてその現象をシミュレートする。また、神経細胞レベルでの活動を解析し、脳コンピュータインターフェースの基礎的な研究を行う。関連あるトピックには大脑半球の左右差、視覚情報処理、音声認識、音楽認識、自己組織化、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、サイエンティフィック・ビジュアリゼーション、メディアアートが含まれる。コンピュータを利用した実験とシミュレーションを行うため、プログラミング技術を有することが必須条件である。

林 武文	①ヒューマンインターフェース ②haya@kansai-u.ac.jp
井浦 崇	①メディア・アート ②iura@kansai-u.ac.jp

インテリジェントコンピューティング

知能システムの構築

広い意味での知能システムの実現を目指す。知能をもつシステムとは、外部の状況を理解し、それに対応して自分で判断を下して行動できるシステムである。本課題研究においては、外部の状況を人と同様に理解するための視覚や感性の研究、判断を下すための知的アルゴリズムや数値計算技術の研究、これらの理論の基盤となる数学や物理学の研究において、新たな手法の追求についての指導を行う。

浅野 晃	①画像科学、視覚感性科学 ②a.asano@kansai-u.ac.jp
伊達 悅朗	①数学 ②date@kansai-u.ac.jp
吉田 宣章	①物理学、数値解析 ②yoshidan@kansai-u.ac.jp

インテリジェントコンピューティングの応用

本課題研究では、インテリジェントコンピューティングの基本技術であるファジイ理論、ニューラルネットワーク、カオス理論、遺伝的アルゴリズム等について基礎的な理論の習得を行い、その後これらの応用について研究をする。具体的な応用分野としては、景観設計、損傷度解析、維持管理、振動制御、防災計画、空間情報処理、画像処理、ウェブ技術、文書処理、知覚情報処理、知能ロボティクス、スポーツ情報処理を考えている。

林 勲	①脳知能情報学 ②ihaya@kansai-u.ac.jp
田中 成典	①知識情報処理 ②stanaka@kansai-u.ac.jp
広兼 道幸	①応用情報学 ②hirokane@kansai-u.ac.jp
荻野 正樹	①認知ロボティクス ②ogino@kansai-u.ac.jp
竹中 要一	①データサイエンス、Data Science ②takenaka@kansai-u.ac.jp
井上 真二	①ソフトウェア品質／信頼性 ②ino@kansai-u.ac.jp

コンピューティングアルゴリズム

情報社会支援のための数理アルゴリズムの開発と応用

本プロジェクトでは、数理科学的アルゴリズムの研究開発を通じて、社会の不合理や不平等を解消し、より良い情報化社会の実現への貢献をめざす。合理的意思決定のために、ソフトコンピューティング手法（ニューラルネットワーク、ファジイ理論、遺伝的アルゴリズム、エージェントアルゴリズム等）を用いた意思決定アルゴリズムの開発を行う。また、仮想空間上に居住するエージェントのダイナミクスに関する数理解析を通じて現実社会、あるいは組織の意思決定プロセスや支配的戦略の普及過程等に関する研究を行う。

1. 人工知能技術を用いた意思決定アルゴリズムの開発と応用。
2. 人工社会のダイナミクス解析研究。

村田 忠彦	①ソフトコンピューティング ②murata@kansai-u.ac.jp
塩村 尊	①理論経済学、数値解析 ②tks_shmr@kansai-u.ac.jp

分散コンピューティング

通信ネットワーク技術の多元的な研究展開

コンピュータ、携帯型無線端末、センサー等の多種多様なデバイスが接続されたネットワークにより、我々の生活は、その進展とともに大きく変貌を遂げようとしている。本課題研究では、アプリケーション層から物理層までのさまざまな観点から通信ネットワーク技術の研究開発を行い、より快適な生活の実現に貢献することを目的とする。具体的な研究内容としては、ネットワークアプリケーション技術および情報センシング技術等に関する研究開発を行う。信頼性の高い通信を実現するために、暗号理論や符号理論等の研究をはじめ、情報ネットワークにおけるセキュリティ問題を解決する技術、およびネットワーク資源を有効活用する新しい技術に関する研究開発を行う。そして、non-Foster素子やリアルタイムフーリエ変換素子等の高周波デバイス技術を用いて無線装置の小型化と高機能化をめざす。

堀井 康史	①無線情報通信 ②horii@kansai-u.ac.jp
桑門 秀典	①暗号理論 ②kuwakado@kansai-u.ac.jp
今野 一宏	①代数幾何学 ②k.konno@kansai-u.ac.jp
田頭 茂明	①モバイルコンピューティング ②shige@kansai-u.ac.jp
小林 孝史	①情報工学 ②taka-k@kansai-u.ac.jp



博士課程後期課程

◆2020年度 研究領域別授業科目および担任者

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院ウェブサイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

★高度情報システム	
無線情報通信のためのマイクロ波デバイス特殊研究	●堀井康史
情報セキュリティ技術とその安全性評価特殊研究	●桑門秀典
モバイル情報通信システム特殊研究	●田頭茂明
★応用ソフトコンピューティング	
脳知能情報システム特殊研究	●林 純
ソフトコンピューティングの理学的応用特殊研究	●吉田宣章
ソフトコンピューティングの実践的応用特殊研究	●田中成典
ソフトコンピューティングの視覚情報処理特殊研究	●浅野 晃
ソフトコンピューティングのセンシング応用特殊研究	●広兼道幸
ソフトコンピューティングの地球科学の応用特殊研究	●伊藤俊秀
医学生物学情報解析特殊研究	●竹中要一
★認知情報処理	
We b インタラクション特殊研究	●堀 雅洋
視覚認知情報処理モデル特殊研究	●林 武文
計算機統計学接近法特殊研究	●辻 光宏
インタラクションデザイン特殊研究	●松下光範
人間情報科学特殊研究	●林 貴宏
視覚資料論特殊研究	●研谷紀夫
仮想コミュニケーションメディア科学特殊研究	●米澤朋子
科学技術基礎論特殊研究	●植原 亮

★意思決定システム	
意思決定支援	計算科学意思決定特殊研究 ●村田忠彦 可積分系特殊研究 ●伊達悦朗 代数幾何学特殊研究 ●今野一宏 ナレッジマネジメント論特殊研究 古賀広志 経営情報論特殊研究 施 學晶 調査方法論特殊研究 松本 渉
社会的意思決定	経営意思決定特殊研究 ●阿辻茂夫 国際経営戦略論特殊研究 ●伊佐田文彦 企業会計特殊研究 ●齋藤雅子 金融政策特殊研究 ●地主敏樹 行政組織における政策決定過程特殊研究 ●木谷晋市 政治過程論特殊研究 ●名取良太 知的財産法特殊研究 泉 克幸
★マルチモーダルコミュニケーション	
学習環境デザイン	メディアミックスによる教育方法特殊研究 ●黒上晴夫 異文化・コミュニケーション論特殊研究 ●久保田真弓
コミュニケーション環境学	対面的コミュニケーション論特殊研究 ●中河伸俊 情報行動特殊研究 ●桑原尚史 インターネット心理学特殊研究 ●森尾博昭 文化社会学特殊研究 ●谷本奈穂 メディア・コミュニケーション論特殊研究 岡田朋之

注1 ★印は研究領域を示します。 注2 ●印は研究指導教員を示します。

注3 授業科目および担任者については変更することがあります。

在学生・修了生の声

櫻井 淳さん

博士課程後期課程 総合情報学専攻
2018年9月修了 入試種別：一般入学試験
勤務先名：文教大学情報学部情報システム学科 専任講師

大学院進学の理由

本学総合情報学部に入学後、初めて触れるプログラミングの授業に戸惑いつつも、コンピュータを自分の思い通りに動かせることに大きな達成感を味わいました。2年次にアプリ開発のプロジェクトに参加したことがきっかけで、画像処理技術をより深く探求したい思いが芽生え、大学院進学を決断しました。

指導教員とのエピソード

研究データ収集のため全国各地の山岳、河川や道路に数十回にわたる計測を行い、田中成典先生や研究室のメンバーには毎回疲労困憊の状態で協力頂きました。また論文執筆では、文章を何度も先生に確認頂き、書き直すことを繰り返す中で、研究成果を論理的にわかりやすく伝えることの難しさを知りました。研究活動を通して、多くの壁や苦難にぶつかりましたが、博士課程を早期修了できたのは先生の一貫した懇切丁寧なご指導のおかげと心から感謝しています。

進学を考えている方へのメッセージ

本学には、「学の実化」を実現するための様々な環境が整っています。この充実した環境において、皆さんのさらなる飛躍をお祈りいたします。

理工学研究科

千里山キャンパス

理工学研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/eng/

今後の科学技術社会の発展を担う、高等技術者と研究者を育成

特色

創造性をもつ高等技術者と研究者の育成

現代のさまざまな産業において活躍できる技術者には、高度の専門知識と技術に加えて幅広い素養と創造力をもつことが求められており、多くの企業では大学院（博士課程前期課程および後期課程）修了者の採用を拡大しています。理工学研究科では、このような社会的要請に応えるため、総合的・学際的な教育・研究を行い、科学技術の急速な発展に対応できる人材を育成しています。2009年度には数学、物理の理学的分野を設置し、教育・研究の幅をさらに広げています。

多くの学生や社会人の方に進学の門戸を広げるため、一般的な入試に加えて前期課程に社会人入学試験や特別選抜入学試験、後期課程に社会人入学試験を設けているほか、各種奨学金の拡充に努めています。また、外国人留学生入学試験を実施し、広く海外からも学生を募集しています。課程修了および学位取得後の就職などの進路については、本大学院における勉学の成果が生かせるよう、指導教員をはじめ大学院スタッフが熱心に対応しています。

当研究科の教育方針の特色は以下のとおりです。

- 各専攻とも、学部の各学科の授業にリンクしたより高度の教育を、特に少人数教育の講義とゼミナールによって徹底させています。また、アドバンストインターンシップと海外実習を置いて学外での研修や教育上の経験を積む機会を与えています。さらに、分野によってはPBL（課題研究）を置いて特色を生かした教育を行い、コミュニケーション能力、デザイン能力を修得し、問題の自己解決能力を涵養します。
- 前期課程では、指導教員のもとで、高度の理論と実験を通して研究開発に対する能力をさらに高めるべく研鑽を積みます。また、国内外の学会・研究会などの発表を積極的に行い、プレゼンテーション能力を養成します。修了者は、修士（工学）のほか、理学的分野では修士（理学）の学位が取得できます。
- 前期課程に引き続いだり、さらに研究への意欲をもつ者がより広い観点から研究を進められるように、後期課程では分野に縛られない教員体制をとっています。優れた研究成果を挙げ、独立した研究者として活躍できるよう指導を行い、論文審査の上、修士（工学）または修士（理学）の学位を授与します。また、在学期間の短縮修了も可能としています。

留学生の受け入れ

英語基準コース

理工学研究科では、海外からの留学生受け入れを促進するため、英語によって行われる講義科目の履修と、英語による修士論文の提出によって、修士の学位を取得できる教育プログラムとして「英語基準コース」を設置しています。「英語基準コース」の講義科目には各分野の専門科目に加えて、理工系全体に共通した課題を解説する科目や日本の歴史や文化などを学ぶ科目があります。また、このプログラムのために開講されている講義の一部は、一般学生も受講することができます。留学生と一般学生が英語で行われる講義を同時に受けることは、一般学生にとっても得るところが多いと思います。

ヨーロッパや東南アジアの協定大学から受け入れている半年から1年単位の留学生にもこの「英語基準コース」を適用して単位を与えています。理工学研究科では、この「英語基準コース」をベースにして、海外の大学と関西大学の双方で修士の学位を取得できる「Double Degree (DD) 制度」に基づくプログラムを実施しています。

在学生・修了生の声

新堂 貴弘さん

博士課程前期課程 システム理工学専攻

2016年3月修了 入試種別：学内進学試験

勤務先名：スミセイ情報システム株式会社 システムエンジニア

本学大学院進学の理由

学部生の時にドイツの大学との学生交換プログラムの一環で留学し、大学院でも当プログラムに携わり研究を続けたかったためです。また当プログラム以外にも研究交流が盛んに行われ、恵まれた環境にあると感じたためです。

大学院での研究が仕事に生かされている場面

大学院での研究が生かされていると感じるのは、最新動向の掴み方です。学部生の時は講義やテキストによる基本事項の学習が多く、最先端の研究に触れる機会は殆どありませんでした。大学院生として研究していくうちに、研究動向を掴むにはセミナーや研究会への積極的な参加が重要だと感じました。この経験は技術進化が目まぐるしい現在の仕事にも生かされており、セミナーへの参加や専門雑誌購読などで動向を掴めるよう意識しています。

進学を考えている方へのメッセージ

どのような最先端技術であっても、土台となる基本技術があります。最先端技術に目を向けがちですが、基本を疎かにせず研究に勤しんでください。

◆ 2019年度 博士課程前期課程 専攻別研究指導教員

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。
(2020年度演習担当者については、学生募集要項で確認してください。)

システム理工学専攻

システム理工学専攻は「しくみづくり」を基幹コンセプトにしています。この専攻では、「科学技術システムにおける高機能で安全なしくみの創造」を基本理念として、自然科学としての数学や物理学の基礎教育体系を基礎に機械、電気、電子、情報通信の基盤工学についての教育を通じ、これらの分野を横断した幅広い視野と共に基礎・応用領域縦断型の問題発見・問題解決能力を併せもつ学生を育成することを目的としています。この目的に基づき、先端知識や新技術の背後にある現象の本質を基礎から理解できる力を身につけさせ、国際的な舞台で次世代の産業界をリードできる有能な人材や技術社会システムの先端的研究課題を解明できる人材を養成しています。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
数学分野		
コホモロジー的数理		
楠田 雅治	位相解析学	C*-環、C*-力学系、C*-接合積、非可換幾何学、KK-理論、ヒルベルトC*-加群、森田同値 〔E-mail〕kusuda@kansai-u.ac.jp
藤岡 敦	微分幾何学	微分幾何学を主に研究する。すなわち、幾何学的对象を微分法を主な手段として考察していく。 〔E-mail〕afujioka@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~afujioka/
村林 直樹	整数論	アーベル多様体と保型形式の関連・虚数乗法論・アーベル多様体のモジュライ空間 〔E-mail〕murabaya@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.math.kansai-u.ac.jp/
柳川 浩二	可換代数	可換環論の組合せ論的側面を研究。この分野の通常の手法の他、導來圏や構成可能層なども用いる。 〔E-mail〕yanagawa@kansai-u.ac.jp
和久井 道久	表現論	テンソル圏に関わる代数学と位相幾何学（ホップ代数、量子群、結び目、3次元多様体等）を研究する。 〔E-mail〕wakui@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~wakui/
確率・統計		
上村 稔大	確率解析学	確率過程、特にマルコフ過程の標本路の性質導出を、ディリクレ空間論を用いて研究を行っている。 〔E-mail〕t-uemura@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://stoc-proc.com/people/uemura/index.htm
竹田 雅好	確率過程論	対称マルコフ過程の経路や加法汎関数の挙動を、マルコフ半群のスペクトル的性質とおして調べる。 〔E-mail〕mtakeda@kansai-u.ac.jp
長井 英生	確率論	数理ファイナンスに関する、時間大域的確率制御の問題、大偏差確率制御、リスク鋭感的確率制御 〔E-mail〕nagaih@kansai-u.ac.jp
山崎 和俊	数理モデル	数理ファイナンス、保険数学、確率最適化 〔E-mail〕kyamazak@kansai-u.ac.jp 〔URL〕https://sites.google.com/site/kyamazak/
物理・応用物理学分野		
基礎・計算物理		
板野 智昭	流体物理学	平行平板間流れ・同心二重回転球殻内の熱対流・剪断流を数値的に解き、理論的・物理的な説明を与える。 〔E-mail〕itano@kansai-u.ac.jp
伊藤 博介	計算物性科学	スピントロニクスにおける新奇な物理現象の探索・新機能デバイスの開発を理論計算により行っている。 〔E-mail〕hitoh@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~qsst/
伊藤 誠	原子核理論	実験室で合成される人工的な原子核に注目し、その内部構造や反応機構について調べている。 〔E-mail〕itomk@kansai-u.ac.jp
杉本 信正	熱音響現象、非線形波動・振動	熱流体の中で生じる非線形振動や波動現象の数理解析とその現象の工学的な応用 〔E-mail〕n_sugimo@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.thermofluids.kansai-u.ac.jp
閔 真佐子	流体物理学・生体工学	血液流れ中の血球運動など生体に関連したミクロ・ナノスケール流れの現象を実験と数値解析により研究 〔E-mail〕sekim@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://fluid.phys.kansai-u.ac.jp/
和田 隆宏	量子多体物理学	確率微分方程式による原子核の融合・分裂過程の研究や放射線の生体影響に関する数理モデルの構築 〔E-mail〕wadataka@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~manybody/
本多 周太	半導体・磁気デバイスデザイン	物質中の電気伝導・磁化特性を数値計算により明らかにし、新しいデバイスを提案する。 〔E-mail〕shonda@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~qsst/
光学・応用物理		
浅川 誠	プラズマ理工学・放射光科学	加速器、プラズマ、放射光に関する現象を実験・理論・シミュレーションの3つの面から調べる。 〔E-mail〕asakawa@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~prpl
稻田 貢	光電子物性物理学	分子や量子ドットおよびそれらの集合体が示す特異な光物性や電子輸送特性を詳細に調べて、その発現機構を明らかにし、それらを利用した新しい動作原理に基づく環境・医療センサーや情報デバイスの開発をめざす。 〔E-mail〕inada@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~ecophys/
山本 健	超音波物性・音響化学	超音波の可視化手法の開発、音響位相共役波、超音波キャビテーションによる発光、殺菌および高分子分解 〔E-mail〕ken@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~ultrasonic/
山口 聰一朗	電磁波・宇宙工学	医療用マイクロ波CT・固体燃料ロケット推進薬(AP/HTPB)基礎研究 〔E-mail〕yamso16@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www.phys.kansai-u.ac.jp/~prpl
機械工学分野		
ナノ機能物理工学		
伊藤 健	バイオセンサ・機能性ナノ材料・生物模倣	ナノサイズの物質が持つ特性を利用した機能性材料の研究を行い、バイオセンサなどへ展開する。 〔E-mail〕tito@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www2.kansai-u.ac.jp/nano/
新宮原 正三	ナノ機能・材料工学	自己組織化によるナノプロセス／3次元LS配線技術／電解・無電解めつき技術を用いたエネルギー変換素子技術／不揮発メモリ技術〔E-mail〕shingu@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www2.kansai-u.ac.jp/nano/aboutus.html
清水 智弘	応用物理	ナノワイヤやナノホールなど一次元材料の形成やそれらを使った電気・電子デバイスに関する研究 〔E-mail〕shimi@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t100050/
流体工学・バイオメカニクス		
板東 潔	流体工学・バイオメカニクス	流体工学とバイオメカニクスに関する研究、および流体と弾性膜との連成現象を研究している。 〔E-mail〕bando@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://feb.mec.kansai-u.ac.jp/
山本 恭史	数値流体工学	泡や滴など、移動変形する界面を含む流れと、気液界面の固体面での振る舞いのモデリング 〔E-mail〕yamayasu@kansai-u.ac.jp
田地川 勉	流体工学・バイオメカニクス	生体内流れの解析と人工臓器・治療デバイスの開発、流体・構造体連成問題の研究、実験流体力学と流れの計測 〔E-mail〕tajikawa@kansai-u.ac.jp 〔URL〕http://feb.mec.kansai-u.ac.jp/

教員氏名	研究テーマ	研究概要
材料工学		
齋藤 賢一	材料工学	分子動力学など計算力学手法によるミクロ~マクロでの機械材料の変形・強度・機能の力学的評価 [E-mail] saitou@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.memm.mec.kansai-u.ac.jp/saitoh/nano/
宅間 正則	材料工学	非破壊検査法（AEや超音波探傷など）と情報処理手法を用いた材料の評価手法と設計システムの構築 [E-mail] t940081@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.mec.kansai-u.ac.jp/
佐藤 知広	材料工学	粉体・粉末冶金プロセスを利用した材料開発と材料評価技術の確立 [E-mail] tom_sato@kansai-u.ac.jp
高橋 可昌	材料工学	疲労・クリープ負荷を受ける固体材料およびマイクロ材料における強度メカニクスの解明 [E-mail] yoshim-t@kansai-u.ac.jp
トライボロジー・情報マイクロメカトロニクス		
小金沢 新治	トライボロジー・情報マイクロメカトロニクス	アクチュエータ、センサとそれらを用いた制御系。IoT用メカトロニクスの粘弾性特性の測定と摩擦センサ [E-mail] skoga@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/sekkei1
多川 則男	トライボロジー・情報マイクロメカトロニクス	情報機器におけるナノメカトロニクスに関する研究、MEMS/NEMSにおけるナノテクノロジーに関する研究 [E-mail] tagawa@kansai-u.ac.jp
谷 弘詞	ナノ・マイクロトライボシステム	超薄膜潤滑膜・カーボン膜・摩擦発電、磁気ディスクのトライボロジー、トライボケミカル反応 [E-mail] hrstani@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~hrstani/
呂 仁国	トライボロジー・表面界面制御	原子・分子からナノ・ミクロまでの物理・化学的視点で摩擦現象を解明し、超低摩擦システムを創成する。 [E-mail] r_lu@kansai-u.ac.jp
熱工学		
梅川 尚嗣	熱工学	流動沸騰熱伝達をキーワードに、工業機器で見られる種々問題を取り扱っている。また、熱中性子ラジオグラフィやX線ラジオグラフィといった放射線による定量評価をこれらの課題に適用している。 [E-mail] umekawa@kansai-u.ac.jp
松本 亮介	熱工学・伝熱工学	渦流燃焼器を用いた熱機器の開発、熱交換器における着霜現象の評価、マイクロチャンネルでの物質輸送と化学反応 [E-mail] matumoto@kansai-u.ac.jp
綱 健行	熱工学・沸騰伝熱	強制流動沸騰系における限界熱流束に関して研究を行っている。 [E-mail] t_ami@kansai-u.ac.jp
小田 豊	熱工学・熱流体工学	乱れを伴う熱流動現象のシミュレーションと実験を基礎から応用（ガスターインなど）まで展開する。 [E-mail] oda.y@kansai-u.ac.jp [URL] http://netsu.mec.kansai-u.ac.jp
生産加工システム		
山口 智実	生産加工システム	次世代の超微細あるいは超平滑化加工技術のための工具、および加工機械システムの開発を行っている。 [E-mail] tomomiym@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/msl/
廣岡 大祐	生産加工システム	生産機械への応用を目指した、アクチュエータおよび制御システムの研究開発をおこなっている。 [E-mail] hirooka@kansai-u.ac.jp
古城 直道	生産加工システム	超精密ダイヤモンド切削およびメカノケミカル超砥粒砥石による電子・光学材料の超仕上げを行っている。 [E-mail] furusiro@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/msl/
機械力学・制御工学		
宇津野 秀夫	振動・音響・波動の制御	運動方程式と波動方程式を基礎に機械の動的な特性を解析し、制御の知識で模型を動かす研究室である。 [E-mail] utsuno@kansai-u.ac.jp [URL] http://seigyo1.seigyo.mec.kansai-u.ac.jp/seigyo2/
山田 啓介	振動・騒音制御	スマート構造システムによる振動・騒音制御、動吸振器を用いた制振、振動絶縁、モード解析 [E-mail] yamadak@kansai-u.ac.jp [URL] http://vibration.jp/
計測システム		
新井 泰彦	計測システム	光学技術を基礎とした三次元形状計測を電子によるナノ・ピコメータオーダーの新技術へと展開している。 [E-mail] arai@kansai-u.ac.jp
高田 啓二	プローブ顕微法	走査プローブ顕微鏡を応用した独創的な計測法の創出と、様々な分野の物理現象解明を行っている。
前 泰志	計測システム	実世界を構成する自然・人工物のセンシングと知能情報処理、人と調和した知能システムデザインの探求 [E-mail] mae@kansai-u.ac.jp
ロボット・マイクロシステム		
青柳 誠司	ロボット・マイクロシステム工学	ロボットの外界環境認識、センサ・アクチュエータ、マイクロ発電器、蚊を模擬したマイクロニードル [E-mail] aoyagi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~t100051/
鈴木 昌人	ロボット・マイクロシステム工学	マイクロメートルサイズの微小な機械構造を有するデバイスの開発に関する研究を実施している。 [E-mail] m.suzuki@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~t100051/
高橋 智一	タコを模倣した吸着ロボットハンドの研究	産業分野で扱う多様な部品の搬送・組立が可能な汎用ロボットハンドを研究している。 [E-mail] t.taka@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t100051/
人間・生体情報工学		
小谷 賢太郎	生体情報工学	視覚、触覚、運動に関わる生体信号の計測を通じて製品の設計や開発に役立てる研究を行っている。 [E-mail] kotani@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/hfelab/
鈴木 哲	人間工学・生体工学	新しい生体信号のセンシング技術や心身の状態予測技術の開発とその医療・安全工学への応用 [E-mail] ssuzuki@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/hfelab/
電気電子情報工学分野		
電気工学		
大橋 俊介	電気機器学	リニアドライブ、磁気浮上、環境に優しい発電システムや超電導応用について研究を行っている。 [E-mail] ohashi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ohashi/
濱田 昌司	電気応用工学・生体電磁工学	電力システム機器の保護・絶縁技術、電気応用技術の性能向上。電磁界の生体応用と安全性確保 [E-mail] shamada@kansai-u.ac.jp
山本 靖	核融合炉工学	核融合炉での高効率発電を基本テーマとして、発電システムの概念設計、基礎技術に取り組んでいる。 [E-mail] yama3707@kansai-u.ac.jp
米津 大吾	計算電磁気学	IH調理器や非接触充電といった電磁誘導現象を利用した機器や電磁ノイズに関する研究を行っている。 [E-mail] yonetsu@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ee.kansai-u.ac.jp/staff.html
機能性材料・デバイス		
北村 敏明	波動情報工学	人間の聴覚システムのメカニズム解明を目的として、理論解析・シミュレーションにより特性解析を行う。また、メタマテリアル・フォノニッククリスタルについて、シミュレーションおよび実験により設計・特性解析を行う。 [E-mail] kita@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~kita/
田實 佳郎	計測物性工学	smart material and smart system for wearable device [URL] http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tajitsu/ (HP内に問い合わせ先を掲載しています。)

教員氏名	研究テーマ	研究概要
佐伯 拓	超高周波工学・太陽光励起レーザー	太陽光からレーザーへの高効率変換、酸化金属のレーザー還元・ナノ粒子化による太陽エネルギーの貯蔵 [E-mail] tsaiki@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.microwave.densi.kansai-u.ac.jp
佐藤 伸吾	半導体デバイス工学	半導体デバイス内部で発生する物理現象の詳細解析とモデリング [E-mail] satos@kansai-u.ac.jp
中村 和広	光半導体デバイス	半導体から金属、絶縁体に至るまで、太陽電池用材料全般の、作製技術および評価技術に関する研究 [E-mail] knaka@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~knaka/
情報通信工学		
山本 幹	情報通信工学	インターネットの次に来る新世代ネットワークなど、新しいネットワーク技術全般に関する研究 [E-mail] yama-m@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.net.ee.kansai-u.ac.jp
四方 博之	ワイヤレスネットワーキング工学	次世代無線通信ネットワークのための通信方式・プロトコルに関する研究を行っている。 [E-mail] [URL] http://wnet.ee.kansai-u.ac.jp
平田 孝志	ネットワーク工学	光ネットワークに代表される将来ネットワーク技術について研究している。 [E-mail] hirata@kansai-u.ac.jp
和田 友孝	モバイル通信工学	次世代高度道路交通システム、電子タグ応用システム、緊急救命避難支援システムの研究。 [E-mail] t-wada@ieee.org [URL] http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_sci/department/ee/teacher.html
システム情報学		
肥川 宏臣	ニューラルネットワーク	自己組織化マップを中心としたニューラルネットワークの応用と、そのハードウェア実装に関する研究。 [E-mail] hikawa@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~hikawa/
前田 裕	ソフトコンピューティング／コンピューションナルインテリジェンス	生体系の情報処理をまねたニューラルネットワークの学習、ハードウェア化、その応用に関する研究を行っている。 [E-mail] maedayut@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ec.ee.kansai-u.ac.jp/
三好 誠司	確率的情報処理	統計物理の手法を用いて、学習、記憶、信号、画像など情報の種々の問題にアプローチを試みている。 [E-mail] miyoshi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~miyoshi/
伊藤 秀隆	ダイナミクスコンピューティング	パターン生成、同期、カオスなどの非線形ダイナミクスの情報科学的・工学的応用に関する研究 [E-mail] hito@kansai-u.ac.jp
メディア処理工学		
梶川 嘉延	音情報システム	アクティブ騒音制御や3Dオーディオなど音響分野における信号処理技術について研究を行っている。 [E-mail] kaji@kansai-u.ac.jp [URL] http://joho.densi.kansai-u.ac.jp/index-j.html
松島 恒治	光情報システム	究極のデジタル3D映像をめざしたコンピュータホログラフィの研究を行っている。 [E-mail] matsu@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.laser.ee.kansai-u.ac.jp
棟安 実治	画像処理工学	音響信号を併用した物体認識、携帯端末を用いた情報検出、動脈硬化の検出などを取り扱っている。 [E-mail] muneyasu@kansai-u.ac.jp [URL] http://image.densi.kansai-u.ac.jp/
知能ソフトウェア工学		
榎原 博之	アルゴリズム工学	アルゴリズム理論を背景に、社会で必要とされる最適化問題に対する解法の研究に取り組んでいる。 [E-mail] ebara@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.al.kansai-u.ac.jp/
徳丸 正孝	感性情報工学	対話型進化計算やロボットの感情生成モデルなど、人の感性に関わる研究に取り組んでいる。 [E-mail] toku@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.kis.kansai-u.ac.jp/
村中 徳明	知能情報メディア工学	知能情報、脳情報計測、学習支援、意思決定支援、防災情報システムなどHCIの研究を行っている。 [E-mail] muranaka@kansai-u.ac.jp [URL] http://k3ki.densi.kansai-u.ac.jp/
小尻 智子	学習情報システム	人間の知的活動・創造的活動を支援するソフトウェアを構築している。 [E-mail] kojiri@kansai-u.ac.jp [URL] http://ks.ee.kansai-u.ac.jp/
花田 良子	知的システム設計	人、環境にやさしい知的なシステムの構築にあたり、個々の課題を最適化問題に定式化し、コンピュータによる解法を開発する。 [E-mail] hanada@kansai-u.ac.jp

環境都市工学専攻

環境都市工学専攻では「まちづくり」をコンセプトとしています。そして地域の伝統や産業が今日の生活のなかで機能できるようなスタイルを提案することによってまちの活性化をもたらすことに貢献しようと考えています。社会のなかで互いに密接に関連する人間的、精神的な要素を取り入れたソフトの分野を参画させながら、エネルギー・環境問題の解決を含めたまちづくりや地域活性化のための工学的なハード面をデザインし、それを推進、実現させます。この考えに基づいて、優れた理論的・実験的素養をもちフロンティアとしての幅広い視野をもった研究者、技術者を育成することをめざしています。これまでのサイエンス志向から実践的な「まちづくり」に取り組む姿勢を明確にするとともに、創造力の涵養に力を入れ、関連する構成要素を統合してより優れた高度な知識を身につけ、かつデザイン力をも養います。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
建築学分野		
構造系		
伊藤 淳志	建築基礎工学	建築基礎構造としての杭基礎、パイルド・ラフト基礎および直接基礎の支持力・変位機構に関する研究 [E-mail] ito@kansai-u.ac.jp
西澤 英和	建築保存工学	各種の歴史的建造物の構造性能や保存修理、耐震改修技術を検討開発とともに、町並み調査などを手がける。 [E-mail] h-nszw@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/hozon2/index.html
舛井 健	建築構造学	地球環境建築としての木造構造物の実現に関する研究、木構造の解析手法、城石垣の安定性に関する研究 [E-mail] masui@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/
松田 敏	耐震工学	建築構造物の地震時挙動を的確に評価し、その被害を防止・軽減するための方策について考究する。 [E-mail] matsuda@kansai-u.ac.jp
池永 昌容	建築地震防災工学	建築構造物の地震時応答を効果的に抑制する技術を、数値解析と動的実験の両面から研究している。 [E-mail] mikenaga@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.kukisokou.starfree.jp
計画系		
江川 直樹	建築環境デザイン	建築環境デザイン=次代の豊かな集住環境を形成する建築・都市デザインの有り様の研究と実践 [E-mail] egawa@kansai-u.ac.jp [URL] http://kandekandehp.wixsite.com/main
大影 佳史	環境デザイン・建築計画／設計	調査・分析を通じた研究と実践活動との双方から、建築設計・環境デザインのための理論の検証・構築を図る。 [E-mail] okage@kansai-u.ac.jp
岡 紗理子	住環境学・住環境デザイン	住まい、住まいが集まる環境、都市環境における人々が豊かだと感じる住環境についての調査研究。 [E-mail] okaeri@kansai-u.ac.jp [URL] https://oakeri.jimdo.com

教員氏名	研究テーマ	研究概要
亀谷 義浩	建築計画学	街や建物づくりに関して、都市景観から福祉分野さらには地球環境的視点で広く調査・研究をしている。 [E-mail] kometani@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/KEIKAU/index_top.html
木下 光	都市設計学	モノ×ヒト=コトを基軸とした、公共空間論・アジアの瓦屋根と都市住宅・都市デザイン史論に関する研究 [E-mail] kinosita@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/urban/TOP.html
藤田 勝也	建築史学	建築および都市をめぐる歴史と文化の研究。寝殿造、平安京、京都、歴史的環境、町なみ、文化財の保存と活用。 [E-mail] fujitama@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/HISTORY/index.html
環境系		
河井 康人	建築音響工学	建築の音環境設計に要求される音場予測の諸問題に対し、境界要素法等の数値的手法により解決策を探る。 [E-mail] kawai@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/env1/index.html
原 直也	建築視環境学	建築空間での、ものの見え方等の心理評価、光やものの条件、および、人の視覚特性とそれらの相互関係。 [E-mail] nhara@kansai-u.ac.jp
豊田 政弘	建築音響工学	安全で快適な音環境の創生を目指とした高性能吸遮音構造および予測設計手法の開発を行う。 [E-mail] toyoda@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.arch.kansai-u.ac.jp/env1/index.html
都市システム工学分野		
地球環境系		
石垣 泰輔	環境防災水工学	都市型水害時の避難、伝統的な防災と環境技術、水災害のメカニズムに関する研究をしている。 [E-mail] ishigaki@kansai-u.ac.jp
楠見 晴重	地盤環境工学	関連する学問分野としては、地盤工学、岩盤工学、地盤環境工学。Keywords : 斜面、地下水、地下空間、探査、維持管理、AI [E-mail] kusumi@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/geo-env/
尾崎 平	環境マネジメント	上下水道、廃棄物施設を中心とした環境インフラのマネジメント、気候変動に対する適応策のデザイン [E-mail] ozaki_t@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/emgt/
飛田 哲男	地盤防災工学	地盤地震工学の観点から、数値解析、模型実験、室内要素試験等を援用し、問題の解決を図る。 [E-mail] tobita@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tobita/
林 倫子	景観学・土木史学	場所の履歴と風景形成のメカニズムを解明し、風景の魅力や価値を実証していく。 [E-mail] mhayashi@kansai-u.ac.jp
安田 誠宏	海岸工学	津波、高潮、高波などの沿岸災害の軽減、気候変動の沿岸域への影響評価と適応策について研究する。 [E-mail] yasuda-t@kansai-u.ac.jp [URL] http://coastal.main.jp/
設計建設系		
坂野 昌弘	鋼構造学	Fatigue of Steel Structures [E-mail] peg03032@kansai-u.ac.jp
鶴田 浩章	コンクリート工学・維持管理	コンクリート構造物の耐久性向上方法や維持管理、産業廃棄物の有効利用、中流動コンクリートなど。 [E-mail] tsurutah@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tsurutah/
石川 敏之	構造工学・鋼構造・維持管理	社会基盤構造物を長く使えるようにする技術の開発を行っています。 [E-mail] t-ishii@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t-ishii/
上田 尚史	コンクリート構造学	コンクリートの非線形解析、時間依存挙動評価、劣化予測を行うとともに、新たな建設材料の開発を行う。 [E-mail] nueda@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~nueda/
計画マネジメント系		
秋山 孝正	都市交通計画・都市地域計画	都市、交通、地域のモデル分析と定量的評価を行う。都市交通、まちづくり、都市環境等が対象である。 [E-mail] akiyama@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/urban/
北詰 恵一	社会資本計画	実用型土地利用モデル、社会資本統廃合再配置問題、レジリエントな都市計画、健康まちづくり [E-mail] kitazume@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.trans.civil.kansai-u.ac.jp/kitazume.htm
尹 禮分	社会システム工学	システムの知能化・最適化、人工知能、機械学習データマイニング、ナタヒューリスティック [E-mail] yeboon@kansai-u.ac.jp
井ノ口 弘昭	交通システム計画	多様な交通機関を考慮した都市交通システムの運用、都市高速道路課金の検討、健康まちづくり等 [E-mail] hiroaki@inokuchi.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/trans/
情報システム系		
兼清 泰明	システムモデリング・リスク工学	確率微分方程式の応用、システム信頼性解析、リスク解析、高速シミュレーションスキームの開発 [E-mail] hiro.t.k@kansai-u.ac.jp
窪田 諭	社会基盤情報学	社会基盤施設の情報管理システム、地理情報システムの実践応用、3次元都市時空間モデルの可視化 [E-mail] skubota@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~skubota/
滝沢 泰久	ネットワーク工学	知的都市社会を創出する情報通信技術とプラットフォームシステム技術 [E-mail] takizawa@kansai-u.ac.jp [URL] http://netlab.urbansystem.kansai-u.ac.jp
安室 喜弘	情報システム工学	人と環境、人と設備、人と人を媒介し、社会を豊かにする情報システムの在り方と構築方法を研究する。 [E-mail] yasumuro@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yasumuro/
安達 直世	次世代インターネット技術、ネットワークセキュリティ	社会基盤システムを支える新しい通信技術の開発・研究 [E-mail] n-adachi@kansai-u.ac.jp
檀 寛成	システム最適化	数理的な技法とコンピュータの力を用い、都市を支える様々なシステムを最適化する。 [E-mail] dan@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~dan/
エネルギー・環境工学分野		
エネルギー工学		
池永 直樹	触媒工学	エネルギーと環境をキーワードにして、新しいプロセスの確立をめざし、触媒開発を行っている。 [E-mail] ikenaga@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/Syokubai/
中川 清晴	エネルギー材料工学	新規ナノ炭素材料の合成・構造制御および表面化学。炭素材料のエネルギー・環境分野に応用する研究。 [E-mail] kiyo haru@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/oda/
三宅 孝典	無機能物質工学	省エネルギー用触媒、省エネ分離材料の開発、水中の鉛、セシウムの除去など環境浄化材料の開発 [E-mail] tmiyake@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/FME/
村山 憲弘	資源循環工学	アルミドロスや鉄鋼スラグなどの副産物を原料に用いて機能性無機材料を創製する研究を行っている。 [E-mail] murayama@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/Shigen/
佐野 誠	無機能物質工学	環境浄化、省エネルギーおよびエネルギー変換に応用する機能性無機材料の開発 [E-mail] msano@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/FME/
環境化学		
岡田 芳樹	ナノ粒子工学	ナノ粒子の粒径・化学組成計測、非凝集・単分散ナノ粒子の合成、マイクロバブルを用いた水浄化など [E-mail] yokada@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/NPE/top.html
田中 俊輔	分離工学	ナノ空間材料（ゼオライト、MOF、メソポーラス体）の設計と機能化（吸着、膜分離、デバイス）を研究。 [E-mail] shun_tnk@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/sepsyseng/

教員氏名	研究テーマ	研究概要
林 順一	反応工学	多孔質材料の製造と細孔生成機構の解明および環境浄化材、エネルギーデバイスへの応用 [E-mail] hayashi7@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/CReLab/
山本 秀樹	物性化学工学・環境再生工学	資源再生プロセス開発、酸再生技術、溶解度パラメータ、血液物性解析システム開発、環境系新材料開発 [E-mail] yhideki@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/Process
荒木 貞夫	物性化学工学・環境再生工学	新規分離膜の開発と化学工学物性を用いた分離機構の解明および反応・分離プロセスへの応用 [E-mail] araki_sa@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/Process/
木下 卓也	ナノ粒子工学	気相法および液相法による機能性ナノ粒子材料の合成とその応用評価に関する研究を行う。 [E-mail] t_kino@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/NPE/top.html
長谷川 功	反応工学	微小流路内にてバイオマス成分から各種化成品へ水熱分解。 [E-mail] hase7@kansai-u.ac.jp

化学生命工学専攻

化学生命工学専攻では「ものづくり」のコンセプトを設定しています。従来の「つくり方を重視したデザイン」から「使い方を重視したデザイン」への社会の考え方へ同調して、生命体・物質・材料そのものにとどまらず、それらの機能をさまざまなシステムやデバイスのなかでいかに発揮させるかを追求します。すなわち、物質・材料や生物を人間の創造力、構想力、実行力によって生活、産業や環境の場に生かし、それらをよりよいものに改善するための技術を開発しています。これらの場で生じるさまざまな課題を解決し、豊かで持続可能な社会を構築していくために必要な、幅広い専門知識、優れた技術力さらに全体を俯瞰できる広い視野をもった技術者・研究者を育てることを目標としています。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
化学・物質工学分野		
金属材料設計		
池田 勝彦 環境材料学 低価格なペータ型チタン合金の開発・研究を進めている。現在、チタン-マンガン系合金を開発している。 [E-mail] hikoik@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/ecmate/		
上田 正人 環境材料学		生体硬組織関連の金属・セラミックス材料の開発、電気抵抗率測定による結晶中の格子欠陥の定量評価 [E-mail] m-ueda@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/ecmate/
金属材料プロセス		
竹中 俊英 金属生産工学		高いポテンシャルをもつ金属材料、特にTi, Mgの製造プロセスの刷新・改良を中心として研究している。 [E-mail] ttakenak@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/seisan/Top.html
西本 明生 複合化プロセス工学		アクティブスクリーンプラズマ窒化、プラズマCVD、硬質皮膜、異材接合、放電プラズマ焼結 [E-mail] akionisi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/functmat/
星山 康洋 凝固プロセス工学		研究内容キーワード：铸造、プラズマ溶射、プラズマ窒化 [E-mail] hosiyama@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/solidif/
丸山 徹 融体加工学		金属・合金、無機物あるいは有機物の液体状態（融体）を経由した「ものづくり」の研究を行っている。 [E-mail] tmaru@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/melt/
森重 大樹 金属生産工学		構造用非鉄金属材料、特にAl合金、Mg合金の高信頼性化に関する研究を行っている。 [E-mail] tmorishi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/seisan/
金属・無機材料物性		
荒地 良典 イオニクス材料学		Li二次電池や燃料電池といったエネルギー貯蔵・変換デバイス用新物質の探索に取り組んでいる。 [E-mail] arachi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/ionics/
幸塚 広光 セラミック材料学		化学的手法による液相からの無機材料および有機・無機ハイブリッド材料の合成、構造制御、機能創出 [E-mail] kozuka@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/ceramics/
竹下 博之 水素エネルギー材料学		循環型社会を支える水素エネルギーの実現に不可欠な、新規水素貯蔵材料の開発および関連する基礎研究 [E-mail] h-take@kansai-u.ac.jp [URL] http://mhcs.chemmater.kansai-u.ac.jp/
春名 匠 材料界面工学		・高環境遮断性金属材料の開発 ・金属・合金の環境脆化現象の解明 ・機能性薄膜の開発 [E-mail] haruna@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/sei/Top.htm
内山 弘章 無機材料化学		液相プロセスにより作製される機能性無機材料のナノ・マイクロ構造制御に関する研究 [E-mail] h_uchi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/ceramics/TOP.htm
近藤 亮太 中規模輸送、水素関連デバイスの開発		大量の水素をコンパクトかつ軽量に貯蔵可能な材料の開発を行っている。 [E-mail] rkondo@kansai-u.ac.jp [URL] http://mhcs.chemmater.kansai-u.ac.jp/
無機・物理化学		
青田 浩幸 光化学・高分子化学		新規共役系高分子を分子ワイヤーに用いて太陽光エネルギーの有効利用に関する研究を行っている。 [E-mail] aota@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/photo/
石川 正司 電気エネルギー化学		将来型二次電池や高速キャパシタの蓄電材料を研究。この成果で平成24年度、文部科学大臣表彰受賞。 [E-mail] masashi@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ec.chemmater.kansai-u.ac.jp/
川崎 英也 界面物理化学		触媒、電子デバイス、医療へ応用できるナノメートル (10^{-9} m) サイズの材料であるナノ粒子の研究 [E-mail] hkawa@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/colloid/
山縣 雅紀 極限環境化学		生活環境から逸脱した温度・圧力・物理衝撃・放射線などの極限・高付加環境下において機能する様々な物質の研究開発とその評価を対象とし、化学材料の実用面での課題解決を目指す。 [E-mail] yamagata@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ec.chemmater.kansai-u.ac.jp/
有機化学		
大洞 康嗣 触媒有機化学		ケミカルフィードストックからの高効率触媒反応ならびに高活性触媒種を開発している。 [E-mail] obora@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/fine/
坂口 聰 有機反応化学		高効率分子変換を可能にする有機化学反応に関する研究を行っている。配位子の分子デザインが鍵である。 [E-mail] satoshi@kansai-u.ac.jp [URL] http://orgchem.chemmater.kansai-u.ac.jp/
田中 耕一 有機超分子化学		ナノ細孔を持つキラルな多孔性ホスト化合物によるエナンチオマー分離や不齊合成反応を研究している。 [E-mail] ktanaka@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ktanaka/
西山 豊 有機合成化学		一酸化炭素、二酸化炭素を利用した合成反応、元素の特性を活かした合成反応、触媒的合成反応 [E-mail] nishiya@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/hetero/
梅田 墾 有機機能化学		有機合成反応を高度に利用し、新奇な機能性有機分子の合成ならびに物性の評価を行う。 [E-mail] umeda@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~umeda/
矢野 将文 機能性有機材料		有機化学の知識を基にして、各種有機機能性材料の分子設計・有機合成・物性評価を行っている。 [E-mail] myano@kansai-u.ac.jp

教員氏名	研究テーマ	研究概要
高分子化学		
工藤 宏人	高分子合成化学	新規機能性材料（高屈折率・低屈折率材料、レジスト材料）を分子設計し、それらを合成し評価する。 [E-mail] kudoh@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.kansai-u.ac.jp/kudo-lab/
三田 文雄	高分子設計創生学	機能性高分子の精密合成および特性の解明。キーワード：遷移金属触媒重合・光学活性共役高分子 [E-mail] sanda@kansai-u.ac.jp [URL] http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~sanda/
原田 美由紀	高分子材料化学	エポキシ系ネットワークポリマーの高機能化のため、液晶構造の導入による立体構造制御を行っている。 [E-mail] mharada@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/Poly4/
生体材料化学		
岩崎 泰彦	医用高分子材料化学	生体と適合するポリマー材料を開発し、人工臓器、バイオセンサ、薬物輸送担体などに応用する。 [E-mail] yasu.bmt@kansai-u.ac.jp [URL] http://biomat.chemmater.kansai-u.ac.jp/
大矢 裕一	バイオマテリアル	身体の中で無毒な成分に分解するポリマーを利用した医用材料（バイオマテリアル）を開発する。 [E-mail] yohya@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/kinosei/
葛谷 明紀	生体超分子化学	DNAをはじめとする生物由来の機能性分子を組み立て、分子サイズの機械・ロボットを作りあげる。 [E-mail] kuzuya@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.itc.kansai-u.ac.jp/mol-mach
田村 裕	天然高分子機能化学	キチン・キトサン、バクテリアセルロース、ゼラチン、天然高分子、機能性材料、生体材料 [E-mail] tamura@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/biofunc/
平野 義明	生体材料・ペプチド工学	再生医療への応用をめざし細胞と親和性の高いペプチド材料の設計とその機能評価 [E-mail] yhirano@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/biomol
古池 哲也	生体機能分子	糖鎖の機能を利用した化合物群の合成と機能評価を行い、医薬品や機能性材料への展開を行っている。 [E-mail] furuike@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/biofunc/
宮田 隆志	先端高分子化学	生体の優れた構造や機能に倣ったスマート高分子材料を開発し、DDSやセンサー等への応用を試みている。 [E-mail] tmiyata@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/sentan/
柿木 佐知朗	タンパク質工学・機能性医用材料化学	生体機能を制御できる人工ペプチド／タンパク質の開発と医療デバイスや組織再生医療への応用。 [E-mail] sachiro@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/biomol/
河村 晓文	ソフトマター化学	制御重合や超分子化学などを駆使して、生医学分野などへ応用できるソフトマテリアルを創出する。 [E-mail] akifumi@kansai-u.ac.jp [URL] http://wps.kansai-u.ac.jp/sentan/
生体機能分子化学		
中林 安雄	生体錯体化学	副作用が少なく新しい機能を示す抗がん剤の開発をめざして、金属錯体の抗がん作用を研究している。 [E-mail] yasuon@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/sakutai/
矢島 辰雄	分子認識化学	生体における分子認識に利用される非共有性相互作用を解明し、その活用をめざしている。 [E-mail] t.yajima@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/chiral/
中井 美早紀	生体錯体化学	錯体合成を中心とした生理活性錯体および光機能性錯体の開発をめざす。 [E-mail] nakai@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.chemmater.kansai-u.ac.jp/sakutai/
生命・生物工学分野		
生命・医薬		
老川 典夫	酵素工学	微生物のD型及びL型アミノ酸代謝を中心とする酵素の構造や機能の解明と応用 [E-mail] oikawa@kansai-u.ac.jp [URL] http://biomole.life-bio.kansai-u.ac.jp
下家 浩二	神経再生工学	1. 神経変性疾患の治療方法の確立 2. 局所神経回路の変化による神経疾患を克服する神経回路の再構築 [E-mail] shimoke@kansai-u.ac.jp [URL] http://neurobio.life-bio.kansai-u.ac.jp/
長岡 康夫	医薬品工学	医薬品や化粧品原料の創生をめざした天然生理活性物質の探索と合成研究を行っている。 [E-mail] ynagaoka@kansai-u.ac.jp [URL] http://pharm.life-bio.kansai-u.ac.jp/
住吉 孝明	医薬品工学	医薬品候補化合物の探索・化合物による生体機能解明・新技術・方法論の開拓を基盤とした創薬研究 [E-mail] t-sumiyo@kansai-u.ac.jp [URL] http://pharm.life-bio.kansai-u.ac.jp/
安原 裕紀	植物細胞生物学	高等植物の細胞分裂と細胞形態形成の機構を細胞骨格連タンパク質の機能解析から解明する。 [E-mail] yasuhaba@kansai-u.ac.jp
山中 一也	微生物ゲノム工学	深海や極限環境微生物遺伝資源からの新規有用物質生産を担う酵素および遺伝子の探索と応用 [E-mail] kazuyay@kansai-u.ac.jp [URL] http://biomole.life-bio.kansai-u.ac.jp
環境		
岩木 宏明	環境微生物工学	環境浄化や物質生産を目的とし、様々な環境に生息する微生物を分離し、遺伝情報の解析を行っている。 [E-mail] iwaki@kansai-u.ac.jp [URL] http://bioinfo.life-bio.kansai-u.ac.jp/
片倉 啓雄	生物化学工学	乳酸菌の高密度培養、乳酸菌と腸管および食物繊維との相互作用、微生物による有用物質生産 [E-mail] katakura@kansai-u.ac.jp [URL] http://biocheng.life-bio.kansai-u.ac.jp/
長谷川 喜衛	分子微生物学	環境汚染物質分解菌を分離・同定し、代謝経路の決定や分解に関与する遺伝子の解析を行っている。 [E-mail] yoshie@kansai-u.ac.jp [URL] http://bioinfo.life-bio.kansai-u.ac.jp/
松村 吉信	微生物制御工学	微生物の環境汚染浄化能の活用と微生物制御・殺菌技術の開発/バイオマス活用研究を行っている。 [E-mail] ymatsu@kansai-u.ac.jp [URL] http://biocontrol.life-bio.kansai-u.ac.jp/Microbial_Ecology/
山崎 思乃	生物化学工学	腸内細菌および腸内細菌が生産する膜小膜の生体調節機能の解明 [E-mail] shino.ya@kansai-u.ac.jp [URL] http://biocheng.life-bio.kansai-u.ac.jp/
食品		
福永 健治	食品化学	経口摂取タンパク質の機能・n-3系高度不飽和脂肪酸の機能・水産物由来健康機能性成分の探索 [E-mail] fukunagk@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ku-food-lab.com
吉田 宗弘	栄養化学	セレン、ヨウ素、クロム、モリブデン、微量分析、微量ミネラル、摂取量、必要量、食事摂取基準 [E-mail] hanmyou4@kansai-u.ac.jp [URL] http://www.ku-food-lab.com
細見 亮太	食品化学	氷温域での食品の貯蔵・熟成中の成分変化、水産物由来タンパク質の健康機能 [E-mail] hryotan@kansai-u.ac.jp [URL] http://ku-food-lab.com

◆2019年度 博士課程後期課程 研究領域および担任教員

担任教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。
(2020年度演習担当者については、学生募集要項で確認してください。)

総合理工学専攻

前期課程の各専門領域を担当する分野で研鑽を積み、さらに研究者への道を歩みたいと考える学生は、後期課程における総合理工学専攻に進学することになります。後期課程では前期課程のような分野に縛られない、総合的な研究指導体制をとっています。これによって、学生は主たる指導教員の指導のもとに、分野を越えて専門の異なる複数の教員の指導を受けることが可能になり、広い視野に立った斬新な研究が活性化されます。後期課程において行った研究の成果をもとに博士論文をまとめ、審査を受けて学位を取得できます。この後期課程は、学内の先端科学技術推進機構との連携はもちろん、国内の他研究機関や海外の大学との連携・交流を強化拡大し、多面的な研究教育を実践する方針をもっています。在学生は自身の研究を通じてこれらの活動に貢献することになり、さらにそれによって広い学識と国際的視野をもつ専門研究者への道を歩むことができます。

○は、研究指導教員を表す。

数学分野	コホモロジー的数理	○ 楠田 雅治 ○ 藤岡 敦 ○ 村林 直樹 ○ 柳川 浩二 ○ 和久井 道久	情報通信工学	○ 山本 幹 ○ 四方 博之 ○ 平田 孝志 ○ 和田 友孝	エネルギー・環境工学分野	○ 池永 直樹 ○ 中川 清晴 ○ 三宅 孝典 ○ 村山 審弘 ○ 佐野 誠
	確率・統計	○ 上村 稔大 ○ 竹田 雅好 ○ 長井 英生 ○ 山崎 和俊		○ 肥川 宏臣 ○ 前田 裕 ○ 三好 誠司 ○ 伊藤 秀隆		○ 岡田 芳樹 ○ 田中 俊輔 ○ 林 順一 ○ 山本 秀樹 ○ 荒木 貞夫 ○ 木下 卓也 ○ 長谷川 功
物理・応用物理学分野	基礎・計算物理	○ 板野 智昭 ○ 伊藤 博介 ○ 伊藤 誠 ○ 杉本 信正 ○ 関 真佐子 ○ 和田 隆宏 ○ 本多 周太	メデイア処理工学	○ 梶川 嘉延 ○ 松島 恭治 ○ 森安 実治	環境化学	○ 丹羽 勝彦 ○ 上田 正人 ○ 竹中 俊英 ○ 西本 明生 ○ 星山 康洋 ○ 丸山 徹 ○ 森重 大樹
	光学・応用物理	○ 浅川 誠 ○ 稲田 貢 ○ 山本 健 ○ 山口 聰一朗		○ 榎原 博之 ○ 德丸 正孝 ○ 村中 徳明 ○ 小尻 智子 ○ 花田 良子		○ 荒地 良典 ○ 幸塚 広光 ○ 竹下 博之 ○ 春名 匠 ○ 内山 弘章 ○ 近藤 亮太
機械工学分野	ナノ機能物理工学	○ 伊藤 健 ○ 新宮原 正三 ○ 清水 智弘	構造系	○ 伊藤 淳志 ○ 西澤 英和 ○ 横井 健 ○ 松田 敏 ○ 池永 昌容	金属材料設計	○ 青田 浩幸 ○ 石川 正司 ○ 川崎 英也 ○ 山縣 雅紀
	流体工学・バイオメカニクス	○ 板東 潔 ○ 山本 恭史 ○ 田地川 勉		○ 江川 直樹 ○ 大影 佳史 ○ 岡 統理子 ○ 龟谷 義浩 ○ 木下 光 ○ 藤田 勝也		○ 大洞 康嗣 ○ 坂口 聰 ○ 田中 耕一 ○ 西山 豊 ○ 梅田 畿 ○ 矢野 将文
電気電子情報工学分野	材料工学	○ 斎藤 賢一 ○ 宮間 正則 ○ 佐藤 知広 ○ 高橋 可昌	環境系	○ 河井 康人 ○ 原 直也 ○ 豊田 政弘	高分子化学	○ 工藤 宏人 ○ 三田 文雄 ○ 原田 美由紀
	トライボロジー・情報マイクロメカトロニクス	○ 小金沢 新治 ○ 多川 則男 ○ 谷 弘詞 ○ 呂 仁国		○ 石垣 泰輔 ○ 楠見 晴重 ○ 尾崎 平 ○ 飛田 哲男 ○ 林 倫子 ○ 安田 誠宏		○ 岩崎 泰彦 ○ 大矢 裕一 ○ 萩谷 明紀 ○ 田村 裕 ○ 平野 義明 ○ 古池 哲也 ○ 宮田 隆志 ○ 柿木 佐知朗 ○ 河村 晃文
都市システム工学分野	熱工学	○ 梅川 尚嗣 ○ 松本 亮介 ○ 綱 健行 ○ 小田 豊	地球環境系	○ 坂野 昌弘 ○ 鶴田 浩章 ○ 石川 敏之 ○ 上田 尚史	生体材料化学	○ 中林 安雄 ○ 矢島 長雄 ○ 中井 美早紀
	生産加工システム	○ 山口 智実 ○ 廣岡 大祐 ○ 古城 直道		○ 秋山 孝正 ○ 北詰 恵一 ○ 尹 禮分 ○ 井ノ口 弘昭		○ 老川 典夫 ○ 下家 浩二 ○ 長岡 康夫 ○ 住吉 孝明 ○ 安原 裕紀 ○ 山中 一也
電気電子情報工学分野	機械力学・制御工学	○ 宇津野 秀夫 ○ 山田 啓介	計画マネジメント系	○ 兼清 泰明 ○ 蓬田 諭 ○ 滝沢 泰久 ○ 安室 喜弘 ○ 安達 直世 ○ 檀 寛成	生体機能分子化学	○ 岩木 宏明 ○ 片倉 啓雄 ○ 長谷川 喜衛 ○ 松村 吉信 ○ 山崎 思乃
	計測システム	○ 新井 崇彦 ○ 高田 啓二 ○ 前 泰志		○ 石垣 泰輔 ○ 江川 直樹 ○ 岡 統理子 ○ 北詰 恵一 ○ 木下 光		○ 福永 健治 ○ 吉田 宗弘 ○ 細見 亮太
電気電子情報工学分野	ロボット・マイクロシステム	○ 青柳 誠司 ○ 鈴木 昌人 ○ 高橋 智一	情報システム系	○ 楠見 晴重 ○ 坂野 昌弘 ○ 西澤 英和	生命・医薬	○ 岩木 宏明 ○ 片倉 啓雄 ○ 長谷川 喜衛 ○ 松村 吉信 ○ 山崎 思乃
	人間・生体情報工学	○ 小谷 賢太郎 ○ 鈴木 哲		○ 石垣 泰輔 ○ 江川 直樹 ○ 岡 統理子 ○ 北詰 恵一 ○ 木下 光		○ 老川 典夫 ○ 下家 浩二 ○ 長岡 康夫 ○ 住吉 孝明 ○ 安原 裕紀 ○ 山中 一也
電気電子情報工学分野	電気工学	○ 大橋 俊介 ○ 濱田 昌司 ○ 山本 靖 ○ 米津 大吾	地域再生学	○ 楠見 晴重 ○ 坂野 昌弘 ○ 西澤 英和	環境	○ 岩木 宏明 ○ 片倉 啓雄 ○ 長谷川 喜衛 ○ 松村 吉信 ○ 山崎 思乃
	機能性材料・デバイス	○ 北村 敏明 ○ 田實 佳郎 ○ 佐伯 拓 ○ 佐藤 伸吾 ○ 中村 和広		○ 石垣 泰輔 ○ 江川 直樹 ○ 岡 統理子 ○ 北詰 恵一 ○ 木下 光		○ 福永 健治 ○ 吉田 宗弘 ○ 細見 亮太

外国語教育学研究科

千里山キャンパス

外国語教育学研究科ウェブサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/fl/>

博士課程前期課程

外国語教育学専攻（入学定員 25名）
外国語教育学領域
異文化コミュニケーション学領域
通訳翻訳学領域

博士課程後期課程

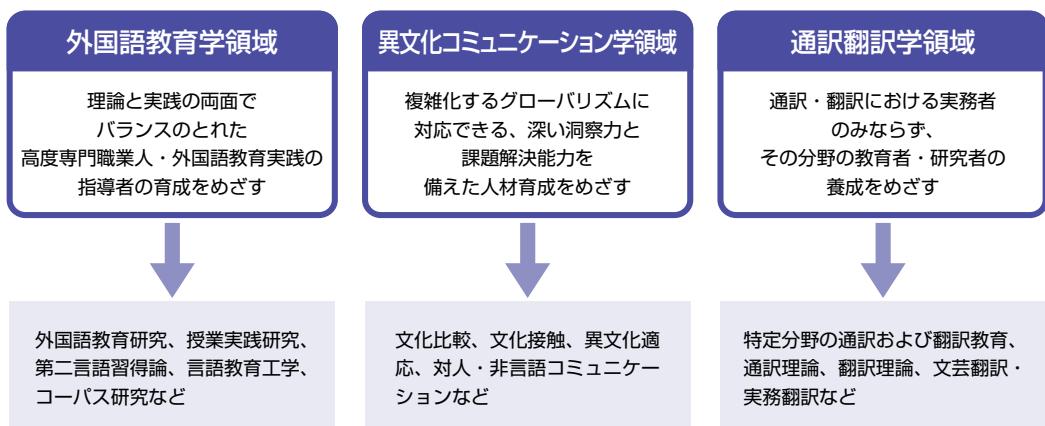
外国語教育学専攻（入学定員 3名）

外国語教育・異文化コミュニケーション・通訳翻訳分野での指導者・研究者・実務者の育成をめざす全国屈指の学際的研究科

特色

扱う学問領域がすべて学際的な分野であることを生かして、前期課程に関しては、出身学部・学科を問わず、広く学生を受け入れている。関西大学出身者はもちろんのこと、それ以外の大学の出身者も多く在籍しており、多様なバックグラウンドをもった学生が集う研究科といえる。また、リカレント教育にも力をいれており、昼夜開講制、土曜開講、集中講義、3年在学制（前期課程）、1年制修士（現職教員対象）などを導入し、社会人が学びやすい環境を作り出す努力をしている。学生選抜（入学試験）は口頭試問重視で、高度な外国語能力を証明する資格を有する受験生には、外国語試験が免除される。

博士課程前期課程



博士課程前期課程では、外国語教育に関わる3つの領域（外国語教育学・異文化コミュニケーション学・通訳翻訳学）において、指導的立場で活躍できる、理論と実践のバランスのとれた指導者・高度職業人の育成をめざします。

外国語教育学領域

外国語教育学を体系的・包括的に究め、実践に生かすために、教授法や授業実践を扱う科目、学習者論・第二言語習得論など理論を扱う科目、各種メディアを利用した教材開発を扱う科目、研究対象言語の構造と運用の分析を行う科目などを配置。

異文化コミュニケーション学領域

異文化コミュニケーションを学際的アプローチで考究するために、さまざまな学問分野の視点でコミュニケーションを考察する科目、専攻する言語が使用される地域の言語や文化を深く考察する科目、異なる文化の接触と文化間の交渉を考察する科目などを配置。

通訳翻訳学領域

通訳翻訳理論を踏まえた実践と教育を追求するために、通訳翻訳学の理論的背景を扱う科目を中心に、実践の場におけるさまざまな問題を扱う実習的科目などを配置。

これに加えて、前期課程では3領域共通の「支援科目」として、基礎的な研究方法を学ぶ「基礎研究法」諸科目、また、専攻する言語の高度な運用能力を養成する実習系の科目を配置して、調査・分析・報告・発表などの学術的活動を行うために必要なスキルを身につけます。

博士課程後期課程

博士課程後期課程では、オリジナルな理論的・実証的研究を遂行し、国内はもとより国際的にもその成果を問います。当該分野の発展を促すような能力を身につけた人材を養成できるよう、教育課程を領域には分けずに、個別型のチュートリアル・カリキュラムを提供し、入学時に明示した学位取得要件を一つひとつクリアさせながら、博士論文の作成まで指導を行います。

「学びの意欲」に応える学修環境

社会人の方のために

昼夜開講制

授業科目の開講時間を4時限目以降に設定し、主に6時限目と7時限目に授業を展開しています。

- 4時限目 (14:40~16:10)
- 5時限目 (16:20~17:50)
- 6時限目 (18:00~19:30)
- 7時限目 (19:40~21:10)

- 土曜日は2時限目 (10:40~12:10) から授業を開講します。夏季および冬季には集中講義もあります。
- 時間割表は研究科ウェブサイトでご覧いただけます。

長期履修学生制度(3年コース)

社会人の方や外国語関係以外の学部出身の方が、余裕をもって履修する際にお勧めの制度です。

- 1年間で履修できる単位数は少なくなりますが、2年間の授業料とほぼ同額で3年間を在学することができます。
- 1年次終了時に所定の条件を満たした場合、3年コースを2年コースに変更することができます。

※この制度は博士課程前期課程において適用できる制度で、入学試験出願時に選択していただきます。

現職教員1年制コース

高度な能力を有する英語教員の養成を目的とした、1年間で修士号を取得できるコースです。現職の英語教員やその経験者であって、英語教育に関わる業績が顕著な方を対象に募集します。出願資格等の詳細は学生募集要項をご覧ください。

『日本語教育専門家養成講座』

2016年度より、『日本語教育専門家養成講座』を開講しています。

この講座は、研究科の豊富な授業科目を通して習得できる外国語教育学とその隣接領域に関する高度な知識・スキルを無理なく効果的に生かせます。日本語や日本語教育を研究対象にする人のみでなく、他の言語やその教育を専門にする人にもお勧めです。

グローバルに活躍したい方のために

DDプログラム

【ダブル・ディグリー・プログラム】イギリス・アストン大学

2018年度開始。イギリス・アストン大学に2セメスター留学し、関西大学で2セメスター修学するとともに、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学大学院からの修士号に加えて、アストン大学からも修士の学位が授与されます。

修学期間：2年

【デュアル・ディグリー・プログラム】韓国・嶺南大学校大学院

2015年度開始。韓国・嶺南大学校に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学大学院からの修士号に加えて、嶺南大学校からも修士の学位が授与されます。

修学期間：3年

エモリー大学への派遣 (日本語教育学・英語教育学)

アメリカ・エモリー大学

本研究科博士課程前期課程修了生・博士課程後期課程在校生をアメリカ南部の名門エモリー大学へTeaching Fellowとして毎年最大2名を派遣しています。現地では、日本語教育（有給）に従事しながら、エモリー大学で開講している大学院科目も履修できます。



在学生・修了生の声

惟任 将彦さん 博士課程前期課程 外国語教育学専攻
2017年3月修了
入試種別：社会人入学試験
勤務先名：名古屋YMCA日本語学院

大学院進学の理由

外国语教育学専攻が3領域に細分化されたことにより、日本語が研究対象言語でも異文化間コミュニケーションについて学べるようになったことが大きいです。また、社会人にとって学びやすい授業時間の設定や交通の便の良さ、そして、奨学金が充実している点が挙げられます。

当時の指導教員を選んだ理由

大学院進学についてご相談させていただくために、初めて研究室を訪れたときに、親身になって話を聞いていただいたことから、守崎誠一先生のもとで学びたいと思うようになりました。また、研究室にあった多くの本にも興味をそそられるとともに、異文化間コミュニケーションのおもしろさについて語る先生を見て、勉強したいという気持ちが強くなりました。

現在の仕事において大学院での研究が生かされている場面

現在、日本語学校の開校準備をしていますが、修士論文で考察した差別・偏見の低減や異文化適応が、留学生サポートなどを意識した学校づくりを進めるうえで、非常に外国语教育学研究科で学んだことが役立っています。また、日々の授業においても、第二言語習得理論を意識した実践や教員指導ができるようになってきました。私の場合は、社会人として、先に授業実践を重ねた後で理論的背景を学んだので、腑に落ちることが多くありました。

進学を考えている方へのメッセージ

私はいつも仕事が終わってから大学へ行っていたのですが、先生方のすばらしい授業を受けたり、日本語以外の言語に関わる学生や留学生と話したりすることによって、普段、職場の中にいるだけでは味わえないような新鮮な気持ちになり、疲れも吹き飛んでいきました。そして、また新たな気持ちで翌日の仕事に臨むことができました。みなさん、「二足のわらじ」もいいものですよ。

◆2020年度 演習担当教員

担当教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①専門分野 ②教育・研究テーマ/志願者へのメッセージ/最近取り組んでいること等 ③主要著書 ④E-mail ⑤HP

阿南 順子 教授 日本語	池田 真生子 教授 英語	今井 裕之 教授 英語
<p>①日本文化論／演劇・パフォーマンス学／視覚文化 ②演劇、様々な場面におけるパフォーマンス、視覚文化を、主にジェンダー・セクシュアリティ論、インカールチャラリズムの観点から研究しています。 ③(1)著書(単著) <i>Contemporary Japanese Women's Theatre and Visual Arts: Performing Girls' Aesthetics</i> (Palgrave Macmillan, 2016) (2)論文(単著) "Imagining Love in a Neoliberal Japan: Yanagi Miwa's Elevator Girl" in <i>Performance, Feminism and Affect in Neoliberal Times</i>, edited by Elin Diamond, Denise Varney, and Candice Amich. Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2017. (3)論文(単著) "The Rose of Versailles: Women and Revolution in Girls' Manga and the Socialist Movement in Japan." <i>The Journal of Popular Culture</i> 47:1, 2014 (4)論文(単著) "Two-Dimensional Imagination in Contemporary Japanese Women's Performance." <i>TDR</i> 55:1, 2011 ④anan@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①英語教育学（学習方略／小学校英語） ②外国語学習方略の指導について、学習者の情意要因や協働学習の役割に着目して研究しています。また、小学校英語における、校内研修や教員養成のシステム構築に取り組んでいます。 ③(1) 単著(2007) <i>EFL reading strategies: Empirical studies and an instructional model</i>. 東京: 松柏社 (2) 共著(2018a) <i>Situating willingness to communicate in an L2: Interplay of individual characteristics and context</i>. <i>Language Teaching Research</i>, 22, 115-137. (3) 共著(2018b) <i>Situating Metacognition in Context: Importance of Others and Affect in Metacognitive Interventions</i>. In Yip, M.C.W. (Ed.), <i>Cognition, metacognition, and academic performance: An East Asian perspective</i>. (pp. 89-100). London: Routledge. ④mikeda@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①英語教育学（小中高英語授業研究、スピーキング評価研究）教育学（授業研究、スピーキング） ②小中高等学校における教室での外国語学習過程を社会文化的アプローチの観点から研究している。また、英語スピーキングの評価方法についても実践的な研究を行っている。 ③・共著(2018)『学ぶ教える考えるための実践的英語科教育法』大修館書店 ・共著(2009)『リフレクティブな英語教育をめざして一教師の語りが拓く授業研究』ひつじ書房 ・共著(2007)『HOPE 中高生のための英語スピーキングテスト』教育出版 ④himai@kansai-u.ac.jp</p>
加藤 雅人 教授 英語	河原 清志 教授 英語 日本語	菊地 敦子 教授 英語 日本語
<p>①意味論／言語分析哲学／メレオロジー ②主に言語分析・意味論の分野で、「esseの意味」、「プロトタイプ・カテゴリー」、「メレオロジーとオントロジー」をテーマとしている。 ③・著書(単著)『意味を生み出す記号システム』、世界思想社、2005 ・著書(共著)『部分と全体の哲学：歴史と現在』(科研費公開促進費)春秋社、2014 ・著書(共著)『哲学の歴史3 神との対話』('08年毎日出版文化賞)、中央公論新社、2008 ・論文(単著)「文の意味と情報」、『日本語学』vol.25, no.5、明治書院、2006 ④mkato@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①通訳翻訳研究／社会記号論／メディア英語研究 ②「翻訳とは何か」「言語とは何か」「意味とは何か」について長期的スパンで学際的に研究している。また通訳・翻訳の切り口から言語・法律・政治・メディア・宗教などに関する理論言説およびその哲学・思想のメタ理論研究に取り組む。 ③単著『翻訳等価再考—翻訳の言語・社会・思想』(2017年) 晃洋書房／編集主幹・共編著『メディア英語研究への招待』(2013年) 金星堂／共著『よくわかる翻訳通訳学』(2013年) ミネルヴァ書房／共著『多文化共生時代の英語教育』(2017年) いいづな書店 ④kkiyoshi@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①通訳翻訳に現れる日本語と英語の違いと共に通訳を認知言語学的、または対照言語学的アプローチで分析；言語理論と通訳翻訳理論の研究 ②色々な授業を担当していますが、私が研究し続けているテーマは、日本語と英語を分析することによって見られる日本語的なものの捉え方、英語的なものの捉え方を見つけ、言語がどのように人間の思考に影響を与えるかを明らかにすることです。 ③菊地敦子 (2004)『COMEとケルの意味拡張における到達点の違い』佐藤・堀江・中村(編)「対照言語学の新展開」東京: ひつじ書房 ④akikuchi@kansai-u.ac.jp</p>
玄 幸子 教授 中国語	高 明均 教授 朝鮮語	小嶋 美由紀 教授 中国語
<p>①中国語学／中国語歴史研究 現代中国語の形成過程を文字・音韻・語法の面から明らかにするため中国語を通時的に分析することを研究テーマとしている。 ②中国語教育面ではとりわけ語法に関する研究を志す諸君を歓迎します。学習者のモチベーション向上策もテーマの一つです。純粋な中国語語法研究や中国語歴史文法研究に取り組む人はもちろん歓迎です。 ③1.『語彙解』研究—李氏朝鮮において中国語口語辞典はいかに編まれたか—、閔大出版、単著、2012 2. 老乞大 朝鮮中世の中国語会話読本、平凡社(東洋文庫699)、共著、2002 3. 敦煌への道、新潟日報事業社、共著、2002 ④gen@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①朝鮮語学／語彙意味論 ②語彙意味論に関心を抱いており、語源的に類似点の多い韓語と日本語の語彙比較・対照を通じて、効率的な語彙教授法を探求している。さらに、近代朝鮮語文獻に対する集中的な研究にも携わっている。 ③『『馬經諺解』語彙研究』関西大学出版部2014、『国語史研究と資料』(共著) 太学社 2007、『韓国語教育学概論』(共著) 박이정2005、「韓・日漢字語の同意関係研究」、「近代朝鮮語学習書「隣語大方」研究」、「倭語類解の口訣借字表記に関する研究」 ④myunggyun@hanmail.net</p>	<p>①中国語学（現代中国語文法）／日中比較対照研究 ②現代中国語“普通话”的文法現象を、認知的、語用論的視点から分析。特に、英語や日本語といった他言語との比較対照を通して、中国語の言語個別特徴、つまり中国語特有の発想や物事の捉え方を明らかにすることをめざしている。 ③①「人衆」と「人」の自称詞用法」、『中国語学』248号、②「拵張的二重目的語構文「玩儿他个痛快」の成立動機とメカニズム」、『中国語学』256号、③「中国語主体移動表現の様相—ビデオクリップデータに基づいて」、『認知言語学的新領域開拓研究—英語・日本語・アジア諸語を中心として』くろしお出版(近刊) ④komiyuki@kansai-u.ac.jp</p>
嶋津 百代 准教授 日本語	沈 国威 教授 中国語	新谷 奈津子 教授 英語
<p>①日本語教育学／談話分析 ②日本語学習者のストーリーテリング、創造的な言語使用やコミュニケーションスタイルをテーマとし、学習者の日本語談話の様相を研究している。また最近は、日本語教師へのインタビューの分析およびナラティブ研究に取り組んでおり、新たな教師教育カリキュラムの構築を目指している。 ③著書: 嶋津百代 (2015)『第二言語リテラシーとストーリーテリング活動—次世代の日本語学習者のコミュニケーションのために』韓国: J&C 分担執筆: 嶋津百代 (2016)「創造性の視点から捉え直すインナーカルチャラリズム・コミュニケーションの可能性—日本語学習者が考えるコミュニケーションのあり方—」三鷹陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也編『インナーカルチャラ・コミュニケーションの理論と実践』くろしお出版 293-308頁 ④shimazu@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①中国語教育学／中国語学／日中語彙比較研究 ②日中語彙比較対照、語彙教育に関する研究のほか、近代日中語彙交流について研究をしている。特にここ数年、現代中国語の語彙体系の形成とその特徴について多数論文を発表している。 ③『近代日中語彙交流史』笠間書院、1994、改訂新版2008、韓国語版2012;『電腦による中国語研究のススメ』白帝社、2000;『近代中日詞彙交流研究』中華書局、2010;『日中同形語小辞典』白帝社、2011 ④shkkky@kansai-u.ac.jp ⑤http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~shkkky/</p>	<p>①第二言語ライティング／ライティングフィードバック／タスク中心の言語指導／明示的文法指導／学習者の個人差／小学校英語 ②英語教育の効果を第二言語習得理論の立場から考え、検証する研究を行っています。これまで、タスク中心の言語指導・明示的文法指導・ライティングにおけるフィードバックなど、様々な指導方略の効果とその間接要因である学習者の個人差を扱ってきました。研究方法論やメタ分析の活用にも興味を持っています。 ③单著 (2016). <i>The role of input-based tasks in foreign language instruction for young learners</i>. Amsterdam: John Benjamins. 共著 (2014). <i>Exploring language pedagogy through second language acquisition research</i>. London: Routledge. ④natsukos@kansai-u.ac.jp</p>
高梨 信乃 教授 日本語	高橋 秀彰 教授 ドイツ語	竹内 理 教授 英語
<p>①日本語教育学／日本語学（現代日本語文法） ②主として取り組んでいるテーマは次の2つです。(1) 日本語学習者のために真に役に立つ文法教育の追求 (2) 現代日本語のモダリティ（話し手の事態の捉え方を表す表現）の研究 ③单著 (2010)『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版 共著 (2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 共著 (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク ④tshino@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①社会言語学（言語のバリエーション、ジェンダー論、複数中心地言語論、言語規範）／言語政策論／発音教育論／ドイツ語教育学 ②EUにおける言語政策研究に取り組んでいます。教育面では、リンガフランカとしての英語、ミクロ、マクロの視点から取り上げている他、社会言語学の諸問題を扱っています。社会言語学に関心がある学生の受講を期待しています。 ③論文(単著)「ドイツ語住の子供へのドイツ語教育と出自言語教育に関する言語政策的考察」Neue Beiträge zur Germanistik (日本独文学会), 16/2, 2018: 24-41. 論文(単著)「多様化するドイツ語の標準化—正書法と発音の統一を中心に」『日本語学』明治書院, 2018: 144-157. 論文(単著) "Sprachenpolitik eines Kleinstaates in der EU — Luxemburgs Trilingualismus und seine Perspektive." Hrsg. Karina Schneider-Wiejowski, Birte Kellermeier-Rehbein und Jakob Haselhuber. Vielfalt, Variation und Stellung der deutschen Sprache. Berlin, Boston: de Gruyter, 2013: 293-308. 著書(単著) (2010)『ドイツ語圏の言語政策—ヨーロッパの多言語主義と英語普及のはざまで』関西大学出版部 ④hideaki@kansai-u.ac.jp</p>	<p>①英語教育学（学習方法論、不安・動機づけなどの学習者要因、教員養成）／自律学習・自己調整学習／教育メディア研究 (e-Learning、映像利用)／小学校英語／テスティング研究 ②外国语学習方略、メタ認知、動機づけなどを自己調整学習の枠組みで説明しようと試みています。また、中・高用の検定教科書の執筆経験を通して、理論や研究成果を実践に生かそうと考えています。 ③(1) 共編著『外国语教育研究ハンドブック-研究手法のより良い理解のために』東京: 松柏社 (2) 単著『より良い外国语学習法を求めて：外国语学習成功者の研究』東京: 松柏社 (3) 共著 <i>Adaptation and validation of self-regulating capacity in vocabulary learning scale</i>. <i>Applied Linguistics</i>, 33, 83-91. ④takeuchi@kansai-u.ac.jp ⑤http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~takeuchi/</p>

①専門分野 ②教育・研究テーマ／志願者へのメッセージ／最近取り組んでいること等 ③主要著書 ④E-mail ⑤HP

名部井 敏代 教授 英語
<p>①社会文化的アプローチの観点を用いた教室内言語学習過程 ②第二言語習得、特に外国語の指導や学習活動と学習者の言語習得の関係を調査研究しています。特に、社会文化理論の枠組みを用いて、学習者のアウトプット(例えば、目標言語での発話や執筆、目標言語でのリーディングやライティング時のメタ言語的発話)と第二言語・外国語学習の過程や成果に関する理解を深めたいと思っています。 ③共著『フィードバック研究への招待: 第二言語習得とフィードバック』東京: くろしお出版 単著『Recasts in a Japanese EFL Classroom (日本の英語教室におけるリキャスト)』大阪: 関西大学出版部 ④tnabei@kansai-u.ac.jp</p>

アンドリュー・バーク 教授 英語 日本語
<p>①語用論／社会言語学／談話分析 ②話者間のアイデンティティ構築や関係維持等に使用される言語的ストラテジーを明らかにすることを中心とした研究を進めている。また、実際の相互作用のデータを用いて、外国語学習者の語用的能力を向上させる方法を探っている。 ③(1) (2018) 単著 <i>Constructing identity in the Japanese workplace through dialectal and honorific shifts Japanese at work: Politeness, power, and personae in Japanese workplace discourse</i> Cook & Shibamoto-Smith (編) Palgrave Macmillan. (2) 2011 単著 <i>Situated functions of addressee honorifics in Japanese television drama. Advances in Sociolinguistics</i>, Davies, Haugh & Merrison (編) Bloomsbury 111~128頁 (3) 2010. 単著 <i>Manipulating honorifics in the construction of social identities in Japanese television drama. Journal of Sociolinguistics</i> 第14巻4号 456~476頁 ④ajbarke@kansai-u.ac.jp</p>

榎本 智子 教授 英語 日本語
<p>①コミュニケーション学／異文化間コミュニケーション ②価値観の多様性を分析し、コミュニケーションへの影響に注目をしている。 ③「非言語」『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろ子編集(創元社) 2000年、『対人関係構築のためのコミュニケーション入門』共著(ひつじ書房) 2005年、『With Respect to the Japanese』 共著 (Intercultural Press) 2011年 ④masumoto@kansai-u.ac.jp</p>

水本 篤 教授 英語
<p>①コーパス研究／語彙研究／言語テスティング／学習方略／研究方法論 ②最近はコーパスの教育利用・ICTの活用を主な研究テーマとしており、アブリケーションやコンピュータ適応型テストの開発を行っています。その他にも、語彙学習方略を中心とした語彙の学習・指導、言語テス、研究方法論など、幅広いテーマを研究の対象としています。 ③(1)『Exploring the art of vocabulary learning strategies: A closer look at Japanese EFL university students』(2010、金星堂) (2)『外国语教育研究ハンドブック—研究手法のより良い理解のために—』(2012、松柏社、共編著) (3)『ICTを活用した英語アカデミック・ライティング指導—支援ツールの開発と実践—』(2017、金星堂) ④matsushi@mizumot.com ⑤http://mizumot.com/</p>

守崎 誠一 教授 英語 日本語
<p>①コミュニケーション行動に与える文化の影響／異文化不適応・適応／文化的価値観／異文化間コミュニケーション能力 ②コミュニケーションに対する文化の影響、異文化適応に影響を与える要因、などについて主として量的な研究手法を用いて明らかにしようとしている。特に近年は、在日留学生の異文化適応や日本企業に向けた就職活動時の不適応／適応問題を研究している。 ③守崎誠一 (2000) 「価値観」『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろ子編集(創元社) 守崎誠一 (2011) 「自己呈示」『現代日本のコミュニケーション研究』日本コミュニケーション学会編集(三修社) ④morisaki@kansai-u.ac.jp</p>

八島 智子 教授 英語
<p>①応用言語学(第2言語習得に関わる情意要因、言語とアイデンティティ)／異文化間コミュニケーション研究(異文化接觸と言語使用) ②外国语でコミュニケーションを図る際の心理の研究、文化心理学的な方法論を用いたアイデンティティ研究、異文化接觸がもたらす言語発達や心理的変化の研究などに取り組んでいます。 ③単著:『第二言語コミュニケーションと異文化適応』多賀出版 単著:『外国语コミュニケーションの情意と動機』関西大学出版 『異文化コミュニケーション論: グローバル・マインドとローカル・エフェクト』松柏社(八島智子・久保田真弓) ④yashima@kansai-u.ac.jp ⑤http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yashima/</p>

山崎 直樹 教授 中国語
<p>①中国語教育(教材設計、学習者のための文法)／中国語学(談話の構造、社会言語学的語用論) ②『外国语学習のめやす: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』に基づく学習プロジェクトの設計、コミュニケーション能力指標に基づく中国語の言語学習資源の構築 ③著書:『辞書のチカラ: 中国語紙辞書電子辞書の現在』(共編著)、論文:「自然言語処理技術の発達が外国语教育にもたらすもの」「権威」の要らない言語学習の可能性: ICTと学習者オートノミー」 ④ymzknk@kansai-u.ac.jp ⑤http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ymzknk/</p>

山田 優 教授 英語 日本語
<p>①通訳翻訳学、翻訳テクノロジー論、翻訳の外国语教育への応用 ②翻訳プロセス研究 (TPR)・翻訳テクノロジー論 (CAT, MT, PE)・外国语教育への翻訳の応用 (TILT)・映像翻訳 (AVT)・翻訳通訳コーパス構築 ③論文 (単著) "The impact of Google Neural Machine Translation on Post-editing by student translators". JosTrans 31, 87-106, 2019. 著書 (共著):「翻訳通訳リテラシー教育のすすめ」『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房、2017 ④yamada@apple-eye.com ⑤http://researchmap.jp/yamada_trans</p>

山根 繁 教授 英語
<p>①英語音声学／音響音声学／発音教育／リズム・イントネーション研究／音声・リスニング教材作成 ②「話しことばの音響・音声分析」、「英語リスニングとスピーキングのメカニズム」、「シャドーイング研究」、「日本人英語学習者の発音上の特徴」、「音声・リスニング教材作成」などが研究テーマです。 ③著書(単著): 2001.『英語音声とコミュニケーション』東京: 金星堂, 234頁 編書: 2007.『ことばと認知のしくみ』東京: 三省堂 (編集委員会、他5名で構成) 407頁 論文(共著): 2016. The time domain factors affecting EFL learners' listening comprehension: A study on Japanese EFL learners. ARELE: Annual Review of English Language Education in Japan, 27, 97-108. ④yamane@kansai-u.ac.jp ⑤http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yamane/</p>

♦ 演習担当教員別指導領域一覧

【前期課程】

研究対象言語	領域	教員名
英 語	外国语教育学領域	池田 真生子
		今井 裕之
		加藤 雅人
		新谷 奈津子
		竹内 理
		名部井 敏代
		八島 智子
	異文化コミュニケーション学領域	水本 篤
		山根 繁
		アンドリュー・バーク
通訳翻訳学領域	異文化コミュニケーション学領域	榎本 智子
		守崎 誠一
		八島 智子
	通訳翻訳学領域	河原 清志
		菊地 敦子
		山田 優

研究対象言語	領域	教員名
日本語	外国语教育学領域	阿南順子
		アンドリュー・バーク
		嶋津百代
		高梨信乃
	異文化コミュニケーション学領域	阿南順子
		アンドリュー・バーク
		榎本智子
中国語	通訳翻訳学領域	守崎誠一
		河原清志
		菊地敦子
	外国语教育学領域	山田優
		玄幸子
朝鮮語	外国语教育学領域	小嶋美由紀
		沈国威
	異文化コミュニケーション学領域	山崎直樹
ドイツ語	外国语教育学領域	高明均
	異文化コミュニケーション学領域	高橋秀彰

【後期課程】

※後期課程には指導領域を設けておりません。

研究対象言語	教員名
英 語	竹内理
	名部井敏代
日本語	山田優
中国語	高梨信乃
朝鮮語	玄幸子
ドイツ語	高明均
ドイツ語	高橋秀彰

心理学研究科

千里山キャンパス

心理学研究科ウェブサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/psy/>**博士課程前期課程**

心理学専攻（入学定員 12名）

心理臨床学専攻（入学定員 15名）設置届出申請中

博士課程後期課程

心理学専攻（入学定員 6名）

認知、社会、発達、健康、計量、臨床を核にした「こころ」についての総合的・教育研究拠点


特色

心理学専攻では、「認知・生理心理学」「社会・産業心理学」「発達・教育心理学」「健康・人格心理学」「計量・方法心理学」の5領域をもとにした包括的な大学院教育を行うことで、心理学全体に目配りしつつ最先端の研究動向にすばやく対応できる研究能力の育成に力を入れます。研究者養成の第一段階を達成するとともに、心理学の知見や方法を用いて地域社会・家庭・学校教育・企業組織・公的サービスなどの現場の問題解決に貢献できる人材の育成をめざします。

心理臨床学専攻では、将来、国家試験に合格し、公認心理師としてさまざまな領域で活躍できる人材の育成を目的にしています。心理的アセスメントや心理面接などの実務技能だけでなく、科学的根拠に基づいた実務を展開できるように、また臨床心理学やその周辺領域の研究職をめざすために必要となる研究・開発のためのリサーチスキルの修得にも配慮した養成課程を開設しています。

博士課程前期課程

心理学専攻

各自の研究を展開しやすい演習型教育を中心に、5領域の特殊講義を配置することで最先端の研究に触れる機会を導入します。また「現代心理学の学際的問題」では、心理学専攻の5領域を軸に置きつつ、最先端の心理学研究を知ることで、自身の研究テーマの深化と研究力の養成をめざします。各領域に共通するリサーチスキル科目をとおして、5領域間あるいはほかの学問分野と連携できる研究能力の養成に力を入れます。

カリキュラム

種 別		心理学専攻
必修科目群	演習・研究指導科目(必修)	心理学セミナー(1)A・(1)B・(2)A・(2)B
選択科目群	演習・研究指導科目	研究チュートリアルセミナー(1)A・(1)B・(2)A・(2)B 心理学オープンセミナー(実習) A・B
	領域科目	認知・生理心理学特殊講義、社会・産業心理学特殊講義、発達・教育心理学特殊講義、健康・人格心理学特殊講義、計量・方法心理学特殊講義
	総合科目	現代心理学の学際的問題A・B
	リサーチスキル科目	英語論文の書き方、心理学論文の読み方と書き方、心理統計法、心理学研究法、上級心理学実習、

研究チュートリアルセミナー(1) A

複数指導体制の一貫として、指導教員以外のセミナーを履修することで、柔軟で幅広い研究視点を得るために、心理学の各領域最新の文献を講読、発表し、授業中の議論をふまえて実験、調査等の研究を計画、実施する。その成果を論文あるいは学会等で発表することを通して、修士論文を作成するための基礎的な知識や研究法を身につけるように指導する。

健康・人格心理学特殊講義

本講義では、健康心理学や臨床心理学の知見を踏まえて、適応や健康を高めるためのさまざまなアプローチを概説し、適応や健康およびその改善法に関する研究の実際や今後の方向性について見ていく。また、人格形成の背景にある人生観、価値観、世界観などの“個人差”について、その心理学的意義を考察する。

心理学オープンセミナー(実習) A

心理学の5領域を学際的に捉えたテーマを設定し、受講生の関心にもとづいてチーム研究を行う。文献の収集、研究のレビュー、研究計画と実施、データの整理、結果の考察等の作業を通して、心理学のチーム研究のノウハウを養う。また、関連する領域のゲストスピーカーを招いて講演とシンポジウムを開催し、討論する力もつけていく。

心理学論文の読み方と書き方

本講義では、教育心理学分野・臨床心理学分野をはじめとした、さまざまな心理学分野の研究論文を読むために必要な知識、視点について議論する。ここで得られる知識や視点は、各自が論文を執筆する際に也有益だろう。本講義では、各回で1つの論文を精読し、議論することで、論文に対する理解を深めていく。また、査読者の視点で論文を読み、指摘することで、書き方に関するスキルを養う。

2018年度修了生 修士論文論題例

- ・職場における対人関係の動機づけと社会適応との関連
- ・発達障害児を育てる日米の日本人母親の成長と変容過程
- ・恥・罪悪感と攻撃性、向社会的行動、抑うつおよび寛容性の関連
- ・大学生における感謝とその人格的基盤
- ・小学校における心の健康のためのプログラムの実践研究
—「元気と自信をチャージする15ミニッツ」を使って—
- ・認知症のVR(Virtual Reality)疑似体験が大学生の認知症への態度に与える影響
- ・中国における2E教育(双重特殊教育)に関する調査
—教師の意識の質的分析によって—
- ・ソーシャルスキルが友人関係満足度と対人ストレスに及ぼす影響
—過剰適応傾向を中心—
- ・性別違和態度尺度(gender dysphoria attitude scale)の開発および中日大学生の性別違和への態度比較
- ・介護職員のリーダー職員に対する被受容感がワーク・モチベーションに与える影響
- ・介護職員の職業観および特別養護老人ホームの施設タイプによる違いの検討
- ・発達につまずきのある子どもへの社会性の支援に関する研究動向

❖ 2020年度 演習担当教員

担当教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①研究テーマ ②研究業績 ③E-mail/HP

【心理学専攻】

阿部 晋吾 教授

- ①社会心理学、パーソナリティ心理学
②「自己愛と攻撃・対人葛藤」小塩真司・川崎直樹(編著)『自己愛の心理学：概念・測定・パーソナリティ・対人関係』167-183頁、金子書房、2011年
「中学生の叱られ経験後の援助要請態度：自己愛傾向による差異」教育心理学研究、第62巻、294-304頁、2014年(共著)
"Does marital duration moderate (dis)similarity effects of personality on marital satisfaction?" Sage Open, 8, 1-7, 2018(共著)
③s-abeb@kansai-u.ac.jp

加戸 陽子 教授

- ①神経発達障害、特別支援教育（障害児心理学）、心理アセスメント
②“Executive function in children with pervasive developmental disorder and attention-deficit / hyperactivity disorder assessed by the Keio version of the Wisconsin card sorting test”『Brain & Development』34、354-359頁、2012年
『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』ミネルヴァ書房、2010年
「発達障害を伴う子どもへの支援に向けた神経心理学的検査の活用」
『月刊実践障害児教育』8月号、23-30頁、2009年
「Williams症候群をともなう小児の教育的支援に向けた認知特性の検討」
『関西大学人権問題研究室紀要』74、19-38頁、2017年
③kado@kansai-u.ac.jp

菅村 玄二 教授

- ①身体性の心理学、構成主義
②『マインドフルネス瞑想ガイド』北大路書房、2013年（編著・訳）
『マインドフルネス：基礎と実践』日本評論社、2016年（分担執筆）
『新版・身体心理学』川島書店、2016年（分担執筆）
『ため息はやる気を高める』心理学研究 第86巻、2016年（共著）
『右に首を傾げると疑い深くなる』実験社会心理学研究 第56巻、2016年（共著）
『ジョージ・ケリーを読む』北大路書房、2017年（監訳）
③genji@kansai-u.ac.jp
<http://sites.google.com/site/sugamurapsychologylounge/>

林 直保子 教授

- ①社会心理学・社会関係資本論
②『絵画鑑賞の社会・心理学的要因に関する計量的研究』関西大学社会学部紀要、第49巻第1号、63-85頁、(共著)、2017年
『社会的信頼学—ポジティブネットワークが生む創発性』ナカニシヤ出版（共著）、2015年
「格差と信頼」関西大学社会学部紀要 第42巻第1号、77-91頁、2010年
③nhayashi@kansai-u.ac.jp

藤田 政博 教授

- ①法と心理学（刑事司法における社会心理学）
② Fujita, M. (2018). *Japanese society and lay participation in criminal justice: Social attitudes, trust, and mass media*. Cham, Switzerland: Springer. (単著、2018年)
『法と心理学』（編著書、法律文化社、2013年）
The psycholinguistic basis of distinctiveness in trademark law. In P. Tiersma & L. Solan (Eds.), *The oxford handbook of language and law* (pp. 478-486). Oxford: Oxford University Press. (共著、2012年)
③m.fujita@kansai-u.ac.jp

細越 寛樹 准教授

- ①ゲシュタルト療法、認知行動療法、効果研究、心理臨床家の成長と養成
②「悲観的思考の受容が対処の悲観者の心身の健康に及ぼす影響」細越寛樹・小玉正博、心理学研究、第79巻、542-548頁、2009年
「感情体験の促進と内的葛藤の解消に対するゲシュタルト療法の効果—準ひきこもりの青年期男性の事例から」心理臨床学研究、第31巻、278-288頁、2013年
「立場の異なる複数の指導者から教わること—主観的感覚を重視した指導者探しー」精神療法、増刊第3号、180-185頁、2016年
「慢性疼痛に対する認知行動療法」ペインクリニック、第39巻(別冊春号)、253-260頁、2018年
③hosogosh@kansai-u.ac.jp

池内 裕美 教授

- ①消費心理学、社会心理学
②『消費者心理学』勁草書房、2018年(共編著)
「溜め込みは何をもたらすのか：ホーディング傾向とホーディングに因る諸問題の関係性に関する検討」社会心理学研究、第34巻、1-15頁、2018年
「モノをため込む心理：誰が、何を、なぜため込むのか？」廃棄物資源循環学会誌、第28巻、186-193頁、2017年
「人はなぜモノを溜め込むのか：ホーディング傾向尺度の作成とアニマズムとの関連性の検討」社会心理学研究、第30巻、86-98頁、2014年
「苦情行動の心理的メカニズム」社会心理学研究、第25巻、188-198頁、2010年
③ikeike@kansai-u.ac.jp

川崎 友嗣 教授

- ①キャリア心理学、キャリア発達研究
②「見合った適職、育てる適職」菅原良ほか（編著）『キャリア形成支援の方法論と実践』281-292頁、東北大学出版会、2017
「PDCAサイクルに基づくキャリア教育の展開—評価について考える—」進路指導（日本進路指導協会）第85巻第1号3-12頁、2012年3月1日
「キャリア形成支援によるフリーターのキャリア自立—支援者へのヒアリングに基づくキャリア自立プロセス・モデル構築の試み—」キャリア教育研究（日本キャリア教育学会）第28巻第2号47-56頁、2010年3月31日
③tomo@kansai-u.ac.jp

関口 理久子 教授

- ①認知心理学、認知神経科学
②「心理調査の基礎」有斐閣、67-86頁、2017年
「自伝的エピソード記憶想起に伴う主観的特性と感情の関係について—自伝的記憶の主観的特性質問紙を用いた検討—」関西大学心理学研究 第3号、15-26頁、2012年
「やさしいExcelで心理実験」（共著者 久本博行）培風館、2011年
「自伝的エピソード記憶検査（Test Episodique de Mémoire du Passé autobiographique, TEMPa）の日本語版作成の試み」関西大学心理学研究、第1号、41-52頁、2010年
③sekiguchi@kansai-u.ac.jp

福島 宏器 教授

- ①生理心理学、身体感覚と感情・意識
②Temporal matching between interoception and exteroception: electrophysiological responses in a heartbeat discrimination task. Journal of Psychophysiology. (共著、印刷中).
「身体を通して感情を知る—内感受感覚からの感情・臨床心理学—」心理学評論、第61巻3号、301-321頁、2018年
Neural correlates of error processing reflect individual difference in interoceptive sensitivity. International Journal of Psychophysiology, 94(3), 278-285, 2014. (共著)
③fukush@kansai-u.ac.jp
<http://www.ipcku.kansai-u.ac.jp/~fukush/index.html>

木戸 彩恵 准教授

- ①文化心理学、質的心理学
②『化粧を語る・化粧で語る』ナカニシヤ出版、2015年
『社会と向き合う心理学』新曜社、2012年（編著）
「かわいい」と感じるのはなぜか？—ビジュアル・ラテイヴによる異種むすび法」質的心理学研究、第15号、4-24頁、2017年（共著）
『文化心理学—理論・各論・方法論』、ちとせプレス、2018年（編著）
③aya@kansai-u.ac.jp

守谷 順 准教授

- ①異常心理学、パーソナリティ心理学、感情心理学
② “Association between social anxiety and visual mental imagery of neutral scenes: The moderating role of effortful control.” Frontiers in Psychology, 8, 2018
“Lost in distractors: Reduced autobiographical memory specificity and dispersed activation spreading over distractors in working memory.” Behaviour Research and Therapy, 94, 19-35, 2017
『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房、2016（分担執筆）
③jmorita@kansai-u.ac.jp

心理学研究科の心理臨床学専攻（設置届出申請中）の詳細については、心理臨床学専攻のリーフレットおよび学生募集要項をご確認ください。設置計画は予定であり、変更になる可能性があります。

心理臨床学専攻

公認心理師の受験資格に必要な科目に加えて、心理臨床の実務能力の育成に関わる、心理的アセスメントや心理面接、地域支援などの技能別科目及び職業倫理観、各領域の行政・法的知識などを培うための科目を配置しています。また実務を科学的根拠に基づいて実践できるように、さらに将来、臨床心理学やその周辺領域の研究職につく可能性も想定し、CSPP（Clinical Science and Psychological Practice）や修士論文作成を通じて、リサーチスキルの育成に配慮した科目を開設しています。本専攻では、心理臨床の実践能力と研究・開発のための能力の育成に関わる科目をバランスよく配置し、実務と研究の架橋に配慮した専門教育を行っています。

カリキュラム

種別		授業科目
科目群	科目系	
研究・開発 科目群	研究・開発科目系（必修）	心理臨床学研究演習1・2・3・4
	リサーチスキル科目系（選択）	臨床心理学研究法、臨床心理学データ解析演習、英語論文講読演習、CSPPプロジェクトA・B、CSPPセミナーA・B
倫理・自己成長科目群	倫理科目系	心理臨床学と関連倫理、心理臨床実践関連法規・行政論
	自己成長科目系	セルフディベロップメント演習
臨床心理専門科目群	公認心理師科目系	保健医療分野に関する理論と支援の展開、福祉分野に関する理論と支援の展開、教育分野に関する理論と支援の展開、司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、心理的アセスメントに関する理論と実践、心理支援に関する理論と実践、家族関係・団体・地域社会における心理支援に関する理論と実践、心の健康教育に関する理論と実践、心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・V
	応用・発展科目系	バーソン・センタード・セラピー演習1・2、心理アセスメント演習1・2、認知行動療法演習、地域支援臨床心理学演習、発達障害臨床特論、精神医学、心身医学

❖ 2020年度 演習担当教員

担当教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①専門分野 ②研究概要・テーマ ③研究業績

【心理臨床学専攻】

池見 陽 教授

- ①心理療法論、フォーカシング・傾聴・マインドフルネス等の心理療法の方法
②人が心理療法という人間関係の中で話していると、生きていることの意味、悩んでいるわけ、など「意味」が生成されます。そのような意味の創造、あるいは、セラピストとクライエントの間で起こる意味の共創の理論を研究しています。心理療法の具体的な実践を現象学的に検討しています。
③Humanistic Psychotherapies: Handbook of Research and Practice 2nd Edition, American Psychological Association, 2016 (分担執筆)
Ikemi, A. (2017). The Radical Impact of Experiencing on Psychotherapy Theory: An Examination of Two Kinds of Crossings. *Person-Centered & Experiential Psychotherapies* 16(2), 159-172.
池見 陽 編著 (2016). 傾聴・心理臨床学アップデートとフォーカシング ナカニシヤ出版 など多数

寺嶋 繁典 教授

- ①臨床心理学（心理アセスメント、投映法）、ストレス・マネジメント
②投映法などの心理検査を用いた臨床心理学的研究、及びストレス・マネジメントや予防の観点からのメンタルヘルスに関わる研究を行っています。
③寺嶋繁典（2014）「家族画から見る子どもの心」臨床描画研究 Vol.29 6-12
寺嶋繁典・松尾彩子・香川香・吉川征延・川端康雄（2017）「健康生成モデルに基づくヘルス・プロモーション・プログラムの開発」関西大学臨床心理専門職大学院紀要 Vol.7 75-82
西藤奈菜子・川端康雄・寺嶋繁典・米田博（2018）「心理検査を用いた青年・成人の軽度自閉スペクトラム症（ASD）のスクリーニングについて」関西大学臨床心理専門職大学院紀要 Vol.8 31-40

脇田 貴文 教授

- ①心理計量学・心理調査
②質問紙法でもちいるLikert法に関する研究を中心に行ってています。心理計量学の視点を活かして、Quality of Lifeの測定、慢性疾患者の「希望」など医学分野における研究、学習に対する動機づけなど教育分野における研究を行っています。
③脇田貴文・栗田宣明・加藤欽志・細野慎一・福原俊一・柴垣有吾（2016）。成人慢性疾患者における「希望」の概念の検討—インタビュー調査（質的研究）を通して— 関西大学心理学研究, 7, 17-32。
酒井貴庸・脇田貴文・設楽 雅代・金澤潤一郎・坂野雄二・園山繁樹（2014）。自閉性スペクトラム障害の障害特性に関する知識尺度(Literacy Scale of Characteristics of Autistic Spectrum Disorder-LS-ASD)の開発 自閉症スペクトラム研究, 12, 19-28, 29
Wakita, T., Ueshima, N., & Noguchi, H. (2012). Psychological Distance between categories in the Likert scale: Comparing different numbers of options. Educational and Psychological Measurement, 72, 533-546.

串崎 真志 教授

- ①臨床心理学・パーソナリティ
②HSP (highly sensitive person/child) という、音・光・匂いなどに高い敏感性をもつ人について調べています。彼らは人にに対する感受性も高く、生きづらいを感じ抱える一方、深く豊かな感覚世界をもつことが知られています。HSP/HSCの理解と支援をテーマに研究しています。
③串崎真志（編著）(2016). 絶対役立つ臨床心理学 ミネルヴァ書房
水野治久・本田真大・串崎真志（編著）(2017). 絶対役立つ教育相談 ミネルヴァ書房
水野治久・串崎真志（編著）(2019). 教育・学校心理学 ミネルヴァ書房

比留間 太白 教授

- ①説明の心理学
②説明に関する研究を中心に行っています。説明を構成する言語を含んだマルチモーダル表現の分析と説明の産出と理解に関わる諸要因の分析を通して、説明実践の構造と過程を検討しています。
③比留間太白 2018 「3章 利用者への説明過程」山本博樹（編著）『公認心理師のための説明実践の心理学』ナカニシヤ出版
比留間太白 2012 「マルチモーダル心理学の構想」関西大学文学論集 第62巻第3号、1-20頁
比留間太白・山本博樹（編著）2007 『説明の心理学：説明社会への理論・実践的アプローチ』ナカニシヤ出版

博士課程後期課程

心理学専攻

後期課程は、認知心理学、発達心理学、社会心理学、応用心理学、臨床心理学を核とする教育・研究領域としつつも、統合的かつ学際的に新たな研究領域を開拓して、現実に有益に対応できる研究を行う人材の育成を行います。博士(心理学)の学位取得はもとより、細分化された専門領域の徹底した深い研究と同時に、心理学研究の本来の目的である、現実の場での幅広い人間の諸行動の研究をめざします。

◆2020年度 博士課程後期課程 専修科目および担任者

担当教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

専修科目	担任者	研究テーマ
心理学セミナー	池内 裕美	消費心理学、社会心理学
	池見 陽	心理療法論・体験過程論
	加戸 陽子	神経発達障害、特別支援教育（障害児心理学）、心理アセスメント
	川崎 友嗣	キャリア心理学、キャリア発達研究
	串崎 真志	地域実践心理学
	菅村 玄二	身体性の心理学、構成主義
	関口 理久子	認知心理学、認知神経科学
	寺嶋 繁典	心理アセスメント・ストレス研究
	中田 行重	ロジャーズ派心理療法
	比留間 太白	言語・記号と心理学
	福島 宏器	生理心理学、身体感覚と感情・意識
	藤田 政博	刑事司法における問題についての応用社会心理学
	脇田 貴文	心理調査法、テスト理論
	細越 寛樹	ゲシュタルト療法、認知行動療法、効果研究、心理臨床家の成長と養成
	守谷 順	異常心理学、パーソナリティ心理学、感情心理学

2018年度修了生 博士論文論題例

- ・フォーカシングの成立と実践の背景に関する研究
—その創成期と体験過程理論をめぐって—
- ・上司・部下関係における信頼と被信頼の心理的効用と相補性
- ・日本人学校における保護者へのメンタルヘルス支援に関する研究
—保護者の内的な資源に着目して—
- ・傾聴における相互リフレキシブモデルの研究

在学生・修了生の声

劉 娟さん

博士課程前期課程 心理学専攻

2017年4月入学 入試種別：外国人留学生

大学院進学の理由

中国と比較し日本の発達障がい者の生活の質の高さに驚き、なぜ彼らの生活の質が高いのかに興味をもちました。そこで日本の大学院で、発達障がい児への指導方法および支援方法を研究することに決めました。

受験のための準備

心理学部出身ではなかったので、まずは加戸陽子先生の元で、外国人研究生として1年間をかけ、心理学の基礎知識を勉強しました。大学院受験に向けては、筆記試験対策として心理学基礎知識に関する本を多数読みました。口頭試問に向けては、自分の研究テーマに関する論文を読んで、今後の課題について調べました。

利用している奨学金制度

大学院1年次には外国人留学生に向けた奨学金を利用しました。また、勉学を優先しつつ、大学内ではTA（ティーチング・アシスタント）やSA（リサーチ・アシスタント）制度を利用し、心理学研究科以外の学生とも一緒に楽しく仕事をしています。またデイサービスのアルバイトでは、発達障がい児と関わるながら貴重な経験をさせてもらっています。

進学を考えている方へのメッセージ

外国人として日本で研究を行うことは難しいと思いますが、心理学研究科の先生や先輩方は皆、親切で優しいです。研究のことだけではなく、生活の悩みにも相談に乗ってくれます。研究生活を支える諸制度も充実しており、『日本語アカデミック・ライティング』などの外国人留学生支援制度があり、とても心強い環境です。

※プロフィールは2019年3月時点のものです。

青木 剛さん

博士課程後期課程 心理学専攻 2016年3月修了

入試種別：一般入学試験 勤務先名：南山大学 人文学部 講師

学位論文題名と概要

題名：フォーカシング的態度に関する研究—その尺度研究と臨床応用について—
概要：これまで多くの実践家によって経験的に論じられていた概念に関して、調査研究と事例研究により検討を行いました。前半は、その概念に関する尺度作成および調査研究から、精神的健康との関連を明らかにしました。後半は、複数の臨床事例のなかで、調査研究で明らかになったことを検討し、臨床に応用できることを論じました。

現在の勤務先・職業を選んだ理由

現在は常勤の大学教員をしつつ、非常勤のカウンセラーをしています。後期課程進学当初は臨床心理士の資格を生かして、臨床現場での経験を十年以上積みながら研究を続けていく中で、大学教員の職に就けたらと考えていました。後期課程在学中にご縁があつて教員採用のお話をいただき、引き続き臨床経験を積みつつ、研究も並行しながら働くということで応募しました。また、大学教員という仕事を通し、自分が研究してきたことを学生に伝えることで、社会に還元できたらと思ったことも、勤務先や職業を選んだ理由の一つです。

進学を考えている方へのメッセージ

自分が研究したい領域の先生はもちろんですが、それ以外の領域の先生方が多くおられるこも大きな魅力だと思います。指導教員以外の先生方の研究や領域についてのお考えに触れて、新たな研究の発想を得ることもありました。また、そうした先生方のところで研究しているほかの大学院生が多いことも魅力です。研究の活力をわけもらったり、いい刺激を受けたりしてきました。もちろん、研究は自身で進めていく必要があるかと思いますが、自分の研究を支える環境も研究を進めていくために大切だと思います。豊かな環境で、より実り多い研究を進めてください。

社会安全研究科

高槻ミューズキャンパス

社会安全研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/

防災・減災を社会安全の総合的観点から 研究する本格的な領域融合的大学院

特色

社会安全問題は、自然災害、事故、環境問題、食の安全、感染症、情報セキュリティなど、人間の安全・安心に係るさまざまな問題群で構成されます。これらの問題群を要因別に見ると、地震や津波など自然現象に起因するものと、運輸事故や環境問題など社会・経済活動に起因するものとに大別されます。前者は自然災害の枠組でとらえるのが一般的です。一方、後者は人間の活動によって引き起こされるという意味で人為的であり、多くの場合において、個々人のみならず組織によって引き起こされることから、社会災害と呼ぶことができます。社会安全研究科では、過去数十年にわたる自然災害に関する防災・減災研究で培われた手法を敷衍して研究教育の柱としつつ、社会災害に含まれる人工物による災害や食の安全、健康リスク、環境リスクなどの問題群も取り扱います。そのために、本研究科では、法学・政治学、経済学・経営学、社会学、心理学、理学、情報学、工学、社会医学などの既存学問分野を融合した研究教育を行います。このような広い学問分野を基盤にして、防災・減災政策の立案と実践、危機発生時の社会的合意形成の技術開発、防災・減災のための制度設計などを担う高度な専門的知識とシミュレーション能力などを有する人材を育成し、安全・安心な社会の実現に寄与します。

研究科の理念

自然災害や社会のあらゆる分野で発生する事故に対処しつつ、私たちが安全で安心して暮らせる社会を実現するには、防災・減災対策や危機管理の推進が極めて重要です。2009年6月にWHOがパンデミック（世界的大流行）を宣言した新型インフルエンザの事例は、国や地方自治体がこの種の課題に対して有効な対策を講じることがいかに難しいか、という問題を提起しています。また、食の安全、企業のデータ改ざん問題などに代表される企業の倫理や社会的責任に関わる問題は、単に経営者のモラルを論じるだけでは再発防止が難しく、その背景にあるガバナンス、法制度、チェック体制、労働政策などを見直し、さらには生き甲斐や働く喜びといった心理的・文化的側面にまで踏み込んだ分析・議論が必要です。

2010年4月に開設された社会安全研究科は、こうした従来の学問体系では対応しきれない問題に正面から取り組む、新しい大学院研究科です。学際的、複眼的なアプローチを通じて、安全・安心な社会を実現することを目標に、高度な研究教育を推進しています。



教育の柱となる領域

社会の安全と安心を確立・維持するためには、自然災害、社会災害について、災害・被害のメカニズムを知り、これらを可能な限り未然に防ぎ、あるいは、そうした災害が発生したとしてもその被害を最小限にとどめ、そして、被害から速やかに立ち直る手立てを講じることが肝要です。防災・減災の理工システム系、社会システム系、人間システム系の3つの領域は、いずれもこれらすべてに関わるものですが、強いてその比重の軽重を比較すれば、防災・減災の理工システム系は災害・被害のメカニズムを解明することで防災・減災に寄与する比重が高く、社会システム系は社会制度設計に関係し、被害からの立ち直りに寄与する比重が高く、人間システム系は災害を減じ、被害を未然に防ぐことに寄与する比重が高いと考えられます。

以上の、3つのシステム系における研究の対象分野、およびこれに対応する既存の学問分野、並びに本研究科の修了生による修士論文、および博士論文のテーマを次ページの表に例示します。

- 公益事業
- 交通システム
- 公衆衛生
- リスクマネジメント
- 消防防災行政
- 灾害経済
- 安全と法システム



- | | | | |
|-----------|-----------|---------------|-----------|
| ●社会減災政策 | ●都市防災 | ●災害心理 | ●ヒューマンエラー |
| ●工学安全システム | ●数理モデル | ●安全心理 | ●水防災 |
| ●水防災 | ●工学システム解析 | ●社会安全思想 | ●災害復旧・復興 |
| ●地震減災 | ●耐震工学 | ●リスクコミュニケーション | ●地震減災 |

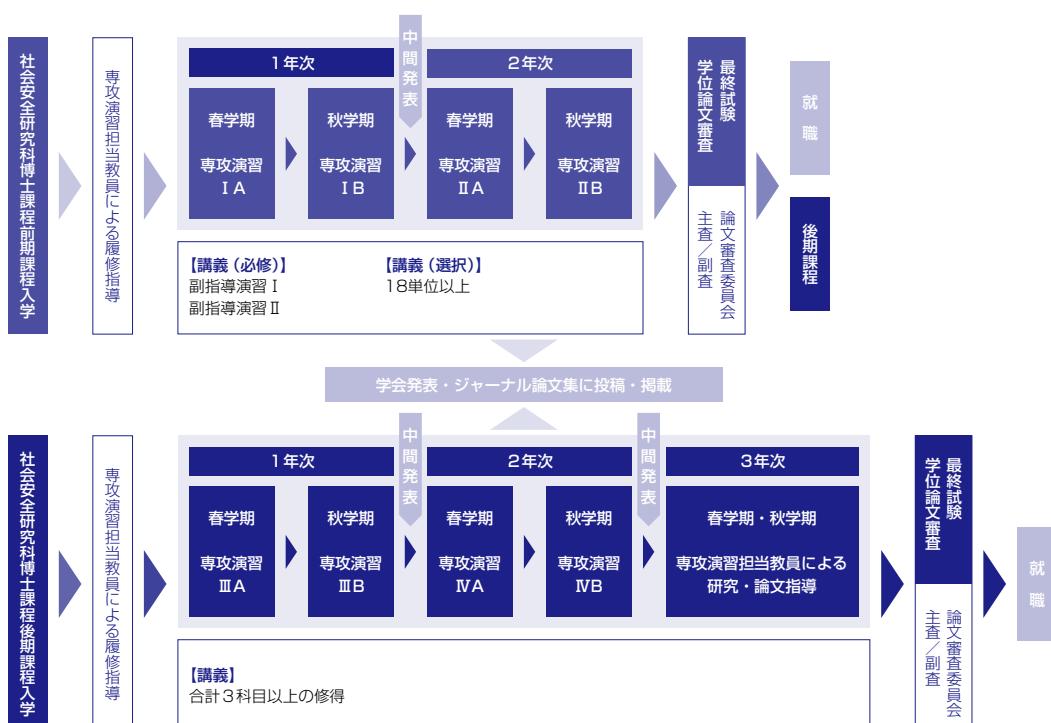
研究の対象分野		対応する既存の学問分野	修士論文テーマ例	博士論文テーマ例
理工システム系	災害・被害のメカニズムを解明し、防災・減災に寄与する理学・工学などの諸分野	・土木工学 ・地球物理学 ・システム工学 ・数理学 など	・沸騰閥連機器の安全設計 ・津波観測データを用いた防災情報の高度化 ・帰宅困難者対策における対応組織論 ・地震災害を対象とした自治体の事前対策 ・災害時の地下空間利用可能性	・津波による土砂移動特性の解析と津波移動床モデルの高度化に関する研究 ・南海トラフ巨大地震による電力供給制約と社会経済的被害軽減対策に関する研究
社会システム系	行政の施策、企業・組織の対策、その根柢となる法、経済、経営及び社会制度	・法学 ・行政学 ・経済学 ・経営学 ・公衆衛生学 など	・交通安全対策の制度考察 ・ソーシャルメディアと企業リスクマネジメント ・国際社会における日本の労働政策 ・高齢者の交通事故防止とその課題 ・遊具事故防止策への提言	・子どもの事故低減のための公園を中心とした遊び場マネジメント ・南海トラフ巨大地震によるわが国の石油精製能力低下にともなう需給支障に関する研究
人間システム系	災害・被害に備えて様々な対処を行う人間の心理や倫理、及び人と人をつなぐコミュニケーション	・心理学 ・社会学 ・倫理学 など	・原子力発電に対するリスク認知と公正感の日中比較 ・大規模災害時に避難所等における炊き出しを含む食糧支援のあり方 ・航空機操縦の技能習熟評価と訓練効果 ・災害発生時における看護師の行動を支える心理的要因 ・リスクコミュニケーションにおける傾聴姿勢が態度変容に与える影響	・災害時要配慮者の避難支援にかかる自治体の事前対策の研究

研究指導の方法

博士課程前期課程では、所属する専攻演習の指導教員の指導のもとに研究を進めます。また、院生は理工システム、社会システム、人間システムの各系から2科目以上の講義科目を履修することで、分野横断的な専門知識を修得するとともに、異分野の方法論も学びます。さらに、副指導演習Ⅰ、Ⅱにおいて、指導教員以外の専任教員からも指導を受けることで、学際融合的な研究を推進します。

博士課程後期課程では、指導教員のもと、博士論文テーマに関するより高度な専門研究を進めます。また、院生は理工システム、社会システム、人間システムの各系から1科目以上の講義を履修することで、自身の専門以外の分野に関しても知見を広げます。指導教員による3年間の継続的な指導により、高度な専門性を有しながら、学際領域を意識した博士論文を作成します。

以上の研究指導の体系を図示すれば、下図のようになります。



課程博士論文題目

卒業年度	氏名	論題	指導教授	専修科目
2014年度	寅屋敷哲也	南海トラフ巨大地震による電力供給制約と社会経済的被害軽減対策に関する研究	河田 恵昭	社会減災政策研究
	松野 敬子	子どもの事故低減のための公園を中心とした遊び場マネジメント	安部 誠治	公益事業と安全システム研究
	森下 祐	津波による土砂移動特性の解析と津波移動床モデルの高度化に関する研究	高橋 智幸	水防災研究
2015年度	吉田 裕	国有鉄道時代における鉄道事故の研究 一ヒューマンファクターの視点から一	安部 誠治	公益事業と安全システム研究
	奥見 文	早期住宅再建につながる地震保険制度に関する研究	河田 恵昭	社会減災政策研究
2016年度	江原 竜二	地震に伴う広域地盤変動を考慮した氾濫リスクに関する基礎的研究	高橋 智幸	水防災研究
	小園 裕司	建物倒壊および災害がれきを考慮した津波被害予測手法に関する研究	高橋 智幸	水防災研究
	門廻 充侍	海洋レーダ等による観測データを活用した津波波源および伝播過程の検知に関する研究	高橋 智幸	水防災研究
2017年度	橋富 彰吾	南海トラフ巨大地震によるわが国の石油精製能力低下にともなう需給支障に関する研究	小澤 守	工学安全システム研究
2018年度	石井 至	観光のリスクマネジメント	亀井 克之	リスクマネジメント研究
	山本 阿子	水理実験と数値モデルによる津波堆積物の予測手法の構築～津波堆積物を用いた波源推定を目指して～	高橋 智幸	水防災研究
	初谷 友希	航空機の基礎的操縦技能の獲得に関する研究	中村 隆宏	ヒューマンエラー研究

❖ 2019年度 演習担当教員 ①教員からのメッセージ ②E-mail ③HP (2020年度演習担当教員については、学生募集要項で確認してください。)

担当教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

理工システム系

一井 康二 教授

前期課程：耐震工学論
後期課程：耐震工学研究

- ①構造物の現況把握に必要な計測技術や地震時の被害を予測する数値解析技術を学び、耐震診断や耐震設計に関して、性能とコストの両面から最適な解決策を議論・提案できる能力の獲得を目指します。日々進化する先端技術を実際の問題に応用していくことに興味があり、文理双方にわたる幅広い知的好奇心のある方を募集します。

②ichiik@kansai-u.ac.jp

川口 寿裕 教授

前期課程：事故のシミュレーション
後期課程：群集安全研究

- ①人ごみの中での歩行者の動きを研究しています。群集事故の予防や駅の混雑緩和などに応用できます。コンピュータ・シミュレーションのためのプログラミングが得意な人、あるいは数学や力学を用いたモデル化が好きな人は大歓迎です。もちろん単に歩行者の行動や心理に興味がある、という人も歓迎します。

②kawa@kansai-u.ac.jp

高橋 智幸 教授

前期課程：水災害論
後期課程：水防災研究

- ①津波や高潮、洪水などの水災害を研究しています。環境問題も時間スケールの長い災害と捉え、自然エネルギー・サンゴ再生なども研究しています。研究方法はシミュレーションや実験、リモートセンシング、現地調査と多岐に渡ります。忙しいが充実した学生生活を送りたい方、将来誇れる研究がしたい方を募集します。

②tomot@kansai-u.ac.jp

③http://www.hdl.muse.kansai-u.ac.jp/

山川 栄樹 教授

前期課程：数理的リスク管理

- ①数理計画法やゲーム理論などのオペレーションリサーチの手法、確率論や統計解析、微分方程式などを用いて、自然現象や社会現象を数学的にモデル化し、これを解析的にあるいはコンピュータを用いて数値的に解くことによって、さまざまな意思決定問題を合理的に解決することに興味ある方を求めています。

②eiki@kansai-u.ac.jp

河野 和宏 准教授

前期課程：情報セキュリティ論

- ①情報セキュリティをテーマに研究しており、主にプライバシーも含めたデータの利活用の方法を技術的側面から検討しています。また、情報教育の研究にも力を入れています。論理的思考をもって問題に取り組める方、工学系ということもあり、情報の数学的知識・プログラム知識を持って取り組める方を募集します。

②k-kono@kansai-u.ac.jp

③http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~k-kono/

社会システム系

安部 誠治 教授

前期課程：公益事業論
後期課程：公益事業と安全システム研究

- ①日本では毎年、約4万人の人々が事故で命を失っています。重大な組織事故が起こると、社会が被る被害も甚大なものになります。事故防止と事故による被害の軽減は、安全・安心な社会を創造する上で最も重要な課題の一つです。大学院での専門研究を通して、是非、安全・安心の実現に挑戦して欲しいと思います。

②sabe@kansai-u.ac.jp

高鳥毛 敏雄 教授

前期課程：公衆衛生政策論
後期課程：健康安全研究

- ①人々の生活と健康に幅広く関係している感染症や食品の安全に関わる領域を中心に学生を求めます。この領域は学際的な分野となっています。社会の制度や法律の問題、健康政策、企業活動、社会のグローバル化問題も関係しています。健康の保護や安全に総合的に取り組みませんか。

②t_toshio@kansai-u.ac.jp

小澤 守 教授

前期課程：安全設計論
後期課程：工学安全システム研究

- ①現在の社会は多くの高度に発展したプラント、機器によって支えられています。それらを構成する個々の要素の特性を把握したからと言って、全体が分かるわけではありません。むしろ状況によっては極めて複雑な挙動をします。小澤ゼミでは原発や火力発電における様々なトラブルを対象に実験や調査を行っています。

②ozawa@kansai-u.ac.jp

越山 健治 教授

前期課程：都市災害対策論
後期課程：都市防災研究

- ①災害や事故が頻発する中、都市や地域は日々変化し続けている。危険の不確実性が増す中で、私たちは新たな備えを作り出していかなければならない。最新の都市計画や地域計画、行政対応計画の理論とその実践を駆使した研究を通じ、次世代の安全社会の創造にチャレンジし、その道を切り開く意欲のある人材を求む。

②k-koshi@kansai-u.ac.jp

林 能成 教授

前期課程：防災地震学

- ①地震学者は日本中にかなりの数がいるが、その中で発生メカニズムを理解したうえで防災・減災に取り組もうという研究者は少ない。これは地震学が伝統的に理学部に所属してきたことによる。メカニズム解明だけの地震学にあきたらず、人や社会との関わりまで扱う地震学へと発展させる研究に取り組んでいます。

②yhayashi@kansai-u.ac.jp

奥村 与志弘 准教授

前期課程：総合防災・減災学

- ①南海トラフ巨大地震や首都直下地震、スーパー台風などの巨大災害の発生を見据え、人的被害最小化のための諸課題に取り組みます。理論的解析的な研究に加え、フィールドを重視した実践的な研究も行います。また、巨大災害は発生頻度が低いため、グローバルな視点で国外の事例も研究対象とします。

②okumura@kansai-u.ac.jp

小山 倫史 准教授

前期課程：地盤災害論
後期課程：地盤災害研究

- ①地震・降雨に起因する地盤災害（地すべり、斜面崩壊、落石など）、社会インフラの長寿命化にむけた地盤・岩盤構造物の維持・管理といったテーマについて、実験、数値解析、計測・モニタリングを組み合わせて研究しています。文系・理系の枠にとらわれず、総合的に問題を解決できる人材の育成をめざしています。

②t-koyama@kansai-u.ac.jp

亀井 克之 教授

前期課程：リスクマネジメント論
後期課程：リスクマネジメント研究

- ①リスクマネジメント（RM）の現代的課題を研究する。

(1) リスクコントロールとリスクファイナンス、(2)企業におけるRMの組織体制作り、(3)企業によるリスク情報の開示、(4)経営戦略とRM、危機管理とリーダーシップ、(5)RMの国際比較、(6)中小企業RM、(7)地域社会とRM、学校の危機管理・子どもの安全など。

②kamei@kansai-u.ac.jp

③http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~kamei/

高野 一彦 教授

前期課程：企業法学
後期課程：安全と法システム研究（私法）

- ①企業を取り巻く法は直近10年程の間に大きく変化しました。高野研究室では、比較法的なアプローチから、プライバシー・個人情報や営業秘密等の情報法、コーポレート・ガバナンスや内部統制等に係る企業関係法を研究し、わが国の法制度への提言を行うとともに、企業のコンプライアンス体制、ひいてはCSR経営のあるべき姿を探究します。

②takano@kansai-u.ac.jp

③http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~takano/

社会システム系

永松 伸吾 教授

前期課程：事故・災害の経済分析と公共政策
後期課程：安全と経済システム研究

①減災政策研究室では、巨大災害リスクと折り合いながら人類社会が持続的に発展する政策について、主に経済学の立場から研究しています。防災・減災・復興・テロ・大規模事故などに関わる政策的なテーマであれば何でも扱います。実証的根拠に基づく政策提言に興味がある学生を募集しています。

②nagamatu@kansai-u.ac.jp

③http://semi.disasterpolicy.com/wordpress/

山崎 栄一 教授

前期課程：政策法學
後期課程：安全と法システム研究（公法）

①安全・安心の確保は国や自治体に第一義的に課せられた役割であり、さまざまな法制度が存在しています。そういった法制度がどのように機能しているのかを調査・分析し、私たちにとって望ましい法制度が何なのかを考えています。単に、法制度を理解するだけではなく、自ら創造していくという発想が不可欠です。

②yeiichi@kansai-u.ac.jp

③http://www.eiichiyamasaki.com/

近藤 誠司 准教授

前期課程：災害情報論

①災害対応において、情報は「命綱」となるものです。命を守り救うためには、どのようにして情報にアリティを持たせたらよいのでしょうか。私の研究室では、実際の現場でアクション・リサーチをおこないながら、多様なアプローチの妥当性を検討していきます。理論と実践、両方に関心がある人は扉を叩いてください。

②kondo.s@kansai-u.ac.jp

③http://kondoseiji.main.jp/

人間システム系

辛島 恵美子 教授

前期課程：安全の思想：現代安全問題の総合的構造研究
後期課程：安全学構築研究

①伝統的な安全の捉え方、発想等に疑問あるいは満足し難く、より深く考えたい人を歓迎します。現代の科学技術文明は大転換期にあり、先の時代をも見通して考える必要があるからです。そのためには安全概念、歴史的文化的な見方の再検討が必要であり、それらを適切に支える社会の仕組み等の再検討もめざします。

②kanoshim@kansai-u.ac.jp

中村 隆宏 教授

前期課程：ヒューマンエラー論
後期課程：ヒューマンエラー研究

①科学技術の進展および社会システムの巨大化・多様化・複雑化に伴い、人の判断・行為・行動が事故・災害の発生と防止に及ぼす影響は、より深刻かつ重要になっています。当研究室では、様々な産業現場のほか、交通行動（自動車・航空機・船舶等）などを対象に、「人」に関わる安全を研究テーマとします。

②t_naka@kansai-u.ac.jp

岡本 満喜子 准教授

前期課程：事故調査制度論

①事故防止に必要な取組を、人がミスをする原因の分析と、原因究明を実効的に行い再発防止につなげる社会制度という2つの側面から検討します。ヒューマンエラーの発生メカニズム、また、犯したミスに対しどのような責任追及を行うことが事故防止に資するのかという制度設計に興味のある人を歓迎します。

②okamotom@kansai-u.ac.jp

菅 磨志保 准教授

前期課程：支援と復興の社会学

①災害社会学の知見に学びながら、災害・事故への備えと対応に関する諸活動（地域防災活動、救援・復旧活動）や、災害後の地域社会の長期的な変容について、現地調査と資料解析に基づく研究を進めています。調査は地道な努力が求められますが、社会の仕組みを解読してみたい好奇心あふれる人を募集します。

②sugam@kansai-u.ac.jp

西村 弘 教授

前期課程：交通論
後期課程：交通システム研究

①社会における交通の意義を再確認し、その交通が社会に負担させる広義の「コスト」を研究しています。研究対象に個人的問題意識をもつのは当然ですが、広い視野をもって先行研究の到達点と課題を整理することが必要です。その上で、なお「未知」なる課題の発見とその解明に意欲を燃やす人材を求めています。

②h-nishi@kansai-u.ac.jp

桑名 謹三 准教授

前期課程：保険論

①防災・減災の視点に立ちながら、保険（たとえば、環境汚染に備える保険や自動車事故に備える保険など）を使った政策について研究しています。また、企業経営における保険の有効な活用方法も模索しています。他の大学では見られない本研究室の特徴は、保険の公共経済学的な分析もしていることです。

②kinzou@kansai-u.ac.jp

永田 尚三 准教授

前期課程：防災行政学・危機に対する公共政策学

①本研究室では、行政学、政治学、公共政策論を土台に、防災・減災に向け行政組織等がどのような体制・政策で対応すべきかについて研究を行っています。現地調査や、統計データを用いた分析は本研究室では欠かせません。現実社会の問題の所在を明らかにし、実際に解決できる人材の育成をめざしています。

②s_nagata@kansai-u.ac.jp

土田 昭司 教授

前期課程：リスク心理学
後期課程：安全心理学

①社会心理学の立場から危険や危機に対する人間の対応について研究します。人には心があるので、災害や事故の危険や危機への人間の対応には社会心理学的な理解が必要です。それは、災害に遭った後の精神的健康についても同様です。心理学実験や社会調査などをもちいて研究を進めることに関心がある人を募集します。

②tsuchida@kansai-u.ac.jp

③http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tsuchida/

元吉 忠寛 教授

前期課程：防災心理学

①私の研究室では、社会安全や災害に関するさまざまな問題について、心理学的なアプローチによる研究をしています。進学を希望する学生は、私のWEBページで研究内容などを確認してみてください。自律的で忍耐強く、努力を惜しまない学生を積極的に受け入れています。ぜひ一緒に楽しく、よい研究をしましょう。

②motoyosi@kansai-u.ac.jp

③http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~motoyosi/

城下 英行 准教授

前期課程：防災教育論

①防災をテーマにした学習に関する理論的、実践的研究を複数のフィールドの協力の下に行っています。防災学習とはいがなる活動であるのかどうかを深く思考し、その実現に向けて積極的に取り組みたいと考える方を歓迎します。研究では、理論と実践のバランスを重視しています。

②hideyuki@kansai-u.ac.jp

東アジア文化研究科

千里山キャンパス

東アジア文化研究科ウェブサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/eas>

博士課程前期課程

文化交渉学専攻（入学定員 12名）

博士課程後期課程

文化交渉学専攻（入学定員 6名）

グローバルに活躍できる研究者および高度な専門職業人を養成する東アジア文化研究の国際的ハブ

特色

21世紀に入って、東アジア諸国は相互依存の度合いを一層強めつつある。それにもかかわらず、諸国間で感情的摩擦が表面化するのは、他国文化に対するスタンスの未成熟があると考えられる。これを解決するには、自他の文化を優劣や強弱の尺度から評価するのではなく、一国文化をグローバルな視点から把握する視座と手法の確立が求められる。東アジア文化研究科は、一国文化主義的発想を脱却し、東アジア文化を絶えざる他者との交渉の連鎖によって形成された複合体としてとらえる文化交渉学の視点に立ち、東アジアにおける文化交渉の諸相を人文学諸分野から動態的・複合的に分析して、東アジアの文化研究を大きく転換するとともに、それを共有する国際的人材を育成することをめざす。

東アジア文化研究科の教育研究の柱となる文化交渉学とは、東アジアという一定のまとまりのなかでの文化生成、伝播、接触、変容に注目しつつ、トータルな文化交渉のあり方を複眼的で総合的な見地から解明しようとする学問である。そこでは、従来の人文学の学問分野ごとの研究枠組の越境と、ナショナルな研究枠組の越境が求められる。東アジアの文化交渉の全体像を把握する方法を身につけ、国境を越えて東アジア全体を多様な文化接触の連鎖として認識する視座を養うことを目的としている。

本研究科は2011年4月に開設された新しい研究科であるが、その母体となった文化交渉学専攻は、グローバルCOEプログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成」の採択に伴って2008年4月から始動しており、新たな人材育成の拠点として充実した成果をあげてきた。とりわけ、大学院生の研究発信力の強化に力を注ぎ、海外での研究報告や外国語での成果発表にめざましい実績を残してきた。その実績が評価されて2012年度文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援事業」に採択されるほか大学院生独自の論集を刊行するなど、きわめて恵まれた研究環境を実現している。さらに、優れた博士論文に対しては、単著として刊行することも可能な助成事業も独自に行っている。

デュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）について

2015年度より、韓国・嶺南大学校大学院東アジア文化学科との間でデュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）が開始された。関西大学から嶺南大学校に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学から修士（文化交渉学）、嶺南大学校から東アジア学修士の学位が授与される。

留学生の受入れ

本研究科では多様な入試制度を用意し、本研究科の理念・目的・教育目標の実現にふさわしい学力をもつ優れた人材を迎えており。特に、国際化する教育・研究の実質化をはかり、国際的な視野を持つとともに学際的な研究能力を身につけた学生を育てることを目標とする本研究科では、前期課程・後期課程ともに定員の約半数を留学生定員と位置づけ、外国人留学生入学試験および外国人留学生特別推薦入学試験による、特に東アジア各国からの留学生の募集に重点を置いている。

秋学期入学者について

本研究科の入学時期は原則として毎年4月であるが、セメスター制のメリットをいかし、外国人留学生、社会人および一般を対象に秋学期入学者の募集を行っている。研究科委員会が必要かつ適切と認めた者（若干名）の入学を許可し、春学期入学者と同様の体系的教育を受けられるよう十分な配慮を行っている。

修了要件

博士課程前期課程では、必修科目（演習）から8単位、領域選択科目A群から2単位、領域選択科目B群2単位を含む32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および試験に合格することとしている。

博士課程後期課程では、指導教員の担当する必修科目（演習）12単位を含めて16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格することとしている。

修了後の進路

前期課程修了者は、後期課程へ進学するか、あるいは各種の教員、公務員、そして企業などへの就職をめざす。いわゆる高度専門職業人の育成を図っている。

後期課程修了者は、課程博士の学位を修得し、大学をはじめとする各種の教育研究機関で活動する研究者および国際交流の場で活躍できる高度専門職業人の育成を図っている。留学生については、すでに実績があるように、海外の大学や研究所等に積極的に送り出すことをめざしている。

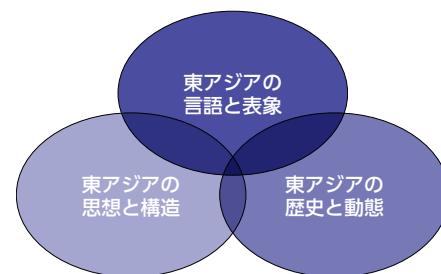
コアカリキュラム

本研究科では、東アジア文化を研究するための基本的視角として、「東アジアの言語と表象」、「東アジアの思想と構造」、「東アジアの歴史と動態」の3つの研究領域を設定している。本研究科の学生は、これら3領域のいずれかに自らの研究の基盤となる研究課題を設定し、そこから分野・地域の越境による展開を試みる。履修にあたっては、指導教員を含めた集団指導体制のもとで、個々の学生の研究課題とその後の展開を考慮し、事前に入念な履修指導を行う。

●各領域の担当教員

東アジアの言語と表象	内田 廉市（前期課程・後期課程） 奥村佳代子（前期課程・後期課程） 中谷 伸生（前期課程・後期課程）
東アジアの思想と構造	吾妻 重二（前期課程・後期課程） 陶 徳民（前期課程・後期課程） 二階堂善弘（前期課程・後期課程）
東アジアの歴史と動態	篠原 啓方（前期課程・後期課程） 藤田 高夫（前期課程・後期課程） 池尻 陽子（前期課程・後期課程）

コアとなる研究領域と複合的科目の有機的連動



●必修科目

研究指導を行う演習科目	前期課程	文化交渉学演習 (1) A・(1) B・(2) A・(2) B
	後期課程	文化交渉学研究 演習 (1) A・(1) B・(2) A・(2) B・(3) A・(3) B

●領域選択科目

前期課程・後期課程合併の講義科目	
東アジア文化資料研究A・B (言語と表象) (思想と構造) (歴史と動態)	文化交渉学領域研究A・B (東アジアの言語と表象) (東アジアの思想と構造) (東アジアの歴史と動態)

●共通科目

文化交渉学概論A・B 文化交渉学資料調査論 文化交渉学特殊研究A・B アカデミック外国语A・B（各語種） その他多様な講義科目*

※詳細は以下「文学研究科総合人文学専攻との共通科目の活用」参照

文学研究科総合人文学専攻との共通科目の活用

既存の学問分野の実績を取り入れることを考慮し、文学研究科総合人文学専攻の下に設置されている多様な共通科目を本研究科でも活用できるように、カリキュラムを構成している。

共通科目（博士課程前期課程）			
上代文学研究 A および B	インド哲学・仏教学研究 A および B	日中交渉史研究 A および B	日本学フィールドワーク (1) 日本学フィールドワーク (2)
中古文学研究 A および B	宗教文化研究 A および B	東西交渉史研究 A および B	EU-日本学講義 (1) EU-日本学講義 (2)
中世文学研究 A および B	宗教人類学研究 A および B	文化人類学研究 A および B	日本学術コミュニケーション・トレーニング (1) 日本学術コミュニケーション・トレーニング (2)
近世文学研究 A および B	東洋美術史研究 A および B	世界史学史料研究 A および B	KUワークショップ (1) KUワークショップ (2)
近代文学研究 A および B	日本美術史研究 A および B	中国文学及文学史 A および B	EUワークショップ (1) EUワークショップ (2)
国語学研究 A および B	史学史研究 A および B	中国哲学及哲学史 A および B	大学院英語 (1) 大学院英語 (2)
日本古典籍書誌学研究 A および B	日本古代中世史研究 A および B	中国語学及語学史 A および B	寄附講座（各テーマ）
日本近世文学書誌学研究 A および B	日本近世近代史研究 A および B	中国学研究 (1) A および B	日本語教育実践研究 A および B
日本近代文学書誌学研究 A および B	日本現代史研究 A および B	中国学研究 (2) A および B	
日本地域文学研究 A および B	考古学研究 A および B	中国語科教育法研究 A および B	
古代国語史研究 A および B	民俗学研究 A および B	中国文献学 A および B	
近代国語史研究 A および B	文化遺産学研究 A および B	人文地理学研究 A および B	
日本漢学 A および B	伝統文化学研究 A および B	歴史地理学研究 A および B	
宗教学研究 A および B	東アジア史研究 A および B	地誌学・地理教育研究 A および B	
日本思想研究 A および B	西アジア史研究 A および B	文化地理学研究 A および B	

共通科目（博士課程後期課程）			
上代文学特殊研究 A および B	日本近世近代史 A および B	中国文学特殊講義 (2) A および B	日本学学術コミュニケーション・トレーニング (4)
中古文学特殊研究 A および B	考古学 A および B	中国哲学特殊講義 (1) A および B	KUワークショップ (3)
中世文学特殊研究 A および B	民俗学 A および B	中国哲学特殊講義 (2) A および B	KUワークショップ (4)
近世文学特殊研究 A および B	東洋史 A および B	中国語学特殊講義 (1) A および B	EUワークショップ (3)
近代文学特殊研究 A および B	日本史特殊研究 (1) A および B	中国語学特殊講義 (2) A および B	EUワークショップ (4)
比較宗教学研究 A および B	日本史特殊研究 (2) A および B	歴史地誌学特殊研究 A および B	大学院英語 (3)
美学・美術史研究 A および B	東洋史特殊研究 A および B	文化地理学特殊研究 A および B	大学院英語 (4)
比較宗教学特殊研究 A および B	考古学特殊研究 A および B	日本学フィールドワーク (3)	寄附講座（各テーマ）
美学・美術史特殊研究 A および B	民俗学特殊研究 A および B	日本学フィールドワーク (4)	
日本古代中世史 A および B	中国文学特殊講義 (1) A および B	日本学学術コミュニケーション・トレーニング (3)	

❖ 2020年度 演習担当教員

担当教員に変更が生じた場合には、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

①研究テーマ ②研究分野 ③研究業績 ④E-mail/HP

文化交渉学 (東アジアの言語と表象)	内田 延市 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①東西言語文化接触研究・中国語学 ②言語は人の表現の一つであり、言語の背景には「文化」があるという基本的な言語観に立って、東西の言語文化接触における様々な事象を明らかにする。 ③『近代における東西言語文化接触の研究』(2001)、『文化交渉学と言語接触—中国言語学における周縁からのアプローチ』(2010)など多数。 ④u_keiichi@mac.com
	奥村佳代子 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①東アジア周縁資料における中国語研究・唐話研究 ②17世紀以降を中心とした日本・琉球・朝鮮の中国語学習と中国語の受容の実態を、辞書類、文学作品、教材、行政文書等を対象に探る。個々の資料を丹念に読み解き、中国語の受容を明らかにすることをめざしている。 ③『関西大学図書館長澤文庫所蔵唐話課本五編』(関西大学東西学術研究書資料叢刊30、2011.3)、「龜田鵬斎と『海外奇談』」(2010)、「清代雍正期檔案資料の供述書」(2017)など。 ④aoacun@kansai-u.ac.jp
文化交渉学 (東アジアの思想と構造)	吾妻 重二 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①東アジアの思想と文化、儒教史・儀礼史・書院・私塾とその教育 ②東アジアの思想と宗教がフィールド。中国近世儒教史の研究から出発して東アジア文化の多様性に着目し、現在は中国のほか韓国や日本、ベトナムの儒教、儀礼、祭祀、教育などについて精力的に研究している。 ③『朱子学の新研究』(創文社、2004)、『馮友蘭自伝—中国現代哲学者の回想』1・2(訳注、平凡社、2007)、『泊園書院歴史資料集—泊園書院資料集成1』(関西大学出版部、2010)、『朱子家礼と東アジアの文化交渉』(共編、汲古書院、2012)など多数。 ④azumaj@kansai-u.ac.jp
	陶 徳民 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①内藤湖南と近代日中のアジア主義；リンクーと東アジア ②近世近代の日本漢学思想(朱子学系・徂徠学系；懷德堂・泊園書院)；日中文化交流史(漢籍・書法・人物など) 近代東アジア国際関係史(日中・日米・中米) ③『懷德堂朱子学の研究』(1994)、『日本漢学思想史論考—徂徠・仲基および近代—』(1999)、『明治の漢学者と中国—安繹・天囚・湖南の外交論策—』(2007)、『日本における近代中国学の形成—漢学の革新と同時代文化交渉』(2017)など。 ④demintao@hotmail.com
	二階堂善弘 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①東アジアの民衆文化、道教史、アジアの民間信仰における文化交渉 ②中国の民間信仰や道教の信仰が、日本・東南アジアなどアジア各地でどのように伝わり、受容・変容・衰退していくかを探る。また香港や台湾における信仰のあり方について調査を行う。 ③『道教・民間信仰における元帥神の変容』(関西大学出版部)、『明清期における武神と神仙の発展』(関西大学出版部)、『アジアの民間信仰と文化交渉』(関西大学出版部) ④nikaido@kansai-u.ac.jp http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~nikaido/
文化交渉学 (東アジアの歴史と動態)	篠原 啓方 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①古代朝鮮の外交・制度史、東アジアの碑石文化、韓国・朝鮮文化、韓国現代文化事情 ②朝鮮の金石文資料を中心に、高句麗の对外関係、新羅の制度について研究する一方、文化交渉の視点から、東アジア地域の碑石資料を収集している。最近は韓国の現代文化にも関心を寄せている。 ③『東アジアの亀趺の受容と変容—韓国・日本・中国・ベトナムの例をてがかりに—』(2011)、「統一新羅の禪僧碑と王権」(2015)、「南山新城碑冒頭文の解釈と新羅の『法』」(2017) ④shino@kansai-u.ac.jp
	藤田 高夫 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①東アジアの歴史と文化、東アジア古代交渉史、中国出土史料研究、近代学術形成史 ②中国における国家制度の形成と発展、および東アジア世界における展開と相互の関連性を、出土史料を併用して研究している。また近年は、東アジアにおける近代学術としての歴史学の形成を比較する新領域を開拓中。 ③『東アジア史をめぐる言説について』(2017)、「林泰輔の中国上代研究」(2016)、「漢代における軍費推算の資料と方法」(2016)、『東アジア木簡学のために』(2014)、「蜀の学堂—漢代成都の郡国学」(2013)など ④tfujita@kansai-u.ac.jp
	池尻 陽子 (前期課程) (後期課程)	<ul style="list-style-type: none"> ①近世東アジア(ユーラシア東部)の歴史と動態、チベット仏教文化圏の交渉史、清朝のチベット仏教政策史研究 ②チベット仏教文化圏(主にチベット・モンゴル・中国)の交渉史を、チベット語・モンゴル語・満洲語・漢語など多言語多系統の史料を用いて研究している。最近は、チベット・モンゴル・中国の境界である青海東部のチベット仏教寺院ネットワークに注目している。 ③「成立初期の清朝におけるアムドの寺院と僧たち」(『日本西藏学会会報』58、2012)、『清朝前期のチベット仏教政策—扎薩克喇嘛制度の成立と展開—』(汲古書院、2013)など。 ④yikejiri@kansai-u.ac.jp

論文題目例

修士論文

The Chinese Repository (『中国叢報』)における宣教師の中国語研究について／泊園書院における『中庸』学の展開—朱子学・徂徠学との関係を中心に／中国におけるイメージナレーション—『澄衷蒙学堂字課圖說』を中心に—／清末中国における日本製紙幣導入の研究—総督張之洞・袁世凱・岑春煊を中心に—／中国広西チワン族民間信仰における女神ムロッカの神格研究／近代漢越語の研究—『南風雜誌』の語彙付録を中心に—／近世東アジアにおける華夷思想研究／菱田春草研究—日本美術院の理想をめぐって—／台湾・韓国歴史教科書の比較研究

博士論文

近代韓国における儒教の展開—経学院を中心に／19世紀德国伝教士羅存徳及其《英華字典》の研究／柳宗悦における《朝鮮の美》と文化交渉／江戸時代唐船齋来法帖の研究／17-20世紀におけるタイ国華人の研究／東アジア仏教における多羅信仰と文化交渉／『古新聖經』の研究／土田麦僊—歐米巡礼とイタリア美術受容—

出版助成図書

※助成金を獲得し出版された
学位論文

日本近世における楽律研究—『律呂新書』を中心として／京城帝国大学における近代韩国儒教研究の展開／青木繁論—世紀末美術との邂逅—／「文化漢奸」と呼ばれた男—万葉集を訳した錢稻孫の生涯／「文法草創期」における中国人の中国語研究／徂徠学派における『老子』学の展開—文化交渉学の視点から

在学生・修了生の声

朱 紅軍さん 博士課程後期課程 文化交渉学専攻
2018年4月入学 入試種別：外国人留学生入学試験

大学院進学の理由と本学を選んだ理由

日本の歴史研究の理論と方法を身につけるため、日本の大学院に進学することにしました。関西大学東アジア文化研究科は一国文化主義的発想を脱却し、文化交渉学の視点に立ち、国際的人材を育成していると聞き、私の進学の第一志望となりました。

受験のための準備

自分のテーマに関する研究史を整理し、進学後の計画を立てました。また試験対策として、過去問題を入手して勉強しました。

志望の指導教員に事前連絡・相談しましたか

メールでやりとりし、一度面談をしました。篠原啓方先生からは、関西大学および東アジア文化研究科の現状や、私の研究に関する中国・日本・韓国の資料や研究の現状について詳しく分析していただきました。

進学を考えている方へのメッセージ

東アジア文化研究科では、国籍にかかわらず、様々な人たちが新しい研究方法を使って、文化交渉学を研究しています。一緒にここで挑戦してみませんか。

ファン ラム ミー キムさん 博士課程前期課程 文化交渉学専攻
2018年4月入学 入試種別：留学生別科推薦試験

受験のための準備

大学院に進学するため、まず大事なことは研究計画書を作成することだと思います。研究計画書を作成するため、もちろん日本語をしっかり勉強する必要があります。研究したいことについての資料を収集して、読んだ方がいいと思います。私の経験からすると、専門の知識を獲得してから、研究したいことを絞り、出来るだけはっきりであり、出来るだけ具体的な研究計画書を書きました。

志望指導教員の見つけ方

研究計画書が完成した後で、自分が研究したいことを研究している教授を探します。先生が学生を受け入れるかどうか、研究計画書の内容によって判断がわかるのではないかでしょうか。研究したいテーマが先生の専門分野に合わない場合、断られてしまう可能性が高くなると感じていたので、私も指導教員を探す際は注意していました。

教員へのコンタクトや受験準備

研究科のページに記載している教員情報を調べて、連絡しました。実際に面談した際は、私の研究したいことをお伝えし、先生からは研究に関するアドバイスをしていただきました。試験のための事前準備ができ、安心できました。

進学を考えている方へのメッセージ

「文化」という言葉は幅広い意味を持っている言葉ですので、東アジア文化研究科ではさまざまな専門の学生が活躍しています。よって、知識のみならず、自身の価値観も広がります。また、自分の研究したいことだけでなく、数多くの興味深い授業を受けられます。さらに、海外の学会に行くチャンスもたくさんありますので、進学をお考えの方はぜひご検討ください。

葛 云云さん 博士課程前期課程 文化交渉学専攻
2018年3月修了 入試種別：外国人留学生入学試験
勤務先名：倉敷紡績株式会社

大学院進学の理由と本学を選んだ決め手

中国の大学を卒業し、さらに自分の視野を広げるために日本へ留学することを決意しました。まず日本語学校で日本語を勉強し、その後大学院に進学することを考えました。そして関西大学大学院主催の進学説明会に参加し、東アジア文化研究科の国際的な研究視点と、海外での研究発表の機会の豊富さに惹かれて、進学することを決めました。

指導教員とのエピソード

東アジア文化研究科のウェブサイトを閲覧し、自身の研究に関連する藤田高夫先生のページを熟読して、志望しました。事前に藤田先生と連絡をとり、直接面談するお時間をいただきました。面談では、私の進学動機や学問的関心について丁寧に聞いていただき、藤田先生の人柄を感じました。

現在の勤務先や職業を選んだ理由

現在の会社は、繊維事業や化成品事業に取り組む総合メーカーで、南米やアジアを中心に海外展開をしています。大学院を卒業後は、母国で就職するのか、それとも日本で就職するのかを迷っていましたが、大学院で学んだことや経験したことを踏まえ、じっくり考えて、日本で就職することを決意しました。留学前より、日本のものづくりに興味がありましたので、就職活動では、方向性を明確に決めて行いました。

進学を考えている方へのメッセージ

東アジア文化研究科には、さまざまな分野の先生が在籍されており、研究資料の量・質ともに豊富で、研究する環境が整えられています。さらに海外学会で発表する機会も多くあり、違う国籍や違う分野の先生、学生と交流するチャンスも多いです。多分野からの刺激を受けて自身を成長させることができる非常に良い環境だと思います。

畠野 吉則さん 博士課程後期課程 文化交渉学専攻
2018年3月修了 入試種別：一般入学試験
勤務先名：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 アソシエイトフェロー

本大学院を選んだ理由

第一に、本研究科の研究対象が東アジア・東南アジアと広域であり、なおかつ、思想、歴史、言語などの分野を専門領域とする教員、学生が在籍しているため、多分野の研究を学び複眼的な研究視野を養えると考えました。第二に、関西大学の伝統である中国簡牘学の研究蓄積を学びたいと考え、本学を選びました。

学位論文題名と概要

『秦漢文書通達システムの研究』

概要：中国古代の郵便制度について、地下から出土した簡牘資料を素材に、当時の運用状況を復元し、考察したものです。

大学院での研究や学修が仕事に生かされている場面

東アジア文化研究科では、中国、韓国、台湾、イタリアの大学と連携し、年に数回、国際院生フォーラムを開催しています。わたしはその国際院生フォーラムの運営を担当し、学会の企画・準備・手配において、様々な方とともに外國語を使用して打ち合わせをする機会があり、一般的な大学院では得ることのできない経験をしました。また、自身の専門領域を集中的に学ぶ学部時代とは異なり、大学院生はより視野の広い研究を目指して、人文学系の学問全般をフォローするため、専門領域外への対応力が身につきました。これらの経験は、現在の職場における国際学会や新規研究プロジェクトの企画・手配など、近年の研究者に強く求められる専門研究以外の方面で生かされています。

進学を考えている方へのメッセージ

東アジア文化研究科は、東アジアにおける歴史、思想、言語、芸術といった多岐に渡る学問分野が共存する、日本では稀な環境です。これから研究者を目指すひとにとって、院生のときから学際的研究視野を養う絶好の環境なので、自身の目標をしっかりと設定して貴重な時間を過ごしてください。

ガバナンス研究科

千里山キャンパス
ガバナンス研究科ウェブサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/gov/>

博士課程前期課程
ガバナンス専攻（入学定員 15人）
博士課程後期課程
ガバナンス専攻（入学定員 3人）

公的な問題の発見・解決に向けて、 政策を立案・実行できる「高度公共人材」を育成

特色

これまで、国と地方政府が中心となって政策の立案とその運営を担ってきた。今日では、民間委託の推進やNPO法の制定などが示すように、複雑な社会問題の解決に対する企業や民間団体の積極的な関わりが、最近では期待されるようになってきている。すなわち、行政および政治を含めた政府セクター、民間企業を含む市場セクター、そしてNPOやボランティア組織などの市民セクターが協働して問題解決に取り組み、社会にとって望ましい状態を実現することへの認識の高まりが、「ガバナンス」に対する注目につながっているのである。

そこで、ガバナンスの担い手となることを期待されるのが「高度公共人材」である。それは、公的な問題を発見して、その解決策としての政策をデザインし、さらにそれを実現していくことができる能力をもつ人材を意味する。ガバナンス研究科では政策学を基盤とした教育・研究を行って、高度公共人材の養成を行う。

関西大学は、これまで政府、自治体、国会、地方議会などで活躍する多くの人材を輩出してきた。関西大学にとって初めての政策系大学院となるガバナンス研究科では、さまざまな領域において社会問題の解決に貢献できるような人材の育成をめざす。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士課程前期課程	ガバナンス研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を博士課程前期課程に求めます。
	1 (知識・技能) 国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、学部レベルでの基礎知識を修得している。
	2 (思考・判断・表現) 実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する力の基礎を身に付けている。また、論理的思考及び表現の基本を身に付けている。
	3 (態度) 基本的なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。
博士課程後期課程	ガバナンス研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、資質・能力及び態度を備えた人を博士課程後期課程に求めます。
	1 (知識・技能) 国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、大学院レベルでの基礎知識を修得している。
	2 (思考・判断・表現) 実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する高度な能力を身に付けている。また、論理的思考及び表現の高度な能力を身に付けている。
	3 (態度) 高度なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。

複数教員による指導体制で、複数のアプローチからの研究が可能

ガバナンス研究科は、入学から修了まで特定の1人の教員が全てを指導する従来型形態ではなく、複数教員による指導体制が特徴である。研究課題を多角的にとらえるとともにきめ細やかな研究指導を行うため、前期課程では、複数教員から研究指導を受けた後、専門的な研究テーマに合わせて1名の専任教員が研究指導にあたる。博士課程後期課程においても、複数教員による指導体制を敷いている。授業科目にも多様な専門分野の教員を配置し、1つの社会問題を複数のアプローチから多面的に研究することができる。

社会人受入に関して

ガバナンス研究科の科目は、月曜日から金曜日までの1限～5限および6限、7限に開講される。なお、社会人大学院生の便宜を考慮して、一部の科目では5限～7限および土曜日に集中開講できるよう強力的に運用する。

また、博士課程前期課程においては、職務充分な社会経験と一定以上の研究能力を有する社会人を対象として「社会人1年制コース」を設けている。これにより、能力のある社会人学生は、1年間で学位を取得することができるようになり、職務上の負担も軽減する。

1年で学位を取得するためには、入学後の十分な研究指導およびさまざまな面でのサポートが必要であるとともに、入学時に一定の水準の能力と経験、さらに研究方向の具体性が求められる。高度公共人材に求められる基礎的素養としての職務経験および一定の研究能力を持ち合わせているかどうかを判定するために、出願時に詳細な研究計画書（8,000字程度）の提出を求めて、合否判断の資料として用いる。

1年制コースの入学試験において合格の基準に達しない志願者については、修業年限を2年以上とする通常の課程としての合否を判断し、修学機会を広げるように努める。

授業形態は、定められた曜日・時限を基本とするが、官公庁や企業、教育・研究機関における業務や研究の実績、およびその結果についてのレポートや発表などを授業時間に代えることもある。これによって、十分に能力のある社会人学生が、1年間で学位を取得できるように配慮を行う。

また、2018年春学期より履修証明プログラム（地域政策コーディネーターを養成する大学院プログラム）を実施（詳細は61ページを参照）するなど、修学機会が一層広がるように努めている。

主な修士論文テーマ

2016年度修了生	シルバー人材センターにおける課題と「適正就業」についての考察 ミャンマー元軍事政権による教育政策およびその影響と民政下の教育改革の課題と可能性 現代日本の酪農政策～保護的政策から競争的政策への変容～ ケアマネジャーの役割における法定外支援業務の拡大と機能の展開 人口減少時代における地域の形態—「廃県置藩」に基づく基礎自治体の再編— 中国内陸部における日本企業の投資環境について—湖北省・武漢市を中心として— 地域活性化における港湾—港湾セールス戦略を運用し港湾の競争力を高める課題 創造都市論：台湾・台中市における国際都市プログラム
2017年度修了生	台湾と日本の介護保険における給付システムの比較 戸籍制度の持つ意味の変化—戸籍制度の機能が他の制度に代替されていく中で、残される機能は何か—
2018年度修了生	現代的味付けによる古民家再生—空堀地区を中心として— 「中国企業の国際化発展と課題—華為技術会社を例として」 中国の貧困問題における非常利組織の役割—四川省チベット地域の高齢者貧困を中心にして 日韓関係と議員外交—日韓議員連盟の分析— 沖縄の「国際都市形成構想」が棚上げになった要因は何か—全県自由貿易地域論を中心として— 介護施設におけるリスクマネジメント—介護事故と職場環境に関する研究— コーポレートガバナンスと機関投資家 日本化粧品企業における中国市場戦略について—資生堂を中心に 「改革開放政策下の中国遼寧省都市部労働の新課題」

修了後の進路

本研究科前期課程修了後の進路としては、国家公務員および地方公務員、国際公務員、NPO・NGOの職員、議員秘書、コンサルタント、シンクタンク職員、ジャーナリスト、民間企業(とりわけ社会貢献部門など)、起業による経営者、そして国会議員および地方議会議員などが考えられる。また、中学校教諭専修免許状「社会」、高等学校専修免許状「公民」を取得して、社会における問題の解決に教育の面でも貢献することができる。

社会人学生の場合には、上のような能力を養うことで、従来の職場でのさらなる活躍が可能となる。また、課程を修了した人が政策分野に関する研究をさらに継続することにより、高度な研究および教育に従事する研究者となることも期待される。

後期課程修了者については、大学をはじめとする各種の教育機関で活動する研究者、および国際交流の場などで活躍できる高度専門職業人の育成をめざす。とりわけ、留学生については、海外の大学や研究所に積極的に送り出すことをめざしている。

在学生・修了生の声

中東 聰子さん

博士課程前期課程 ガバナンス専攻
2018年4月入学 入試種別：学内進学試験

大学院進学の決め手

学部3年次生からの専門演習ゼミで興味をもったテーマをさらに深め、研究していくたいと考えたからです。また、ガバナンス研究科は、アジア法を研究されている先生方が多数在籍されていることから、進学を決めました。

受験のための準備

指導を希望する浅野宜之先生にご相談させていただきました。また、大学院授業科目の先取り履修制度を利用させていただきました。

研究テーマと概要

『ブータン王国憲法における宗教の位置付け』

概要：ブータン王国は、2008年に憲法が制定されたことにより、民主的立憲君主制となりました。それ以前は、仏教が政治経済体制の中心で機能しており、国家運営において重要な位置付けとなっていました。そのため、現在においても、仏教は国民の日常生活に深く浸透し、規範及び価値を提供しています。これほどまでに、ブータン王国にとって縁の深い仏教が、2008年ブータン王国憲法において、どのように位置づけられているかについて研究しています。

利用している奨学金制度

給与型の奨学金をいただいている。また、TA（ティーチング・アシスタント）制度を利用し、学費へと充てています。

進学を考えている方へのメッセージ

ガバナンス研究科は、政治学、経済学、経営学、法律学などの幅広い領域を対象とした、政策研究を行える研究科です。自分の研究を専門的に行えるだけでなく、他の専門分野の知識も習得することができ、視野を広げることができます。広い視点から政策研究を行いたいとお考えの方には是非お勧めします。

奥泉 廉典さん

博士課程前期課程 ガバナンス専攻 2017年3月修了
入試種別：学内進学試験
勤務先名：ホクレン農業協同組合連合会 北見支所

大学院進学の理由

大学院へ進学しようと思ったのは、学部3年次生の時でした。専門演習で日本の政治や政策について学ぶうちに、より深く研究したいと思うようになりました。ガバナンス研究科を選んだのは、私がやりたいと思う研究ができる場所であるということと、学部時代から指導していた小西先生に、引き続き指導していただきたいと思ったからです。

現在の就職先・職業を選んだ理由

出身地に貢献できる仕事がしたいと思っていたことと、研究テーマが酪農政策であることが理由です。北海道の基幹産業の1つである農業に深く携わることができ、あらゆる面から食・農業に貢献できることも魅力的だと感じ、就職することに決めました。

大学院での研究や学修が仕事に生かされている場面

日々の取り組みや業務について、「なぜ」や「どうして」など、意味や目的をしっかりと考えることができます。大学院での研究を経験し、深く考えたり、理解する力が身につきました。また、業務に関係する農業・物流業界の動向や政策について興味をもち、みずから情報収集を行っています。これからも、大学院で得たことを生かしながら、社会人として成長ていきたいと思っています。

進学を考えている方へのメッセージをお願いします。

大学院で研究に取り組む機会というのは、非常に貴重な経験になると思います。

ガバナンス研究科では、疑問に思っている課題についてしっかりと研究できる環境が整っています。また、自分とは全く分野の異なる研究をしている大学院生が多く、日々勉強させられることが多い研究科であると思います。さまざまな学問分野に触れつつ、自分の研究を深めていきたい方は、ぜひガバナンス研究科へお越しください。

2020年度 専任教員

M : 博士課程前期課程

D : 博士課程後期課程

教員名	専門分野	研究概要	課程	担当科目
浅野 宜之 教授 asanon@kansai-u.ac.jp	比較憲法 南アジア法	アジアにおける立憲主義について、比較憲法学的視点から考える。第一に、司法に焦点を当てながら、制度的、機能的側面から考察する予定であり、第二に議会の現状を元に検討する。また、主にイギリスの植民地統治を受けた国々における法制度の発展について、検討したい。	M	比較憲法研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究11（比較憲法論） ガバナンス特別演習
石田 成則 教授 sishida@kansai-u.ac.jp	社会保障 福祉政策 企業福祉	年金・医療等の社会保障のほか、企業の福利厚生や民間保障のあり方をテーマとしている。また、「時間貯蓄」「地域通貨」といった地域独自の助け合いの仕組みについて、各地方の事例研究に取り組んでいる。	M	調査方法論研究 福祉政策研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅰ） ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究9（福祉政策論） ガバナンス特別演習
岡本 哲和 教授 okamoto@kansai-u.ac.jp	高度産業社会における 公共政策の研究	政治・行政と情報との関わりを主たる研究関心として、政治や政府のあり方に情報技術が与える影響や、政府の情報管理に関する政策についての実証分析を行っている。また、政策過程についての研究として、政策終了の分析にも取り組んでいる。	M	調査方法論研究 政策過程研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅰ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究3（政策過程論） ガバナンス特別演習
奥 和義 教授 http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~kaz/index.html	グローバリゼーションと 日本貿易の研究	国際貿易の基礎理論、国際貿易体制の変遷、グローバリゼーション、中国を中心としたアジア経済の台頭、国際社会における日本経済の将来展望などを研究する。	M	調査方法論研究 貿易政策研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅰ） ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究15（貿易政策論） ガバナンス特別演習
柄谷 利恵子 教授	国際関係論	国際政治・国際関係学を「国家間」の政治や関係だけでなく、国際機関やNGO、さらには個人の視点からも考えていく。主な研究テーマは国境を越える人の移動と現代の国際政治をめぐる諸問題である。	M	調査方法論研究 国際関係論研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究14（国際関係論） ガバナンス特別演習
河崎 信樹 教授 http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~kawasaki/	アメリカの国際経済政策	アメリカが本格的に国際援助を開始した第二次世界大戦期から、現在に至るまでのアメリカの援助政策の展開について研究してきた。近年は日米経済関係の歴史について研究を進めている。	M	国際経済政策研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究16（国際経済政策論） ガバナンス特別演習
権 南希 教授 kwon@kansai-u.ac.jp	国際法	専門は国際法。武力紛争がもたらす環境損害を素材に国際人道法と国際環境法の規範の交差について研究している。特に国際環境法における法定立過程の特徴、国家責任体系の変遷に焦点を当てている。	M	国際公共政策研究 ガバナンス演習
			D	
後藤 元伸 教授	比較民事法 独仏法による 団体・法人法研究	比較法については、ドイツ法、フランス法を対象とする。民事法については、民商法全般、とくに団体・法人法を対象とする。	M	比較民事法研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅰ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究12（比較民事法） ガバナンス特別演習
小西 秀樹 教授 koni98@kansai-u.ac.jp	現代日本政治論 政治社会学	政党、利益団体、官僚、マス・メディア、市民団体の活動と相互関係など、政治権力の動態を分析する。特に、現代日本の政党競争や地域政治の変化、政治家のリーダーシップを扱う。	M	調査方法論研究 現代日本政治論研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究4（現代日本政治論） ガバナンス特別演習
白石 真澄 教授 masumi@kansai-u.ac.jp	バリアフリー まちづくり論	財政状況の悪化、人口減少、家族・地域社会の変容など急速に変化する社会環境のなかで、高齢者・障害者の自立を支援する地域システム、バリアフリー社会などを研究。	M	現代地域福祉論研究 ガバナンス演習
内藤 友紀 教授 naito@kansai-u.ac.jp	マクロ経済政策 金融史	公共政策の主要部門である経済政策を学んでいく。特に中央銀行の役割を中心とした、金融政策をめぐる近年の諸問題について扱う。	M	金融政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究6（金融政策論）
西澤 希久男 教授	タイ法 比較法	植民地になることなく、西欧近代法による法制度整備を求められたタイと日本を比較することにより、法の適用のあり方、法に対する意識がどのような歴史的・社会的背景に基づき形成され、変容するのかについて関心をもって研究している。また、近年は、「法多元主義」から見た、「法の支配」における法のあり方について関心を持っている。	M	調査方法論研究 国際アジア法政策研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅱ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究13（国際アジア法政策論）
橋口 勝利 教授 katsu@kansai-u.ac.jp	日本経済史	日本における繊維産業の歴史的展開を研究している。戦前期から高度経済成長期まで日本経済をリードしてきた繊維産業の成長要因を、地域産業史の視点から明らかにすることを目的としている。	M	地域産業論研究 ガバナンス研究特殊講義（大学マネジメント論Ⅰ） ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究7（地域産業論）

教員名	専門分野	研究概要	課程	担当科目
橋本 行史 教授 hasimotk@kansai-u.ac.jp	自治体政策 公共経営論	地方行政や地方財政の諸問題、グローバル化と人口減少が進むなかで、成長重視か人のつながり重視かの方向性が問われるまちづくりなど、地域が直面する現代的課題について問題解決の方法を考える。	M	調査方法論研究 自治体政策研究 ガバナンス研究特殊講義 (地域活性化システム論研究) ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究2(公共経営論) ガバナンス特別演習
原田 輝彦 教授 teharad@kansai-u.ac.jp	地域経済論	専門は20世紀末東西冷戦終結後の中国、ASEAN、EU諸国最新政治経済比較研究。海外諸研究者との親密な関係を活用して、喫緊の金融、経済法、産業論等実務直結複合領域研究を指向している。	M	地域経済論研究 ガバナンス演習
宮下 真一 教授	消費財産業の サプライチェーン研究	企業のグローバル・ネットワークは、生産システムと流通システム双方において複雑化している。その中で、商品や部品の在庫削減戦略を考えるためにには、魅力的な商品を開発するとともに、先端的な情報システムを導入することや効率的な交通ネットワークを構築することが重要である。このような幅広い領域を学ぶ学問分野として、近年サプライチェーン・マネジメントの研究が確立されている。	M	調査方法論研究 现代物流政策研究 ガバナンス研究特殊講義(大学マネジメント論Ⅰ) ガバナンス研究特殊講義(大学マネジメント論Ⅱ) ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究8(现代物流政策論)
安武 真隆 教授 yasutake@kansai-u.ac.jp	ヨーロッパにおける 政治と思想	「目の前の政治について考えるにあたって、古い本を読みながら考えるという態度」をこれまでの政治学者はとってきた。彼らは、過去に向って助走してはじめて、現在を見据え将来を展望できると考えたからである。	M	調査方法論研究 政策規範研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究1(政策学)
山中 友理 教授	刑法 刑事政策	責任能力とは何か、および、触法精神障害者に関する法制度について研究しています。また、ドイツ語圏の刑事法、医事刑法分野(行刑法、終末期医療、臓器移植など)も研究対象です。	M	比較刑事法研究 ガバナンス演習
五十嵐 元道 准教授	国際関係論 安全保障論	安全保障上の概念や実践が、どのような歴史をたどって形成されてきたのか、また、どのようなイデオロギーに基づいて生成されているのか。そうした問題関心に基づき、研究・分析を行っている。	M	安全保障論研究
梶原 晶 准教授 kajiwara@kansai-u.ac.jp	政治過程論・ 行政学	地方分権改革や地方財政制度など中央地方関係の分析を中心に、政府組織における議員や議会などの政治的要因と官僚制もしくは政策帰結との関係について研究している。	M	現代行政学研究
三枝 憲太郎 准教授 saegusa@kansai-u.ac.jp	イギリス地域社会論	社会人類学専攻。イングランドのカントリーサイドにおける移住者の活動を通じた空間と場所の構築の問題を研究。特に、田園空間における景観のコントロールを中心に、空間に期待されている機能の変化に注目している。	M	空間社会論研究
初見 健太郎 准教授 hatsumi@kansai-u.ac.jp	ミクロ経済学 ゲーム理論	専門はゲーム理論とその応用です。ゲーム理論は複数の主体(個人、企業、国家など)の行動がお互いの利益に影響を及ぼし合う状況を上手くモデル(模型)にします。これは現実のさまざまな問題を分析するのに極めて有用です。	M	数理経済分析研究

*科目の担当については2019年度現在のため、変更することがあります。演習科目の担当に変更が生じた場合は、大学院入試情報サイトでお知らせします。

履修証明プログラム（地域政策コーディネーターを養成する大学院教育プログラム）の実施について

プログラムの目的

本プログラムは、公共人材育成をめざすガバナンス研究科の社会連携策の一環として、地域におけるステークホルダー間の利害を調整し、地域の福祉や環境問題の解決策を主体的に提言、実践できる人材を育成することを目的とします。一般市民はもとより、地域福祉やまちづくり関係の資格を有している専門職層の自己啓発、キャリア・アップにも対応します。

また、経営理論や地域経済論の学習を通じて、地域における女性や高齢者の活躍を支援し、福祉や環境関連の社会的起業を促します。あわせて、国の分権改革や地方創生政策に対応した地方公務員、団体職員の能力向上を図るほか、まちづくりリーダー、防災リーダーを育成することで、地域活性化やコミュニティ再生のための人づくりをめざします。

プログラムの概要

本プログラムは、ガバナンス研究科の開設科目と履修証明プログラムの独自科目から構成され、各科目の時間数はすべて22.5時間です。社会人が主な対象であることから、平日の6、7時限目を中心を開講します。なお、ガバナンス研究科科目については、科目等履修生として登録することにより、単位認定を行い、ガバナンス研究科入学後に、既修得単位として認定することができます。

講義方法として、事例を取り上げたケース・メソッドを取り入れ、受講生参加型のディベートやチームでの共同報告も実施します。こうしたアクティブ・ラーニングのために、ガバナンス研究科の専任教員が主として担当する「セミナー実習I・II」を設けています。

《問合せ先》

関西大学政外オフィス（ガバナンス研究科担当）

TEL：06-6368-0034（9時～17時、日曜・祝日を除く）

E-mail : seisaku@ml.kandai.jp

※詳細は、ガバナンス研究科ウェブサイトをご参照ください。 <http://www.kannsai-u.ac.jp//gov/>

人間健康研究科

堺キャンパス

人間健康研究科ウェブサイト http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_hw/

博士課程前期課程
人間健康専攻（入学定員 10名）

博士課程後期課程
人間健康専攻（入学定員 3名）

特色

人間健康研究科の特色は、既存の体育・スポーツ系研究機関が主な目的としてきたスポーツの競技力向上だけでなく、身体活動や運動とスポーツを通じて人間の健康や幸福の促進を重視するところにあります。さらに地域福祉の活動にも貢献することを追求します。これは2002年に制定された「健康増進法」、2011年に制定された「スポーツ基本法」の理念とも通じており、ヘルスプロモーションとスポーツプロモーションの2つの観点から健康で幸せなくらしについて考えていきます。

また、もう一つの特色はキャンパスがある堺市と密な連携を行うところにあります。2010年4月、大阪府堺市に誕生した人間健康学部は、開設以来、堺市民と健康で豊かな生活を共有するためにさまざまな支援・連携事業を展開し、積極的な地域貢献活動を行ってきました。人間健康研究科においても、こうした地域貢献型の性格を継承しつつ高度な研究教育を実施し、堺市の市民や行政からも大きな期待が寄せられています。

【研究科の方向性】

人間健康研究科では、ヘルスプロモーションやスポーツプロモーションの観点から地域コミュニティの環境整備を前提課題として、身体活動や運動ならびに各種のスポーツ実践と、健康（health）や健幸（well-being）との関係について研究しています。

■ 研究テーマの例

- ・地域コミュニティの再生に貢献するスポーツ文化のあり方に関する研究
- ・健康づくりのための運動処方に関する運動生理学的研究
- ・身体動作時の制限因子を生理学および機能解剖学視点から捉えた研究
- ・学校体育等における集団の教育的機能に関する研究
- ・健康づくりのための身体動作の運動制御機構に関する研究
- ・健康づくり、地域福祉、地域包括ケアの推進に資する研究

博士課程前期課程（アドミッション・ポリシー）

人間健康研究科では、高度専門職業人としての健康運動指導者や体育・スポーツの指導者の育成と、学際的かつ実践的な視野を持って人間の健康（health）と健幸（well-being）を推進する研究者の基礎教育を行っています。その目的を達成するため、さまざまな入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力および主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

- 1 関西大学人間健康学部の出身者については、学士課程で専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している。それ以外の出身者については、健康と健幸の推進に必要な基礎知識を有している。
- 2 学士課程における学習、もしくはそれに相当する社会経験を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ、関西大学が推奨する判断力と行動力を融合した「考動力」を発揮して社会に貢献する意欲を有している。
- 3 時代の要請を常に意識し、高い倫理観を持って、健康と健幸に関わる学問領域を主体的に学んでいく意欲と資質を有している。

博士課程前期課程修了要件

博士課程前期課程に2年以上在学し、基礎科目4単位（「健康調査研究法」ⅠとⅡは選択必修）、演習科目8単位を含めて、あわせて31単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査および最終試験に合格した者をもって課程を修了したものとします。

なお、修士論文の最終試験については公聴会形式で行います。

資格取得

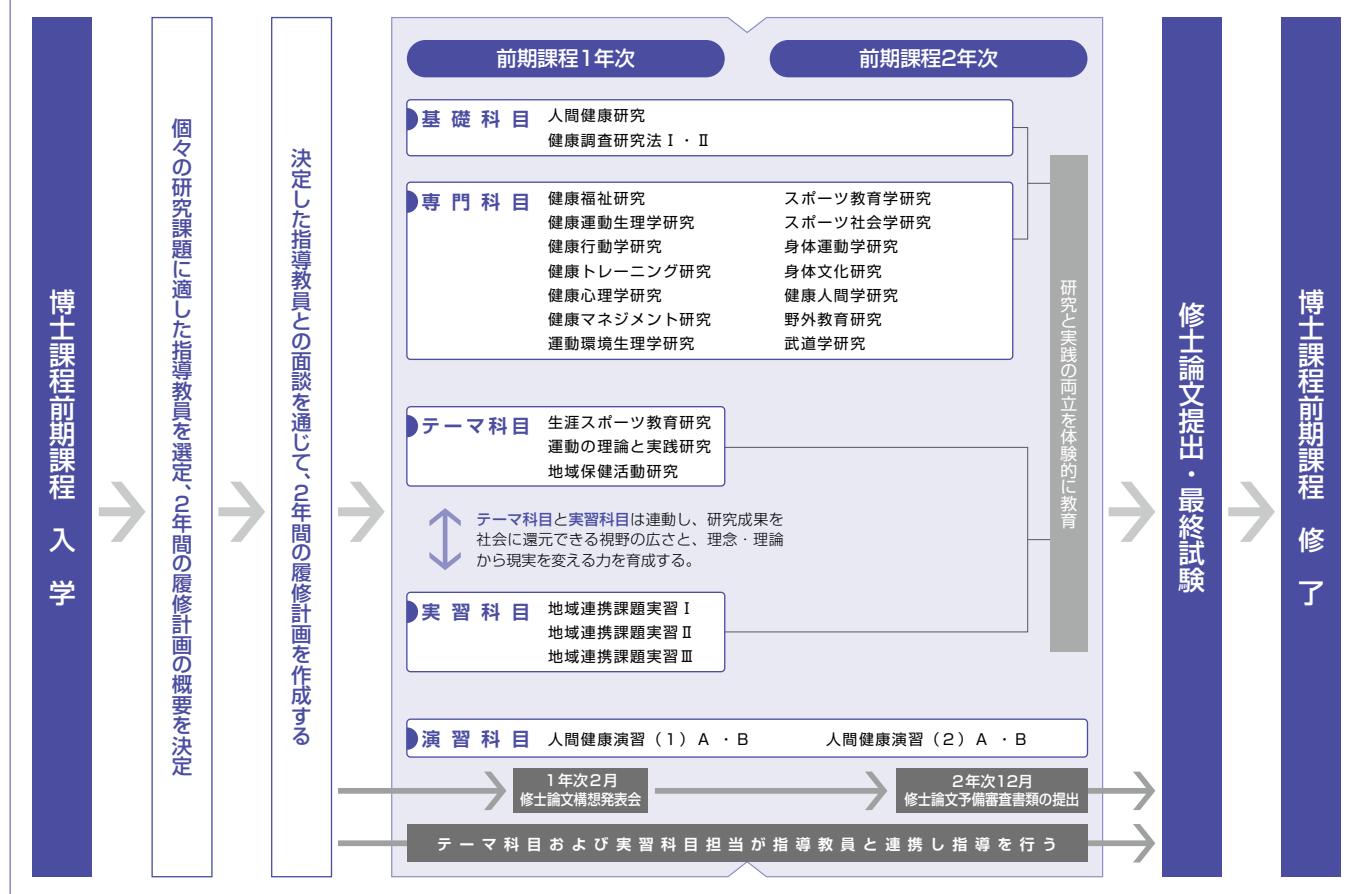
博士課程前期課程では、所定の科目を修得すれば、中学校または高等学校教諭の専修免許状（保健体育）を取得することができます。

博士課程前期課程授業科目一覧

※授業科目については変更することがあります。

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	科目区分	授業科目	配当年次	単位数
基礎科目	人間健康研究	1	2	テーマ科目	生涯スポーツ教育研究	1	2
	健康調査研究法Ⅰ	1	2		運動の理論と実践研究	1	2
	健康調査研究法Ⅱ	1	2		地域保健活動研究	1	2
専門科目	健康福祉研究	1	2	実習科目	地域連携課題実習Ⅰ	1	1
	健康運動生理学研究	1	2		地域連携課題実習Ⅱ	1	1
	健康行動学研究	1	2		地域連携課題実習Ⅲ	1	1
	健康トレーニング研究	1	2	演習科目	人間健康演習(1)A	1	2
	健康心理学研究	1	2		人間健康演習(1)B	1	2
	健康マネジメント研究	1	2		人間健康演習(2)A	2	2
	運動環境生理学研究	1	2		人間健康演習(2)B	2	2
	スポーツ教育学研究	1	2				
	スポーツ社会学研究	1	2				
	身体運動学研究	1	2				
	身体文化研究	1	2				
	健康人間学研究	1	2				
	野外教育研究	1	2				
	武道学研究	1	2				

博士課程前期課程カリキュラム概念図



博士課程後期課程（アドミッション・ポリシー）

人間健康研究科（以下、「本研究科」という）では、「人間にとて本当に必要な健康のあり方」という観点から人間の健康（health）と健幸（well-being）を推進できる研究者の養成や、ヘルスプロモーションやスポーツプロモーションの実現に寄与できる高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、一般入試に加えて社会人入試制度を用意して、次に掲げる知識・技能・資質・能力および態度を備えた入学者を受け入れます。

- 1 本研究科出身者については、博士課程前期課程で専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している。それ以外の出身者については、健康と健幸の推進に必要な知識を、修士の学位取得者と同等以上のレベルで有している。
- 2 博士課程前期課程における学習、もしくはそれに相当する社会経験を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ、地域の課題を具体的に把握し、関西大学が推奨する判断力と行動力を融合した「考動力」を発揮して社会に貢献する意欲を有している。
- 3 時代の要請を常に意識し、高い職業的倫理観を持って、健康と健幸の推進に関わる学問領域を主体的に学んでいく強い意欲と資質を有している。

博士課程後期課程修了要件

博士課程後期課程に3年以上在学し、以下の①～③の要件を満たした場合、課程を修了したものとします。

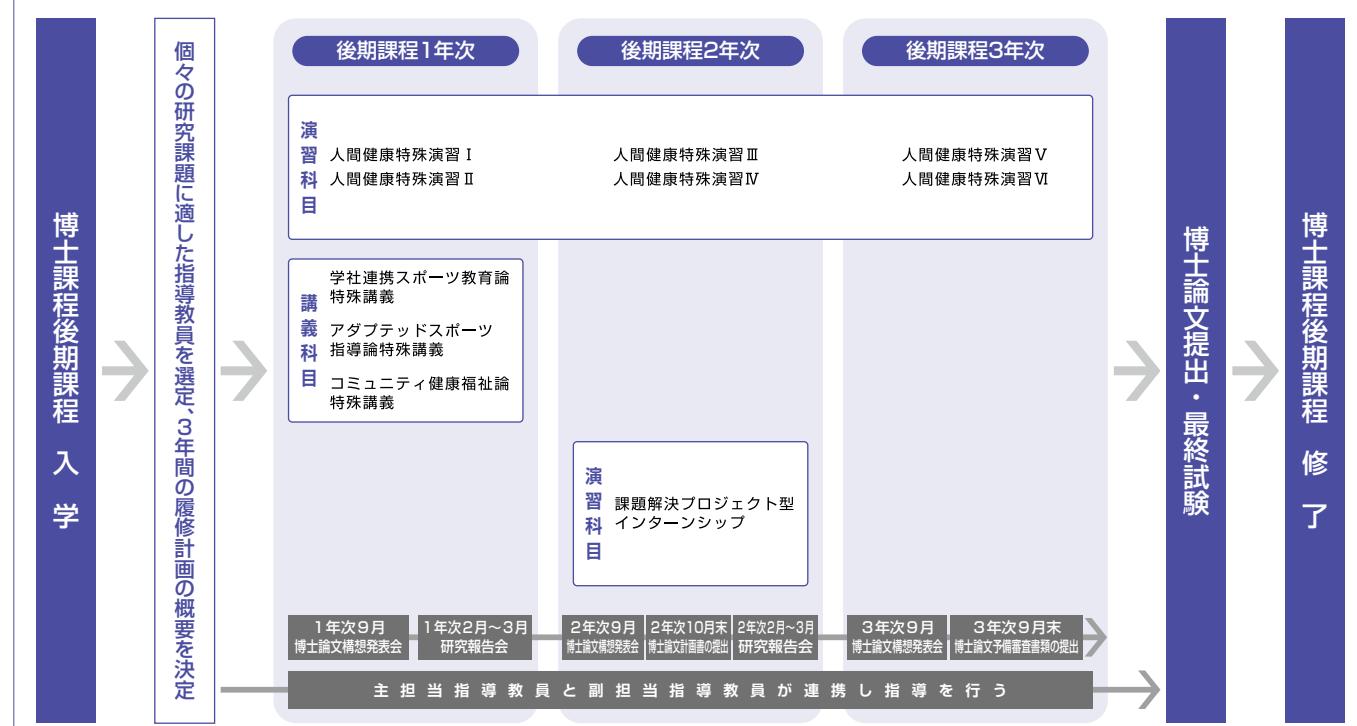
- ①演習科目「人間健康特殊演習Ⅰ～Ⅵ」を修得していること。
- ②講義科目「特殊講義」のうち、1科目2単位を修得していること。
- ③博士論文を提出し、最終試験に合格すること。ただし、博士論文が受理される前に、査読付き論文2本以上を学術誌に投稿し、掲載されているか、掲載が決定していることが提出要件となります。

これらの条件を満たすために最低限必要な修得単位数は14単位となります。なお、博士論文の最終試験については公聴会形式で行います。

博士課程後期課程授業科目一覧 ※授業科目については変更することがあります。

科目区分	授業科目	配当年次	単位数
講義科目	学社連携スポーツ教育論特殊講義	1	2
	アダプテッドスポーツ指導論特殊講義	1	2
	コミュニティ健康福祉論特殊講義	1	2
演習科目	人間健康特殊演習Ⅰ（各テーマ）	1	2
	人間健康特殊演習Ⅱ（各テーマ）	1	2
	人間健康特殊演習Ⅲ（各テーマ）	2	2
	人間健康特殊演習Ⅳ（各テーマ）	2	2
	人間健康特殊演習Ⅴ（各テーマ）	3	2
	人間健康特殊演習Ⅵ（各テーマ）	3	2
実習科目	課題解決プロジェクト型インターンシップ	2	2

博士課程後期課程カリキュラム概念図



2020年度 専任教員（予定）

学生募集を行う教員については、学生募集要項および関西大学大学院入試情報サイトでご確認ください。

また、学生募集を行う教員に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

M：博士課程前期課程

D：博士課程後期課程

教員名・連絡先	専門分野	研究概要	学生募集を行なう課程
岡田 忠克 教授 okadat@kansai-u.ac.jp	社会福祉政策 ソーシャルアドミニストレーション	現代社会において社会福祉政策は国民生活と切り離せないものになっている。現在の研究テーマは、社会福祉政策を方向づけ、制度を成り立たせている福祉の概念・価値・背景について研究を進めている。とりわけ歴史的背景に重点を置き、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉国家の形成と発展について研究を進めている。	M
小田 伸午 教授 odashin@kansai-u.ac.jp	スポーツ科学 運動制御学	人の日常生活やスポーツにおける身体運動の運動制御のメカニズムを探り、その動作の実践における主観性との対応を考察し、客観性と主観性の二つの世界を総合化することに取り組んでいる。運動制御の自然科学的メカニズムは、主に筋神経系分析、動作学的分析から探究する。動作の実践における主観性は、動作者の動作イメージや動作感覚について聞き取り調査などを通じて記述する。動作者の科学的データに主観性データを添えて、両者を照合し、客観と主観を総合した新たな身体運動学を構築する。	M・D
神谷 拓 教授 tkamiya@kansai-u.ac.jp	体育科教育学 スポーツ教育学	学校で行われる体育・スポーツを、授業場面だけに限定せずに、教科外体育や課外体育を含んだカリキュラム論の観点から捉えて研究を続けてきた。とりわけ学校卒業後のスポーツライフ・クラブライフとの接続に関心があり、理論研究と実践研究を往還しながら展望を切り開いていくことを大切にしている。	M
河端 隆志 教授 takakaw@kansai-u.ac.jp	運動・環境生理学	ヒトは重力のもとに身体活動を通して生存している。生体は様々に変化する環境の中にありながら、その重要な機能（体温調節、体液の浸透圧バランスなど）をほぼ一定のレベルに維持（恒常性、ホメオスタシス）することにより、環境の変化に対応して生存している。そして、運動・スポーツといった能動的な身体運動では、生体はさらに高次の調節機能が要求される。特に長期に及ぶ環境の変化（トレーニングも含む）に対して、生体の体制を変化し、その独自性を保持して生存している状態が適応である。運動・環境生理学の目的は、その適応のメカニズムを解明し、それにより健康およびスポーツ・パフォーマンスの向上のための諸条件を明らかにすることにある。	M・D
西山 哲郎 教授 nisiyama@kansai-u.ac.jp	スポーツ社会学 身体文化論	スポーツを通じた地域貢献や、スポーツ自体の新しい楽しみ方を提案する「スポーツプロモーション」を教育・研究の一つの柱とする。「するスポーツ」より「みるスポーツ」や「支えるスポーツ」に重点を置く関係から「スポーツジャーナリズム」も研究テーマにしている。さらに、社会学的な観点から現代社会における身体の意味や意義（の変化）について考えることも並行して行いたい。	(M・D) 2020年度は 学生募集を行いません
森 仁志 教授 smori@kansai-u.ac.jp	文化人類学 文化史	現在の研究テーマは次の二つである。①スポーツの国際交流史：日米野球交流においてハワイの日系二世が果たした役割に関する文化史的研究。②家族の比較文化論：家族の起源と変容に関する人類学的研究。これらのテーマを中心に、多様な身体をもつ個人（ジェンダー、セクシュアリティ、人種・エスニシティ、健常者／障がい者など）の包摂（つながり）と排除（分断）のメカニズムを軸に研究に取り組んでいる。	M・D
山縣 文治 教授 fyama@kansai-u.ac.jp	子ども家庭福祉	社会福祉学を基礎とし、子ども家庭福祉分野でさまざまな研究や実践をしている。主な課題は、社会的養護、子ども虐待、子育て支援、夜間保育などで、方法としては、フィールドワーク、政策分析、などを用いている。	M
涌井 忠昭 教授 t.wakui@kansai-u.ac.jp	スポーツ科学 応用健康科学 レクリエーション	研究分野は、レクリエーション、子どもの体力向上、総合型地域スポーツクラブ、障がい者スポーツ、介護労働者（介護者）の生体負担に関する研究と多岐にわたります。具体的には、レクリエーション活動が対象者の心身に及ぼす影響について研究しています。また、子どもの体力向上、総合型地域スポーツクラブおよび障がい者スポーツに関しては、地域での実践活動を通して研究を行っています。さらに、介護労働者（介護者）の生体負担に関しては、介護職員、ホームヘルパーまたは在宅介護者の身体的・精神的負担や腰痛について研究を行っています。	M・D
弘原海 剛 教授 wadazumi@kansai-u.ac.jp	運動生理学 運動处方	①「糖質飲料水摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響」：いわゆる“スペシャルドリンク”と呼ばれる運動中の栄養補給や疲労回復に効果的なドリンクの開発研究 ②「高齢者を対象とした認知症予防研究」：認知症予防体操と脳領域活性を促す可能性のある様々な方法との効果的な組み合わせに関する研究	M・D
西川 知亨 准教授 tomoyuki@kansai-u.ac.jp	社会病理学 社会的相互作用論 福祉社会学	研究分野は、大きく3つに分けることができる。1つ目は、シカゴ学派社会学を通じた社会病理学・社会学史研究である。シカゴ学派社会学の社会調査方法論を整理するなかで、「総合的社会認識」の視点を引き出し、実証的研究の基盤を作ることを目指してきた。2つ目は、貧困対抗活動が生み出す社会的レジリエンス（柔軟に立て直す力）創発に関する研究である。貧困に対抗する社会活動について、活動が個人や社会に及ぼす影響に関する研究を行ってきた。3つ目は、「家族福祉の社会学」である。子育て経験などを、理論的・実証的に社会構造や社会福祉につなげる試みを行っている。	M
村川 治彦 教授 murakawa@kansai-u.ac.jp	身体教育学 応用健康科学	「身体」は心理学、社会学、宗教学、哲学、医学、教育学、看護学など多様な分野にまたがるキーワードである。そのなかで、一人称の観點から体験する「からだ」をキーワードに、心理、福祉、教育、看護、医療など対人援助領域における身体性を基盤としたケアのあり方を研究の柱としている。また、体験と言語の関係に注目し、実践を通した経験を意味のある形で言語化し記述する新たな質的研究法の構築に関心がある。	
谷所 慶 准教授 tanisho@kansai-u.ac.jp	トレーニング科学 コーチング	さまざまなトレーニング方法や運動指導方法が身体や運動パフォーマンスにどのような影響を及ぼすのか？競技力向上を目的としたアスリートのトレーニングのみならず、児童期のスポーツ活動と発育発達について、あるいは成人期のスポーツ活動と健康について、トレーニング科学とコーチングの観点から研究しています。また運動の啓発活動がどの程度健康や体力の維持向上に影響するのか、地域の方々と共に調査を実施しています。	

専門職学位課程

※各研究科の詳細は、それぞれのパンフレット
および募集要項をご確認ください。

法科大学院

入学定員	教員スタッフ	修業年限	修了所要単位
40名	23名（研究者教員13名、実務家教員10名）	法学既修者：2年 短縮型 法学未修者：3年 標準型 (長期履修学生制度あり)	100単位以上

実践型教育を展開し、司法試験への確かな学力を養成

「学の実化」という教育理念を継承し、確かな実務的思考を育むカリキュラムを開設しています。基本的に10人未満の少人数クラスのもと、ディスカッションやソクラティック・メソッド（問答式）を取り入れた多様な授業を展開しています。また、法律相談や模擬裁判といった体験型学修の機会を積極的に取り入れ、ハイレベルな実践教育を行っています。

高次元の法学研究と実務理解を可能にする多彩な教授陣

専任教員には研究者教員だけでなく、元検事正、元裁判官および現役弁護士など多彩な実務家教員を配置しています。実務関連科目はもとより、憲法、民法、刑法などの基幹科目については、研究者教員による少人数教育を行っています。また、専任教員によるオフィスアワー やクラス担任制に加え、メンターとして、アカデミック・アドバイザーである若手弁護士を学生一人ひとりに配置するなど、学修支援や個別指導にも力を注いでいます。

担当科目は、2019年度開講の各教員の担当科目を示す。

	教員名	専門分野	担当科目
憲 法	木下 智史 教授	憲法	憲法Ⅱ、憲法演習、憲法訴訟、連携講義（憲法発展演習）
刑 法	佐川 友佳子 教授	刑法	刑法Ⅰ、刑法演習Ⅰ、刑法演習Ⅱ
行政 法	由喜門 真治 教授	行政法	行政法総論、行政救済法、行政法演習、公法総合演習
	元氏 成保 教授（実務家）	租税法、行政法	公法総合演習、租税法1、租税法2、租税法演習
刑事訴訟法	中島 洋樹 教授	刑事訴訟法	刑事訴訟法演習、連携講義（刑事証拠法演習）
	山名 京子 教授	刑事訴訟法	刑事訴訟法
刑事 実務	大仲 土和 教授（実務家）	刑事実務	公法・刑法LW&D演習、現代法特殊講義（経済刑法）、法と社会（検察実務）
	川合 昌幸 教授（実務家）	刑事実務	刑事法総合演習、刑事訴訟実務の基礎、刑事模擬裁判、法と社会（裁判実務）
民 法	今西 康人 教授	民法	民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅴ、民法演習Ⅰ
	占部 洋之 教授	民法	民法Ⅲ、民法Ⅳ、民法発展講義
	下村 正明 教授	民法	民法演習Ⅱ
	多治川 卓朗 教授	民法	民法演習Ⅲ
	若松 陽子 教授（実務家）	民法	法曹倫理、リーガルクリニック、民事法LW&D演習、民事訴訟実務演習、現代法特殊講義（医事法）
民事訴訟法	酒井 一 教授	民事訴訟法	民事訴訟法、民事訴訟法発展講義
民事 実務	中村 哲 教授（実務家）	民事実務	民事訴訟法演習、民事法総合演習、法曹倫理、現代法特殊講義（労働災害）
	森 宏司 教授（実務家）	民事実務	民事訴訟法演習、民事法総合演習、民事訴訟実務の基礎、民事訴訟実務演習、民事執行・民事保全法、法と社会（裁判実務）
商 法	早川 徹 教授	商法	商法、商法演習
	大和 正史 教授	商法	会社法、会社法演習、会社法発展講義
基礎・先端 科目	川口 美貴 教授	労働法	労働法1、労働法2
	村上 幸隆 教授（実務家）	国際取引法、中国法	海外エクスターインシップ、中国ビジネス法講義1、中国ビジネス法講義2、中国ビジネス法講義3、国際私法1、国際私法2、国際取引法、涉外法律実務演習、法整備支援論、アジア進出企業支援
実務関連科目	尾島 史賢 教授（実務家）	倒産法、民事実務	国内エクスターインシップ、倒産法1、倒産法2、倒産法演習
	近藤 剛史 特別任用教授（実務家）	民法、メディア法	現代法特殊講義（知的財産訴訟実務）、法と社会（法とメディア）
	大住 洋 特別任用准教授（実務家）	知的財産法	リーガルクリニック、知的財産法演習

会計専門職大学院

入学定員	教員スタッフ	修業年限	修了所要単位
40名	13名（研究者教員7名、実務家教員6名）	2年（長期履修学生制度あり）	48単位

得意分野をもつ会計専門職業人の養成

監査界・産業界・官公庁のリーダーたりうる会計専門職業人（MBA in Accountancy）を養成する多彩なカリキュラムを用意しています。また、個性を伸ばす個別演習科目である各種演習科目を設けており、進路や学習スタイルに応じて学習することで、知識としての会計を学習するだけではなく、豊かな会計センス、高度な判断・思考能力、会計専門職業人としての職業倫理、さらには、財務や法律・税務、経営などの個性ある得意分野を戦略的に習得することができます。

少人数教育による関大式超会計人養成プログラム

一人ひとりのキャリア設計にあった教育を行うため、少人数制の問題解決型演習科目を用意しています。監査界や産業界などで活躍している、公認会計士の資格をもっている、それぞれの専門領域での第一人者と言われるなど、個性的で能力の高い専任の教員が、一人ひとりのニーズに対応します。また、オフィスアワーを設け、学習や将来設計に関する個別指導を定期的に受けることができます。

担当科目は、2019年度開講の各教員の担当科目を示す。

	教員名	専門分野	担当科目
監査系	松本 祥尚 教授	監査論	監査制度論、監査報告論など
	松井 隆雄 特別任用教授（実務家）	会計学・監査論	監査基準論、会計事例研究など
財務会計系	加藤 久明 教授	財務会計	上級簿記論、財表作成簿記論など
	富田 知嗣 教授	会計学	上級財務会計論、会計基準論など
	吉良 勝明 特別任用教授（実務家）	監査、会計、税務、人事労務、労働・社会保険	会社経理実務、企業分析論など
管理会計系	大西 靖 教授	管理会計	上級管理会計論・コストマネジメント論など
	植田 有祐 特別任用准教授（実務家）	原価計算	上級原価計算論など
公会計系	柴 健次 教授	会計学（情報開示、会計理論、企業会計、公会計、簿記、会計教育）	会計制度論、特殊講義（負債・資本会計論）など
	清水 涼子 教授（実務家）	公会計、国際公会計、非常利会計、公監査	会計専門職業倫理、特殊講義（公監査論）など
	中丁 阜也 特別任用教授（実務家）	会計・財務・監査	実践会計プログラム演習、ディスクロージャー実務など
法律系	中村 繁隆 教授	租税法	上級税務会計論、租税法会計論など
	三島 徹也 教授	商法	企業法、会社法など
ファイナンス系	宗岡 徹 教授（実務家）	公会計論、財務分析論、レギュラトリーサイエンス	インベストメント論、コーポレート・ファイナンス論など

教職支援体制

教職支援センターは、教員養成段階から、卒業後の教職生活までを一つの過程としてとらえ、教員として必要な資質能力の開発や実践的指導力の養成、教員採用試験対策等の就業支援を行う教員養成の拠点として開設しています。教職支援センターでは、学校現場の現状や課題に熟知し、実務経験豊富な専門のアドバイザーが教職をめざす皆さんの相談に応じています。「教師になりたい」という皆さんの熱い思いを支援します。

主な支援制度

- 教職課程の履修相談
- 教職を志望する方のためのキャリア相談、アドバイス(随時)
- 教科書および教職関係資料の閲覧、貸出
- 都道府県教育委員会による教員採用試験説明会(4~5月・11月)
- 教員採用試験対策講演会
- 教員採用試験対策講座(12~5月)
- 教員採用試験エントリーシート記入の指導
- 教員採用試験面接対策セミナー(4~9月)

中学校および高等学校教諭の専修免許状取得の課程

中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状取得資格を得た方が、当該教科の中学校または高等学校教諭専修免許状授与の課程認定のある大学院(博士課程前期課程)に入学、同課程を修了(基礎資格の取得)し、所定の「大学が独自に設定する科目」(24単位)を修得すれば、中学校または高等学校教諭の専修免許状取得資格を得ることができます。また、大学院入学後に、中学校あるいは高等学校教諭一種免許状取得のために、不足している学部配当の教職課程関係科目を履修することもできます(指導教員の許可が必要)。

■ 各研究科で取得できる専修免許状

研究科	専攻	免許状の種類	
		中学校教諭専修免許状教科	高等学校教諭専修免許状教科
法学	法学・政治学	社会	地理歴史 公民
文学	総合人文学	国語	国語
		社会	地理歴史 公民
		英語	英語
		フランス語	フランス語
		ドイツ語	ドイツ語
		中国語	中国語
経済学	経済学	社会	地理歴史 公民
商学	商学	一	商業
社会学	社会学	社会	公民
	社会システムデザイン	社会	公民
	マス・コミュニケーション学	社会	公民
総合情報学	社会情報学	一	情報
	知識情報学	一	情報
理工学	システム理工学	数学	数学
		理科	理科
		一	工業
		一	工業
		理科	理科
		一	工業
外国語教育学	外国語教育学	英語	英語
		中国語	中国語
社会安全	防災・減災	社会	公民
東アジア文化	文化交渉学	社会	地理歴史
ガバナンス	ガバナンス	社会	公民
人間健康	人間健康	保健体育	保健体育

教職支援センターウェブサイトでは、教職課程の履修方法(教職課程履修の手引き)や教員採用試験に関するさまざまな情報を発信しています。 <http://www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku>

外国人留学生へのサポート

私費外国人留学生を経済的サポート

2020年度入学生から、新しい奨学金制度がスタートします。

※詳細については、以下のウェブサイトを随時更新します。

<http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/from/support.php>



■ 給付奨学金

対象	大学院正規課程に在籍する私費外国人留学生、かつ本学の定める申請資格を満たしている者。(標準修業年限を超えた者を除く)
内容	関西大学をはじめ各種奨学金団体から奨学金を支給

■ 給付奨学金の受給状況(2018年度)

給付奨学金受給者数 受給者 223人 / 申請者 362人	外国人留学生対象奨学金受給者と学内奨学金受給者(成績優秀者向け)の併給者を含む延べ数
-----------------------------------------	--------------------------------------------

外国人留学生への学習支援 —日本語サポートプログラム—

国際部では、留学生の皆さんのが充実した学生生活を送れるように、さまざまな日本語サポートプログラムを用意しています。

プログラム名	内容	レベル	形態	対象	定員
アカデミック・リテラシー養成講座	大学院レベルでのレポート作成時に必要となる日本語のアカデミック・リテラシーを実践形式で学ぶ。	上級	講座 (週90分×10週)	正規留学生 外国人研究生	15名
日本語会話プラッシュアップセミナー	日本社会に順応するために必要な生活場面における日本語会話を実践形式で学ぶ。	中級～上級	講座 (週30分×10週)	正規留学生	15名
日本語アカデミック・ライティング講義動画配信	文章表現、参考文献の探し方及び書き方、論文の構成等を配信動画で学ぶ。	上級	動画配信 (5月～翌年3月)	正規留学生 外国人研究生	なし
日本語チューター・チューター制度	チューター(日本人学生)がチューター(外国人留学生)の学習(主に日本語)や日常生活に関する助言・協力を行う。	初級～上級	個別支援 (4月～7月)(10月～翌年1月)	正規留学生 外国人研究生	なし
日本語アカデミック・ライティング個別相談	持込論文・レポート等を用い、日本語の文章表現や構成等についてアドバイスを受ける。	上級	個別相談 (週2日・各日2時間)	正規留学生 外国人研究生	各日4名

外国人留学生へのキャリアサポート

修了後に日本での就職を希望する留学生は多く、日本の企業もグローバルに活躍できる外国人留学生の採用を希望しています。しかし、日本で就職をするためには、日本特有の選考方法や採用スケジュールを理解し、就職活動を進める必要があります。そのため、関西大学ではさまざまなサポートを用意しています。

■ 外国人留学生のためのイベント

外国人留学生に特化した行事を多数用意しています。日本での就職活動の進め方、応募書類の書き方、日本企業でのインターンシップの参加方法、留学生限定の合同企業説明会等、各種イベントに参加して納得のいく進路選択をしてください。

■ キャリアセンターでの個別相談

キャリアセンターでは、外国人留学生の皆さんの就職活動における不安や悩みを個別に相談できます。

SUCCESS-Osakaプログラム(文部科学省委託事業)では、留学生の日本での就職をサポートしています!

関西大学で学ぶ留学生が、大学卒業・大学院修了後に日本社会で活躍する高度外国人材として定着することを目的として、SUCCESS-Osakaプログラムがスタートしました。

留学生の就職支援の活動には次のような特徴があります。

- 日本で働くために必要な「ビジネス日本語教育」を提供します。
- 日本の商習慣・ビジネスマナーの理解、日本の企業・業界研究、日本での就職活動の理解等を含む「キャリア教育」を行います。
- 企業との共同開発による「インターンシップ」の機会を提供します。このプログラムは、多くの企業・大阪府等の地方自治体・周辺の有力大学との連携により実施しています。

[SUCCESS-Osaka webサイト](#)



<http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/SUCCESS-Osaka/>

キャリアサポート

高度に情報化した現代社会で私達は、日常的に多様かつ膨大な情報に囲まれているとともに、社会のさまざまな場面で前例のない問題への対応・解決をせめられています。この現代社会において、大学院修了者の有する卓越した専門知識と問題解決能力は大いに評価され、皆さんの活躍の場は拡大しています。キャリアセンターでは、大学院で学んだ皆さん一人ひとりの異なる興味・能力・適性に応じたキャリアデザインを支援するために、さまざまなキャリア・就職支援プログラムを用意しています。

| フェイストゥフェイスでの相談

キャリアセンターでは、キャリアセンタースタッフに加え、「就職専門相談員」がさまざまな就職・進路に関する問い合わせにマンツーマンで相談できる体制を整えています。あわせて事務室には、大学院生を対象とする求人票ファイルも配架しており、専門知識を生かした仕事を探すことができます。さらに、キャリアデザインルームでは、キャリアに関する専門的な知識を有するキャリアデザインアドバイザーが個別相談に応じています(予約制)。必要に応じて適性検査を用いるなど、専門家の視点からキャリアデザインと一緒に考えます。



| KICSS (関西大学インターネットキャリア支援システム)

KICSSとは、関西大学キャリアセンターが提供する就職・キャリア支援サイトです。このサイトには約30,000社の企業・公共団体の基本情報・求人内容がデータベース化されており、本学学生はその情報を「いつでも」「どこからでも」検索することができます。またKICSSには、キャリアセンターが開催する各種イベントの開催案内、先輩が各企業・公務員をめざして行った準備から結果まであしらった「就職活動報告」、本学学生の採用を求める企業等の最新情報等も掲載しています。さらに本学学生の行動特性や特徴に合わせて独自に開発した職業興味・適性検査のCAPシステムは、研究分野で培った専門性とは異なる、働くうえでの興味や行動タイプを把握することができ、本学学生の就職活動に欠かせないツールとなっています。



| キャンパス以外における就職活動の拠点 — 都心での就職活動をサポート —

学外での就職活動のサポート拠点として、東京駅すぐ近くに「東京センター」を、大阪都心部での就職活動のサポート拠点として大阪梅田に「キャリアセンター梅田オフィス」を設置しています。東京センターは首都圏における就職活動の拠点としての機能を有し、選考を受ける際に必要な各種証明書の発行をはじめ、首都圏での就職活動をバックアップしています。また、キャリアセンター梅田オフィスは関西大学梅田キャンパス5階に位置し、関西ビジネスの中心地、交通の起点ともなる梅田で、皆さんのが効率的な就職活動を行うことができる環境を整えています。就職活動に関する相談はもちろん、各種証明書や学割証の発行、パソコンの貸与、Wi-Fiの利用、求人票等を閲覧することができます。

■ 東京センター

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアワー9階
TEL: 03-3211-1670
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>

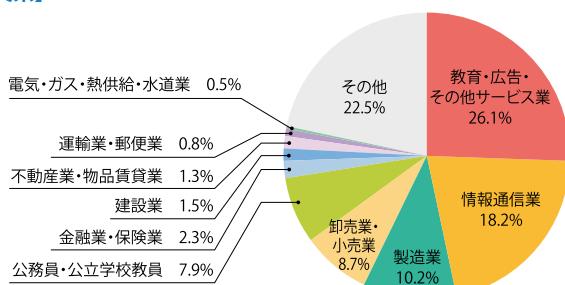


■ キャリアセンター梅田オフィス

〒530-0014
大阪府大阪市北区鶴野町1番5号 関西大学梅田キャンパス5階
TEL: 06-4256-6504
<http://www.kansai-u.ac.jp/career/facilities/umeda.html>

大学院生の就職状況(過去3年間の実績)

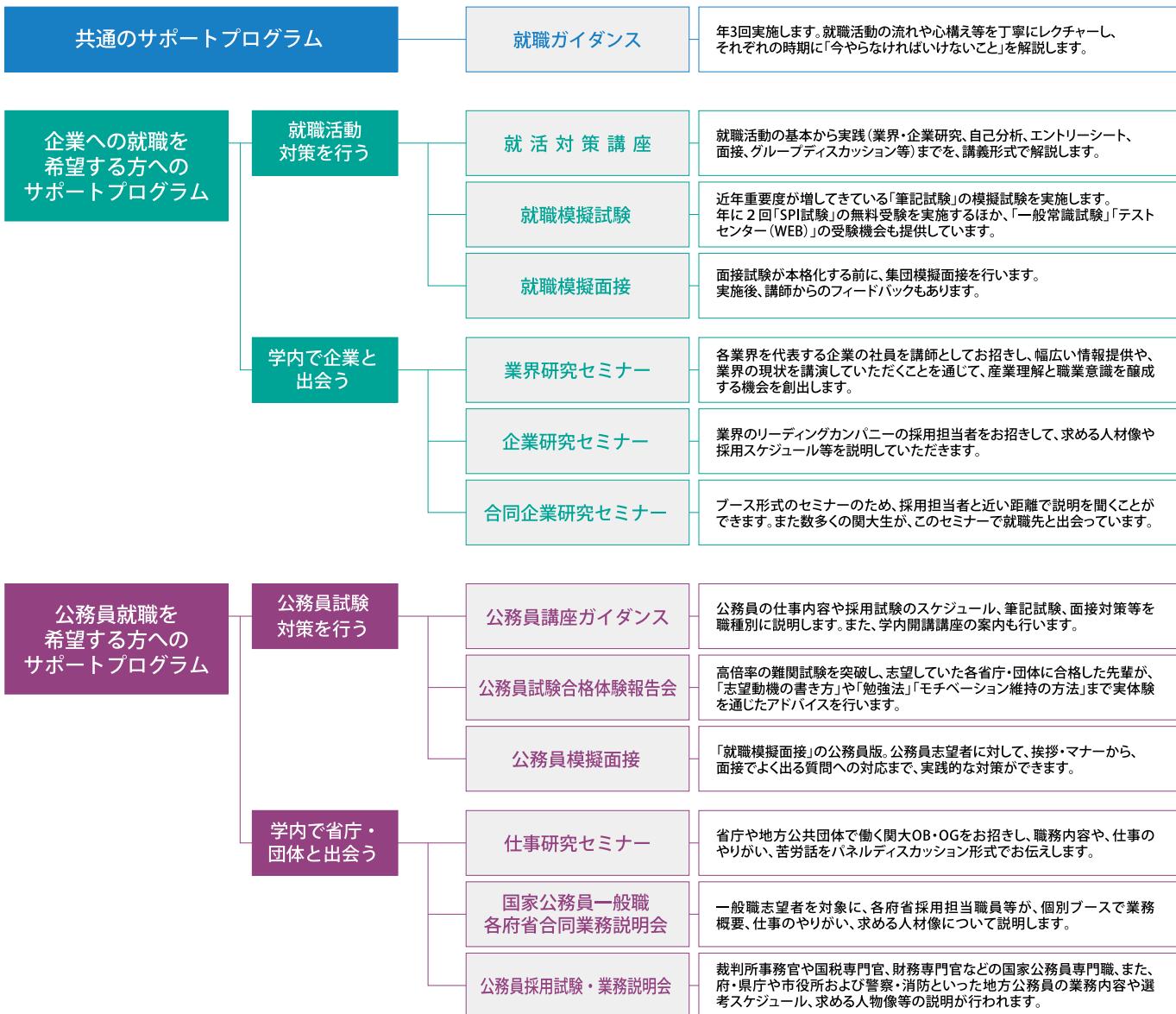
【文系】



就職先一例(順不同)

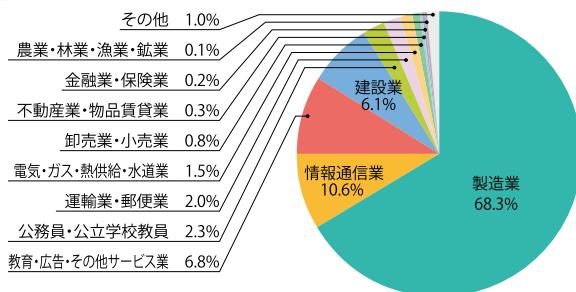
《全体》	《外国人留学生》
富士通	日立製作所
パナソニック	TOYO TIRE
日立製作所	住友電装
楽天	楽天
ヤフー	IDEC
野村総合研究所	阪和興業
PwCあらた有限責任監査法人	三井住友海上火災保険
大阪ガス	船井総合研究所
国税専門官	
大阪府職員	
大阪市職員	
大阪府教員	
	など
	など

■ キャリア・就職支援の主な行事 (主に博士課程前期課程1年次生と学部3年次生の方を対象としています)



*上記プログラムの内容は、採用活動等の状況により変更する場合があります。行事実施内容、日程等最新の情報は、KICSS(関西大学インターネットキャリア支援システム)を確認してください。

【理系】



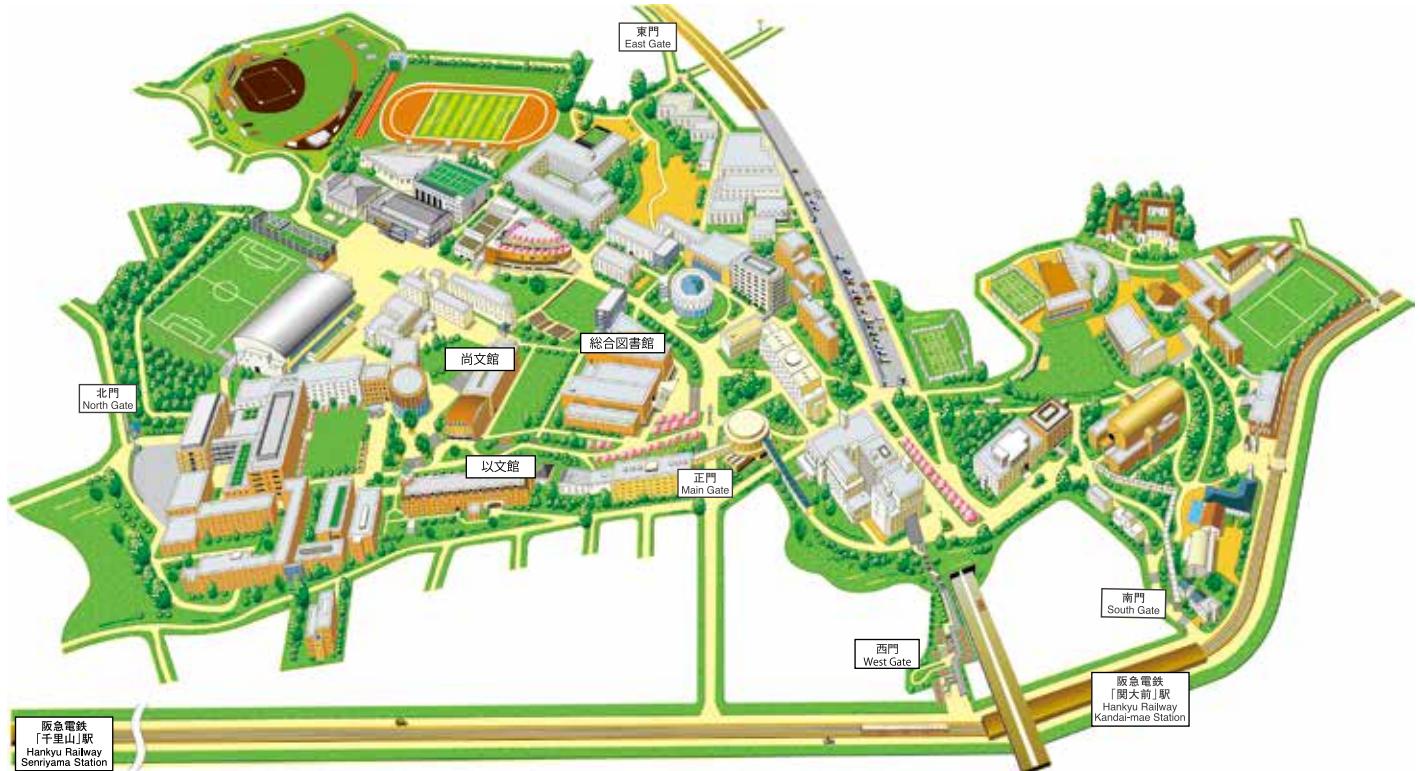
就職先一例(順不同)

《全体》	鹿島建設	川崎重工業	《外国人留学生》
	資生堂	トヨタ自動車	竹中工務店
	新日本住金	東海旅客鉄道	村田製作所
	日立製作所	関西電力	ヤマハ発動機
	パナソニック	大阪府職員	パナソニック
	三菱電機	ソニー	三菱電機エンジニアリング
	ダイキン工業		シャープ
			DIC
			阪神高速技研
			など
			など

施設案内

千里山キャンパス

法学研究科、文学研究科、経済学研究科、商学研究科、社会学研究科、理工学研究科、外国語教育学研究科、心理学研究科、東アジア文化研究科、ガバナンス研究科、法科大学院(法務研究科)、会計専門職大学院(会計研究科)



尚文館

大学院の講義・演習等は、大学院専用施設である尚文館(地下1階・地上7階、延床面積約11,900平方メートル)を中心に行われます。

尚文館には、講義室12室、演習室35室、パソコン教室3室のほか、高速電話回線で結んだ双方向授業可能なテレビ会議システムを有したマルチメディアAV大教室(200名収容)があります。



以文館

以文館は、“威風堂々たる西洋建築”と表された、大学本館(1927年竣工)をモチーフに建築され、おもに法科大学院、東アジア文化研究科で利用されています。

【法科大学院】

授業で使用するほか24時間365日利用できる法科大学院生専用の自習室もあります。自習室では、ネットワークに接続可能で、自席で判例検索も可能です。

【東アジア文化研究科】

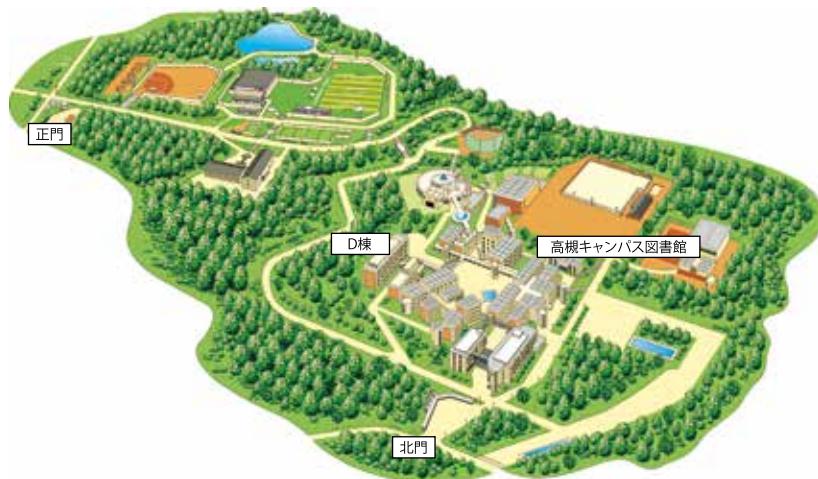
東アジア文化交渉学の教育研究拠点として、文部科学省の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」に最高評価の「S」を獲得して2012年に採用され、「文化交渉学研究拠点」を設置しました。



高槻キャンパス

総合情報学研究科

高槻キャンパスは、大阪と京都の中間に位置するなだらかな丘陵地にあります。その広さは約45万平方メートルで、甲子園球場の約11倍。最先端技術を導入してマルチメディア時代を先駆けるハイレベルな情報機能を備えています。次世代を担う情報ジェネラリストを育てるのにふさわしいインテリジェント空間です。



高槻ミューズキャンパス

社会安全研究科

高槻ミューズキャンパスは、大阪と京都の中間に位置する高槻市のJR高槻駅前という好立地にあります。時代とともに変化する災害や事故から安全な社会を実現するために、複数の関連分野の学際融合研究を通して、社会安全研究領域を創設するとともに、防災・減災および事故防止に寄与できる人材を養成する施設を備えています。



堺キャンパス

人間健康研究科

堺キャンパスは、総面積は約3万平方メートルにおよび、社会貢献機能(地域貢献、産官学連携、国際交流等)を推進するための教育研究環境を備えています。堺市をはじめとする地方自治体と連携し、地域住民に対して健康で豊かな生活を享受できるよう、各種の支援・連携事業を展開し、積極的な地域貢献が行われています。



キャンパス紹介

千里山キャンパス



最先端の学びを支える大学院生専用の学修施設(大学院棟)をはじめとする多彩な施設を擁する総面積約35万m²におよぶ広大な教育・研究空間です。都心からの交通の便に恵まれながら、千里山の丘陵地に広がる豊かな緑にあふれた立地は絶好の教育環境を備えており、数々の成果が世界に向けて発信されています。



高槻キャンパス



マルチメディア時代を先駆ける高次情報機能が完備された次世代教育拠点となるキャンパス



高槻ミューズキャンパス



駅前という絶好のロケーションをいかし、安全・安心なまちづくりに寄与する社会貢献型都市キャンパス



堺キャンパス



堺市との強力な連携をもとに、学生と市民が交流する地域貢献の拠点となるキャンパス



アクセスマップ



■ 大阪(梅田)からのアクセス

阪急電鉄「梅田」駅から、「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)、すぐ。または「河原町」行の場合は「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

■ 京都(河原町)からのアクセス

阪急電鉄「梅田」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車、すぐ。

■ Osaka Metro利用のアクセス

Osaka Metro堺筋線(阪急電鉄に相互乗り入れ)が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

■ 新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からOsaka Metro御堂筋線「なかもず(方面)」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方(みなみかた)」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

■ 大阪国際(伊丹)空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換えて「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。



■ JRでのアクセス

JR京都線「高槻」駅(大阪・京都駅から共に約15分)または「摂津富田」駅下車、高槻市営バス※に乗り換える。

■ 阪急電鉄でのアクセス

阪急京都線「高槻市」駅(梅田・河原町駅から共に約20分)または「富田」駅下車後、JR「高槻」駅またはJR「摂津富田」駅まで徒歩移動(約5~10分)し、高槻市営バス※に乗車。

※高槻市営バス

JR「高槻」駅から「関西大学」行に乗車。JR「摂津富田」駅からは「関西大学」「萩谷」「萩谷総合公園」行のいずれかに乗車し、キャンパス内のバス停「関西大学」下車(この間両ルート共に約20分)。

「西の口(関大正門前)」では降りないでください。



■ JRでのアクセス

JR京都線「高槻」駅(大阪・京都駅から共に約15分)下車、徒歩約7分。

■ 阪急電鉄でのアクセス

阪急京都線「高槻市」駅(梅田・河原町駅から共に約20分)下車、徒歩約10分。



■ 南海電鉄でのアクセス

南海高野線「浅香山」駅(なんば駅から約20分)下車、すぐ。

学費・諸費

博士課程前期課程・博士課程後期課程 2020年度入学生

注1 関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第1項第11号に規定する者（飛び級入試合格者）が、大学院へ進学する場合は、入学金（入学登録金）を徴収しません。

注2 関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部または大学院へ進学する場合は、入学金（入学登録金）を半額とします。

■ 前期課程 2年コース

法学・文学・経済学・商学・社会学・東アジア文化・ガバナンス研究科

区分	2020年度		2021年度以降
	入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金 364,500	364,500	729,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000
合 計	504,500	364,500	749,000

理工学研究科

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度以降
	入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金 130,000	—	—
諸 費	授業料 569,500	569,500	1,139,000
合 計	校友会基本会費 10,000	—	20,000
合 計	709,500	569,500	1,159,000

心理学研究科 心理学専攻

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度以降
	入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金 374,500	374,500	749,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000
合 計	514,500	374,500	769,000

社会安全研究科

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度以降
	入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金 489,500	489,500	979,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000
合 計	629,500	489,500	999,000

■ 前期課程 3年コース

法学・文学・経済学・商学・東アジア文化・ガバナンス研究科

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度	2022年度以降
	入学初学期	秋学期	年間	年間
学 費	入学金 268,000	268,000	536,000	535,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000	—
合 計	408,000	268,000	556,000	535,000

*経済学・商学研究科は、社会保険労務士特別推薦入学試験の方のみ、前期課程3年コースを選択できます。

外国語教育学研究科

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度	2022年度以降
	入学初学期	秋学期	年間	年間
学 費	入学金 296,500	296,500	592,000	592,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000	—
合 計	436,500	296,500	612,000	592,000

人間健康研究科

(単位 円)

区分	2020年度		2021年度	2022年度以降
	入学初学期	秋学期	年間	年間
学 費	入学金 284,500	284,500	569,000	569,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	20,000	—
合 計	424,500	284,500	589,000	569,000

法科大学院 2020年度入学生

法学未修者コース（3年修了）、法学既修者コース（2年修了）

(単位 円)

区分	入学初年度		次年度	次々年度以降
	未修1年次生		未修2年次生	未修3年次生
	入学初学期	秋学期	年間	年間
学 費	入学金 605,000	605,000	1,210,000	1,360,000
諸 費	校友会基本会費 10,000	—	10,000	20,000
合 計	875,000	605,000	1,480,000	1,380,000

法学未修者コース（長期履修学生制度（4年修了））

長期履修学生制度（4年修了）の学費については、2020年度法科大学院学生募集要項でご確認ください。

注1 関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって法務研究科（法科大学院）学則第26条第11号に規定する者（飛び級入試合格者）が、法務研究科（法科大学院）へ進学する場合は、入学金（入学登録金）を半額とします。

注2 関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部または大学院に進学する場合は、入学金（入学登録金）を半額とします。

注3 諸費の校友会基本会費は、入学時に10,000円、次年度に20,000円の計30,000円を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を卒業した者または本学学部生であって大学院学則第46条第1項第11号に規定する者（飛び級入試合格者）で、すでに納入済の方からは徴収いたしません。

注3 諸費の校友会基本会費は、入学時に10,000円、次年度に20,000円（秋学期入学者については、入学翌年度の春学期に10,000円、翌春学期に20,000円）の計30,000円（1年コースについては入学時に30,000円）を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第1項第11号に規定する者（飛び級入試合格者）で、すでに納入済みの方からは徴収いたしません。

■ 前期課程 1年コース

文学研究科（現職教員1年制）、
ガバナンス研究科（社会人1年制）

(単位 円)

区分		2020年度		
		入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金	130,000	—	
	授業料	480,500	480,500	
諸 費	校友会基本会費	30,000	—	
合 計		640,500	480,500	

外国語教育学研究科（現職教員1年制）

(単位 円)

区分		2020年度		
		入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金	130,000	—	
	授業料	534,500	534,500	
諸 費	校友会基本会費	30,000	—	
合 計		694,500	534,500	

■ 後期課程

法学・文学・経済学・商学・社会学・東アジア文化・
ガバナンス・外国語教育学・人間健康研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度以降
		入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金	130,000	—	—
	授業料	364,500	364,500	729,000
諸 費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合 計		504,500	364,500	749,000

心理学研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度以降
		入学初学期	秋学期	年間
学 費	入学金	130,000	—	—
	授業料	374,500	374,500	749,000
諸 費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合 計		514,500	374,500	769,000

■ 前期課程 2年コース（秋学期入学）

文学・東アジア文化研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度以降
		入学初学期	春学期	秋学期
学 費	入学金	130,000	—	—
	授業料	364,500	364,500	364,500
諸 費	校友会基本会費	—	10,000	—
合 計		494,500	374,500	384,500

理工学研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度	2022年度以降
		入学初学期	春学期	秋学期	1学期につき
学 費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	569,500	569,500	569,500	569,500
諸 費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000
合 計		699,500	579,500	569,500	589,500

■ 前期課程 3年コース（秋学期入学）

文学・東アジア文化研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度	2022年度	2023年度以降
		入学初学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
学 費	入学金	130,000	—	—	—	—
	授業料	268,000	268,000	268,000	267,500	267,500
諸 費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—
合 計		398,000	278,000	268,000	288,000	267,500

■ 後期課程（秋学期入学）

文学・東アジア文化研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度	2022年度	2023年度以降
		入学初学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
学 費	入学金	130,000	—	—	—	—
	授業料	364,500	364,500	364,500	364,500	364,500
諸 費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—
合 計		494,500	374,500	364,500	384,500	364,500

外国語教育学研究科

(単位 円)

区分		2020年度		2021年度	2022年度	2023年度以降
		入学初学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
学 費	入学金	130,000	—	—	—	—
	授業料	364,500	364,500	364,500	364,500	364,500
諸 費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—
合 計		494,500	374,500	364,500	384,500	364,500

会計専門職大学院 2020年度入学生

(単位 円)

区分		入学初年度		次年度以降
		入学初学期	秋学期	年 間
学 費	入学金	260,000	—	—
	授業料	660,000	660,000	1,350,000
諸 費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合 計		930,000	660,000	1,370,000

長期履修学生制度（3年コース・4年コース）

長期履修学生制度（3年コース・4年コース）の学費については、2020年度会計専門職大学院学生募集要項をご確認ください。

注 1) 関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院会計研究科第26条第11号に規定する者（飛び級入試合格者）が、会計研究科（専門職大学院）へ進学する場合は、入学金（入学登録金）を半額とします。

注 2) 関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き継ぎ学部または大学院に進学する場合は、入学金（入学登録金）を半額とします。

注 3) 諸費の校友会基本会費は入学時に10,000円、次年度に20,000円の計30,000円を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を卒業した者または本学学部生であって大学院会計研究科第46条第1項第11号に規定する者（飛び級入試合格者）で、すでに納入済の方からは徴収いたしません。

奨学支援制度

給付奨学金制度

関西大学大学院特別給付奨学金

入学試験において特に優秀な成績を収めた者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間 標準修業年限（毎年学業成績等による継続審査あり）		
課程	研究科	金額（年額）
前 期	法学、文学、経済学、商学、社会学、心理学、東アジア文化、ガバナンス、人間健康	500,000円
	外国語教育学	550,000円
	総合情報学、社会安全	600,000円
	理工学	750,000円
後 期	全研究科	500,000円

※博士課程前期課程において、3年コース、1年コースを希望される方は、給付金額が異なります。別途、お問い合わせください。

関西大学大学院給付奨学金・教育助成基金給付奨学金

学業成績が特に優秀で、かつ本学が定める家計基準を満たしている者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間 1年間（再出願可）		
給付金額	下表参照	

関西大学社会人大学院学生給付奨学金

関西大学大学院給付奨学金（教育助成基金給付奨学金）の家計基準を超える収入の社会人大学院学生で、成績に加え、各研究科で定める優秀な社会人業績を収めている者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間 1年間（再出願可）		
給付金額	下表参照	

給付金額

『関西大学大学院給付奨学金、教育助成基金給付奨学金、関西大学社会人大学院学生給付奨学金共通』

課程	研究科	金額（年額）
前 期	法学、文学、経済学、商学、社会学、心理学、東アジア文化、ガバナンス、人間健康	250,000円
	外国語教育学	275,000円
	総合情報学、社会安全	300,000円
	理工学	375,000円
後 期	全研究科	250,000円

※博士課程前期課程において、3年コース、1年コースを希望される方は、給付金額が異なります。別途、お問い合わせください。

貸与奨学金制度

- ・日本学生支援機構大学院第一種奨学金
- ・日本学生支援機構大学院第二種奨学金

奨学金採用・利用状況(専門職大学院生は除く)

●2018年度 在学定期募集 出願・採用状況

給付奨学金制度（春学期のみ）

課程	出願者数	採用者数
博士課程前期課程	552人	320人
博士課程後期課程	86人	81人

※採用者数には辞退者数を含む

※採用者数には予約採用者を除く

貸与奨学金制度（春学期のみ）

課程	出願種別	出願者数	採用者数
博士課程前期課程 (法科以外の専門職を含む)	第一種奨学金	106人	79人
	第二種奨学金		20人
博士課程後期課程	第一種奨学金	18人	17人
	第二種奨学金		0人

※採用者は延べ人数を示す（併採用者は各奨学金にそれぞれに計上している）

※採用者数には辞退者数を含む

関西大学法科大学院給付奨学金（2020年度予定）

対象者	卒業見込者特別入学試験、早期卒業者特別入学試験合格者全員	一般入学試験、実務経験者特別入学試験成績優秀者
給付期間	法学既修者コース 法学未修者コース (長期履修学生制度適用者)	: 最長2年間 : 最長3年間 : 最長4年間
給付金額	授業料の全額相当額	授業料の全額または半額相当額
給付方法	各学期の授業料から給付額を差し引くことにより給付	

※入学後2年目からは全在学生を対象として、前年までの学業成績を基準に毎年審査を行います。

関西大学法科大学院 学習奨励金（2020年度予定）

法科大学院に在学する学生で関西大学法科大学院給付奨学金の対象にならなかった者		
給付期間※1	法学既修者コース 法学未修者コース (長期履修学生制度適用者)	: 最長2年間 : 最長3年間 : 最長4年間
給付金額	本学の授業料から国立大学の法科大学院授業料を差し引いた金額相当額（2018年度は年額406,000円※2）	
給付方法	各学期の授業料から給付額を差し引くことにより給付	

※1 給付対象者は、在学年数が標準修業年限を超えていない者とする。ただし、進級できなかつた場合（原級留置となった場合）は給付対象者から除きます。

※2 2018年度の長期履修学生制度適用者給付金額は年額327,000円です。

関西大学会計専門職大学院給付奨学金（2020年度予定）

新入生は入学試験成績優秀者または簿記・会計に関する高度な資格取得者、在学生は前年度学業成績優秀者		
給付金額※	授業料の全額相当額（2年間） 授業料の全額相当額（1年間） 授業料の半額相当額（1年間）	

※長期履修学生制度により入学した者については適用された在学年数（3年間または4年間）給付されることがあります。

心理学研究科の心理臨床学専攻（設置届出申請中）に対する奨学支援制度の詳細については、学生募集要項をご確認ください。

緊急・応急奨学金制度および教育ローン制度、その他

- ・関西大学災害時支援給付奨学金
- ・緊急・応急奨学金
- ・日本政策金融公庫「国への教育ローン」
- ・オリエントコーポレーション「学費サポートプラン」
- ・関西大学家計急変者給付奨学金
- ・関西大学短期貸付金

●2018年度 給付・貸与奨学金の利用者数

【給付制】

奨学金種別	利用者数
大学院生対象（専門職除く）の給付奨学金（関西大学）	646人
スポーツ振興奨学・奨励金	0人
関西大学文化・学術活動等奨励金	3人
留学に係る給付奨学金（関西大学・日本学生支援機構）	0人
民間・地方団体等及び指定寄付に基づく奨学金	25人
合 計	674人

【貸与制】

奨学金種別	利用者数
日本学生支援機構第一種奨学金（2019年1月末現在）	398人
日本学生支援機構第二種奨学金（2019年1月末現在）	66人
民間・地方団体等奨学金	1人
合 計	465人

《全学生数》1,557人（2018年5月1日）

入学試験日程

■ 博士課程前期課程・博士課程後期課程

I 2020年度春学期（4月）入学者対象

M：博士課程前期課程 D：博士課程後期課程

研究科	試験種別	M	D	募集月	Webエントリー期間 入学検定料納入期間	出願期間(最終日消印有効)	試験日	合格者発表日
法学研究科	学内進学試験	○	×	10月募集	8月23日(金)～9月6日(金)	8月30日(金)～9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	一般入試	○	×				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	×				—	
	学内進学試験(早期卒業)	○	×				—	
	留学生特別推薦入試	○	×	2月募集	9月4日(水)～9月(月)	10月6日(日)	—	2020年2月28日(金)
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	学内進学試験	○	×				—	
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○				—	
文学研究科	社会人入試	○	×	10月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	社会保険労務士特別推薦入試	○	×				—	
	留学生特別推薦入試	○	○				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	ABEプログラム特別入試	○	×				—	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2020年1月6日(月)～10日(金)	2020年2月22日(土)	7月7日(日)	7月12日(金)
	学内進学試験	○	×				—	
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				—	
経済学研究科	現職教員1年制入試	○	×	10月募集	8月23日(金)～9月6日(金)	8月30日(金)～9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	留学生特別推薦入試	○	○				—	
	学内進学試験	○	×				—	
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	飛行機入試	○	×				—	
	留学生特別推薦入試	○	○				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	5年一貫教育プログラム	○	×				—	
商学研究科	学内進学試験	○	×	3月募集	3月13日(水)～15日(金)	5月24日(金)～31日(金)	7月7日(日)	7月12日(金)
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				—	
	5年一貫教育プログラム(早期卒業)	○	×				—	
	留学生特別推薦入試	○	×	10月募集	8月23日(金)～9月6日(金)	8月30日(金)～9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	学内進学試験	○	×				—	
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				—	
社会学研究科	社会保険労務士特別推薦入試	○	×	2月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生特別推薦入試	○	×				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	学内進学試験	○	×				—	
	一般入試	○	○				—	
	留学生入試	○	○	10月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	社会人入試	○	○				—	
	留学生特別推薦入試	○	×				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	学内進学試験	○	×				—	
総合情報学研究科	一般入試	○	×	2月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				—	
	留学生特別推薦入試	○	×				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	学内進学試験	○	×	6月募集	4月26日(金)～5月17日(金)	5月10日(金)～5月17日(金)	6月8日(土)	6月14日(金)
	一般入試	○	×				—	
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				—	
	留学生特別推薦入試	○	×				—	
理工学研究科	留学生入試(英語コース)	○	○	10月募集	8月23日(金)～9月6日(金)	8月30日(金)～9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	海外協定校特別推薦入試	○	○				—	
	留学生別科特別入試	○	×				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ～2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	
	留学生入試(英語コース)	○	○				—	

*理工学研究科留学生入試(英語コース)において試験を実施する場合は、2020年2月22日(土)に行う。

M : 博士課程前期課程 D : 博士課程後期課程

研究科	試験種別	M	D	募集月	Webエントリー期間 入学検定料納入期間	出願期間(最終日消印有効)	試験日	合格者発表日
外国語教育学研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月17日(金)~31日(金)	5月24日(金)~31日(金)	7月7日(日)	7月12日(金)
	一般入試	○	×					
	社会人入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
	一般入試(アストンDD)	○	×	10月募集	8月23日(金)~9月6日(金)	8月30日(金)~9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	現職教員1年制入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
心理学研究科※ (心理学専攻)	一般入試	○	○	12月募集	10月25日(金)~11月8日(金)	11月1日(金)~11月8日(金)	12月8日(日)	12月13日(金)
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	現職教員1年制入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	飛び級入試	○	×					
	留学生別科特別入試	○	×					
社会安全研究科	学内進学試験	○	×	10月募集	8月23日(金)~9月6日(金)	8月30日(金)~9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	留学生別科特別入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生特別推薦入試	○	×					
	留学生別科特別入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
東アジア文化研究科	留学生入試	○	○	6月募集	4月26日(金)~5月17日(金) 5月10日(金)~5月17日(金)	5月10日(金)~5月17日(金)	6月8日(土)	6月14日(金)
	社会人入試	○	○					
	留学生特別推薦入試	○	×					
	留学生別科特別入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○	10月募集	8月23日(金)~9月6日(金)	8月30日(金)~9月6日(金)	10月5日(土)	10月11日(金)
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	留学生特別推薦入試	○	×					
	留学生別科特別入試	○	×					
ガバナンス研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月17日(金)~31日(金)	5月24日(金)~31日(金)	7月7日(日)	7月12日(金)
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	留学生特別推薦入試	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	留学生別科特別入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
	留学生入試	○	○					
人間健康研究科	社会人1年制コース	○	×	10月募集	8月23日(金)~9月6日(金)	8月30日(金)~9月6日(金)	10月6日(日)	10月11日(金)
	学内進学試験(早期卒業)	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○					
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○	2月募集	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2019年12月20日(金) ~2020年1月10日(金)	2020年2月22日(土)	2020年2月28日(金)
	飛び級入試	○	×					
	留学生特別推薦入試	○	○					
	留学生別科特別入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
心理学研究科※ (心理学専攻)	一般入試	○	×	7月募集	5月17日(金)~31日(金)	5月24日(金)~31日(金)	7月6日(土)	7月12日(金)
	留学生入試	○	×					
	社会人入試	○	○					
	現職教員1年制入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					
	一般入試	○	○	10月募集	8月23日(金)~9月6日(金)	8月30日(金)~9月6日(金)	10月5日(土)	10月11日(金)
	留学生入試	○	○					
	社会人入試	○	○					
	現職教員1年制入試	○	×					
	学内進学試験	○	×					

※心理学研究科の心理臨床学専攻(設置届出申請中)の入学試験日程については、心理臨床学専攻のリーフレットおよび学生募集要項をご確認ください。

II 2020年度秋学期（9月）入学者対象

M：博士課程前期課程 D：博士課程後期課程

研究科	試験種別	M	D	募集月	Webエントリー期間 入学検定料納入期間	出願期間（最終日消印有効）	試験日	合格者発表日
文学研究科	一般入試	○	○	7月募集	2020年5月15日（金）～5月29日（金）	2020年5月22日（金）～5月29日（金）	2020年7月5日（日）	2020年7月10日（金）
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				2020年7月5日（日）	
	留学生特別推薦入試	○	○		2020年5月22日（金）～5月29日（金）	2020年7月5日（日）	—	2020年7月10日（金）
	留学生別科特別入試	○	×					
理工学研究科	学内進学試験（早期卒業者対象）	○	×	6月募集	2020年5月1日（金）～5月15日（金）	2020年5月8日（金）～5月15日（金）	—	2020年6月12日（金）
	留学生入試	○	○		2020年5月15日（金）～5月29日（金）	2020年5月22日（金）～5月29日（金）	2020年7月5日（日）	2020年7月10日（金）
	留学生入試（英語コース）	○	○				※	
	海外協定校特別推薦入試	○	○	8月募集	2020年6月26日（金）～7月10日（金）	2020年7月3日（金）～7月10日（金）	2020年8月22日（土）	2020年8月28日（金）
	社会人入試	×	○		2020年7月3日（金）～7月10日（金）	2020年7月10日（金）	—	2020年8月28日（金）
外国語教育学研究科	留学生別科特別入試	○	×			2020年5月1日（金）～5月15日（金）	2020年7月5日（日）	2020年7月10日（金）
	一般入試	×	○	7月募集	2020年5月15日（金）～5月29日（金）	2020年5月22日（金）～5月29日（金）	2020年7月5日（日）	2020年7月10日（金）
社会安全研究科	社会人入試	×	○		2019年12月20日（金）～2020年1月10日（金）	2019年12月20日（金）～2020年1月10日（金）	—	2020年2月28日（金）
	留学生入試（英語コース PDM）	×	○				—	2020年6月12日（金）
東アジア文化研究科	留学生入試（英語コース PDM）	×	○		2020年5月1日（金）～5月15日（金）	2020年5月8日（金）～5月15日（金）	—	2020年6月12日（金）
	一般入試	○	○		2020年5月15日（金）～5月29日（金）	2020年5月22日（金）～5月29日（金）	2020年7月5日（日）	2020年7月10日（金）
	留学生入試	○	○				—	
	社会人入試	○	○				2020年7月5日（日）	
	留学生特別推薦入試	○	○				2020年7月5日（日）	
	留学生別科特別入試	○	×					

*理工学研究科留学生入試（英語コース）において試験を実施する場合は、2020年7月5日（日）に行う。

■専門職学位課程

2020年度4月入学者対象

法科大学院

日程	試験種別	試験地	出願期間	試験日	合格者発表日			
S日程	卒業見込者特別入試	大阪	7月16日（火）～7月23日（火） (最終日消印有効)	既修・未修：8月3日（土）	8月9日（金）			
	一般入試	大阪・東京						
A日程	一般入試	大阪・東京	8月9日（金）～8月21日（水） (最終日消印有効)	既修・未修：8月31日（土）	9月6日（金）			
	早期卒業者特別入試	大阪						
	実務経験者特別入試							
B日程	一般入試	大阪・東京	2020年1月7日（火）～1月14日（火） (最終日消印有効)	既修・未修：2020年1月26日（日）	2020年1月31日（金）			
C日程	一般入試	大阪	2020年2月17日（月）～2月25日（火） (最終日必着)	既修：募集なし 未修：2020年3月7日（土）	2020年3月12日（木）			

会計専門職大学院

日程	試験種別*						試験地	出願期間	試験日	合格者発表日
	一般	学内	早期卒業	公募制推薦	資格・社会人	留学生				
7月募集	○	○	—	○	○	○	大阪	6月17日（月）～6月24日（月） (最終日消印有効)	7月7日（日）	7月12日（金）
10月募集	○	○	○	○	○	○	大阪	10月8日（火）～10月15日（火） (最終日消印有効)	10月27日（日）	11月1日（金）
1月募集	○	○	○	○	○	○	大阪・東京	2020年1月7日（火）～1月14日（火） (最終日消印有効)	2020年1月26日（日）	2020年1月31日（金）
3月募集	○	○	○	○	○	—	大阪	2020年2月17日（月）～2月25日（火） (最終日必着)	2020年3月7日（土）	2020年3月12日（木）

*その他の入試として、指定校推薦、留学生別科特別、社会保険労務士連合会特別推薦入学試験を実施しています。詳細については、それぞれの対象者へお知らせします。

2019年度 入学試験状況

(単位：人)

■ 博士課程前期課程

入学試験状況（総数）

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法 学	法学・政治学	法政研究	5	2	0	0
		企業法務	24	19	11	10
		公私政策	5	5	1	0
		国際協働	1	1	1	1
計			35	27	13	11
文学	総合人文学	英米文学英語学	3	1	1	1
		英米文化	0	0	0	0
		国文学	11	9	7	7
		哲学	2	2	2	2
		芸術学美術史	8	6	3	3
		日本史学	10	9	6	6
		世界史学	1	1	0	0
		ドイツ文学	1	1	1	1
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	14	9	1	1
		地理学	3	2	2	2
		教育学	14	11	8	8
		文化共生学	4	3	0	0
		映像文化	2	2	0	0
		計	73	57	31	30
経済学	経済学	アカデミック	12	6	2	2
		プロジェクト	55	42	18	15
		計	67	48	20	17
商 学	商 学	研究者養成	11	9	1	1
		高度専門職	89	70	18	16
		計	100	79	19	17
社会学	社会学	専門研究	2	2	1	1
		課題研究	17	13	6	6
		計	19	15	7	7
		社会システムデザイン	7	7	2	2
総合情報学	社会情報学	マス・コミュニケーション学	44	38	11	10
		計	70	60	20	19
		知識情報学	6	5	5	3
総合情報学	計		16	15	14	14
		計	22	20	19	17
理工学	システム理工学	数学	0	0	0	0
		物理：応用物理学	18	18	12	4
		機械工学	76	74	70	66
		電気電子情報工学	63	62	61	56
		計	157	154	143	126
		建築学	35	34	33	24
		都市システム工学	40	36	32	30
		土木工学・環境工学	37	36	36	35
		計	112	106	101	89
		化学生命工学	113	111	109	107
		生命・生物工学	27	26	26	24
		計	140	137	135	131
		計	409	397	379	346
		外国語教育学	70	60	27	24
		心理学	16	13	4	3
		社会安全	13	11	10	10
東アジア文化	文化交渉学	29	27	11	9	
		ガバナンス	7	7	5	4
		人間健康	3	3	3	3
合 計			914	809	561	510

外国人留学生入学試験

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法 学	法学・政治学	法政研究	3	1	0	0
		企業法務	8	7	0	0
		公私政策	1	1	0	0
		国際協働	0	0	0	0
計			12	9	0	0
文学	総合人文学	英米文学英語学	0	0	0	0
		英米文化	0	0	0	0
		国文学	3	2	1	1
		哲学	0	0	0	0
		芸術学美術史	6	4	2	2
		日本史学	1	1	0	0
		世界史学	1	1	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	14	9	1	1
		地理学	2	2	2	2
		教育学	13	10	7	6
		文化共生学	4	3	0	0
		映像文化	2	2	0	0
		計	46	34	13	12
経済学	経済学	アカデミック	9	5	1	1
		プロジェクト	50	37	15	13
		計	59	42	16	14
商 学	商 学	研究者養成	11	9	1	1
		高度専門職	78	60	12	10
		計	89	69	13	11
社会学	社会学	専門研究	2	2	1	1
		課題研究	16	12	6	6
		計	18	14	7	7
		社会システムデザイン	7	7	2	2
総合情報学	社会情報学	マス・コミュニケーション学	40	34	9	8
		計	65	55	18	17
		知識情報学	2	2	2	1
計			3	3	2	1
理工学	システム理工学	数学	0	0	0	0
		物理：応用物理学	2	2	0	0
		機械工学	3	3	3	3
		電気電子情報工学	3	3	2	2
		計	8	8	5	5
		建築学	7	6	6	5
		都市システム工学	5	4	2	2
		土木工学・環境工学	10	10	0	0
		計	12	10	8	7
		化学生命工学	2	2	1	1
		生命・生物工学	1	1	1	1
		計	3	3	2	2
		計	23	21	15	14
		外国語教育学	46	38	9	7
		心理学	13	10	3	2
東アジア文化	文化交渉学	防災・減災	5	3	2	2
		ガバナンス	4	4	2	1
		人間健康	0	0	0	0
合 計			392	313	102	88

一般入学試験

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法 学	法学・政治学	法政研究	2	1	0	0
		企業法務	1	1	0	0
		公私政策	4	4	1	0
		国際協働	0	0	0	0
計			7	6	1	0
文学	総合人文学	英米文学英語学	2	0	0	0
		英米文化	0	0	0	0
		国文学	1	1	0	0
		哲学	0	0	0	0
		芸術学美術史	0	0	0	0
		日本史学	3	2	0	0
		世界史学	0	0	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	0	0	0	0
		地理学	0	0	0	0
		教育学	0	0	0	0
		文化共生学	0	0	0	0
		映像文化	0	0	0	0
		計	7	4	0	0
経済学	経済学	アカデミック	2	0	0	0
		プロジェクト	5	3	2	2
		計	7	5	3	2
商 学	商 学	研究者養成	0	0	0	0
		高度専門職	6	5	2	2
		計	6	5	2	2
社会学	社会学	専門研究	0	0	0	0
		課題研究	1	1	0	0
		計	1	1	0	0
		社会システムデザイン	0	0	0	0
総合情報学	社会情報学	マス・コミュニケーション学	3	3	1	1
		計	4	4	1	1
		知識情報学	0	0	0	0
計			1	0	0	0
理工学	システム理工学	数学	0	0	0	0
		物理：応用物理学	0	0	0	0
		機械工学	0	0	0	0
		電気電子情報工学	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
		建築学	2	2	2	2
		都市システム工学	1	1	1	1
		土木工学・環境工学	0	0	0	0
		計	3	3	3	3
		化学生命工学	0	0	0	0
		生命・生物工学	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
		外国語教育学	7	7	7	6
		心理学	0	0	0	0
		社会安全	6	6	6	6
		東アジア文化	0	0	0	0
		ガバナンス	0	0	0	0
		人間健康	2	2	2	2
合 計			30	27	26	24

■ 博士課程後期課程

入学試験状況（総数）

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
文学	法学・政治学	英米文学英語学	3	3	3	3
		国 文 学	4	4	4	4
		哲 学	1	1	1	1
		史 学	4	3	2	2
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	0	0	0	0
		地 球 学	0	0	0	0
		教 育 学	0	0	0	0
		計	12	11	10	10
経済学	経済学		3	3	1	1
商 学	商 学		3	3	1	1
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	マス・コミュニケーション学		3	1	1	1
	計		3	1	1	1
理工学	総合理工学		16	15	15	15
総合情報学	総合情報学		6	6	6	6
外国語教育学	外国語教育学		6	6	3	3
心理学	心理学		3	3	2	2
社会安全	防災・減災		4	4	4	3
東アジア文化	文化交渉学		12	12	7	7
ガバナンス	ガバナンス		3	3	3	3
人間健康	人間健康		5	5	4	4
合 計	合 計		77	73	58	57

外国人留学生入学試験

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
文学	法学・政治学	英米文学英語学	0	0	0	0
		国 文 学	2	2	2	2
		哲 学	0	0	0	0
		史 学	0	0	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	0	0	0	0
		地 球 学	0	0	0	0
		教 育 学	0	0	0	0
		計	2	2	2	2
経済学	経済学		1	1	0	0
商 学	商 学		1	1	0	0
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	マス・コミュニケーション学		2	0	0	0
	計		2	0	0	0
理工学	総合理工学		2	2	2	2
総合情報学	総合情報学		2	2	2	2
外国語教育学	外国語教育学		3	3	1	1
心理学	心理学		2	2	1	1
社会安全	防災・減災		0	0	0	0
東アジア文化	文化交渉学		10	10	6	6
ガバナンス	ガバナンス		0	0	0	0
人間健康	人間健康		0	0	0	0
合 計	合 計		25	23	14	14

法科大学院（法務研究科）

日程	コース	志願者	受験者	合格者	入学者
S日程	既修一般	7	7	3	3
	既修卒見	21	20	11	6
	未修一般	11	11	4	2
	未修卒見	21	21	10	4
計		60	59	28	15
A日程	既修一般	25	17	9	5
	既修早朝	4	4	1	0
	未修一般	19	17	7	3
	未修実務	0	0	0	0
計		48	38	17	8
B日程	既修一般	15	12	5	1
	未修一般	19	17	5	5
	計	34	29	10	6
C日程	未修一般	8	6	4	3
	計	8	6	4	3
	合 計	72	60	29	15
合 計	既修者	72	60	29	15
	未修者	78	72	30	17
	合 計	150	132	59	32

一般入学試験

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
文学	法学・政治学	英米文学英語学	0	0	0	0
		国 文 学	4	4	4	4
		哲 学	0	0	0	0
		史 学	3	2	1	1
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	0	0	0	0
		地 球 学	0	0	0	0
		教 育 学	0	0	0	0
		計	7	6	5	5
経済学	経済学		2	2	1	1
商 学	商 学		2	2	1	1
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	マス・コミュニケーション学		1	1	1	1
	計		1	1	1	1
理工学	総合理工学		10	9	9	9
総合情報学	総合情報学		4	4	4	4
外国語教育学	外国語教育学		1	1	1	1
心理学	心理学		0	0	0	0
社会安全	防災・減災		3	3	3	3
東アジア文化	文化交渉学		0	0	0	0
ガバナンス	ガバナンス		0	0	0	0
人間健康	人間健康		2	2	1	1
合 計	合 計		33	31	27	27

社会人入学試験

研究科	専攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
文学	法学・政治学	英米文学英語学	1	1	1	1
		国 文 学	0	0	0	0
		哲 学	1	1	1	1
		史 学	1	1	1	1
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		中国文学	0	0	0	0
		地 球 学	0	0	0	0
		教 育 学	0	0	0	0
		計	3	3	3	3
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	マス・コミュニケーション学		0	0	0	0
	計		0	0	0	0
理工学	総合理工学		4	4	4	4
外国語教育学	外国語教育学		2	2	1	1
心理学	心理学		1	1	1	1
社会安全	防災・減災		1	1	0	0
東アジア文化	文化交渉学		3	3	3	3
ガバナンス	ガバナンス		3	3	3	3
人間健康	人間健康		3	3	3	3
合 計	合 計		17	17	15	15

会計専門職大学院（会計研究科）

専攻	志願者	受験者	合格者	入学者
会計人養成	65	62	58	48

臨床心理専門職大学院（心理学研究科）

専攻	志願者	受験者	合格者	入学者
心理臨床学	100	98	26	25

2019年度進学説明会

説明会の日時およびプログラム内容については、やむを得ず変更することがあります。
また、説明会のほかにも、新聞社主催の合同説明会や留学生対象説明会への参加を予定しています。
詳細は、関西大学大学院入試情報サイトまたは専門職大学院の各ウェブサイトでご確認ください。

■ 博士課程前期課程・後期課程

1. 合同進学説明会

日 程	時 間	場 所	対象研究科	プロ グラム
2019年6月22日(土)	12:00~15:00	千里山キャンパス	法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学 ^{*1} 、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康、会計研究科	研究科概要説明 個別相談 奨学支援制度説明 教職・資格相談 現役大学院生・留学生への相談 入試相談、施設見学
2019年11月16日(土)				
2019年11月22日(金) ^{*2}	18:00~19:30	東京センター	法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康研究科	研究科概要説明 入試センター職員への個別相談

*1 外国語教育学研究科は、6月22日(15:00~17:00)、11月16日(15:00~18:00)の開催となります。

*2 11月22日に東京センターで開催する説明会は事前申し込みが必要となります。

2. 研究科単独説明会

研究科	日 程	時 間	場 所	プロ グラム
文 学 研 究 科	2019年5月20日(月)	18:00~19:00	千里山キャンパス	研究科概要説明、個別相談
社 会 学 研 究 科	2019年5月23日(木)	12:20~12:50	千里山キャンパス	研究科概要説明、個別相談
総 合 情 報 学 研 究 科	2019年11月7日(木)	12:10~14:00	高槻キャンパス	研究科概要説明、個別相談
外 国 語 教 育 学 研 究 科	2019年5月11日(土)	14:00~17:00	千里山キャンパス	研究科概要説明、奨学支援制度説明、個別相談、施設見学
	2019年6月22日(土)	15:00~17:00		研究科概要説明、奨学支援制度説明、個別相談、教職・資格相談、施設案内
	2019年7月27日(土)	14:00~17:00		
	2019年10月19日(土)	14:00~17:00		研究科概要説明、奨学支援制度説明、研究対象言語別個別相談、施設案内
	2019年11月16日(土)	15:00~18:00		
社 会 安 全 研 究 科	2019年12月7日(土)	11:00~12:00	高槻ミューズキャンパス	研究科概要説明、個別相談、施設案内
東 アジア 文 化 研 究 科	2019年5月20日(月)	18:00~19:00	千里山キャンパス	研究科概要説明、個別相談
人 間 健 康 研 究 科	2019年5月7日(火)	12:20~12:50	堺キャンパス	研究科概要説明、個別相談
	2019年12月3日(火)			

入学試験に関する Q&A

(博士課程前期課程・後期課程)

受験生の皆さんからよくある質問の一部を、ご紹介します。

本大学院入試情報サイトの「お問い合わせ/Q & A」にも、多くのQ & Aを掲載していますのでご参照ください。



筆記試験の難易度を教えてください。

学生募集要項とセットで配布している入学試験問題集でご確認ください。



資料請求



時間割を知りたいのですが、どこで確認できますか。

各研究科Webサイトの「カリキュラム」もしくは「関西大学シラバスシステム」によりご確認いただけます。



シラバスシステム



口頭試問ではどのようなことが聞かれるのですか。

口頭試問は提出された志望理由書や研究計画書の内容に基づき行われますが、具体的な内容はお答えできません。

なお、外国語教育学研究科博士課程前期課程では、求める「基本的な知識」を『用語集』として本大学院入試情報サイトで公開しています。受験準備に際しての参考にしてください。



授業は夜間もありますか。また、夜間だけで修了できますか。

授業や修了要件については、法学、文学、経済学、商学、社会学、理工学、外国語教育学、東アジア文化研究科およびガバナンス研究科は教務センター教務事務グループに、心理学研究科は専門職大学院事務グループに、総合情報学研究科は高槻キャンパスの総合情報学部オフィスに、社会安全研究科は高槻ミューズキャンパスのミューズオフィスに、人間健康研究科は堺キャンパスの堺キャンパス事務室に直接ご確認ください。

なお、「関西大学シラバスシステム」で現行の時間割を掲載しています。

**事前予約不要
入退場自由**

■ 専門職課程

研究科	日 程	時 間	場 所	プロ グラム
法 科 大 学 院	2019年5月27日（月）～5月31日（金）	未定	千里山キャンパス	相談会WEEK (専任教員による個別相談会を随時実施)
	2019年6月15日（土）★	13:00～15:30	千里山キャンパス	研究科概要、入試概要説明、AAと修了生との懇談会、答案の書き方説明会（民法、商法）
	2019年6月18日（火）	18:00～20:00	千里山キャンパス	特別演習見学会（演習マスタークラス〔民法〕）
	2019年6月21日（金）	16:30～17:40★	千里山キャンパス	答案の書き方説明会（憲法・刑法）
		18:00～20:00		特別演習見学会（演習マスタークラス〔刑法〕）
	2019年6月27日（木）	18:00～20:00	千里山キャンパス	特別演習見学会（未修者用基礎補完クラス）
	2019年11月28日（木）★	16:30～19:00	千里山キャンパス	研究科概要、入試概要説明、AAと司法修習生との懇談会、答案の書き方説明会（憲法、民法、刑法）、施設見学、個別相談

研究科	日 程	時 間	場 所	プロ グラム
会 計 専 門 職 大 学 院	2019年6月1日（土）	13:00～15:30	千里山キャンパス	研究科概要、入試概要説明、模擬講義、修了生座談会、施設見学、個別相談
	2019年6月22日（土）	13:00～15:00	千里山キャンパス	研究科概要説明、個別相談、奨学支援制度説明、教職・資格相談、現役大学院生・留学生への相談、入試相談、施設見学
	2019年9月28日（土）★	13:00～15:00	千里山キャンパス	研究科概要、入試概要説明、在学生・修了生による懇談会、施設見学、個別相談
	2019年11月16日（土）	13:00～15:00	千里山キャンパス	研究科概要説明、個別相談、奨学支援制度説明、教職・資格相談、現役大学院生・留学生への相談、入試相談、施設見学
	2019年12月14日（土）★	13:00～15:00	千里山キャンパス	研究科概要、入試概要説明、在学生との懇談会、施設見学、個別相談

注 ★は、千里山キャンパスと東京センターを中継し、同内容を双方向で放映します。

Q 同日程での併願は可能ですか。

同一日程で複数の研究科を併願することはできません。ただし、研究科が同じ場合に限り、博士課程前期課程の外国人留学生入学試験と外国人研究生選考の併願は可能です。
「外国人留学生入学試験」と「外国人研究生選考」の併願についての詳細は11ページをご確認ください。

Q 地方入試を行っていますか。

博士課程前期課程・後期課程の入学試験では行っていません。法学、文学、経済学、商学、社会学、理工学、外国語教育学、心理学、東アジア文化研究科およびガバナンス研究科は千里山キャンパス、総合情報学研究科は高槻キャンパス、社会安全研究科は高槻ミューズキャンパス、人間健康研究科は堺キャンパスが試験場となります。

Q 出願時に届け出た在学コース（博士課程前期課程の2年または3年コース）の変更はできますか。

出願時に選択した在学コースを、合格後に変更を希望する場合は、所定の期日（例年、1月上旬）までに、大学院入試グループまでご連絡いただければ変更は可能です。ただし、2月募集の合格者は合格後にコース変更を申し出ることはできません。なお、在学期間の途中に変更を希望する場合は、2年次に進む段階で、各研究科において定められた条件を満たす場合に限り、願い出によって3年コースから2年コースへ変更することができます。詳細は、学生募集要項の「長期履修学生制度」をご確認ください。

Q 成績証明書や卒業証明書等は、日本語以外で作成されていてもよいですか。

学生募集要項に記載のとおり、日本語・英語・中国語で書かれている証明書を有効書類とします。その他の言語で作成された証明書は、出身大学や大使館・領事館等の公的機関で日本語または英語に翻訳（日本語学校や翻訳会社の翻訳文は不可）をしてもらってください。



関西大学大学院

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学入試センター 大学院入試グループ
TEL:06-6368-1121(大代表)
E-mail:grd-adm@ml.kandai.jp